

【別紙】

令和2年度使用

教科用図書選定資料

小学校用

令和元年6月

大阪府教育委員会

本資料は、令和2年度から使用する小学校教科用図書について、種目ごとに調査研究を行い、選定資料として、「学習指導要領」とともに【資料1】・【資料2】を示しています。

- ・【資料1】は、「1目標・内容の取扱い」「2人権の取扱い」「3内容の程度」「4組織・配列」「5創意工夫」「6補充的な学習・発展的な学習」の項目別に学習指導要領に基づき定めた観点について、各教科用図書の特長・長所等を記載しています。
- ・【資料2】は、学習指導要領に示されている各教科の目標等を踏まえ、各種目の特性に応じた教科用図書の特色が明らかになるよう客観的な数値データ等を記載しています。

— 目 次 —

| | 学習指導要領 | 【資料1】 | 【資料2】 |
|------|--------|--------|--------|
| 総 則 | 総1～8 | | |
| 国 語 | 国1～8 | 国9～20 | 国21 |
| 書 写 | | 書1～13 | 書14 |
| 社 会 | 社1～9 | 社10～17 | 社18～19 |
| 地 図 | | 地1～7 | 地8 |
| 算 数 | 算1～15 | 算16～29 | 算30 |
| 理 科 | 理1～8 | 理9～22 | 理23 |
| 生 活 | 生1～3 | 生4～19 | 生20 |
| 音 楽 | 音1～9 | 音10～16 | 音17 |
| 図画工作 | 図1～5 | 図6～12 | 図13 |
| 家 庭 | 家1～4 | 家5～11 | 家12～13 |
| 保 健 | 保1～9 | 保10～18 | 保19 |
| 英 語 | 英1～6 | 英7～20 | 英21 |
| 道 徳 | 道1～4 | 道5～15 | 道16～18 |

総 則

| | |
|------------|-----|
| 学習指導要領（総則） | 1～8 |
|------------|-----|

前文

教育は、教育基本法第1条に定めるとおり、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期すという目的のもと、同法第2条に掲げる次の目標を達成するよう行われなければならない。

- 1 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。
- 2 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。
- 3 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。
- 4 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- 5 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。このために必要な教育の在り方を具体化するのが、各学校において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てた教育課程である。

教育課程を通して、これからの時代に求められる教育を実現していくためには、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にしながら、社会との連携及び協働によりその実現を図っていくと、社会に開かれた教育課程の実現が重要となる。

学習指導要領とは、こうした理念の実現に向けて必要となる教育課程の基準を大綱的に定めるものである。学習指導要領が果たす役割の一つは、公の性質を有する学校における教育水準を全国的に確保することである。また、各学校がその特色を生かして創意工夫を重ね、長年にわたり積み重ねられてきた教育実践や学術研究の蓄積を生かしながら、児童や地域の現状や課題を捉え、家庭や地域社会と協力して、学習指導要領を踏まえた教育活動の更なる充実を図っていくことも重要である。

児童が学ぶことの意義を実感できる環境を整え、一人一人の資質・能力を伸ばせるようにしていくことは、教職員をはじめとする学校関係者はもとより、家庭や地域の人々も含め、様々な立場から児童や学校に関わる全ての大人に期待される役割である。幼児期の教育の基礎の上に、中学校以降の教育や生涯にわたる学習とのつながりを見通しながら、児童の学習の在り方を展望していくために広く活用されるものとなることを期待して、ここに小学校学習指導要領を定める。

第1章 総則

第1 小学校教育の基本と教育課程の役割

- 1 各学校においては、教育基本法及び学校教育法その他の法令並びにこの章以下に示すところに従い、児童の人間として調和のとれた育成を目指し、児童の心身の発達の段階や特性及び学校や地域の実態を十分考慮して、適切な教育課程を編成するものとし、これらに掲げる目標を達成するよう教育を行うものとする。
- 2 学校の教育活動を進めるに当たっては、各学校において、第3の1に示す主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、次の(1)から(3)までに掲げる事項の実現を図り、児童に生きる力を育むことを目指すものとする。
 - (1) 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努めること。その際、児童の発達の段階を考慮して、児童の言語活動など、学習の基盤をつくる活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、児童の学習習慣が確立するよう配慮すること。
 - (2) 道徳教育や体験活動、多様な表現や鑑賞の活動等を通して、豊かな心や創造性の^{かん}涵養を目指した教育の充実に努めること。

学校における道徳教育は、特別の教科である道徳（以下「道徳科」という。）を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳科はもとより、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、児童の発達の段階を考慮して、適切な指導を行うこと。

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とすること。

道徳教育を進めるに当たっては、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心を持ち、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、平和で民主的な国家及び社会の形成者として、公共の精神を尊び、社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を^{ひら}拓く主体性のある日本人の育成に資することとなるよう特に留意すること。
 - (3) 学校における体育・健康に関する指導を、児童の発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うことにより、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した教育の充実に努めること。特に、学校における食育の推進並びに体力の向上に関する指導、安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導については、体育科、家庭科及び特別活動の時間はもとより、各教科、道徳科、外国語活動及び総合的な学習の時間などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めること。また、それらの指導を通して、家庭や地域社会との連携を図りながら、日常生活において適切な体育・健康に関する活動の実践を促し、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎が培われるよう配慮すること。
- 3 2の(1)から(3)までに掲げる事項の実現を図り、豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される児童に、生きる力を育むことを目指すに当たっては、学校教育全体並びに各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動（以下「各教科等」と

いう。ただし、第2の3の(2)のア及びウにおいて、特別活動については学級活動(学校給食に係るものを除く。)に限る。)の指導を通してどのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしなが、教育活動の充実を図るものとする。その際、児童の発達の段階や特性等を踏まえつつ、次に掲げることが偏りなく実現できるようにするものとする。

- (1) 知識及び技能が習得されるようにすること。
 - (2) 思考力、判断力、表現力等を育成すること。
 - (3) 学びに向かう力、人間性等を涵養^{かん}すること。
- 4 各学校においては、児童や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと(以下「カリキュラム・マネジメント」という。)に努めるものとする。

第2 教育課程の編成

1 各学校の教育目標と教育課程の編成

教育課程の編成に当たっては、学校教育全体や各教科等における指導を通して育成を目指す資質・能力を踏まえつつ、各学校の教育目標を明確にするとともに、教育課程の編成についての基本的な方針が家庭や地域とも共有されるよう努めるものとする。その際、第5章総合的な学習の時間の第2の1に基づき定められる目標との関連を図るものとする。

2 教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

- (1) 各学校においては、児童の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力(情報モラルを含む。)、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。
- (2) 各学校においては、児童や学校、地域の実態及び児童の発達の段階を考慮し、豊かな人生の実現や災害等を乗り越えて次代の社会を形成することに向けた現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を、教科等横断的な視点で育成していくことができるよう、各学校の特色を生かした教育課程の編成を図るものとする。

3 教育課程の編成における共通的事項

(1) 内容等の取扱い

ア 第2章以下に示す各教科、道徳科、外国語活動及び特別活動の内容に関する事項は、特に示す場合を除き、いずれの学校においても取り扱わなければならない。

イ 学校において特に必要がある場合には、第2章以下に示していない内容を加えて指導することができる。また、第2章以下に示す内容の取扱いのうち内容の範囲や程度等を示す事項は、全ての児童に対して指導するものとする内容の範囲や程度等を示したものであり、学校において特に必要がある場合には、この事項にかかわらず加えて指導することができる。ただし、これらの場合には、第2章以下に示す各教科、道徳科、外国語活動及び特別活動の目標や内容の趣旨を逸脱したり、児童の負担過重となったりすることのないようにしなければならない。

ウ 第2章以下に示す各教科、道徳科、外国語活動及び特別活動の内容に掲げる事項の順序は、特に示す場合を除き、指導の順序を示すものではないので、学校においては、その取扱いについて適切な工夫を加えるものとする。

エ 学年の内容を2学年まとめて示した教科及び外国語活動の内容は、2学年間かけて指導する事項を示したものである。各学校においては、これらの事項を児童や学校、地域の実態に

応じ、2 学年間を見通して計画的に指導することとし、特に示す場合を除き、いずれかの学年に分けて、又はいずれの学年においても指導するものとする。

オ 学校において2以上の学年の児童で編制する学級について特に必要がある場合には、各教科及び道徳科の目標の達成に支障のない範囲内で、各教科及び道徳科の目標及び内容について学年別の順序によらないことができる。

カ 道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の内容は、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容とし、その実施に当たっては、第6に示す道徳教育に関する配慮事項を踏まえるものとする。

(2) 授業時数等の取扱い

ア 各教科等の授業は、年間35週（第1学年については34週）以上にわたって行うよう計画し、週当たりの授業時数が児童の負担過重にならないようにするものとする。ただし、各教科等や学習活動の特質に応じ効果的な場合には、夏季、冬季、学年末等の休業日の期間に授業日を設定する場合を含め、これらの授業を特定の期間に行うことができる。

イ 特別活動の授業のうち、児童会活動、クラブ活動及び学校行事については、それらの内容に応じ、年間、学期ごと、月ごとなどに適切な授業時数を充てるものとする。

ウ 各学校の時間割については、次の事項を踏まえ適切に編成するものとする。

(ア) 各教科等のそれぞれの授業の1単位時間は、各学校において、各教科等の年間授業時数を確保しつつ、児童の発達の段階及び各教科等や学習活動の特質を考慮して適切に定めること。

(イ) 各教科等の特質に応じ、10分から15分程度の短い時間を活用して特定の教科等の指導を行う場合において、教師が、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した中で、その指導内容の決定や指導の成果の把握と活用等を責任をもって行う体制が整備されているときは、その時間を当該教科等の年間授業時数に含めることができること。

(ウ) 給食、休憩などの時間については、各学校において工夫を加え、適切に定めること。

(エ) 各学校において、児童や学校、地域の実態、各教科等や学習活動の特質等に応じて、創意工夫を生かした時間割を弾力的に編成できること。

エ 総合的な学習の時間における学習活動により、特別活動の学校行事に掲げる各行事の実施と同様の成果が期待できる場合においては、総合的な学習の時間における学習活動をもって相当する特別活動の学校行事に掲げる各行事の実施に替えることができる。

(3) 指導計画の作成等に当たっての配慮事項

各学校においては、次の事項に配慮しながら、学校の創意工夫を生かし、全体として、調和のとれた具体的な指導計画を作成するものとする。

ア 各教科等の指導内容については、(1)のアを踏まえつつ、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、そのまとめ方や重点の置き方に適切な工夫を加え、第3の1に示す主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して資質・能力を育む効果的な指導ができるようにすること。

イ 各教科等及び各学年相互間の関連を図り、系統的、発展的な指導ができるようにすること。

ウ 学年の内容を2学年まとめて示した教科及び外国語活動については、当該学年間を見通して、児童や学校、地域の実態に応じ、児童の発達の段階を考慮しつつ、効果的、段階的に指導するようにすること。

エ 児童の実態等を考慮し、指導の効果を高めるため、児童の発達の段階や指導内容の関連性等を踏まえつつ、合科的・関連的な指導を進めること。

4 学校段階等間の接続

教育課程の編成に当たっては、次の事項に配慮しながら、学校段階等間の接続を図るものとする。

- (1) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。
また、低学年における教育全体において、例えば生活科において育成する自立し生活を豊かにしていくための資質・能力が、他教科等の学習においても生かされるようにするなど、教科等間の関連を積極的に図り、幼児期の教育及び中学年以降の教育との円滑な接続が図られるよう工夫すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。
- (2) 中学校学習指導要領及び高等学校学習指導要領を踏まえ、中学校教育及びその後の教育との円滑な接続が図られるよう工夫すること。特に、義務教育学校、中学校連携型小学校及び中学校併設型小学校においては、義務教育9年間を見通した計画的かつ継続的な教育課程を編成すること。

第3 教育課程の実施と学習評価

1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

各教科等の指導に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 第1の3の(1)から(3)までに示すことが偏りなく実現されるよう、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。
特に、各教科等において身に付けた知識及び技能を活用したり、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等を発揮させたりして、学習の対象となる物事を捉え思考することにより、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（以下「見方・考え方」という。）が鍛えられていくことに留意し、児童が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること。
- (2) 第2の2の(1)に示す言語能力の育成を図るため、各学校において必要な言語環境を整えるとともに、国語科を要としつつ各教科等の特質に応じて、児童の言語活動を充実すること。あわせて、(7)に示すとおり読書活動を充実すること。
- (3) 第2の2の(1)に示す情報活用能力の育成を図るため、各学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ること。また、各種の統計資料や新聞、視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図ること。
あわせて、各教科等の特質に応じて、次の学習活動を計画的に実施すること。
 - ア 児童がコンピュータで文字を入力するなどの学習の基盤として必要となる情報手段の基本的な操作を習得するための学習活動
 - イ 児童がプログラミングを体験しながら、コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身に付けるための学習活動
- (4) 児童が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を、計画的に取り入れるよう工夫すること。

- (5) 児童が生命の有限性や自然の大切さ、主体的に挑戦してみることや多様な他者と協働することの重要性などを実感しながら理解することができるよう、各教科等の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携しつつ体系的・継続的に実施できるよう工夫すること。
- (6) 児童が自ら学習課題や学習活動を選択する機会を設けるなど、児童の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習が促されるよう工夫すること。
- (7) 学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、児童の自主的、自発的な学習活動や読書活動を充実すること。また、地域の図書館や博物館、美術館、劇場、音楽堂等の施設の活用を積極的に図り、資料を活用した情報の収集や鑑賞等の学習活動を充実すること。

2 学習評価の充実

学習評価の実施に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 児童のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また、各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること。
- (2) 創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、組織的かつ計画的な取組を推進するとともに、学年や学校段階を越えて児童の学習の成果が円滑に接続されるように工夫すること。

第4 児童の発達の支援

1 児童の発達を支える指導の充実

教育課程の編成及び実施に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 学習や生活の基盤として、教師と児童との信頼関係及び児童相互のよりよい人間関係を育てるため、日頃から学級経営の充実を図ること。また、主に集団の場面で必要な指導や援助を行うガイダンスと、個々の児童の多様な実態を踏まえ、一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行うカウンセリングの双方により、児童の発達を支援すること。
あわせて、小学校の低学年、中学年、高学年の学年の時期の特長を生かした指導の工夫を行うこと。
- (2) 児童が、自己の存在感を実感しながら、よりよい人間関係を形成し、有意義で充実した学校生活を送る中で、現在及び将来における自己実現を図っていくことができるよう、児童理解を深め、学習指導と関連付けながら、生徒指導の充実を図ること。
- (3) 児童が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要として各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。
- (4) 児童が、基礎的・基本的な知識及び技能の習得も含め、学習内容を確実に身に付けることができるよう、児童や学校の実態に応じ、個別学習やグループ別学習、繰り返し学習、学習内容の習熟の程度に応じた学習、児童の興味・関心等に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習などの学習活動を取り入れることや、教師間の協力による指導体制を確保することなど、指導方法や指導体制の工夫改善により、個に応じた指導の充実を図ること。その際、第3の1の(3)に示す情報手段や教材・教具の活用を図ること。

2 特別な配慮を必要とする児童への指導

- (1) 障害のある児童などへの指導

ア 障害のある児童などについては、特別支援学校等の助言又は援助を活用しつつ、個々の児童の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うものとする。

イ 特別支援学級において実施する特別の教育課程については、次のとおり編成するものとする。

(ア) 障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るため、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章に示す自立活動を取り入れること。

(イ) 児童の障害の程度や学級の実態等を考慮の上、各教科の目標や内容を下学年の教科の目標や内容に替えたり、各教科を、知的障害者である児童に対する教育を行う特別支援学校の各教科に替えたりするなどして、実態に応じた教育課程を編成すること。

ウ 障害のある児童に対して、通級による指導を行い、特別の教育課程を編成する場合には、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章に示す自立活動の内容を参考とし、具体的な目標や内容を定め、指導を行うものとする。その際、効果的な指導が行われるよう、各教科等と通級による指導との関連を図るなど、教師間の連携に努めるものとする。

エ 障害のある児童などについては、家庭、地域及び医療や福祉、保健、労働等の業務を行う関係機関との連携を図り、長期的な視点で児童への教育的支援を行うために、個別の教育支援計画を作成し活用することに努めるとともに、各教科等の指導に当たって、個々の児童の実態を的確に把握し、個別の指導計画を作成し活用することに努めるものとする。特に、特別支援学級に在籍する児童や通級による指導を受ける児童については、個々の児童の実態を的確に把握し、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、効果的に活用するものとする。

(2) 海外から帰国した児童などの学校生活への適応や、日本語の習得に困難のある児童に対する日本語指導

ア 海外から帰国した児童などについては、学校生活への適応を図るとともに、外国における生活経験を生かすなどの適切な指導を行うものとする。

イ 日本語の習得に困難のある児童については、個々の児童の実態に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うものとする。特に、通級による日本語指導については、教師間の連携に努め、指導についての計画を個別に作成することなどにより、効果的な指導に努めるものとする。

(3) 不登校児童への配慮

ア 不登校児童については、保護者や関係機関と連携を図り、心理や福祉の専門家の助言又は援助を得ながら、社会的自立を目指す観点から、個々の児童の実態に応じた情報の提供その他の必要な支援を行うものとする。

イ 相当の期間小学校を欠席し引き続き欠席すると認められる児童を対象として、文部科学大臣が認める特別の教育課程を編成する場合には、児童の実態に配慮した教育課程を編成するとともに、個別学習やグループ別学習など指導方法や指導体制の工夫改善に努めるものとする。

第5 学校運営上の留意事項

1 教育課程の改善と学校評価等

ア 各学校においては、校長の方針の下に、校務分掌に基づき教職員が適切に役割を分担しつつ、相互に連携しながら、各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントを行うよう努めるものとする。また、各学校が行う学校評価については、教育課程の編成、実施、改善が教育活動や学校運営の中核となることを踏まえ、カリキュラム・マネジメントと関連付けながら実施するよう留意するものとする。

イ 教育課程の編成及び実施に当たっては、学校保健計画、学校安全計画、食に関する指導の全体計画、いじめの防止等のための対策に関する基本的な方針など、各分野における学校の全体計画等と関連付けながら、効果的な指導が行われるように留意するものとする。

2 家庭や地域社会との連携及び協働と学校間の連携

教育課程の編成及び実施に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

ア 学校がその目的を達成するため、学校や地域の実態等に応じ、教育活動の実施に必要な人的又は物的な体制を家庭や地域の人々の協力を得ながら整えるなど、家庭や地域社会との連携及び協働を深めること。また、高齢者や異年齢の子供など、地域における世代を越えた交流の機会を設けること。

イ 他の小学校や、幼稚園、認定こども園、保育所、中学校、高等学校、特別支援学校などとの間の連携や交流を図るとともに、障害のある幼児児童生徒との交流及び共同学習の機会を設け、共に尊重し合いながら協働して生活していく態度を育むようにすること。

第6 道徳教育に関する配慮事項

道徳教育を進めるに当たっては、道徳教育の特質を踏まえ、前項までに示す事項に加え、次の事項に配慮するものとする。

- 1 各学校においては、第1の2の(2)に示す道徳教育の目標を踏まえ、道徳教育の全体計画を作成し、校長の方針の下に、道徳教育の推進を主に担当する教師（以下「道徳教育推進教師」という。）を中心に、全教師が協力して道徳教育を展開すること。なお、道徳教育の全体計画の作成に当たっては、児童や学校、地域の実態を考慮して、学校の道徳教育の重点目標を設定するとともに、道徳科の指導方針、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容との関連を踏まえた各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における指導の内容及び時期並びに家庭や地域社会との連携の方法を示すこと。
- 2 各学校においては、児童の発達の段階や特性等を踏まえ、指導内容の重点化を図ること。その際、各学年を通じて、自立心や自律性、生命を尊重する心や他者を思いやる心を育てることに留意すること。また、各学年段階においては、次の事項に留意すること。
 - (1) 第1学年及び第2学年においては、挨拶などの基本的な生活習慣を身に付けること、善悪を判断し、してはならないことをしないこと、社会生活上のきまりを守ること。
 - (2) 第3学年及び第4学年においては、善悪を判断し、正しいと判断したことを行うこと、身近な人々と協力し助け合うこと、集団や社会のきまりを守ること。
 - (3) 第5学年及び第6学年においては、相手の考え方や立場を理解して支え合うこと、法やきまりの意義を理解して進んで守ること、集団生活の充実に努めること、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重すること。
- 3 学校や学級内の人間関係や環境を整えるとともに、集団宿泊活動やボランティア活動、自然体験活動、地域の行事への参加などの豊かな体験を充実すること。また、道徳教育の指導内容が、児童の日常生活に生かされるようにすること。その際、いじめの防止や安全の確保等にも資することとなるよう留意すること。
- 4 学校の道徳教育の全体計画や道徳教育に関する諸活動などの情報を積極的に公表したり、道徳教育の充実のために家庭や地域の人々の積極的な参加や協力を得たりするなど、家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携を図ること。

国 語

学習指導要領（国語）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1～8
 資料 1・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9～20
 資料 2・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

| 発行者の 番号・略号 | 書 名 | 著 者 者 | 資料中 の表記 |
|---------------|--------------|-----------------------|------------|
| 2 東 書 | 新しい国語 | 秋田 喜代美 ほか 107名 | 東 書 |
| 11 学 図 | みんなと学ぶ 小学校国語 | 鶴田 清司 ほか 39名 | 学 図 |
| 17 教 出 | ひろがる言葉 小学国語 | 田近 洵一 北原 保雄 ほか 43名 | 教 出 |
| 38 光 村 | 国語 | 甲斐 睦朗 ほか 43名 | 光 村 |

第2章 各教科

第1節 国語

第1 目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

第2 各学年の目標及び内容

〔第1学年及び第2学年〕

1 目標

- (1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- (2) 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。
- (3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

2 内容

〔知識及び技能〕

- (1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。
 - イ 音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。
 - ウ 長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。
 - エ 第1学年においては、別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。
 - オ 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。
 - カ 文の中における主語と述語との関係に気付くこと。
 - キ 丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。
 - ク 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。
- (2) 話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。
- (3) 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。
 - イ 長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くこと。
 - ウ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。
 - (ア) 姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書くこと。
 - (イ) 点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと。
 - (ウ) 点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して、文字を正しく書くこと。
 - エ 読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。

〔思考力、判断力、表現力等〕

A 話すこと・聞くこと

- (1) 話すこと・聞くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。

- イ 相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。
- ウ 伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。
- エ 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。
- オ 互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。
- (2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。
 - ア 紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。
 - イ 尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。
- B 書くこと
 - (1) 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。
 - イ 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。
 - ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。
 - エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。
 - オ 文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。
 - (2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。
 - ア 身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。
 - イ 日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動。
 - ウ 簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。
- C 読むこと
 - (1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。
 - イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。
 - ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。
 - エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。
 - オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。
 - カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。
 - (2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。
 - ア 事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。
 - イ 読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。
 - ウ 学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。

〔第3学年及び第4学年〕

1 目標

- (1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- (2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。
- (3) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

2 内容

〔知識及び技能〕

- (1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。
 - イ 相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。
 - ウ 漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。
 - エ 第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。
 - オ 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。

- カ 主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。
- キ 丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。
- ク 文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読すること。
- (2) 話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。
- イ 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。
- (3) 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。
- イ 長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。
- ウ 漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。
- エ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。
- (ア) 文字の組立て方を理解し、形を整えて書くこと。
- (イ) 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。
- (ウ) 毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め、筆圧などに注意して書くこと。
- オ 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。
- 〔思考力、判断力、表現力等〕
- A 話すこと・聞くこと
- (1) 話すこと・聞くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。
- イ 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。
- ウ 話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。
- エ 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつこと。
- オ 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。
- (2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。
- ア 説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動。
- イ 質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。
- ウ 互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。
- B 書くこと
- (1) 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。
- イ 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。
- ウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。
- エ 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えること。
- オ 書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。
- (2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。
- ア 調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。
- イ 行事の案内やお礼の文章を書くなど、伝えたいことを手紙に書く活動。
- ウ 詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。
- C 読むこと
- (1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。
- イ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。
- ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること。
- エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること。
- オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。
- カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。
- (2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

- ア 記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。
- イ 詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。
- ウ 学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。

〔第5学年及び第6学年〕

1 目標

- (1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- (2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

2 内容

〔知識及び技能〕

- (1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。
 - イ 話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。
 - ウ 文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。
 - エ 第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。
 - オ 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。
 - カ 文の中の語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。
 - キ 日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。
 - ク 比喻や反復などの表現の工夫に気付くこと。
 - ケ 文章を音読したり朗読したりすること。
- (2) 話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。
 - イ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。
- (3) 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。
 - イ 古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。
 - ウ 語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。
 - エ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。
 - (ア) 用紙全体との関係に注意して、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書くこと。
 - (イ) 毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。
 - (ウ) 目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。
 - オ 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付くこと。

〔思考力、判断力、表現力等〕

A 話すこと・聞くこと

- (1) 話すこと・聞くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。
 - イ 話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。
 - ウ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。
 - エ 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。

オ 互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。

(2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア 意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動。

イ インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動。

ウ それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。

B 書くこと

(1) 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。

イ 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。

ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

オ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。

カ 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。

(2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア 事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。

イ 短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。

ウ 事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。

C 読むこと

(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。

イ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。

ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。

エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。

オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。

カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。

(2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア 説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。

イ 詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。

ウ 学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。

(2) 第2の各学年の内容の指導については、必要に応じて当該学年より前の学年において初歩的な形で取り上げたり、その後の学年で程度を高めて取り上げたりするなどして、弾力的に指導すること。

(3) 第2の各学年の内容の〔知識及び技能〕に示す事項については、〔思考力、判断力、表現力等〕に示す事項の指導を通して指導することを基本とし、必要に応じて、特定の事項だけを取り上げて指導したり、それらをまとめて指導したりするなど、指導の効果を高めるよう工夫すること。なお、その際、第1章総則の第2の3の(2)のウの(イ)に掲げる指導を行う場合には、当該指導のねらいを明確にするとともに、単元など内容や時間のまとまりを見通して資質・能力が偏りなく育成されるよう計画的に指導すること。

(4) 第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」に関する指導については、意図的、計画的に指導する機会が得られるように、第1学年及び第2学年では年間35単位時間程度、第3学年及び第4学年では年間30単位時間程度、第5学年及び第6学年では年間25単位時間程度を配当すること。その際、音声言語のための教材を活用するなどして指導の効果を高めるよう工夫すること。

(5) 第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「B書くこと」に関する指導については、第1学年及び第2学年では年間100単位時間程度、第3学年及び第4学年では年間85

単位時間程度、第5学年及び第6学年では年間55単位時間程度を配当すること。その際、実際に文章を書く活動をなるべく多くすること。

- (6) 第2の第1学年及び第2学年の内容の〔知識及び技能〕の(3)のエ、第3学年及び第4学年、第5学年及び第6学年の内容の〔知識及び技能〕の(3)のオ及び各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」に関する指導については、読書意欲を高め、日常生活において読書活動を活発に行うようにするとともに、他教科等の学習における読書の指導や学校図書館における指導との関連を考へて行うこと。
 - (7) 低学年においては、第1章総則の第2の4の(1)を踏まえ、他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにするとともに、幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に、小学校入学当初においては、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。
 - (8) 言語能力の向上を図る観点から、外国語活動及び外国語科など他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにすること。
 - (9) 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
 - (10) 第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、道徳科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容について、国語科の特質に応じて適切な指導をすること。
- 2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。
- (1) 〔知識及び技能〕に示す事項については、次のとおり取り扱うこと。
 - ア 日常の言語活動を振り返ることなどを通して、児童が、実際に話したり聞いたり書いたり読んだりする場面を意識できるよう指導を工夫すること。
 - イ 理解したり表現したりするために必要な文字や語句については、辞書や事典を利用して調べる活動を取り入れるなど、調べる習慣が身に付くようにすること。
 - ウ 第3学年におけるローマ字の指導に当たっては、第5章総合的な学習の時間の第3の2の(3)に示す、コンピュータで文字を入力するなどの学習の基盤として必要となる情報手段の基本的な操作を習得し、児童が情報や情報手段を主体的に選択し活用できるよう配慮することとの関連が図られるようにすること。
 - エ 漢字の指導については、第2の内容に定めるほか、次のとおり取り扱うこと。
 - (ア) 学年ごとに配当されている漢字は、児童の学習負担に配慮しつつ、必要に応じて、当該学年以前の学年又は当該学年以降の学年において指導することもできること。
 - (イ) 当該学年より後の学年に配当されている漢字及びそれ以外の漢字については、振り仮名を付けるなど、児童の学習負担に配慮しつつ提示することができること。
 - (ウ) 他教科等の学習において必要となる漢字については、当該教科等と関連付けて指導するなど、その確実な定着が図られるよう指導を工夫すること。
 - (エ) 漢字の指導においては、学年別漢字配当表に示す漢字の字体を標準とすること。
 - オ 各学年の(3)のア及びイに関する指導については、各学年で行い、古典に親しめるよう配慮すること。
 - カ 書写の指導については、第2の内容に定めるほか、次のとおり取り扱うこと。
 - (ア) 文字を正しく整えて書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるよう配慮すること。
 - (イ) 硬筆を使用する書写の指導は各学年で行うこと。
 - (ウ) 毛筆を使用する書写の指導は第3学年以上の各学年で行い、各学年年間30単位時間程度を配当するとともに、毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導すること。
 - (エ) 第1学年及び第2学年の(3)のウの(イ)の指導については、適切に運筆する能力の向上につながるよう、指導を工夫すること。
 - (2) 第2の内容の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。
 - (3) 第2の内容の指導に当たっては、学校図書館などを目的をもって計画的に利用しその機能の活用を図るようにすること。その際、本などの種類や配置、探し方について指導するなど、児童が必要な本などを選ぶことができるよう配慮すること。なお、児童が読む図書については、人間形成のため偏りが無いよう配慮して選定すること。
- 3 教材については、次の事項に留意するものとする。
- (1) 教材は、第2の各学年の目標及び内容に示す資質・能力を偏りなく養うことや読書に親しむ態度の育成を通して読書習慣を形成することをねらいとし、児童の発達の段階に即して適切な話題や題材を精選して調和的に取り上げること。また、第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」のそれぞれの(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。
 - (2) 教材は、次のような観点に配慮して取り上げること。
 - ア 国語に対する関心を高め、国語を尊重する態度を育てるのに役立つこと。
 - イ 伝え合う力、思考力や想像力及び言語感覚を養うのに役立つこと。
 - ウ 公正かつ適切に判断する能力や態度を育てるのに役立つこと。

エ 科学的、論理的に物事を捉え考察し、視野を広げるのに役立つこと。
 オ 生活を明るくし、強く正しく生きる意志を育てるのに役立つこと。
 カ 生命を尊重し、他人を思いやる心を育てるのに役立つこと。
 キ 自然を愛し、美しいものに感動する心を育てるのに役立つこと。
 ク 我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を育てるのに役立つこと。
 ケ 日本人としての自覚をもって国を愛し、国家、社会の発展を願う態度を育てるのに役立つこと。

コ 世界の風土や文化などを理解し、国際協調の精神を養うのに役立つこと。
 (3) 第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」の教材については、各学年で説明的な文章や文学的な文章などの文章の種類を調和的に取り扱うこと。また、説明的な文章については、適宜、図表や写真などを含むものを取り上げること。

別表

学年別漢字配当表

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|----------------------|-------------|----------------------|-------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 第一学年 | 一五人町 (80字) | 右口水天 | 雨校正田 | 円左生土 | 王三青二 | 音山夕日 | 下子石入 | 火四赤年 | 花糸千白 | 貝字川八 | 学耳先百 | 気七早文 | 九車草木 | 休手足本 | 玉十村名 | 金出大目 | 空女男立 | 月小竹力 | 犬上中林 | 見森虫六 |
| 第二学年 | 引丸古作場太東歩 (160字) | 羽岩午算色体答母 | 雲顔後止食台頭方 | 園汽語市中心地同北 | 遠記工矢新池道每 | 何婦公姉親知読妹 | 科弓広思凶茶内万 | 夏牛交紙数昼南明 | 家魚光寺西長肉鳴 | 歌京考自声鳥馬毛 | 画強行時星朝売門 | 回教高室晴直買夜 | 会近黄社切通麦野 | 海兄合弱雪弟半友 | 絵形谷首船店番用 | 外計国秋線点父曜 | 角元黒週前電風来 | 楽言今春組刀分里 | 活原才書走冬聞理 | 間戸細少多当米話 |
| 第三学年 | 悪開銀仕拾真炭湯氷由 (200字) | 安階区死終深短登表油 | 暗寒苦使習進談等秒有 | 医感具始集世着動病遊 | 委漢君指住整注童品予 | 意館係齒重昔柱農負羊 | 育岸輕詩宿全丁波部洋 | 員起血次所相帳配服葉 | 院期決事暑送調倍福陽 | 飲客研持助想追箱物様 | 運究県式昭息定畑平落 | 泳急庫実消速庭発返流 | 駅級湖写商族笛反勉旅 | 央宮向者章他鉄坂放両 | 横球幸主勝打転板味緑 | 屋去港守乗対都皮命礼 | 温橋号取植待度悲面列 | 化業根酒申代投美問練 | 荷曲祭受身第豆鼻役路 | 界局皿州神題島筆薬和 |
| 第四学年 | 愛械泣健産唱然典票未労 | 案害給験散焼争伝標民録 | 以街挙固殘照倉徒不無 (202字) | 衣各漁功氏城巢努夫約勇 | 位覚共好司繩束灯付勇 | 茨瀉協香試臣側働府要 | 印完鏡候児信統特阜養 | 英官競康治井卒徳富浴 | 栄管極佐滋成孫栃副利 | 媛関熊差辞省帯奈兵陸 | 塩観訓菜鹿清隊梨別良 | 岡願軍最失静達熱辺料 | 億岐郡埼借席単念変量 | 加希群材種積置敗便輪 | 果季径崎周折仲梅包類 | 貨旗景昨祝節沖博法令 | 課器芸札順説兆阪望冷 | 芽機欠刷初浅低飯牧例 | 賀議結察松戦底飛末連 | 改求建参笑選的必満老 |

| | |
|-------------|--|
| <p>第五学年</p> | <p>快居耕贊序接張肥質 過救厚酸準績貯比防 河旧効雜術責築版豐 佃久護殺述稅斷判報 假逆個罪修製囚犯墓 可義故財授精態破保 桜技減在謝勢貸能弁 (193字) 往喜現際舍政損燃編歷 忝規限採質性率任粉領 演寄檢妻識制属独仏留 液基險災似職測毒複略 益紀件再示織則得復容 易眼潔查飼情增導武余 衛慣經混資常像銅婦輸 營幹型告師狀造堂布綿 永刊句講枝条総統貧迷 因額禁興志賞素適評夢 移確均構史象祖程備務 困格境鉞支証絶提費脈 庄解許航士招設停非暴</p> |
| <p>第六学年</p> | <p>簡樞裁從聖退党奮預 看絹濟衆盛尊討腹優 卷券座就寸存展俵郵 千穴砂宗推臟敵秘訊 株激困収垂藏痛批模 割劇骨樹仁操賃否盟 閣警穀若針層潮晚密 革敬刻尺蒸装腸班幕 (191字) 拡系鋼捨障創頂俳枚 灰筋降射傷窓庁肺棒論 我勤紅磁將奏著背忘朗 恩鄉皇誌承善忠拜亡臨 沿胸孝詞除錢宙派訪律 延供后視諸染值腦宝裏 映吸誤姿署洗暖納暮覽 宇疑呼私処泉段認補卵 域貴己至純專誕乳片乱 遣揮巖蚕熟宣探難閉翌 異机源冊縮舌担届陸欲 胃危憲策縦誠宅糖並幼</p> |

| 項目 | 観 点 |
|--------------------------------|--|
| 1 目標・内容 の取扱い | <p>国語科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日常生活に必要な国語の特質を理解し適切に使うことについて ○ 人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養うことについて ○ 言葉がもつよさを認識し、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図ることについて |
| 2 人権の 取扱い | <p>人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権への配慮について ○ 国際理解や国際協調について ○ ユニバーサルデザインに関する配慮について |
| 3 内容の程度 | <p>児童の発達段階を考慮した内容になっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 題材に対する興味・関心、文章の記述や分量について ○ 写真、挿絵、図、表などの資料について ○ 漢字や入門期の文字を含む語彙を段階的に獲得し、活用することについて |
| 4 組織・配列 | <p>各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元配列について ○ 単元構成について ○ 写真、挿絵、図、表などの資料について |
| 5 創意工夫 | <p>言葉による見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 活動場面の設定や多様な学習活動の組み合わせについて ○ 情報機器や学校図書館を活用することについて |
| 6 補充的な 学習・ 発展的な 学習 | <p>学習した内容を確実に習得できるよう、学習の内容や過程などを振り返ったり、学んだことを生活に生かしたりすることができるよう配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 資料やコラムなど ○ 読書習慣の形成および進んで学習や生活に生かすことについて |

【資料1 国語】

| 項目 | 観 点 |
|--------------------|---|
| 1 目標・内容 の取扱い | <p>国語科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日常生活に必要な国語の特質を理解し適切に使うことについて ○ 人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養うことについて ○ 言葉がもつよさを認識し、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図ることについて |
| 発行者 | 事 項 |
| 東書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 日常生活に必要な国語の知識及び技能について、各教材を通じて適切な内容が取り扱われている。特に、言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、我が国の言語文化について、「ことばあつめ」「言葉の広場」「伝えたい言の葉」などにおいて取り扱われている。 ○ 「話す・聞く」「書く」「読む」の各言語活動において、課題解決的な学習に取り組むことで、人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う内容となっている。2～6年の巻頭では、「気持ちよく対話を続けよう」など、対話的な学びを通して、言葉の力を養う内容が取り扱われている。 ○ 単元末や学年末に定期的に学習を振り返り、成長を確かめ、さらなる学習への意欲や主体性が高まる内容が取りあげられている。また、全単元において、学習を通じて育成する資質・能力として「言葉の力」を単元冒頭と単元末に示しており、身につけた力を他教科や生活に生かせるよう取り扱われている。 |
| 学図 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 日常生活に必要な国語の知識及び技能について、各教材を通じて適切に取り扱われている。特に、言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、我が国の言語文化について、巻頭の「見つける・見つめる」や巻末の「言葉の部屋」「季節のたより」などにおいて取り扱われている。 ○ 「話す・聞く」「書く」「読む」の各言語活動において、課題解決的な学習に取り組むことで、人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う内容となっている。2～6年の巻頭「ことばでつながる」などにおいて、他者と主体的に関わり、伝え合う力を育成する内容が取り扱われている。 ○ 「学習のてびき」には、見開きで学習の全体像を示すことで、学習への見通しを持ち、意欲や主体性が高まる内容が取りあげられている。また、「学習のてびき」の「国語のカギ」は、身につけた力を他教科や生活に生かせる内容が取り扱われている。 |
| 教出 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 日常生活に必要な国語の知識及び技能について、各教材を通じて適切に取り扱われている。特に、言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、我が国の言語文化について、「言葉を学ぼう」「言葉をふやそう」「文化」や巻末の「言葉の木」などにおいて取り扱われている。 ○ 「話す・聞く」「書く」「読む」の各言語活動において、課題解決的な学習に取り組むことで、人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う内容となっている。2～6年の巻頭、「言葉で伝え合おう」などにおいて、日常のさまざまな場面で生きて働く言葉の力を養う内容が取り扱われている。 ○ 各教材において、学びのステップを示し、学習課題と学習過程を可視化することで、学習者の主体性や意欲が高まる内容となっている。また、全単元に「ここが大事」が設けられ、単元で身につけた力を他教科や生活に生かせるよう取り扱われている。 |

| | |
|----|---|
| 光村 | <ul style="list-style-type: none">○ 日常生活に必要な国語の知識及び技能について、各教材を通じて適切に取り扱われている。特に、言葉の特徴や使い方、情報、我が国の言語文化について、「言葉の宝箱」や「季節の言葉」において取り扱われている。○ 「話す・聞く」「書く」「読む」の各言語活動において、課題解決的な学習に取り組むことで、人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う内容となっている。2～6年では「対話の練習」が設定され、他者と主体的に関わり、日常生活に生きる対話の力を育む内容が取り扱われている。○ つけたい力と言語活動が単元冒頭に取りあげられ、児童の意欲や主体性が高まる内容が取りあげられている。また、「たいせつ」や「いかそう」では、単元で身につけた力を、他教科や生活に生かせる内容が取り扱われている。 |
|----|---|

【資料1 国語】

| 項目 | 観 点 |
|---------------------|--|
| 2 人 権 の 取 扱 い | <p>人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権への配慮について ○ 国際理解や国際協調について ○ ユニバーサルデザインに関する配慮について |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|--|
| 東書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 文章、写真、挿絵、図、資料など、人権尊重の観点から配慮されている。例えば、戦争や平和、自然環境問題、防災・安全などを題材にした教材が取りあげられている。 ○ 国際理解や国際協調について、適切に取り扱われている。例えば、3年「外国のことをしょうかいしよう」4年「くらしの中の和と洋」などの教材で、外国の文化や自然について取りあげられている。 ○ すべての児童にとって使いやすくわかりやすいよう、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色などに配慮されている。 |
| 学図 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 文章、写真、挿絵、図、資料など、人権尊重の観点から配慮されている。例えば、戦争や平和、自然環境問題、防災・安全などを題材にした教材が取りあげられている。 ○ 国際理解や国際協調について、適切に取り扱われている。例えば、2年「あいさつのみぶりとことば」4年「手で食べる、はしで食べる」などの教材で、外国の文化や自然について取りあげられている。 ○ すべての児童にとって使いやすくわかりやすいよう、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色などに配慮されている。 |
| 教出 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 文章、写真、挿絵、図、資料など、人権尊重の観点から配慮されている。例えば、戦争や平和、自然環境問題、防災・安全などを題材にした教材が取りあげられている。 ○ 国際理解や国際協調について、適切に取り扱われている。例えば、3年「絵文字の特長をとらえよう」6年「子どもたちを救いたい」などの教材で、外国の文化や自然について取りあげられている。 ○ すべての児童にとって使いやすくわかりやすいよう、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色などに配慮されている。 |
| 光村 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 文章、写真、挿絵、図、資料など、人権尊重の観点から配慮されている。例えば、戦争や平和、自然環境問題、防災・安全などを題材にした教材が取りあげられている。 ○ 国際理解や国際協調について、適切に取り扱われている。例えば、2年「スーホの白い馬」3年「三年とうげ」などの教材で、外国の文化や自然について取りあげられている。 ○ すべての児童にとって使いやすくわかりやすいよう、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色などに配慮されている。 |

| 項目 | 観 点 |
|------------|---|
| 3 内容の程度 | <p>児童の発達段階を考慮した内容になっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 題材に対する興味・関心、文章の記述や分量について ○ 写真、挿絵、図、表などの資料について ○ 漢字や入門期の文字を含む語彙を段階的に獲得し、活用することについて |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|--|
| 東書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童にとって、興味・関心のある題材で、適切な記述や分量となっている。例えば、低学年では自分の意見を交流すること、高学年では、インターネットの投稿について考えたり、プレゼンテーションを行ったりすることなど、発達段階を考慮した内容となっている。 ○ 写真、挿絵、図、表などの資料が発達段階に応じたものになっている。 ○ 各学年の「言葉の練習」「漢字の練習」などで、語彙や漢字、言葉の習得に向けた内容が、発達段階に応じて取り扱われている。 入門期は、想像をふくらませたり、伝え合ったりする活動などにより、少しずつ言葉に触れられるよう取り扱われている。 |
| 学図 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童にとって、興味・関心のある題材で、適切な記述や分量となっている。例えば、低学年では身近な動植物について友だちに伝えたり、みんなで読んだ本の内容についてクイズを出し合ったりすること、高学年では、自分の学校をよりよくする提案や日本の魅力についてスピーチしたり、プレゼンテーションを行ったりすることなど、発達段階に考慮されている。 ○ 写真、挿絵、図、表などの資料が発達段階に応じたものになっている。 ○ 各学年の「漢字の広場」「言葉の部屋」などで、語彙や漢字、言葉の習得に向けた内容が、発達段階に応じて取り扱われている。 入門期は、想像をふくらませたり、伝え合ったりする活動などにより、少しずつ言葉に触れられるよう取り扱われている。 |
| 教出 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童にとって、興味・関心のある題材で、適切な記述や分量となっている。例えば、低学年ではイラストを見て気づきを伝え合ったり、ゲームに取り組んだりすること、高学年では、AIや地域の防災について調べたり、考えを伝え合ったりすることなど、発達段階に配慮されている。 ○ 写真、挿絵、図、表などの資料が発達段階に応じたものになっている。 ○ 各学年の「漢字の広場」「言葉のまとめ」などで、語彙や漢字、言葉の習得に向けた内容が、発達段階に応じて取り扱われている。 入門期は、想像をふくらませたり、伝え合ったりする活動などにより、少しずつ言葉に触れられるよう取り扱われている。 |

【資料1 国語】

| | |
|----|--|
| 光村 | <ul style="list-style-type: none">○ 児童にとって、興味・関心のある題材で、適切な記述や分量となっている。例えば、低学年ではクイズを出し合ったり相談し合う活動を取り入れたりすること、高学年では、よりよい学校生活に向けて話し合ったり小学校生活を終えるにあたってのスピーチを行ったりすることなど、発達段階に考慮されている。○ 写真、挿絵、図、表などの資料が発達段階に応じたものになっている。○ 各学年の「漢字の広場」「言葉の宝箱」などで、語彙や漢字、言葉の習得に向けた内容が、発達段階に応じて取り扱われている。 入門期は、想像をふくらませたり、伝え合ったりする活動などにより、少しずつ言葉に触れるよう取り扱われている。 |
|----|--|

| 項目 | 観 点 |
|------------|---|
| 4 組織・配列 | <p>各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元配列について ○ 単元構成について ○ 写真、挿絵、図、表などの資料について |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|--|
| 東書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 指導すべき内容が教科横断的な視点を踏まえ配列されている。例えば、2年「「ありがとう」をつたえよう」では、日常生活や生活科の学習で活用できる手紙を書く活動が取り扱われている。また、5年「環境問題について報告しよう」では、社会科の時間等と関連づけられる。 ○ 児童が見通しを持って学習が進められるよう、巻頭に国語の学習の進め方が示されている。「つかむ」で見通しをもち、見通しに沿って自分の考えや思いをまとめ、「ふり返る」で自分の学習を振り返られるよう構成されている。また、「生かそう」で、学んだことを他教科の学習や生活でも活用できるよう取り扱われている。 ○ 資料について、効果的に取り扱われている。例えば、3年「『ほけんだより』を読みくらべよう」では、資料やアドバイスをどのように取りあげたらよいか考えられる。また、6年「世界に目を向けて意見文を書こう」では、資料がまとめて提示され、必要な資料が読み取りやすいよう工夫されている。 |
| 学図 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 指導すべき内容が教科横断的な視点を踏まえ配列されている。例えば、2年「やっごらんおもしろいよ」では、生活科の学校探検やおもちゃ遊びの学習に関連づけられる内容が取り扱われている。また、6年「日本の魅力再発見」では、社会科や総合的な学習の時間等と関連づけられる。 ○ 児童が見通しを持って学習を進められるよう、巻頭に国語の学習の進め方が示されている。「つかむ」で見通しを持ち、「見方や考え方を学ぶ」で考えを深め、「まとめる・ふり返る」でまとめ、「広げる」で生活や社会に目を向け、学習したことを生かしていけるよう取り扱われている。 ○ 資料について、効果的に取り扱われている。例えば、2年の「とべとべ回れ」では、用意するものなど一つ一つの挿絵が示されている。また、6年「日本の魅力、再発見」では、複数の資料を用いて説得力のある文章を作ることができるよう工夫されている。 |

【資料1 国語】

| | |
|-----------|--|
| <p>教出</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 指導すべき内容が教科横断的な視点を踏まえ配列されている。例えば、2年「「かんさつ発見カード」を書こう」では、生活科の学習で活用できるくわしく観察記録を書く活動が取り扱われている。また、5年「世界遺産 白神山地からの提言」では、社会科や総合的な学習の時間などに関連づけられる。 ○ 児童が見通しを持って学習が進められるよう、「読む」単元では、「たしかめよう」「考えよう」「深めよう」「広げよう」の4ステップを示し、学習課題と学習過程を可視化し、学習者が見通しを持つとともに生活に生かせるよう取り扱われている。「読む」単元以外では、単元の内容に応じた進め方を示している。 ○ 資料について、効果的に取り扱われている。例えば、3年「川をさかのぼる知恵」では、土地の断面図などが提示されていることで、本文の内容を視覚的につかむことができる。また、5年「まんがの方法」では、さまざまな種類のコマやふきだし、背景を提示するなど、工夫されている。 |
| <p>光村</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 指導すべき内容が教科横断的な視点を踏まえ配列されている。例えば、2年「かんさつ名人になろう」では、生活科の学習で活用できる、くわしく観察記録を書く活動が取り扱われている。また、4年「世界にほこる和紙」では、総合的な学習の時間や社会科などに関連づけられる。 ○ 児童が見通しを持って学習が進められるよう、巻頭に「国語の学びを見わたそう」が示されている。「初めに」で見通しをもち、「読む」「書く」「話す・聞く」で自分の考えをまとめ、「ふりかえる」で学習を振り返り、「学習や生活にいかす」で、学んだことを他教科の学習や生活に生かせるよう取り扱われている。「読む」単元では学習の過程を「とらえよう」「ふかめよう」「まとめよう」「ひろげよう」と示している。 ○ 資料について、効果的に取り扱われている。例えば、2年「馬のおもちの作り方」では、作り方の文章に対して写真が一枚一枚提示されていることで、本文の内容を視覚的につかむことができる。また、6年「時計の時間と心の時間」では、文章の内容を補う表や図を提示するなど工夫されている。 |

| 項 目 | 観 点 |
|-----------|---|
| 5 創意工夫 | <p>言葉による見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 活動場面の設定や多様な学習活動の組み合わせについて ○ 情報機器や学校図書館を活用することについて |
| 発行者 | 事 項 |
| 東書 | <p>言葉による見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 多様な学習活動を効果的に行うことができるように、言語活動の場面が設定されている。例えば、6年「町の未来をえがこう」では、自分たちの町の未来についてプレゼンテーションを行うゴールが設定され、その達成に向けて、「町の幸福論」について読む活動、街づくりについて調べる活動、集めた情報をもとに提案内容をグループで検討する活動が取り扱われている。 ○ 情報機器や学校図書館を活用することについて適切に取りあげられている。例えば、巻頭に「対話」「情報の扱い方」「図書館利用」についての単元・小単元を位置づけている。また、6年「町の未来をえがこう」では、自分の考えをプレゼンテーションする中で、タブレット端末や、パソコンなどの情報機器を活用した活動ができるよう工夫されている。 |
| 学図 | <p>言葉による見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 多様な学習活動を効果的に行うことができるように、言語活動の場面が設定されている。例えば、5年「みちくさ」では、人物の性格や心情について読み取り、工夫して音読し、自分の考えと友だちの考えを書いて自分だけのノートを作る学習へとつながる活動が取り扱われている。 ○ 情報機器や学校図書館を活用することについて適切に取りあげられている。例えば、図書館利用に関する教材が設定されている。また、6年「電子メールで質問しよう」では、調べ学習などに活用できるよう、依頼のメールを送るなど、情報機器を活用した活動ができるよう工夫されている。 |
| 教出 | <p>言葉による見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 多様な学習活動を効果的に行うことができるように、言語活動の場面が設定されている。例えば、5年「表現の効果を考えながら、登場人物の関わりをとらえて読もう」では、宮沢賢治の「雪わたり」について学んだあと、宮沢賢治の他の作品や関連する内容について読書新聞を作ったり、図書推薦会で、調べた本について発表し合ったりする活動が取り扱われている。 ○ 情報機器や学校図書館を活用することについて適切に取りあげられている。例えば、発達段階に応じて調べ学習を扱った教材が設定されている。また、6年「自分の考えを発信しよう」では、インターネットを利用した情報収集や発信について取りあげられ、情報機器を活用した活動ができるよう工夫されている。 |

【資料1 国語】

| | |
|----|---|
| 光村 | <p>言葉による見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <p>○ 多様な学習活動を効果的に行うことができるように、言語活動の場面が設定されている。例えば、6年「表現の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう」では、日本文化をパンフレットにまとめて発信する、というゴールが設定され、その達成に向けて、「鳥獣戯画」について読む活動、日本文化について調べる活動、集めた情報をもとに提案内容をグループで検討する活動が取り扱われている。</p> <p>○ 情報機器や学校図書館を活用することについて適切に取りあげられている。例えば、発達段階に応じて調べ学習を扱った教材が設定されている。また、5年付録「インターネットを使って調べよう」に、インターネットの検索機能の使い方が記載され、指導に生かすことができるなど、情報機器を活用した活動ができるよう工夫されている。</p> |
|----|---|

| 項目 | 観 点 |
|----------------------------------|--|
| 6 補充的な 学 習・ 発展的な 学 習 | <p>学習した内容を確実に習得できるよう、学習の内容や過程などを振り返ったり、学んだことを生活に生かしたりすることができるよう配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 資料やコラムなど ○ 読書習慣の形成および進んで学習や生活に生かすことについて |
| 発行者 | 事 項 |
| 東書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 巻末に、「学習で使う言葉」「言葉の広場」という語彙や表現のまとめ、これまでに学習した「言葉の力」の領域ごとのまとめ、漢字やローマ字のまとめ等が設けられ、いつでも確認し、振り返って学習できるよう配慮されている。 なお、Dマークのあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。 ○ 各学年「読むこと」教材のてびき「こんな本もいっしょに」では、同一著者の別作品やテーマの関連する作品が紹介されている。また、著名人が本について語る「本は友達」や、各学年に応じた本と、読書記録等の書き方を紹介する「〇年生の本だな」も設けられている。さらに、各学年「読むこと」に、読書体験を交流し合う単元が設けられるなど、読書習慣の形成および進んで学習や生活に生かすことに配慮されている。 |
| 学図 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年末の資料編「広げよう確かめよう」では、その学年で学習した言葉をまとめた「授業で使う言葉」やその学年で学習する大切なことがらをまとめた「国語のカギ」「漢字のまとめ」や「ローマ字の表」などが設けられ、いつでも確認し、振り返って学習できるよう配慮されている。 なお、QRコードのあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。 ○ 各学年「読むこと」教材のてびき「この本読みたいな」や「読書の部屋」で、学習に関連する図書が紹介されている。また、各学年上巻には、作品を読んで対話的に交流し合う「読書に親しもう」の単元も設けられている。さらに、各学年下巻には、「読書を広げよう」の単元が設けられるなど、読書習慣の形成および進んで学習や生活に生かすことに配慮されている。 |
| 教出 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 巻末に、学習の重点や用語を整理した「「ここが大事」のまとめ」「学ぶときに使う言葉」、語彙や表現をまとめた「言葉の木」「言葉のまとめ」が設けられ、いつでも確認し、振り返って学習できるよう配慮されている。 なお、「まなびリンク」のあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。 ○ 各学年「読むこと」教材のてびき「本を読もう」では、同一著者の別作品やテーマの関連する作品が紹介されている。また、各学年の上下巻末付録の「〇年生で読みたい本」では、テーマごとの図書が紹介されている。さらに、各学年で、読書体験を「話すこと・聞くこと」「書くこと」と関連させて学ぶ「読書」の単元が設けられるなど、読書習慣の形成および進んで学習や生活に生かすことに配慮されている。 |

【資料1 国語】

| | |
|----|---|
| 光村 | <p>○ 各学年末の「学習を広げよう」では、話す・聞く、書く、読むそれぞれの活動で参照できる資料、場面に応じた表現の型のまとめ、学習した語彙をまとめた「言葉の宝箱」などが設けられ、いつでも確認し、振り返って学習できるよう配慮されている。</p> <p>なお、QRコードのあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p> <p>○ 各学年「読むこと」教材の「学習」の「この本、読もう」では、学習に関連する図書が解説文つきで紹介されている。また、各学年の巻末の「本の世界を広げよう」では、テーマごとの図書が紹介されている。さらに、各学年「本は友達」では、読書の観点や読書体験の交流の仕方、その単元で活用できる作品が掲載されるなど、読書習慣の形成および進んで学習や生活に生かすことに配慮されている。</p> |
|----|---|

○ 総ページ数

| | 東書 | 学図 | 教出 | 光村 |
|----|-----|-----|-----|-----|
| 1年 | 320 | 268 | 314 | 270 |
| 2年 | 348 | 280 | 332 | 322 |
| 3年 | 356 | 310 | 324 | 322 |
| 4年 | 356 | 316 | 346 | 326 |
| 5年 | 306 | 340 | 336 | 297 |
| 6年 | 306 | 330 | 340 | 311 |

○ 各領域を取り扱っているページ数(全学年の合計)

| | 東書 | 学図 | 教出 | 光村 |
|-----------|------|-----|-----|-----|
| 話すこと・聞くこと | 245 | 174 | 140 | 147 |
| 書くこと | 1007 | 307 | 178 | 396 |
| 読むこと | 921 | 720 | 891 | 844 |

※1つのページが複数の領域を取り扱っている場合、両方にカウント。

○ 「読むこと」領域の文学的な文章と説明的な文章の教材数(全学年の合計)

| | 東書 | 学図 | 教出 | 光村 |
|--------------|----|----|----|----|
| 読むこと(文学的な文章) | 29 | 30 | 30 | 27 |
| 読むこと(説明的な文章) | 24 | 24 | 26 | 30 |

○ 各領域別の言語活動を取り扱っている箇所数(全学年の合計)

| | 東書 | 学図 | 教出 | 光村 |
|--------------|----|----|-----|----|
| 話すこと・聞くこと | 25 | 21 | 57 | 33 |
| 書くこと | 34 | 28 | 130 | 49 |
| 読むこと(文学的な文章) | 41 | 27 | 57 | 40 |
| 読むこと(説明的な文章) | 23 | 23 | 29 | 25 |

○ 図書館及び情報機器活用と漢字学習の取り扱い数(全学年の合計)

| | 東書 | 学図 | 教出 | 光村 |
|--------------|-----|-----|-----|-----|
| 図書館・情報機器(回数) | 7 | 7 | 6 | 9 |
| 紹介している図書(冊数) | 508 | 442 | 448 | 456 |
| 漢字学習関係(ページ数) | 76 | 81 | 105 | 87 |

書 写

資料 1 1～13
 資料 2 14

| 発行者の 番号・略号 | 書 名 | 著 者 者 | 資料中 の表記 |
|---------------|--------------|------------------------|------------|
| 2 東 書 | 新しい書写 | 平形 精逸 ほか 26 名 | 東 書 |
| 11 学 図 | みんなと学ぶ 小学校書写 | 渡部 清 ほか 10 名 | 学 図 |
| 17 教 出 | 小学 書写 | 加藤 祐司 長野 秀章 ほか 19 名 | 教 出 |
| 38 光 村 | 書写 | 宮澤 正明 ほか 15 名 | 光 村 |
| 116 日 文 | 小学書写 | 池田 利広 萱 のり子 ほか 19 名 | 日 文 |

| 項目 | 観点 |
|--------------------------------|---|
| 1 目標・内容 の取扱い | <p>国語科の目標を達成するために、書写に関する事項について、各学年で適切な指導内容が取りあげられているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年で適切な指導内容が取りあげられているか。 ○ 毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うよう取り扱われているか。 |
| 2 人権の 取扱い | <p>人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権への配慮について ○ ユニバーサルデザインに関する配慮について |
| 3 内容の程度 | <p>児童の発達段階を考慮した内容になっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 文字を書く基礎となる事項について ○ 実際の日常生活や学習活動に役立つ各活動の充実について |
| 4 組織・配列 | <p>各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元配列について ○ 単元構成について ○ ページの構成（本文・写真・挿絵・図・表などの配置）について |
| 5 創意工夫 | <p>書写に関する事項について工夫がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「筆圧」「穂先の動き」「点画のつながり」の事項について ○ 「漢字や仮名の大きさ」「配列」の事項について ○ 「筆順」や「文字の組み立て方」の事項について ○ 「筆記具」と用材の関連について |
| 6 補充的な 学習・ 発展的な 学習 | <p>学習した内容を確実に習得できるよう、学習の内容や過程などを振り返ったり、学んだことを生活に生かしたりすることができるよう配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 資料やコラムなど |

【資料1 書写】

| 項 目 | 観 点 |
|--------------------|---|
| 1 目標・内容 の取扱い | <p>国語科の目標を達成するために、書写に関する事項について、各学年で適切な指導内容が取りあげられているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年で適切な指導内容が取りあげられているか。 ○ 毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うよう取り扱われているか。 |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|---|
| 東 書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年で適切な指導内容が取りあげられている。例えば、1・2年では、姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら丁寧に書くことを、3・4年では、文字の組み立て方を理解し、形を整えて書くことを、5・6年では、用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めて書くことが取りあげられている。 ○ 毛筆教材と同じ学習要素をもつ硬筆課題が示され、書き込むことができるようになっている。また、毛筆で学習したことを硬筆に生かして書けるように「生活に広げよう」「学びを生かそう」が設けられている。 |
| 学 図 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年で適切な指導内容が取りあげられている。例えば、1・2年では、姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら丁寧に書くことを、3・4年では、文字の組み立て方を理解し、形を整えて書くことを、5・6年では、用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めて書くことが取りあげられている。 ○ 毛筆で学習したことを生かして、同じねらいをもった別の文字を硬筆で練習するようになっている。 |

| | |
|-----|---|
| 教 出 | <p>○ 各学年で適切な指導内容が取りあげられている。例えば、1・2年では、姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら丁寧に書くことを、3・4年では、文字の組み立て方を理解し、形を整えて書くことを、5・6年では、用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めて書くことが取りあげられている。</p> <p>○ 毛筆で学習する教材について、学習のはじめに硬筆による「ためし書き」、終わりに硬筆による「まとめ書き」をするようになっている。また、「生かそう」で同じねらいをもった別の硬筆文字が取りあげられている。</p> |
| 光 村 | <p>○ 各学年で適切な指導内容が取りあげられている。例えば、1・2年では、姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら丁寧に書くことを、3・4年では、文字の組み立て方を理解し、形を整えて書くことを、5・6年では、用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めて書くことが取りあげられている。</p> <p>○ 毛筆で学んだ教材の要素について、硬筆で確かめながら学習する「こう筆のまとめ」が別ページに集約され設けられている。</p> |
| 日 文 | <p>○ 各学年で適切な指導内容が取りあげられている。例えば、1・2年では、姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら丁寧に書くことを、3・4年では、文字の組み立て方を理解し、形を整えて書くことを、5・6年では、用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めて書くことが取りあげられている。</p> <p>○ 毛筆の学習で理解したことを、硬筆の学習で確かめるという学習過程となっている。また、「いかす」で同じねらいをもった別の硬筆文字が取りあげられている。</p> |

【資料1 書写】

| 項目 | 観 点 |
|---------------------|---|
| 2 人 権 の 取 扱 い | <p>人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権への配慮について ○ ユニバーサルデザインに関する配慮について |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|--|
| 東 書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。 ○ すべての児童にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。また、左手で鉛筆を持った写真を掲載したり、教材文字と書き込み欄を上下に配置したりして、利き手に関わらず教材文字が見えやすい配慮をしている。 |
| 学 図 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。 ○ すべての児童にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。また、硬筆の教材文字と書き込み欄については、上下に配置することで、利き手を問わず教材文字が隠れずに練習できるよう配慮されている。 |
| 教 出 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。 ○ すべての児童にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。 |

| | |
|------------|--|
| <p>光 村</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。 ○ すべての児童にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。 |
| <p>日 文</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。 ○ すべての児童にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。また、教科書への書き込み欄を手本文字の下に配置し、利き手に関わらず手本を見ながら書けるよう配慮されている。 |

【資料1 書写】

| 項目 | 観 点 |
|------------|--|
| 3 内容の程度 | <p>児童の発達段階を考慮した内容になっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 文字を書く基礎となる事項について ○ 実際の日常生活や学習活動に役立つ各活動の充実について |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|---|
| 東 書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 文字を書く基礎となる事項について、発達段階を考慮した内容になっている。例えば、1・2年では、「しょしゃたいそう」で体を動かしながら姿勢に気を付け、筆記具の持ち方を正しくし、点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くことが取りあげられている。 ○ 「生活に広げよう」では、ノート、はがき、手紙、原稿用紙の書き方など、日常生活や学習活動に役立つ活動が取りあげられている。 |
| 学 図 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 文字を書く基礎となる事項について、発達段階を考慮した内容になっている。例えば、1・2年では、鉛筆の持ち方が順を追って示されており、姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くことが取りあげられている。 ○ ノート、はがき、手紙、原稿用紙の書き方など、日常生活や学習活動に役立つ活動が取りあげられている。 |
| 教 出 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 文字を書く基礎となる事項について、発達段階を考慮した内容になっている。例えば、1・2年では、体を使って学ぶ「しょしゃの体そう」を示し、姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くことが取りあげられている。 ○ 季節の便り、手紙・お礼状の書き方など、日常生活や学習活動に役立つ活動が取りあげられている。 |

| | |
|------------|--|
| <p>光 村</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 文字を書く基礎となる事項について、発達段階を考慮した内容になっている。 例えば、1・2年では、「しょしゃたいそう」「えんぴつのもちかた」がイラストで取りあげられ、姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くことが取りあげられている。 ○ 手紙、原稿用紙やリーフレットの書き方など、日常生活や学習活動に役立つ活動が取りあげられている。 |
| <p>日 文</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 文字を書く基礎となる事項について、発達段階を考慮した内容になっている。 例えば、1・2年では、楽しく定着が図れるよう「しせいの合いことば」が示され、姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くことが取りあげられている。 ○ 「生活と書写」では、原稿用紙や新聞、ポスターなどの書き方など、日常生活や学習活動に役立つ活動が取りあげられている。 |

【資料1 書写】

| 項目 | 観 点 |
|------------|--|
| 4 組織・配列 | <p>各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元配列について ○ 単元構成について ○ ページの構成（本文・写真・挿絵・図・表などの配置）について |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|--|
| 東 書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年の目標や内容を踏まえて、系統的に単元が配列されている。また、他教科と関連させた学習活動が活用単元「生活に広げよう」で示されている。 ○ 「①見つけよう」で課題発見・把握をし、「②たしかめよう」で「書写のかぎ」をもとに確認し、「③生かそう」で考えて書く活動をし、最後に「ふり返って話そう」で学習を振り返る構成となっている。 ○ 毛筆の教材では、見開き左ページには手本が示され、右ページには学習の流れにそってポイントが配置されている。 |
| 学 図 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年の目標や内容を踏まえて、系統的に単元が配列されている。また、他教科と関連する教材が、活用単元「書写の資料館」で示されている。 ○ 各単元で「確かめて書こう」「考えて書こう」「生かして書こう」のねらいを持った学習活動を行い、「ふり返ろう」で学習内容を活用した練習問題を行う構成となっている。 ○ 毛筆の教材では、見開き右ページには手本が示され、左ページには学習の流れにそってポイントが配置されている。 |
| 教 出 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年の目標や内容を踏まえて、系統的に単元が配列されている。また、他教科と関連する教材が、活用単元「レッツ・トライ」「書いて伝え合おう」で示されている。 ○ 全学年で「学習の進め方」が示されている。3年以上では「めあて」「考えよう」「ここが大切」「生かそう」「ふりかえろう」という構成となっている。 ○ 毛筆の題材では、見開き右ページには手本が示され、左ページには学習の手順に沿ってポイントが配置されている。 |

| | |
|-----|---|
| 光 村 | <ul style="list-style-type: none">○ 各学年の目標や内容を踏まえて、系統的に単元が配列されている。また、他教科と関連する内容も示されている。○ 3年以上の各教材には「学習の進め方」が示されており、「考えよう」「たしかめよう」「生かそう」という構成となっている。○ 毛筆の教材では、見開き左ページには手本が示され、右ページには学習の進め方にそってポイントが配置されている。 |
| 日 文 | <ul style="list-style-type: none">○ 各学年の目標や内容を踏まえて、系統的に単元が配列されている。また、他教科と関連する内容も示されている。○ 2年以上では、巻頭に「書写における学年の目標」が明示され、各学年の教材を「①考える（カエル）→②確かめる（カメ）→③いかす（イカ）」の3ステップで構成されている。○ 毛筆の教材では、見開き左ページには手本が示され、右ページには学習の進め方にそってポイントが配置されている。 |

【資料1 書写】

| 項目 | 観 点 |
|-----------|---|
| 5 創意工夫 | <p>書写に関する事項について工夫がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「筆圧」「穂先の動き」「点画のつながり」の事項について ○ 「漢字や仮名の大きさ」「配列」の事項について ○ 「筆順」や「文字の組み立て方」の事項について ○ 「筆記具」と用材の関連について |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|---|
| 東 書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「筆圧」については、筆圧を変えた太さの違う線の写真とイラスト、言葉で説明されている。「穂先の動き」については、児童にとって視覚的に捉えられるよう朱墨と薄墨で示されている。「点画のつながり」については、赤い線で筆の動きを示して、次の点画へのつながりが分かるように示されている。 ○ 「漢字や仮名の大きさ」「配列」については、例えば、5年で配列のよいポスターの書き方について考える活動が設定され、文字の大きさや用紙の上下・左右の余白、文字を書く位置に気をつけて書くことができるよう工夫されている。 ○ 「筆順」については、例えば、1年で筆順のきまりを見つけ、筆順番号を教材に書き込むことができるように工夫されている。「文字の組み立て方」については、例えば、部分ごとに色分けし視覚的にわかりやすくしている。 ○ 「筆記具」と用材の関連については、例えば、6年で社会科のノートや保健のポスターなど、異なる「筆記具」を用いて書いた例が紹介されており、書く目的に合った筆記具を選ぶよう考えさせる工夫がされている。また、1・2年の巻末に水書用紙が付けられており、絵筆や水書用筆など先が柔らかい筆記具を使用し、運筆を体感することで、硬筆での適切な書字動作が練習できる。 |
| 学 図 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「筆圧」については、穂先を押さえた形と丸で囲んだ数字の大きさで示されている。「穂先の動き」については、「かご書き」の太い線が穂先の通り道として示されている。また、始筆の「穂先の向き」は三角定規を使って示されている。「点画のつながり」については、筆の動きを示して、次の点画へのつながりが分かるように示されている。 ○ 「漢字や仮名の大きさ」「配列」については、例えば、5年で教材文字の外枠を示したり、余白を点線の丸で示したりして視覚的に分かりやすいよう工夫されている。 ○ 「筆順」については、例えば、1年で題材の文字には全て「筆順」が示され、正しい筆順を意識して文字を書くことができるように工夫されている。また、硬筆ページの脚注にも「新しい漢字」が掲載されており、筆順が確認できよう示されている。「文字の組み立て方」については、例えば、部分ごとに色分けし、視覚的に分かりやすくしている。 ○ 「筆記具」と用材の関連については、例えば、5年で様々な「筆記具」の写真と「筆記具」を用いて書いた文字が掲載され、書く目的に合った筆記具を選ぶよう考えさせるよう工夫されている。また、1・2年で「水ふでをつかってみよう」が設定されている。 |

| | |
|-----|---|
| 教 出 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「筆圧」については、3・4年では、擬音（ちゅん・とっ・とん）を用い、5・6年では、3段階の数字でわかりやすく示されている。「穂先の動き」については、視覚的に理解しやすいように朱墨と薄墨で示されている。「点画のつながり」については、画のつき方と交わり方を色分けし示されている。 ○ 「漢字や仮名の大きさ」「配列」については、例えば、5年で用紙に対して適切な大きさの丸や四角で文字を囲み、意識しやすいように工夫されている。 ○ 「筆順」については、例えば、1年でなぞり書きの場面を多数取り入れ、楽しみながら「筆順」を意識できるよう工夫されている。また、硬筆の学習では「筆順の決まり」を提示し、色分けするなど視覚的に示されている。「文字の組み立て方」については、例えば、漢字の部分ごとに色分けし、視覚的に意識しやすいよう示されている。 ○ 「筆記具」と用材の関連については、例えば、5年「委員会のポスター」では、用具の特徴を話し合う活動や、用途に応じた筆記具の選択の例示がされ、目的にあった筆記具を選択・活用し、筆記具と用紙の関連が理解できるよう工夫されている。また、1年の巻末に水書用紙が添付されており、水書用筆など穂先が柔らかい筆で、運筆を楽しみながら力の入れ加減を知ること、硬筆に生かすことができる。 |
| 光 村 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「筆圧」については、1から3まで筆圧のレベルを数字で示す工夫がされている。「穂先の動き」については、「ほさきちゃん」というマークを用い、濃淡のある朱墨で示され視覚的に分かりやすい工夫がされている。「点画のつながり」については、点線と矢印で示されている。 ○ 「漢字や仮名の大きさ」「配列」については、例えば、6年で用紙に合った文字の大きさと配列について取り扱い、漢字と漢字・漢字と仮名の文字の大きさと配列に気をつけて書くことについて学べるよう工夫されている。 ○ 「筆順」については、例えば、1年で「書き順のきまり」について取りあげている。また、全学年で筆順を間違えやすい文字については筆順が示されている。「文字の組み立て方」については、例えば、矢印や点線、色を効果的に使い、視覚的に分かりやすくしている。 ○ 「筆記具」と用材の関連については、例えば、5年で「六年生を送る会」を例にあげ「筆記具の使い分け」について取り扱われるなど工夫されている。また、1年の巻末に水書シートが用意されるとともに、「水ふでで書いてみよう」が設定され、始筆から終筆までの筆使いを繰り返し練習することで、書く力の向上が図れるようになっている。 |

【資料1 書写】

| | |
|-----|---|
| 日 文 | <ul style="list-style-type: none">○ 「筆圧」については、顔のマークの表情で視覚的に示されている。「穂先の動き」については、視覚的に捉えられるように朱墨と薄墨で示されており、「穂先の向き」についても顔のマークを用いて示している。「点画のつながり」については、全学年において点線と矢印で示されている。○ 「漢字や仮名の大きさ」「配列」については、例えば、5年で文字の大きさと行の中心や、行の中心と字間・行間、文字の大きさと余白に気づくことができるよう工夫されている。○ 「筆順」については、例えば、1年ですべての教材の文字に「筆順」がつけられている。また、筆順を間違えやすい教材は、筆順と字形との関連を意識できるよう工夫されている。「文字の組み立て方」については、例えば、部分ごとに色分けし、視覚的に分かりやすくしている。○ 「筆記具」と用材の関連については、例えば、5年で「いろいろな筆記具」や「用具の産地」が紹介され、筆記具の種類や特徴を考えたり、「筆・墨・硯・紙」がどのように作られているかを学んだり、日本独自の物作りの歴史や価値観を知ること、用具に対する愛情と大切に扱う心を養う工夫がされている。また、1・2年の巻末に水書きシートが貼付されており、水書用筆などとともに「払い・はね」のように表現が難しい筆使いの学習に用いることで、硬筆で適切に運筆する能力の向上につながるようになっている。 |
|-----|---|

| 項目 | 観 点 |
|----------------------------------|--|
| 6 補充的な 学 習・ 発展的な 学 習 | <p>学習した内容を確実に習得できるよう、学習の内容や過程などを振り返ったり、学んだことを生活に生かしたりすることができるよう配慮されているか。</p> <p>○ 資料やコラムなど</p> |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|--|
| 東 書 | ○ 巻末に「平仮名」「片仮名」「漢字」一覧があり、学習した内容を振り返ることができる。また、「文字のいずみ」のコーナーでは、全学年にわたり、漢字や仮名の成り立ち、世界の文字、文字に込めた人々の思いなど文字文化と取りあげたコラムが掲載されている。また、3年生以上の書き初め教材では、書き初めの歴史が紹介されている。 |
| 学 図 | ○ 巻末に「平仮名」「片仮名」「漢字」一覧があり、学習した内容を振り返ることができる。また、「なぜ？なに？書写の不思議」のコーナーでは、筆記具の作られる過程（鉛筆、消しゴム、筆、墨、硯、和紙など）や、文字の成り立ち、ひらがな・かたかなの起源などが、写真資料とともに説明されている。 |
| 教 出 | ○ 巻末に「平仮名」「片仮名」「漢字」一覧があり、学習した内容を振り返ることができる。また、巻頭の見開きページ及び「文字の世界」のコーナーでは、漢字の成り立ちや、生活の中にある文字を取りあげ、子どもたちの興味・関心を促すコラムが掲載されている。 |
| 光 村 | ○ 巻末に「平仮名」「片仮名」「漢字」一覧があり、学習した内容を振り返ることができる。また、「もっと知りたい」のコーナーでは、鉛筆、筆、紙、墨、硯ができるまでの過程や手書き文字と活字、文字の歴史を取りあげたコラムが掲載されている。また、6年では、小学校で学習する書写の要素が「書写ブック」にまとめられている。 |
| 日 文 | ○ 巻末に「平仮名」「片仮名」「漢字」一覧があり、学習した内容を振り返ることができる。また、5年「いろいろな筆記具」「用具の産地を訪ねて」、6年「手書き文字と活字」「平仮名と片仮名ができるまで」など、文字文化にまつわるコラムが掲載されている。 |

○ 各教科書の学年ごとの総ページ数

| | 東書 | 学図 | 教出 | 光村 | 日文 |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1年 | 52 | 52 | 52 | 48 | 44 |
| 2年 | 48 | 48 | 42 | 42 | 44 |
| 3年 | 58 | 60 | 62 | 60 | 58 |
| 4年 | 54 | 68 | 62 | 54 | 58 |
| 5年 | 54 | 62 | 54 | 56 | 54 |
| 6年 | 54 | 60 | 54 | 54 | 54 |
| 合計 | 320 | 350 | 326 | 314 | 312 |

○ 学習指導要領の書写に関する事項について取り上げている箇所数

| | 東書 | | 学図 | | 教出 | | 光村 | | 日文 | | |
|--------------------|-----------------------------------|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|----|
| | 箇所数 | | 箇所数 | | 箇所数 | | 箇所数 | | 箇所数 | | |
| 1・2年 | 姿勢を正しく | 2 | 3 | 2 | 3 | 2 | 3 | 1 | 2 | 2 | 3 |
| | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | | |
| | 筆記用具の持ち方 | 2 | 3 | 2 | 3 | 2 | 3 | 3 | 4 | 2 | 3 |
| | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | | |
| | 文字の形に注意 | 1 | 5 | 2 | 6 | 6 | 9 | 5 | 9 | 2 | 7 |
| | | 4 | | 4 | | 3 | | 4 | | 5 | |
| | 筆順 | 2 | 3 | 3 | 4 | 3 | 4 | 1 | 2 | 3 | 7 |
| | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | 4 | |
| | 点画の接し方に注意 | 1 | 2 | 3 | 5 | 5 | 6 | 0 | 2 | 0 | 1 |
| | | 1 | | 2 | | 1 | | 2 | | 1 | |
| 点画の交わり方に注意 | 2 | 4 | 4 | 6 | 4 | 5 | 1 | 3 | 1 | 3 | |
| | 2 | | 2 | | 1 | | 2 | | 2 | | |
| 点画の長短に注意 | 1 | 3 | 1 | 2 | 1 | 2 | 0 | 2 | 1 | 2 | |
| | 2 | | 1 | | 1 | | 2 | | 1 | | |
| 点画の方向に注意 | 6 | 10 | 7 | 9 | 7 | 10 | 5 | 9 | 6 | 12 | |
| | 4 | | 2 | | 3 | | 4 | | 6 | | |
| 日常生活との関連と発展的事項 | 8 | 15 | 4 | 10 | 5 | 14 | 6 | 15 | 6 | 12 | |
| | 7 | | 6 | | 9 | | 9 | | 6 | | |
| 3・4年 | 文字の組み立て方を理解 | 1 | 7 | 3 | 9 | 3 | 13 | 4 | 11 | 4 | 12 |
| | | 6 | | 6 | | 10 | | 7 | | 8 | |
| | 文字の形を整える | 2 | 10 | 5 | 15 | 5 | 11 | 4 | 11 | 10 | 23 |
| | | 8 | | 10 | | 6 | | 7 | | 13 | |
| | 漢字や仮名の大きさに注意 | 2 | 8 | 5 | 10 | 2 | 5 | 1 | 5 | 2 | 8 |
| | | 6 | | 5 | | 3 | | 4 | | 6 | |
| | 漢字や仮名の配列に注意 | 5 | 11 | 4 | 10 | 3 | 6 | 4 | 10 | 6 | 12 |
| | | 6 | | 6 | | 3 | | 6 | | 6 | |
| | 毛筆を使用し、 点画の書き方への理解 | 9 | 16 | 10 | 17 | 15 | 25 | 14 | 21 | 13 | 24 |
| | | 7 | | 7 | | 10 | | 7 | | 11 | |
| 毛筆を使用し、 筆圧などに注意 | 7 | 13 | 7 | 14 | 11 | 20 | 11 | 21 | 13 | 24 | |
| | 6 | | 7 | | 9 | | 10 | | 11 | | |
| 日常生活との関連と発展的事項 | 10 | 21 | 10 | 21 | 13 | 26 | 8 | 19 | 7 | 18 | |
| | 11 | | 11 | | 13 | | 11 | | 11 | | |
| 5・6年 | 用紙全体との関係に注意して、 文字の大きさや配列などを決める | 9 | 18 | 9 | 16 | 10 | 17 | 11 | 21 | 14 | 27 |
| | | 9 | | 7 | | 7 | | 10 | | 13 | |
| | 書く速さを意識 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | 4 | 7 | 11 |
| | | 1 | | 0 | | 1 | | 2 | | 4 | |
| | 毛筆を使用して、 穂先の動きを意識 | 7 | 14 | 6 | 12 | 9 | 16 | 8 | 15 | 10 | 18 |
| | | 7 | | 6 | | 7 | | 7 | | 8 | |
| | 毛筆を使用して、 点画のつながりを意識 | 6 | 12 | 6 | 11 | 8 | 14 | 9 | 16 | 10 | 19 |
| | | 6 | | 5 | | 6 | | 7 | | 9 | |
| | 目的に応じた筆記具の選択 | 3 | 4 | 2 | 3 | 3 | 3 | 3 | 4 | 3 | 7 |
| | | 1 | | 1 | | 0 | | 1 | | 4 | |
| 筆記具の特徴を生かす | 2 | 3 | 1 | 1 | 1 | 2 | 3 | 4 | 3 | 5 | |
| | 1 | | 0 | | 1 | | 1 | | 2 | | |
| 日常生活との関連と発展的事項 | 12 | 24 | 6 | 11 | 10 | 24 | 15 | 26 | 15 | 30 | |
| | 12 | | 5 | | 14 | | 11 | | 15 | | |

社 会

学習指導要領（社会）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1～9
資料 1・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10～17
資料 2・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18～19

| 発行者の 番号・略号 | 書 名 | 著 者 者 | 資料中 の表記 |
|---------------|-------|------------------------------|------------|
| 2 東 書 | 新しい社会 | 北 俊夫 ほかに 100 名 | 東 書 |
| 17 教 出 | 小学社会 | 大石 学 小林 宏己 ほかに 50 名 | 教 出 |
| 116 日 文 | 小学社会 | 池野 範男 的場 正美 安野 功 ほかに 53 名 | 日 文 |

第2章 各教科

第2節 社会

第1 目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。

第2 各学年の目標及び内容

〔第3学年〕

1 目標

社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 身近な地域や市区町村の地理的環境、地域の安全を守るための諸活動や地域の産業と消費生活の様子、地域の様子の移り変わりについて、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。
- (3) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

2 内容

- (1) 身近な地域や市区町村（以下第2章第2節において「市」という。）の様子について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
 - (ア) 身近な地域や自分たちの市の様子を大まかに理解すること。
 - (イ) 観察・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめること。
 - イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
 - (ア) 都道府県内における市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、身近な地域や市の様子を捉え、場所による違いを考え、表現すること。
- (2) 地域に見られる生産や販売の仕事について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
 - (ア) 生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解すること。
 - (イ) 販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう、工夫して行われていることを理解すること。
 - (ウ) 見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめること。
 - イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

- (ア) 仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考え、表現すること。
- (イ) 消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、販売に携わっている人々の仕事の様子を捉え、それらの仕事に見られる工夫を考え、表現すること。
- (3) 地域の安全を守る働きについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
 - (ア) 消防署や警察署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災や事故などの防止に努めていることを理解すること。
 - (イ) 見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、まとめること。
 - イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
 - (ア) 施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現すること。
- (4) 市の様子の移り変わりについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
 - (ア) 市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解すること。
 - (イ) 聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめること。
 - イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
 - (ア) 交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現すること。

3 内容の取扱い

- (1) 内容の(1)については、次のとおり取り扱うものとする。
 - ア 学年の導入で扱うこととし、アの(ア)については、「自分たちの市」に重点を置くよう配慮すること。
 - イ アの(イ)については、「白地図などにまとめる」際に、教科用図書「地図」(以下第2章第2節において「地図帳」という。)を参照し、方位や主な地図記号について扱うこと。
- (2) 内容の(2)については、次のとおり取り扱うものとする。
 - ア アの(ア)及びイの(ア)については、事例として農家、工場などの中から選択して取り上げるようにすること。
 - イ アの(イ)及びイの(イ)については、商店を取り上げ、「他地域や外国との関わり」を扱う際には、地図帳などを使用して都道府県や国の名称と位置などを調べるようにすること。
 - ウ イの(イ)については、我が国や外国には国旗があることを理解し、それを尊重する態度を養うよう配慮すること。
- (3) 内容の(3)については、次のとおり取り扱うものとする。
 - ア アの(ア)の「緊急時に対処する体制をとっていること」と「防止に努めていること」については、火災と事故はいずれも取り上げること。その際、どちらかに重点を置くなど効果的な指導を工夫すること。
 - イ イの(ア)については、社会生活を営む上で大切な法やきまりについて扱うとともに、地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりできるように配慮すること。
- (4) 内容の(4)については、次のとおり取り扱うものとする。
 - ア アの(イ)の「年表などにまとめる」際には、時期の区分について、昭和、平成など元号を用いた言い表し方などがあることを取り上げること。
 - イ イの(ア)の「公共施設」については、市が公共施設の整備を進めてきたことを取り上げること。その際、租税の役割に触れること。
 - ウ イの(ア)の「人口」を取り上げる際には、少子高齢化、国際化などに触れ、これからの市の発展について考えることができるよう配慮すること。

〔第4学年〕

1 目標

社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 自分たちの都道府県の地理的環境の特色、地域の人々の健康と生活環境を支える働きや自然災害から地域の安全を守るための諸活動、地域の伝統と文化や地域の発展に尽くした先人の働きなどについて、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。

- (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。
- (3) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

2 内容

- (1) 都道府県（以下第2章第2節において「県」という。）の様子について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
 - (ア) 自分たちの県の地理的環境の概要を理解すること。また、47 都道府県の名称と位置を理解すること。
 - (イ) 地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめること。
 - イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
 - (ア) 我が国における自分たちの県の位置、県全体の地形や主な産業の分布、交通網や主な都市の位置などに着目して、県の様子を捉え、地理的環境の特色を考え、表現すること。
- (2) 人々の健康や生活環境を支える事業について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
 - (ア) 飲料水、電気、ガスを供給する事業は、安全で安定的に供給できるよう進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解すること。
 - (イ) 廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解すること。
 - (ウ) 見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、まとめること。
 - イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
 - (ア) 供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して、飲料水、電気、ガスの供給のための事業の様子を捉え、それらの事業が果たす役割を考え、表現すること。
 - (イ) 処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、廃棄物の処理のための事業の様子を捉え、その事業が果たす役割を考え、表現すること。
- (3) 自然災害から人々を守る活動について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
 - (ア) 地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解すること。
 - (イ) 聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして、まとめること。
 - イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
 - (ア) 過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現すること。
- (4) 県内の伝統や文化、先人の働きについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
 - (ア) 県内の文化財や年中行事は、地域の人々が受け継いできたことや、それらには地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解すること。
 - (イ) 地域の発展に尽くした先人は、様々な苦心や努力により当時の生活の向上に貢献したことを理解すること。
 - (ウ) 見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめること。
 - イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
 - (ア) 歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組などに着目して、県内の文化財や年中行事の様子を捉え、人々の願いや努力を考え、表現すること。
 - (イ) 当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して、地域の発展に尽くした先人の具体的事例を捉え、先人の働きを考え、表現すること。
- (5) 県内の特色ある地域の様子について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
 - (ア) 県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解すること。
 - (イ) 地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめること。
 - イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現すること。

3 内容の取扱い

(1) 内容の(2)については、次のとおり取り扱うものとする。

ア アの(ア)及び(イ)については、現在に至るまでに仕組みが計画的に改善され公衆衛生が向上してきたことに触れること。

イ アの(ア)及びイの(ア)については、飲料水、電気、ガスの中から選択して取り上げる

こと。

ウ アの(イ)及びイの(イ)については、ごみ、下水のいずれかを選択して取り上げる

こと。

エ イの(ア)については、節水や節電など自分たちにできることを考えたり選択・判断したりできるよう配慮すること。

オ イの(イ)については、社会生活を営む上で大切な法やきまりについて扱うとともに、ごみの減量や水を汚さない工夫など、自分たちにできることを考えたり選択・判断したりできる

よう配慮すること。

(2) 内容の(3)については、次のとおり取り扱うものとする。

ア アの(ア)については、地震災害、津波災害、風水害、火山災害、雪害などの中から、過去に県内で発生したものを

選択して取り上げる

こと。

イ アの(ア)及びイの(ア)の「関係機関」については、県庁や市役所の働きなどを中心に

取り上げ、防災情報の発信、避難体制の確保などの働き、自衛隊など国の機関との関わりを

取り上げる

こと。

ウ イの(ア)については、地域で起こり得る災害を想定し、日頃から必要な備えをするなど、自分たちにできることなどを考えたり

選択・判断したりできる

よう配慮すること。

(3) 内容の(4)については、次のとおり取り扱うものとする。

ア アの(ア)については、県内の主な文化財や年中行事が大まかに分かるようにするとともに、イの(ア)については、それらの中から

具体的事例を取り上げる

こと。

イ アの(イ)及びイの(イ)については、開発、教育、医療、文化、産業などの地域の発展に

尽くした先人の中から

選択して取り上げる

こと。

ウ イの(ア)については、地域の伝統や文化の保存や継承に関わって、自分たちにできることなどを考えたり

選択・判断したりできる

よう配慮すること。

(4) 内容の(5)については、次のとおり取り扱うものとする。

ア 県内の特色ある地域が大まかに分かるようにするとともに、伝統的な技術を生かした地場産業が盛んな地域、国際交流に取り組んでいる地域及び地域の資源を保護・活用している地域を取り上げる

こと。その際、地域の資源を保護・活用している地域については、自然環境、伝統的な文化のいずれかを選択して

取り上げる

こと。

イ 国際交流に取り組んでいる地域を取り上げる際には、我が国や外国には国旗があることを理解し、それを尊重する態度を養う

よう配慮すること。

[第5学年]

1 目 標

社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

(1) 我が国の国土の地理的環境の特色や産業の現状、社会の情報化と産業の関わりについて、国民生活との関連を踏まえて理解するとともに、地図帳や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

(2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

(3) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の国土に対する愛情、我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。

2 内 容

(1) 我が国の国土の様子と国民生活について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 世界における我が国の国土の位置、国土の構成、領土の範囲などを大まかに理解すること。

- (イ) 我が国の国土の地形や気候の概要を理解するとともに、人々は自然環境に適応して生活していることを理解すること。
- (ウ) 地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
 - (ア) 世界の大陸と主な海洋、主な国の位置、海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成などに着目して、我が国の国土の様子を捉え、その特色を考え、表現すること。
 - (イ) 地形や気候などに着目して、国土の自然などの様子や自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現すること。
- (2) 我が国の農業や水産業における食料生産について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
 - (ア) 我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解すること。
 - (イ) 食料生産に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解すること。
 - (ウ) 地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめること。
 - イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
 - (ア) 生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなどに着目して、食料生産の概要を捉え、食料生産が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。
 - (イ) 生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現すること。
 - (3) 我が国の工業生産について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
 - (ア) 我が国では様々な工業生産が行われていることや、国土には工業の盛んな地域が広がっていること及び工業製品は国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解すること。
 - (イ) 工業生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、工業生産を支えていることを理解すること。
 - (ウ) 貿易や運輸は、原材料の確保や製品の販売などにおいて、工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解すること。
 - (エ) 地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめること。
 - イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
 - (ア) 工業の種類、工業の盛んな地域の分布、工業製品の改良などに着目して、工業生産の概要を捉え、工業生産が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。
 - (イ) 製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、工業生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現すること。
 - (ウ) 交通網の広がり、外国との関わりなどに着目して、貿易や運輸の様子を捉え、それらの役割を考え、表現すること。
 - (4) 我が国の産業と情報との関わりについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
 - (ア) 放送、新聞などの産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解すること。
 - (イ) 大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解すること。
 - (ウ) 聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたりして、まとめること。
 - イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
 - (ア) 情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して、放送、新聞などの産業の様子を捉え、それらの産業が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。
 - (イ) 情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、産業における情報活用の現状を捉え、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。
 - (5) 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

- (ア) 自然災害は国土の自然条件などに関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解すること。
- (イ) 森林は、その育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力により国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解すること。
- (ウ) 関係機関や地域の人々の様々な努力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことを理解するとともに、公害から国土の環境や国民の健康な生活を守ることの大切さを理解すること。
- (エ) 地図帳や各種の資料で調べ、まとめること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
 - (ア) 災害の種類や発生 の位置や時期、防災対策などに着目して、国土の自然災害の状況を捉え、自然条件との関連を考え、表現すること。
 - (イ) 森林資源の分布や働きなどに着目して、国土の環境を捉え、森林資源が果たす役割を考え、表現すること。
 - (ウ) 公害の発生時期や経過、人々の協力や努力などに着目して、公害防止の取組を捉え、その働きを考え、表現すること。

3 内容の取扱い

- (1) 内容の(1)については、次のとおり取り扱うものとする。
 - ア アの(ア)の「領土の範囲」については、竹島や北方領土、尖閣諸島が我が国の固有の領土であることに触れること。
 - イ アの(ウ)については、地図帳や地球儀を用いて、方位、緯度や経度などによる位置の表し方について取り扱うこと。
 - ウ イの(ア)の「主な国」については、名称についても扱うようにし、近隣の諸国を含めて取り上げること。その際、我が国や諸外国には国旗があることを理解し、それを尊重する態度を養うよう配慮すること。
 - エ イの(イ)の「自然条件から見て特色ある地域」については、地形条件や気候条件から見て特色ある地域を取り上げること。
- (2) 内容の(2)については、次のとおり取り扱うものとする。
 - ア アの(イ)及びイの(イ)については、食料生産の盛んな地域の具体的事例を通して調べることとし、稲作のほか、野菜、果物、畜産物、水産物などの中から一つを取り上げること。
 - イ イの(ア)及び(イ)については、消費者や生産者の立場などから多角的に考えて、これからの農業などの発展について、自分の考えをまとめることができるよう配慮すること。
- (3) 内容の(3)については、次のとおり取り扱うものとする。
 - ア アの(イ)及びイの(イ)については、工業の盛んな地域の具体的事例を通して調べることとし、金属工業、機械工業、化学工業、食料品工業などの中から一つを取り上げること。
 - イ イの(ア)及び(イ)については、消費者や生産者の立場などから多角的に考えて、これからの工業の発展について、自分の考えをまとめることができるよう配慮すること。
- (4) 内容の(4)については、次のとおり取り扱うものとする。
 - ア アの(ア)の「放送、新聞などの産業」については、それらの中から選択して取り上げること。その際、情報を有効に活用することについて、情報の送り手と受け手の立場から多角的に考え、受け手として正しく判断することや送り手として責任をもつことが大切であることに気付くようにすること。
 - イ アの(イ)及びイの(イ)については、情報や情報技術を活用して発展している販売、運輸、観光、医療、福祉などに関わる産業の中から選択して取り上げること。その際、産業と国民の立場から多角的に考えて、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について、自分の考えをまとめることができるよう配慮すること。
- (5) 内容の(5)については、次のとおり取り扱うものとする。
 - ア アの(ア)については、地震災害、津波災害、風水害、火山災害、雪害などを取り上げること。
 - イ アの(ウ)及びイの(ウ)については、大気汚染、水質汚濁などの中から具体的事例を選択して取り上げること。
 - ウ イの(イ)及び(ウ)については、国土の環境保全について、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりできるように配慮すること。

〔第6学年〕

1 目 標

社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 我が国の政治の考え方と仕組みや働き、国家及び社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産、我が国と関係の深い国の生活やグローバル化する国際社会における我が国の役割について理解するとともに、地図帳や地球儀、統計や年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の歴史や伝統を大切に国を愛する心情、我が国の将来を担う国民としての自覚や平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きることの大切さについての自覚を養う。

2 内容

- (1) 我が国の政治の働きについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
 - (ア) 日本国憲法は国家の理想、天皇の地位、国民としての権利及び義務など国家や国民生活の基本を定めていることや、現在の我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方に基づいていることを理解するとともに、立法、行政、司法の三権がそれぞれの役割を果たしていることを理解すること。
 - (イ) 国や地方公共団体の政治は、国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解すること。
 - (ウ) 見学・調査したり各種の資料で調べたりして、まとめること。
 - イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
 - (ア) 日本国憲法の基本的な考え方に着目して、我が国の民主政治を捉え、日本国憲法が国民生活に果たす役割や、国会、内閣、裁判所と国民との関わりを考え、表現すること。
 - (イ) 政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、国や地方公共団体の政治の取組を捉え、国民生活における政治の働きを考え、表現すること。
- (2) 我が国の歴史上の主な事象について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。その際、我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに、大まかな歴史を理解するとともに、関連する先人の業績、優れた文化遺産を理解すること。
 - (ア) 狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子を手掛かりに、むらからくにへと変化したことを理解すること。その際、神話・伝承を手掛かりに、国の形成に関する考え方などに関心をもつこと。
 - (イ) 大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を手掛かりに、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解すること。
 - (ウ) 貴族の生活や文化を手掛かりに、日本風の文化が生まれたことを理解すること。
 - (エ) 源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いを手掛かりに、武士による政治が始まったことを理解すること。
 - (オ) 京都の室町に幕府が置かれた頃の代表的な建造物や絵画を手掛かりに、今日の生活文化につながる室町文化が生まれたことを理解すること。
 - (カ) キリスト教の伝来、織田・豊臣おだ とよとみの天下統一を手掛かりに、戦国の世が統一されたことを理解すること。
 - (キ) 江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制を手掛かりに、武士による政治が安定したことを理解すること。
 - (ク) 歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学らんがくを手掛かりに、町人の文化が栄え新しい学問がおこったことを理解すること。
 - (ケ) 黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などを手掛かりに、我が国が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを理解すること。

- (コ) 大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などを手掛かりに、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解すること。
- (サ) 日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピック・パラリンピックの開催などを手掛かりに、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解すること。
- (シ) 遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
 - (ア) 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現すること。
- (3) グローバル化する世界と日本の役割について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
 - (ア) 我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活は、多様であることを理解するとともに、スポーツや文化などを通して他国と交流し、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解すること。
 - (イ) 我が国は、平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために援助や協力を行ったりしていることを理解すること。
 - (ウ) 地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめること。
 - イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
 - (ア) 外国の人々の生活の様子などに着目して、日本の文化や習慣との違いを捉え、国際交流の果たす役割を考え、表現すること。
 - (イ) 地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目して、国際連合の働きや我が国の国際協力の様子を捉え、国際社会において我が国が果たしている役割を考え、表現すること。

3 内容の取扱い

- (1) 内容の(1)については、次のとおり取り扱うものとする。
 - ア アの(ア)については、国会などの議会政治や選挙の意味、国会と内閣と裁判所の三権相互の関連、裁判員制度や租税の役割などについて扱うこと。その際、イの(ア)に関わって、国民としての政治への関わり方について多角的に考えて、自分の考えをまとめることができるよう配慮すること。
 - イ アの(ア)の「天皇の地位」については、日本国憲法に定める天皇の国事に関する行為など児童に理解しやすい事項を取り上げ、歴史に関する学習との関連も図りながら、天皇についての理解と敬愛の念を深めるようにすること。また、「国民としての権利及び義務」については、参政権、納税の義務などを取り上げること。
 - ウ アの(イ)の「国や地方公共団体の政治」については、社会保障、自然災害からの復旧や復興、地域の開発や活性化などの取組の中から選択して取り上げること。
 - エ イの(ア)の「国会」について、国民との関わりを指導する際には、各々の国民の祝日に関心を持ち、我が国の社会や文化における意義を考慮することができるよう配慮すること。
- (2) 内容の(2)については、次のとおり取り扱うものとする。
 - ア アの(ア)から(サ)までについては、児童の興味・関心を重視し、取り上げる人物や文化遺産の重点の置き方に工夫を加えるなど、精選して具体的に理解できるようにすること。その際、アの(サ)の指導に当たっては、児童の発達の段階を考慮すること。
 - イ アの(ア)から(サ)までについては、例えば、国宝、重要文化財に指定されているものや、世界文化遺産に登録されているものなどを取り上げ、我が国の代表的な文化遺産を通して学習できるように配慮すること。
 - ウ アの(ア)から(コ)までについては、例えば、次に掲げる人物を取り上げ、人物の働きを通して学習できるよう指導すること。

| | | | | | | | | |
|----------|----------|----------|------------|-----------|-----------|----------|----------|-----------|
| ひみこ | しやうとくだいし | おののいもこ | なかのおおきのおうじ | なかとみのかまたり | しやうむてんのう | ぎやうき | がんにん | ふじわらのみちなが |
| 卑弥呼 | 聖徳太子 | 小野妹子 | 中大兄皇子 | 中臣鎌足 | 聖武天皇 | 行基 | 鑑真 | 藤原道長 |
| むらさきしきぶ | せいしやうなごん | たいらきよもり | みなものよりのと | みなものよしつね | ほうじやう | ときむね | あしかがよしみつ | あしかがよしまさ |
| 紫式部 | 清少納言 | 平清盛 | 源頼朝 | 源義経 | 北条時宗 | 足利義満 | 足利義政 | |
| せつしやう | おだのぶなが | よとみひでよし | とくがわいえやす | とくがわいえみつ | ちかまつもん | さきもん | うたがわひろしげ | |
| 雪舟 | ザビエル | 織田信長 | 豊臣秀吉 | 徳川家康 | 徳川家光 | 近松門左衛門 | 歌川広重 | |
| もとおりのりなが | すぎたげんぱく | いのうただたか | かつかいしやう | さいごうたかもり | おおくぼとしみち | きざ | めいじてんのう | |
| 本居宣長 | 杉田玄白 | 伊能忠敬 | ペリー | 勝海舟 | 西郷隆盛 | 大久保利通 | 木戸孝允 | 明治天皇 |
| ふくざわゆきち | おおくましげのぶ | いたがきたいすけ | いとうひろぶみ | むつむねみつ | とうごうへいはらう | こむらじゆたろう | のぐちひでよ | |
| 福沢諭吉 | 大隈重信 | 板垣退助 | 伊藤博文 | 陸奥宗光 | 東郷平八郎 | 小村寿太郎 | 野口英世 | |

- エ アの(ア)の「神話・伝承」については、古事記、日本書紀、風土記などの中から適切なものを取り上げること。
- オ アの(イ)から(サ)までについては、当時の世界との関わりにも目を向け、我が国の歴史を広い視野から捉えられるよう配慮すること。
- カ アの(シ)については、年表や絵画など資料の特性に留意した読み取り方についても指導すること。
- キ イの(ア)については、歴史学習全体を通して、我が国は長い歴史をもち伝統や文化を育んできたこと、我が国の歴史は政治の中心地や世の中の様子などによって幾つかの時期に分けられることに気付くようにするとともに、現在の自分たちの生活と過去の出来事との関わりを考えたり、過去の出来事を基に現在及び将来の発展を考えたりするなど、歴史を学ぶ意味を考えるようにすること。
- (3) 内容の(3)については、次のとおり取り扱うものとする。
 - ア アについては、我が国の国旗と国歌の意義を理解し、これを尊重する態度を養うとともに、諸外国の国旗と国歌も同様に尊重する態度を養うよう配慮すること。
 - イ アの(ア)については、我が国とつながりが深い国から数か国を取り上げること。その際、児童が1か国を選択して調べるよう配慮すること。
 - ウ アの(ア)については、我が国や諸外国の伝統や文化を尊重しようとする態度を養うよう配慮すること。
 - エ イについては、世界の人々と共に生きていくために大切なことや、今後、我が国が国際社会において果たすべき役割などを多角的に考えたり選択・判断したりできるよう配慮すること。
 - オ イの(イ)については、網羅的、抽象的な扱いを避けるため、「国際連合の働き」については、ユニセフやユネスコの身近な活動を取り上げること。また、「我が国の国際協力の様子」については、教育、医療、農業などの分野で世界に貢献している事例の中から選択して取り上げること。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

- 1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。
 - (1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、問題解決への見通しをもつこと、社会的事象の見方・考え方を働かせ、事象の特色や意味などを考え概念などに関する知識を獲得すること、学習の過程や成果を振り返り学んだことを活用することなど、学習の問題を追究・解決する活動の充実を図ること。
 - (2) 各学年の目標や内容を踏まえて、事例の取り上げ方を工夫して、内容の配列や授業時数の配分などに留意して効果的な年間指導計画を作成すること。
 - (3) 我が国の47都道府県の名称と位置、世界の大陸と主な海洋の名称と位置については、学習内容と関連付けながら、その都度、地図帳や地球儀などを使って確認するなどして、小学校卒業までに身に付け活用できるように工夫して指導すること。
 - (4) 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
 - (5) 第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、道徳科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容について、社会科の特質に応じて適切な指導をすること。
- 2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。
 - (1) 各学校においては、地域の実態を生かし、児童が興味・関心をもって学習に取り組めるようにするとともに、観察や見学、聞き取りなどの調査活動を含む具体的な体験を伴う学習やそれに基づく表現活動の一層の充実を図ること。また、社会的事象の特色や意味、社会に見られる課題などについて、多角的に考えたことや選択・判断したことを論理的に説明したり、立場や根拠を明確にして議論したりするなど言語活動に関わる学習を一層重視すること。
 - (2) 学校図書館や公共図書館、コンピュータなどを活用して、情報の収集やまとめなどを行うようにすること。また、全ての学年において、地図帳を活用すること。
 - (3) 博物館や資料館などの施設の活用を図るとともに、身近な地域及び国土の遺跡や文化財などについての調査活動を取り入れるようにすること。また、内容に関わる専門家や関係者、関係の諸機関との連携を図るようにすること。
 - (4) 児童の発達の段階を考慮し、社会的事象については、児童の考えが深まるよう様々な見解を提示するよう配慮し、多様な見解のある事柄、未確定な事柄を取り上げる場合には、有益適切な教材に基づいて指導するとともに、特定の事柄を強調し過ぎたり、一面的な見解を十分な配慮なく取り上げたりするなどの偏った取扱いにより、児童が多角的に考えたり、事実を客観的に捉え、公正に判断したりすることを妨げることのないよう留意すること。

【資料1 社会：観点一覧】

| 項 目 | 観 点 |
|----------------------------------|--|
| 1 目標・内容 の取扱い | <p>社会科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 社会生活についての理解や情報を調べまとめる技能について ○ 社会的事象の意味を多角的に考えたり、公正に判断したりすることについて ○ よりよい社会を考えようとする態度について |
| 2 人権の 取扱い | <p>人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権への配慮について ○ 世界の人々との共生について ○ ユニバーサルデザインに関する配慮について |
| 3 内容の程度 | <p>児童の発達段階を考慮した内容になっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 文章の記述や分量について ○ 写真、挿絵、図、表などの資料について |
| 4 組織・配列 | <p>各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元配列について ○ 単元構成について ○ ページの構成（本文・写真・挿絵・図・表などの配置）について |
| 5 創意工夫 | <p>社会的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 作業的、体験的な学習について ○ 知識、技能を活用した問題解決的な学習展開について ○ 思考力・判断力をはぐくみ、調べたことや考えたことを表現する学習活動について |
| 6 補充的な 学 習・ 発展的な 学 習 | <p>学習した内容を確実に習得できるよう、学習の内容や過程などを振り返ったり、学んだことを生活に生かしたりすることができるよう配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 資料やコラムなど |

| 項 目 | 観 点 |
|--------------------|---|
| 1 目標・内容 の取扱い | <p>社会科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 社会生活についての理解や情報を調べまとめる技能について ○ 社会的事象の意味を多角的に考えたり、公正に判断したりすることについて ○ よりよい社会を考えようとする態度について |
| 発行者 | 事 項 |
| 東 書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 気づいたことや疑問に思ったことを話し合っって学習問題をつくり、それらをいろいろな方法で調べまとめることを通して、児童が社会生活について理解し、情報を調べまとめる技能を身に付けられる内容が取りあげられている。 ○ 「空間」「時間」「相互関係」の観点で児童への問いかけが示されており、これらの問いについて考えながら学習を進めることで、児童が多角的に考えたり、公正に判断したりできるよう取り扱われている。 ○ 「いかす」では、児童が学習してきたことを踏まえて、例えば、町の発展や環境保全などについて考えることを通して、よりよい社会に向けて自分ができることを考えられる内容となっている。 |
| 教 出 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 疑問に思ったことや知りたいことを整理して学習問題をつくり、それらの解決に向けて調べまとめることを通して、児童が社会生活について理解し、情報を調べまとめる技能を身に付けられる内容が取りあげられている。 ○ 「まとめる」では、社会的な見方・考え方の観点で、学んできたことをもとに話し合ったり、表現したりすることで、児童が公正に判断したり、多角的に考えたりすることができるよう取り扱われている。 ○ 「つなげる」では、児童が学習してきたことを生かして、例えば、安全なくらしや政治への参加などについて考えることを通して、よりよい社会に向けて自分ができることを考えられる内容となっている。 |
| 日 文 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童一人ひとりの素朴な問いから、話し合っって学習問題をつくり、それらを解決するために調べまとめることを通して、児童が社会生活について理解し、情報を調べまとめる技能を身に付けられる内容が取りあげられている。 ○ 「見方・考え方」コーナーで、「空間」「時間」「関係」の観点で児童への問いかけが示されており、これらの問いについて考えながら学習を進めることで、児童が多角的に考えたり、公正に判断したりできるよう取り扱われている。 ○ 「さらに考えたい問題」として、児童が学習してきたことを踏まえて、例えば、安全なくらしや環境保全などについて考えることを通して、よりよい社会に向けて自分ができることを考えられる内容となっている。 |

【資料1 社会】

| 項目 | 観 点 |
|---------------------|--|
| 2 人 権 の 取 扱 い | <p>人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権への配慮について ○ 世界の人々との共生について ○ ユニバーサルデザインに関する配慮について |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|---|
| 東 書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な教材を通して人権尊重についての認識を深めるとともに、文章、写真、挿絵、図、資料など、人権尊重の観点から配慮されている。例えば、6年の基本的人権の尊重に関する学習では、自治体での人権啓発活動の取組みなどが取りあげられている。 ○ すべての学年において、世界の人々との共生について学び考えていくことができるよう取り扱われている。例えば、4年では外国の人たちと共に行う防災訓練を通して取り組む多文化共生など、6年では日本とのつながりの深い国々の文化や生活、スポーツや文化による国際交流などが取りあげられている。 ○ すべての児童にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。 |
| 教 出 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な教材を通して人権尊重についての認識を深めるとともに、文章、写真、挿絵、図、資料など、人権尊重の観点から配慮されている。例えば、6年の基本的人権の尊重に関する学習では、ハンセン病と人権侵害、先住民族の人々の人権、障害者差別解消法などが取りあげられている。 ○ すべての学年において、世界の人々との共生について学び考えていくことができるよう取り扱われている。例えば、4年では外国から来た人との交流会を開いた人の話など、6年では日本とつながりの深い国々の文化や生活、在日外国人の人々とともに地域社会をつくっていく事例などが取りあげられている。 ○ すべての児童にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。 |
| 日 文 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な教材を通して人権尊重についての認識を深めるとともに、文章、写真、挿絵、図、資料など、人権尊重の観点から配慮されている。例えば、6年の基本的人権の尊重に関する学習では、自治体の取組みや、子どもの権利条約、障害者差別解消法などが取りあげられている。 ○ すべての学年において、世界の人々との共生について学び考えていくことができるよう取り扱われている。例えば、4年では外国人への支援活動などを通じて多文化共生をめざすまちづくりなど、6年では日本とつながりの深い国々の文化や生活、スポーツや文化による国際交流などが取りあげられている。 ○ すべての児童にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。 |

| 項目 | 観 点 |
|------------|--|
| 3 内容の程度 | <p>児童の発達段階を考慮した内容になっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 文章の記述や分量について ○ 写真、挿絵、図、表などの資料について |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|--|
| 東 書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の発達段階に応じた文の量とわかりやすい表現で記述されている。例えば、キャラクターが児童の思考の流れをつくる発言や重要な疑問を示すなどの内容になっている。 重要語句については、本文上でゴシック体の太字にし、同ページの本文外に「ことば」として取り上げ、その語句について補説している。 ○ 写真、挿絵、図、表などの資料について、児童の発達段階を考慮した内容となっている。 |
| 教 出 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の発達段階に応じた文の量とわかりやすい表現で記述されている。例えば、キャラクターの吹き出しによって「調べる」着眼点が示されたり、内容が補説されたりしている。 重要語句については、本文上で太字にし、同ページの本文外に「キーワード」として取り上げている。 ○ 写真、挿絵、図、表などの資料について、児童の発達段階を考慮した内容となっている。 |
| 日 文 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の発達段階に応じた文の量とわかりやすい表現で記述されている。例えば、本文に関連資料の番号を示したり、キャラクターが児童の思考の流れをつくる問いかけをしたりするなどの内容になっている。 重要語句については、本文上でゴシック体の太字にし、同ページの本文外に「キーワード」として取り上げ、その語句について補説している。 ○ 写真、挿絵、図、表などの資料について、児童の発達段階を考慮した内容となっている。 |

【資料1 社会】

| 項目 | 観 点 |
|------------|--|
| 4 組織・配列 | <p>各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元配列について ○ 単元構成について ○ ページの構成（本文・写真・挿絵・図・表などの配置）について |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|--|
| 東 書 | <p>各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年の扉ページに、前の学年で「学んだこと」とその学年で「学ぶこと」がまとめられている。 4年「2住みよいくらしをつくる」では、水の学習の後にごみの学習へ進む配列となっている。電気・ガスの学習については「ひろげる」というページで発展的学習として配列されている。 6年では「1わたしたちの生活と政治」「2日本の歴史」「3世界の中の日本」と、政治、歴史、国際理解の項目順で学習する配列になっている。 ○ 「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」の単元構成を基本とし、それぞれの学習段階のめあてが明示されている。単元末には学習問題をもとに単元を振り返る「まとめる」ページがあり、語句や社会的事象の意味・関連が確認できる構成になっている。 ○ 本文がページの中央、資料が周りというようにページ配置がされている。また、「まなび方コーナー」において、学習場面に応じた学び方が示されている。他教科との関わりがあるページ下部には「教科関連マーク」が示されている。 |
| 教 出 | <p>各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年の扉ページに、前の学年で「学んだこと」「できるようになったこと」「学び方」についての振り返りと、「見方・考え方」の視点がまとめられている。 4年「2健康なくらしとまちづくり」では、ごみの学習の後に水の学習へ進む配列となっている。電気・ガスの学習については、水の学習と置き換えられるよう配列されている。 6年では「1ともに生きる暮らしと政治」「2日本の歴史」「3世界の中の日本」と、政治、歴史、国際理解の項目順で学習する配列になっている。 ○ 「つかむ」「調べる」「まとめる」「つなげる」の進め方を基本とした単元構成がされている。単元末には学習問題をもとに単元を振り返るページがあり、語句や社会的事象の意味・関連が確認できるような構成になっている。 ○ 本文がページの中央、資料が周りというようにページ配置がされている。また、授業時間ごとに、「この時間の問い」と「次につなげよう」が示されている。「学びのてびき」として、学習に必要な技能が示されている。 |

| | |
|-----|---|
| 日 文 | <p>各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。</p> <p>○ 各学年の扉ページに「社会科の学習でたいせつなこと」が示されている。</p> <p>4年「2健康なくらしを守る仕事」では、ごみの学習の後に水の学習へ進む配列となっている。電気・ガスの学習については、水の学習と置き換えられるよう配列されている。</p> <p>6年では「1わが国の政治のはたらき」「2日本のあゆみ」「3世界のなかの日本とわたしたち」と、政治、歴史、国際理解の項目順で学習する配列になっている。</p> <p>○ 児童一人ひとりの問いを大切にしながら、話し合っで学習問題をつくり、学習計画（調べたいこと、調べ方、まとめ方）を立てて、学習を進めていく単元構成となっている。単元末には、学習問題について話し合うページが設けられており、単元を振り返り、自分なりにまとめるポイントが示された構成になっている。</p> <p>○ 本文がページの中央、資料が周りというようにページ配置がされている。また、「学び方・調べ方コーナー」において、学習計画の立て方や学習に必要な技能が示されている。</p> |
|-----|---|

【資料1 社会】

| 項目 | 観 点 |
|-----------|--|
| 5 創意工夫 | <p>社会的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 作業的、体験的な学習について ○ 知識、技能を活用した問題解決的な学習展開について ○ 思考力・判断力をはぐくみ、調べたことや考えたことを表現する学習活動について |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|---|
| 東 書 | <p>社会的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 白地図作りの活動、見学や聞き取りなどの作業的、体験的な活動が紹介されている。 ○ 問題解決的な学習展開が「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」の4段階に分けられており、「学習の進め方」として、それぞれの段階における学習方法が示されている。また、「本時のめあて」に4つの学習段階が示されている。 ○ 「社会的な見方・考え方」をキャラクターのマークによって、「空間」「時間」「相互関係」のどの観点を働かせて考えるのかが示されている。また、「まとめる」では、多様な表現活動が提示されている。 |
| 教 出 | <p>社会的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地図帳や地球儀を活用した活動、見学や聞き取りなどの作業的、体験的な活動が紹介されている。 ○ 問題解決的な学習展開が「つかむ」「調べる」「まとめる」「つなげる」の4段階に分けられており、「社会科の学習の進め方」として、それぞれの段階における学習方法が示されている。また、各授業時間で学ぶ末尾部分に「次につなげよう」（次時につながる問い）が示されている。 ○ 「社会的な見方・考え方」を子どもの発言や問いの形で、時期や変化等の観点が例示されている。また、「まとめる」では、多様な表現活動やノートの例が提示されている。 |
| 日 文 | <p>社会的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 粘土を使って地形を立体的に表現する活動、見学や聞き取りなどの作業的、体験的な活動が紹介されている。 ○ 学習問題を設定し、学習計画を立て、見る・調べる、まとめる活動を通して、問題解決的な学習に取り組むことができるよう設定されている。また、学習問題を解決した後で生まれた疑問を「さらに考えたい問題」として提示している。 ○ 「社会的な見方・考え方」をマークによって、「空間」「時間」「関係」のどの観点を働かせて考えるのかが示されている。また、「学習の計画」のまとめ方において、多様な表現活動が提示されている。 |

| 項目 | 観 点 |
|----------------------------------|--|
| 6 補充的な 学 習・ 発展的な 学 習 | <p>学習した内容を確実に習得できるよう、学習の内容や過程などを振り返ったり、学んだことを生活に生かしたりすることができるよう配慮されているか。</p> <p>○ 資料やコラムなど</p> |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|--|
| 東 書 | <p>○ 単元末尾では、学習してきた語句を再掲するなど、学びを振り返ることができるよう配慮されている。</p> <p>「ひろげる」では、学んだことにかかわるコラムや資料を掲載するなど、学習したことをもとに自主的な学習ができるよう取り扱われている。</p> <p>なお、「Dマーク」があるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p> |
| 教 出 | <p>○ 単元末尾では、キーワードが再掲されたり、表や図にことばや文を入れたりしながら復習できるよう配慮されている。</p> <p>「ひろげる」のページでは、学んだことにかかわるコラムや資料を多く掲載するなど、児童の興味関心に応じて活用できるよう取り扱われている。</p> <p>なお、「まなびリンク」があるところでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p> |
| 日 文 | <p>○ 単元末尾では、キャラクターが調べたことや考えを交流する場面があり、学習を振り返りながら復習できるよう配慮されている。</p> <p>「わたしたちの学びを生かそう」では、学んだことにかかわるコラムや資料を掲載するなど、学習したことをもとに自主的な学習ができるよう取り扱われている。</p> <p>なお、「デジタルマーク」があるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p> |

【資料2 社会】

○総ページ数

| | 東書 | 教出 | 日文 |
|-----|-------------------|------------|------------|
| 3年 | 150 | 178 | 160 |
| 4年 | 182 | 224 | 198 |
| 5年 | 上 130 | 260 | 282 |
| | 下 146 | | |
| 6年 | 政治・国際編 122 | 288 | 278 |
| | 歴史編 166 | | |
| 全学年 | 896 | 950 | 918 |

○コラムの点数

| | 東書 | 教出 | 日文 |
|----|-----------|-----------|-----------|
| 3年 | 2 | 7 | 6 |
| 4年 | 10 | 13 | 14 |
| 5年 | 38 | 44 | 10 |
| 6年 | 89 | 81 | 46 |

○キーワードの点数

| | 東書 | 教出 | 日文 |
|----|-----------|------------|-----------|
| 3年 | 34 | 40 | 28 |
| 4年 | 46 | 77 | 77 |
| 5年 | 77 | 84 | 65 |
| 6年 | 93 | 103 | 97 |

○見方・考え方の点数

| | 東書 | 教出 | 日文 |
|----|-----------|-----------|-----------|
| 3年 | 38 | 17 | 14 |
| 4年 | 48 | 17 | 17 |
| 5年 | 89 | 27 | 27 |
| 6年 | 71 | 21 | 32 |

○「様々な仕事や活動に携わっている人の話」の点数

| | 東書 | 教出 | 日文 |
|----|-----------|-----------|-----------|
| 3年 | 22 | 38 | 31 |
| 4年 | 38 | 76 | 48 |
| 5年 | 57 | 55 | 68 |
| 6年 | 18 | 16 | 20 |

○各学年の一部単元のページ数とその資料の点数

| | | 東書 | 教出 | 日文 |
|-------------------|-------|-----|-----|-----|
| 3年 安全 | 写真資料 | 53 | 70 | 98 |
| | 絵 | 21 | 6 | 7 |
| | グラフ・表 | 4 | 2 | 7・2 |
| | 地図 | 6 | 3 | 9 |
| | ページ数 | 30 | 34 | 33 |
| 4年 防災 | 写真資料 | 38 | 49 | 78 |
| | 絵 | 9 | 3 | 12 |
| | グラフ・表 | 0 | 1・1 | 2・5 |
| | 地図 | 9 | 12 | 11 |
| | ページ数 | 23 | 33 | 33 |
| 5年 産業と 情報 | 写真資料 | 61 | 61 | 82 |
| | 絵 | 48 | 33 | 70 |
| | グラフ・表 | 9・1 | 12 | 8 |
| | 地図 | 8 | 3 | 9 |
| | ページ数 | 41 | 31 | 47 |
| 6年 持続可能 な社会 | 写真資料 | 5 | 8 | 6 |
| | 絵 | 0 | 0 | 0 |
| | グラフ・表 | 0 | 0・1 | 0 |
| | 地図 | 0 | 0 | 0 |
| | ページ数 | 4 | 4 | 4 |
| 6年 国際交流 | 写真資料 | 137 | 113 | 97 |
| | 絵 | 8 | 1 | 0 |
| | グラフ・表 | 9・2 | 13 | 5 |
| | 地図 | 10 | 8 | 5 |
| | ページ数 | 52 | 40 | 38 |

地 図

資料 1 1～7
 資料 2 8

| 発行者の 番号・略号 | 書 名 | 著 者 者 | 資料中 の表記 |
|---------------|----------------------------|---------------------------------|------------|
| 2 東 書 | 新しい地図帳 | 北 俊夫 ほか 17 名 | 東 書 |
| 46 帝 国 | 楽しく学ぶ 小学生の地図帳 3・4・5・6 年 | 帝国書院編集部 代表者 鈴木 啓之 ほか 10 名 | 帝 国 |

| 項目 | 観 点 |
|-----------------------------------|--|
| 1 目標・内容 の取扱い | <p>社会科の目標達成のために、適切な内容になっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 基本となる地図について ○ 基本となる地図に関連した資料について |
| 2 人 権 の 取 扱 い | <p>人権尊重の観点から、基本となる地図、文章、写真、挿絵、図、資料等が適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権への配慮について ○ ユニバーサルデザインに関する配慮について |
| 3 内容の程度 | <p>児童の発達段階に応じ、各学年の目標を達成することができるように配慮されているかどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 基本となる地図について ○ 基本となる地図に関連した資料について |
| 4 組織・配列 | <p>学習を効果的に進めることができるように配慮されているかどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 構成について ○ 内容における系統、配列、関連について ○ 図版等の工夫について |
| 5 創意工夫 | <p>様々な社会的事象の特色や意味について、児童の考える力や考えたことを表現する力を育てるよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の関心・興味を高める工夫について ○ 主体的に学習に取り組めるようにするための工夫について ○ 効果的に活用できるようにするための工夫について |
| 6 補充的な 学 習 ・ 発展的な 学 習 | <p>社会科の学習内容と関連づけながら、活用できるよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎的・基本的な知識および技能の習得について ○ 多角的な考察を広げ深める際の活用について |

【資料1 地図】

| 項 目 | 観 点 |
|--------------------|---|
| 1 目標・内容 の取扱い | 社会科の目標達成のために、適切な内容になっているか。 <input type="radio"/> 基本となる地図について <input type="radio"/> 基本となる地図に関連した資料について |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|---|
| 東 書 | <input type="radio"/> 日本全図、日本地域図、世界全図、世界大陸図が取り扱われている。 <input type="radio"/> 地図の成り立ち、地図の見方、地図帳や索引の引き方、統計資料等の活用の仕方、地域の人々の生産や販売、農業や水産業・工業の盛んな地域、日本の位置と領土、地形や気候、自然災害、歴史の概要、 47 都道府県の名称と位置、世界文化遺産、世界の主な国の名称と位置、日本との関係の深い国、地球儀等について理解するために、必要な資料が取り上げられている。特に、巻末の統計資料や索引が見やすく整理されている。 |
| 帝 国 | <input type="radio"/> 日本全図、日本地域図、世界全図、世界大陸図が取り扱われている。 <input type="radio"/> 地図の成り立ち、地図の見方、地図帳や索引の引き方、統計資料等の活用の仕方、地域の人々の生産や販売、農業や水産業・工業の盛んな地域、日本の位置と領土、地形や気候、自然災害、歴史の概要、 47 都道府県の名称と位置、世界文化遺産、世界の主な国の名称と位置、日本との関係の深い国、地球儀等について理解するために、必要な資料が取り上げられている。特に、索引の見方について丁寧に説明されている。 |

| 項目 | 観 点 |
|---------------------|---|
| 2 人 権 の 取 扱 い | <p>人権尊重の観点から、基本となる地図、文章、写真、挿絵、図、資料等が適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権への配慮について ○ ユニバーサルデザインに関する配慮について |
| 発行者 | 事 項 |
| 東 書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権尊重の観点から、基本となる地図、文章、写真、挿絵、図、資料等が適切に取りあげられている。例えば、世界の人々のくらしや文化等の写真があり、国際理解について考えることができる。また、北海道のアイヌ語に由来した地名等にもふれており、地名の成り立ちについて考えることができる。 ○ すべての児童にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。 |
| 帝 国 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権尊重の観点から、基本となる地図、文章、写真、挿絵、図、資料等が適切に取りあげられている。例えば、世界の人々のくらしや文化等の写真や、巻頭世界地図で世界の国々の言葉で「こんにちは」をイラスト付きで説明する等、国際理解や多様な言語について考えることができる。 ○ すべての児童にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。 |

【資料1 地図】

| 項目 | 観 点 |
|------------|--|
| 3 内容の程度 | <p>児童の発達段階に応じ、各学年の目標を達成することができるように配慮されているかどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 基本となる地図について ○ 基本となる地図に関連した資料について |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|--|
| 東 書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 日本地図において、ほとんどの地方が 100 万分の 1 の縮尺で表されており、全ての都道府県の地図上に、産業、交通、環境、文化・歴史等、各学年の学習内容の情報が豊富に取りあげられている。また、見開き 3 ページで、一度に日本列島の地形や交通網の特色について理解できるよう 400 万分の 1 の地図を掲載している。 ○ 地図の見方について、3 年の地図学習の導入に使えるよう、鳥瞰図→真上からの地図→地図へと視点を変換させる工夫がされている。また、歴史、伝統に関する資料が多く、6 年での歴史学習で扱う箇所の内容と関連させて活用することができる。 |
| 帝 国 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 日本地図において、ほとんどの地方が 100 万分の 1 の縮尺で表されており、全ての都道府県の地図上に、産業、交通、環境、文化・歴史等、各学年の学習内容の情報が豊富に取りあげられている。また、はじめに、地方ごとに広く見渡す地図 (160 万分の 1) を掲載し、次にくわしく見る地図 (20 万分の 1、30 万分の 1) を多く掲載している。 ○ 地図の約束について、方位や地図記号、距離の求め方をわかりやすく解説しており、3 年の地図学習の導入に活用できるようになっている。また、産業、貿易に関する資料が多く、5 年での産業学習で扱う箇所の内容と関連させて活用することができる。 |

| 項目 | 観 点 |
|------------|---|
| 4 組織・配列 | <p>学習を効果的に進めることができるように配慮されているかどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 構成について ○ 内容における系統、配列、関連について ○ 図版等の工夫について |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|--|
| 東 書 | <p>学習を効果的に進めることができるように組織・配列されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地図・地図帳に関すること、日本列島広域図、地方別・都道府県地図（拡大図を含む）、世界地図、資料・統計、索引の順に構成されている。 ○ 6年の学習内容に関連して、日本の歴史上の主な事象と同時代の世界の様子を関連づけて読み取ることのできる地図が、主な時代ごとに掲載されている。 ○ 矢印や記号の色だけでなく形にも変化をつけるなど工夫されている。 |
| 帝 国 | <p>学習を効果的に進めることができるように組織・配列されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地図・地図帳に関すること、地方別広域図及び日本列島広域図、地方別・都道府県地図（拡大図を含む）、世界地図、資料・統計、索引の順に構成されている。 ○ 4年の学習内容に関連して、京阪神の水道水取水場や浄水場、防災拠点や防災センターの場所を調べることのできる地図が掲載されている。 ○ 土地利用では、色のちがいととも、地図記号の紋様を入れるなど工夫されている。 |

【資料1 地図】

| 項目 | 観 点 |
|-----------|--|
| 5 創意工夫 | <p>様々な社会的事象の特色や意味について、児童の考える力や考えたことを表現する力を育てるよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の関心・興味を高める工夫について ○ 主体的に学習に取り組めるようにするための工夫について ○ 効果的に活用できるようにするための工夫について |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|---|
| 東 書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 3年からの使用を踏まえ、巻頭の世界と日本のイラストマップ、キャラクター探しや地図クイズ等、児童の意欲を喚起するよう工夫されている。 ○ キャラクターのコメントが地図帳を活用して調べる際の手掛かりになる。また、日本の主な建物の例として大阪の建物を5つ紹介する等、児童にとって地図を身近に感じられるよう工夫されている。 ○ 自然災害から身を守る方法について考えられるよう、ハザードマップを見る際、着目する点を示している。 なお、Dマークがあるページでは、地図に関連した内容についてインターネットを活用して学習できる。 |
| 帝 国 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 4年間、地図に興味をもってかかわれるように「地図マスターへの道」の欄が設けられ、クイズに地図帳を活用して答えることができるよう工夫されている。 ○ 方位や地図記号、距離の求め方等の技能を活用して書き込む欄があるなど、主体的に地図を活用して学ぶことができる。また、地図の成り立ちの例として大阪府堺市を取り上げる等、児童にとって地図を身近に感じられるよう工夫されている。 ○ 自然災害から身を守る方法について考えたことを表現できるよう、防災マップづくりの手順が示されている。 なお、二次元コードがあるページでは、インターネット上で、関連するクイズ等にも取り組むことができる。 |

| 項目 | 観 点 |
|----------------------------------|---|
| 6 補充的な 学 習・ 発展的な 学 習 | <p>社会科の学習内容と関連づけながら、活用できるよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎的・基本的な知識および技能の習得について ○ 多角的な考察を広げ深める際の活用について |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|--|
| 東 書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 社会科の学習内容と関連づけながら、活用できるようになっている。例えば、日本の貿易の統計資料については、輸入する原料と輸出する工業製品、貿易相手国の位置や海上輸送経路がイラストや円グラフを用いて表現されている。 ○ 世界の国々について考察できるよう、児童にとって身近な動物や料理等が記載されるなど、工夫されているとともに、外国語活動・外国語科や総合的な学習の時間等、他教科と関連させて地図帳を活用できるよう取り扱われている。 |
| 帝 国 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 社会科の学習内容と関連づけながら、活用できるようになっている。例えば、洪水への備え（輸中）の地図資料について、人々が自然環境に適応して生活していることがわかるようイラストや図を用いて表現されている。 ○ 世界の国々について考察できるよう、児童にとって身近な学校生活や遊びが記載されるなど、工夫されているとともに、外国語活動・外国語科や総合的な学習の時間等、他教科と関連させて地図帳を活用できるよう取り扱われている。 |

【資料2 地図】

○ 地図と地図に関連した資料のページ数と総ページ数に占める割合

| | 東 書 | | 帝 国 | |
|-----------|------------|-------------|------------|-------------|
| | 頁数 | 割合 | 頁数 | 割合 |
| 地図 | 61 | 60% | 77 | 64% |
| 地図に関連した資料 | 41 | 40% | 43 | 36% |
| 計 | 102 | 100% | 120 | 100% |

○ 地図の構成内容を取り上げている箇所数

| | 東 書 | 帝 国 |
|-----------------|-----------|-----------|
| 日本全図について | 5 | 4 |
| 日本地域図（地方図）について | 9 | 15 |
| 代表的な都道府県・都市について | 10 | 13 |
| 世界全図について | 6 | 5 |
| 世界地域図について | 6 | 6 |
| 地図の見方について（ページ数） | 8 | 12 |
| 索引について | 1 | 1 |
| 統計資料について | 2 | 2 |
| その他各種基本的資料について | 7 | 8 |

○ 社会科の学習内容に関連した資料の箇所数

| | 東 書 | 帝 国 |
|----------------------|-----------|-----------|
| 日本の自然（気候・地形） | 9 | 14 |
| 産業・運輸・貿易 | 15 | 27 |
| 歴史・伝統 | 13 | 3 |
| 国際理解 | 18 | 20 |
| 環境 | 3 | 5 |
| 自然災害・防災 | 10 | 21 |
| 地図を使ったまとめ方 | 0 | 1 |
| 47 都道府県の名称と位置 | 3 | 5 |
| 世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置 | 3 | 6 |
| 日本の位置と領土 | 9 | 9 |
| 地球儀 | 5 | 5 |
| 国旗 | 4 | 6 |
| 大阪府の取り扱い | 1 | 1 |
| 平和 | 2 | 2 |

算 数

学習指導要領（算数）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1～15
 資料 1・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16～29
 資料 2・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30

| 発行者の 番号・略号 | 書 名 | 著 者 者 | 資料中 の表記 |
|---------------|------------------|---|------------|
| 2 東 書 | 新しい算数 | 藤井 斉亮 真島 秀行 ほか 84 名 | 東 書 |
| 4 大日本 | たのしい算数 | 相馬 一彦 ほか 28 名 | 大日本 |
| 11 学 図 | みんなと学ぶ 小学校 算数 | 一松 信 ほか 59 名 | 学 図 |
| 17 教 出 | 小学算数 | 坪田 耕三 金本 良通 ほか 33 名 | 教 出 |
| 61 啓林館 | わくわく 算数 | 清水 静海 根上 生也 寺垣内 政一 矢部 敏昭 ほか 120 名 | 啓林館 |
| 116 日 文 | 小学算数 | 小山 正孝 飯田 慎司 ほか 30 名 | 日 文 |

第2章 各教科

第3節 算 数

第1 目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けるようにする。
- (2) 日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさに気づき、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする態度、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。

第2 各学年の目標及び内容

〔第1学年〕

1 目 標

- (1) 数の概念とその表し方及び計算の意味を理解し、量、図形及び数量の関係についての理解の基礎となる経験を重ね、数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、加法及び減法の計算をしたり、形を構成したり、身の回りにある量の大きさを比べたり、簡単な絵や図などに表したりすることなどについての技能を身に付けるようにする。
- (2) ものの数に着目し、具体物や図などを用いて数の数え方や計算の仕方を考える力、ものの形に着目して特徴を捉えたり、具体的な操作を通して形の構成について考えたりする力、身の回りにあるものの特徴を量に着目して捉え、量の大きさの比べ方を考える力、データの個数に着目して身の回りの事象の特徴を捉える力などを養う。
- (3) 数量や図形に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。

2 内 容

A 数と計算

- (1) 数の構成と表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
 - (ア) ものともを対応させることによって、ものの個数を比べること。
 - (イ) 個数や順番を正しく数えたり表したりすること。
 - (ウ) 数の大小や順序を考えることによって、数の系列を作ったり、数直線の上に表したりすること。
 - (エ) 一つの数をほかの数の和や差としてみるなど、ほかの数と関係付けてみること。
 - (オ) 2位数の表し方について理解すること。
 - (カ) 簡単な場合について、3位数の表し方を知ること。
 - (キ) 数を、十を単位としてみること。
 - (ク) 具体物をまとめて数えたり等分したりして整理し、表すこと。
 - イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
 - (ア) 数のまとまりに着目し、数の大きさの比べ方や数え方を考え、それらを日常生活に生かすこと。
- (2) 加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
 - (ア) 加法及び減法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知ること。
 - (イ) 加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。
 - (ウ) 1位数と1位数との加法及びその逆の減法の計算が確実にできること。
 - (エ) 簡単な場合について、2位数などについても加法及び減法ができることを知ること。
 - イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
 - (ア) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりすること。

B 図形

- (1) 身の回りにあるものの形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

- (ア) ものの形を認め、形の特徴を知ること。
- (イ) 具体物を用いて形を作ったり分解したりすること。
- (ウ) 前後、左右、上下など方向や位置についての言葉を用いて、ものの位置を表すこと。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) ものの形に着目し、身の回りにあるものの特徴を捉えたり、具体的な操作を通して形の構成について考えたりすること。

C 測定

- (1) 身の回りのものの大きさに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
 - (ア) 長さ、広さ、かさなどの量を、具体的な操作によって直接比べたり、他のものを用いて比べたりすること。
 - (イ) 身の回りにあるもの大きさを単位として、その幾つ分かで大きさを比べること。
 - イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
 - (ア) 身の回りのものの特徴に着目し、量の大きさの比べ方を見いだすこと。
- (2) 時刻に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
 - (ア) 日常生活の中で時刻を読むこと。
 - イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
 - (ア) 時刻の読み方を用いて、時刻と日常生活を関連付けること。

D データの活用

- (1) 数量の整理に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
 - (ア) ものの個数について、簡単な絵や図などに表したり、それらを読み取ったりすること。
 - イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
 - (ア) データの個数に着目し、身の回りの事象の特徴を捉えること。

[数学的活動]

- (1) 内容の「A数と計算」、「B図形」、「C測定」及び「Dデータの活用」に示す学習については、次のような数学的活動に取り組むものとする。
 - ア 身の回りの事象を観察したり、具体物を操作したりして、数量や形を見いだす活動
 - イ 日常生活の問題を具体物などを用いて解決したり結果を確かめたりする活動
 - ウ 算数の問題を具体物などを用いて解決したり結果を確かめたりする活動
 - エ 問題解決の過程や結果を、具体物や図などを用いて表現する活動

[用語・記号]

一の位 十の位 + - =

[第2学年]

1 目 標

- (1) 数の概念についての理解を深め、計算の意味と性質、基本的な図形概念、量の概念、簡単な表とグラフなどについて理解し、数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、加法、減法及び乗法の計算をしたり、図形を構成したり、長さやかさなどを測定したり、表やグラフに表したりすることなどについての技能を身に付けるようにする。
- (2) 数とその表現や数量の関係に着目し、必要に応じて具体物や図などを用いて数の表し方や計算の仕方などを考察する力、平面図形の特徴を図形を構成する要素に着目して捉えたり、身の回りの事象を図形の性質から考察したりする力、身の回りにあるものの特徴を量に着目して捉え、量の単位を用いて的確に表現する力、身の回りの事象をデータの特徴に着目して捉え、簡潔に表現したり考察したりする力などを養う。
- (3) 数量や図形に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。

2 内 容

A 数と計算

- (1) 数の構成と表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
 - (ア) 同じ大きさの集まりにまとめて数えたり、分類して数えたりすること。
 - (イ) 4位数までについて、十進位取り記数法による数の表し方及び数の大小や順序について理解すること。
 - (ウ) 数を十や百を単位としてみるなど、数の相対的な大きさについて理解すること。
 - (エ) 一つの数をほかの数の積としてみるなど、ほかの数と関係付けてみること。
 - (オ) 簡単な事柄を分類整理し、それを数を用いて表すこと。
 - (カ) $1/2$ 、 $1/3$ など簡単な分数について知ること。
 - イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

- (ア) 数のまとまりに着目し、大きな数の大きさの比べ方や数え方を考え、日常生活に生かすこと。
- (2) 加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 2位数の加法及びその逆の減法の計算が、1位数などについての基本的な計算を基にしてできることを理解し、それらの計算が確実にできること。また、それらの筆算の仕方について理解すること。
- (イ) 簡単な場合について、3位数などの加法及び減法の計算の仕方を知ること。
- (ウ) 加法及び減法に関して成り立つ性質について理解すること。
- (エ) 加法と減法との相互関係について理解すること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。
- (3) 乗法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 乗法の意味について理解し、それが用いられる場合について知ること。
- (イ) 乗法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。
- (ウ) 乗法に関して成り立つ簡単な性質について理解すること。
- (エ) 乗法九九について知り、1位数と1位数との乗法の計算が確実にできること。
- (オ) 簡単な場合について、2位数と1位数との乗法の計算の仕方を知ること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。
- (イ) 数量の関係に着目し、計算を日常生活に生かすこと。
- B 図形
- (1) 図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 三角形、四角形について知ること。
- (イ) 正方形、長方形、直角三角形について知ること。
- (ウ) 正方形や長方形の面で構成される箱の形をしたものについて理解し、それらを構成したり分解したりすること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 図形を構成する要素に着目し、構成の仕方を見るとともに、身の回りのものの形を図形として捉えること。
- C 測定
- (1) 量の単位と測定に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 長さの単位（ミリメートル（mm）、センチメートル（cm）、メートル（m））及びかさの単位（ミリリットル（mL）、デシリットル（dL）、リットル（L））について知り、測定の意味を理解すること。
- (イ) 長さ及びかさについて、およその見当を付け、単位を適切に選択して測定すること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 身の回りのものの特徴に着目し、目的に応じた単位で量の大きさを的確に表現したり、比べたりすること。
- (2) 時刻と時間に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 日、時、分について知り、それらの関係を理解すること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 時間の単位に着目し、時刻や時間を日常生活に生かすこと。
- D データの活用
- (1) データの分析に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 身の回りにある数量を分類整理し、簡単な表やグラフを用いて表したり読み取ったりすること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) データを整理する観点に着目し、身の回りの事象について表やグラフを用いて考察すること。
- [数学的活動]

- (1) 内容の「A数と計算」、「B図形」、「C測定」及び「Dデータの活用」に示す学習については、次のような数学的活動に取り組むものとする。
- ア 身の回りの事象を観察したり、具体物を操作したりして、数量や図形に進んで関わる活動
- イ 日常の事象から見いだした算数の問題を、具体物、図、数、式などを用いて解決し、結果を確かめる活動
- ウ 算数の学習場面から見いだした算数の問題を、具体物、図、数、式などを用いて解決し、結果を確かめる活動
- エ 問題解決の過程や結果を、具体物、図、数、式などを用いて表現し伝え合う活動

〔用語・記号〕

直線 直角 頂点 辺 面 単位 \times $>$ $<$

3 内容の取扱い

- (1) 内容の「A数と計算」の(1)については、1万についても取り扱うものとする。
- (2) 内容の「A数と計算」の(2)については、必要な場合には、()や□などを用いることができる。また、計算の結果の見積りについて配慮するものとする。
- (3) 内容の「A数と計算」の(2)のアの(ウ)については、交換法則や結合法則を取り扱うものとする。
- (4) 内容の「A数と計算」の(3)のアの(ウ)については、主に乗数が1ずつ増えるときの積の増え方や交換法則を取り扱うものとする。
- (5) 内容の「B図形」の(1)のアの(イ)に関連して、正方形、長方形が身の回りで多く使われていることが分かるようにするとともに、敷き詰めるなどの操作的な活動を通して、平面の広がりについての基礎となる経験を豊かにするよう配慮するものとする。

〔第3学年〕

1 目 標

- (1) 数の表し方、整数の計算の意味と性質、小数及び分数の意味と表し方、基本的な図形の概念、量の概念、棒グラフなどについて理解し、数量や形についての感覚を豊かにするとともに、整数などの計算をしたり、図形を構成したり、長さや重さなどを測定したり、表やグラフに表したりすることなどについての技能を身に付けるようにする。
- (2) 数とその表現や数量の関係に着目し、必要に応じて具体物や図などを用いて数の表し方や計算の仕方などを考察する力、平面図形の特徴を図形を構成する要素に着目して捉えたり、身の回りの事象を図形の性質から考察したりする力、身の回りにあるものの特徴を量に着目して捉え、量の単位を用いて的確に表現する力、身の回りの事象をデータの特徴に着目して捉え、簡潔に表現したり適切に判断したりする力などを養う。
- (3) 数量や図形に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。

2 内 容

A 数と計算

- (1) 整数の表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 万の単位について知ること。
- (イ) 10倍、100倍、1000倍、 $1/10$ の大きさの数及びそれらの表し方について知ること。
- (ウ) 数の相対的な大きさについての理解を深めること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 数のまとまりに着目し、大きな数の大きさの比べ方や表し方を考え、日常生活に生かすこと。
- (2) 加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 3位数や4位数の加法及び減法の計算が、2位数などについての基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、それらの筆算の仕方について理解すること。
- (イ) 加法及び減法の計算が確実にでき、それらを適切に用いること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。
- (3) 乗法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 2位数や3位数に1位数や2位数をかける乗法の計算が、乗法九九などの基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、その筆算の仕方について理解すること。
- (イ) 乗法の計算が確実にでき、それを適切に用いること。
- (ウ) 乗法に関して成り立つ性質について理解すること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

- (ア) 数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。
- (4) 除法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知ること。また、余りについて知ること。
- (イ) 除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。
- (ウ) 除法と乗法や減法との関係について理解すること。
- (エ) 除数と商が共に1位数である除法の計算が確実にできること。
- (オ) 簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方を知ること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。
- (イ) 数量の関係に着目し、計算を日常生活に生かすこと。
- (5) 小数とその表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 端数部分の大きさを表すのに小数を用いることを知ること。また、小数の表し方及び $1/10$ の位について知ること。
- (イ) $1/10$ の位までの小数の加法及び減法の意味について理解し、それらの計算ができることを知ること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 数のまとまりに着目し、小数でも数の大きさを比べたり計算したりできるかどうかを考えるとともに、小数を日常生活に生かすこと。
- (6) 分数とその表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 等分してできる部分の大きさや端数部分の大きさを表すのに分数を用いることを知ること。また、分数の表し方について知ること。
- (イ) 分数が単位分数の幾つ分かで表すことができることを知ること。
- (ウ) 簡単な場合について、分数の加法及び減法の意味について理解し、それらの計算ができることを知ること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 数のまとまりに着目し、分数でも数の大きさを比べたり計算したりできるかどうかを考えるとともに、分数を日常生活に生かすこと。
- (7) 数量の関係を表す式に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 数量の関係を表す式について理解するとともに、数量を□などを用いて表し、その関係を式に表したり、□などに数を当てはめて調べたりすること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 数量の関係に着目し、数量の関係を図や式を用いて簡潔に表したり、式と図を関連付けて式を読んだりすること。
- (8) そろばんを用いた数の表し方と計算に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) そろばんによる数の表し方について知ること。
- (イ) 簡単な加法及び減法の計算の仕方について知り、計算すること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) そろばんの仕組みに着目し、大きな数や小数の計算の仕方考えること。
- B 図形
- (1) 図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 二等辺三角形、正三角形などについて知り、作図などを通してそれらの関係に次第に着目すること。
- (イ) 基本的な図形と関連して角について知ること。
- (ウ) 円について、中心、半径、直径を知ること。また、円に関連して、球についても直径などを知ること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 図形を構成する要素に着目し、構成の仕方考えるとともに、図形の性質を見だし、身の回りのものの形を図形として捉えること。

C 測定

(1) 量の単位と測定に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 長さの単位（キロメートル（km））及び重さの単位（グラム（g）、キログラム（kg））について知り、測定の意味を理解すること。

(イ) 長さや重さについて、適切な単位で表したり、およその見当を付け計器を適切に選んで測定したりすること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 身の回りのものの特徴に着目し、単位の関係を統合的に考察すること。

(2) 時刻と時間に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 秒について知ること。

(イ) 日常生活に必要な時刻や時間を求めること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 時間の単位に着目し、時刻や時間の求め方について考察し、日常生活に生かすこと。

D データの活用

(1) データの分析に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 日時の観点や場所の観点などからデータを分類整理し、表に表したり読んだりすること。

(イ) 棒グラフの特徴やその用い方を理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) データを整理する観点に着目し、身の回りの事象について表やグラフを用いて考察して、見いだしたことを表現すること。

〔数学的活動〕

(1) 内容の「A数と計算」、「B図形」、「C測定」及び「Dデータの活用」に示す学習については、次のような数学的活動に取り組むものとする。

ア 身の回りの事象を観察したり、具体物を操作したりして、数量や図形に進んで関わる活動

イ 日常の事象から見いだした算数の問題を、具体物、図、数、式などを用いて解決し、結果を確かめる活動

ウ 算数の学習場面から見いだした算数の問題を、具体物、図、数、式などを用いて解決し、結果を確かめる活動

エ 問題解決の過程や結果を、具体物、図、数、式などを用いて表現し伝え合う活動

〔用語・記号〕

等号 不等号 小数点 1/10 の位 数直線 分母 分子 ÷

3 内容の取扱い

(1) 内容の「A数と計算」の(1)については、1億についても取り扱うものとする。

(2) 内容の「A数と計算」の(2)及び(3)については、簡単な計算は暗算でできるよう配慮するものとする。また、計算の結果の見積りについても触れるものとする。

(3) 内容の「A数と計算」の(3)については、乗数又は被乗数が0の場合の計算についても取り扱うものとする。

(4) 内容の「A数と計算」の(3)のアの(ウ)については、交換法則、結合法則、分配法則を取り扱うものとする。

(5) 内容の「A数と計算」の(5)及び(6)については、小数の0.1と分数のなどを数直線を用いて関連付けて取り扱うものとする。

(6) 内容の「B図形」の(1)の基本的な図形については、定規、コンパスなどを用いて、図形をかいたり確かめたりする活動を重視するとともに、三角形や円などを基にして模様をかくなどの具体的な活動を通して、図形のもつ美しさに関心をもたせるよう配慮するものとする。

(7) 内容の「C測定」の(1)については、重さの単位のトン(t)について触れるとともに、接頭語（キロ(k)やミリ(m)）についても触れるものとする。

(8) 内容の「Dデータの活用」の(1)のアの(イ)については、最小目盛りが2、5又は20、50などの棒グラフや、複数の棒グラフを組み合わせたグラフなどにも触れるものとする。

〔第4学年〕

1 目標

(1) 小数及び分数の意味と表し方、四則の関係、平面図形と立体図形、面積、角の大きさ、折れ線グラフなどについて理解するとともに、整数、小数及び分数の計算をしたり、図形を構成したり、図形の面積や角の大きさを求めたり、表やグラフに表したりすることなどについての技能を身に付けるようにする。

- (2) 数とその表現や数量の関係に着目し、目的に合った表現方法を用いて計算の仕方などを考察する力、図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、図形の性質や図形の計量について考察する力、伴って変わる二つの数量やそれらの関係に着目し、変化や対応の特徴を見いだして、二つの数量の関係を表や式を用いて考察する力、目的に応じてデータを収集し、データの特徴や傾向に着目して表やグラフに的確に表現し、それらを用いて問題解決したり、解決の過程や結果を多面的に捉え考察したりする力を養う。
- (3) 数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。

2 内容

A 数と計算

- (1) 整数の表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 億、兆の単位について知り、十進位取り記数法についての理解を深めること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 数のまとまりに着目し、大きな数の大きさの比べ方や表し方を統合的に捉えるとともに、それらを日常生活に生かすこと。
- (2) 概数に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 概数が用いられる場合について知ること。
- (イ) 四捨五入について知ること。
- (ウ) 目的に応じて四則計算の結果の見積りをする。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 日常の事象における場面に着目し、目的に合った数の処理の仕方を考えるとともに、それを日常生活に生かすこと。
- (3) 整数の除法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 除数が1位数や2位数で被除数が2位数や3位数の場合の計算が、基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、その筆算の仕方について理解すること。
- (イ) 除法の計算が確実にでき、それを適切に用いること。
- (ウ) 除法について、次の関係を理解すること。
 $(被除数) = (除数) \times (商) + (余り)$
- (エ) 除法に関して成り立つ性質について理解すること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。
- (4) 小数とその計算に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) ある量の何倍かを表すのに小数を用いることを知ること。
- (イ) 小数が整数と同じ仕組みで表されていることを知るとともに、数の相対的な大きさについての理解を深めること。
- (ウ) 小数の加法及び減法の計算ができること。
- (エ) 乗数や除数が整数である場合の小数の乗法及び除法の計算ができること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、計算の仕方を考えるとともに、それを日常生活に生かすこと。
- (5) 分数とその加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 簡単な場合について、大きさの等しい分数があることを知ること。
- (イ) 同分母の分数の加法及び減法の計算ができること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 数を構成する単位に着目し、大きさの等しい分数を探したり、計算の仕方を考えたりするとともに、それを日常生活に生かすこと。
- (6) 数量の関係を表す式に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 四則の混合した式や()を用いた式について理解し、正しく計算すること。
- (イ) 公式についての考え方を理解し、公式を用いること。

- (ウ) 数量を□、△などを用いて表し、その関係を式に表したり、□、△などに数を当てはめて調べたりすること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 問題場面の数量の関係に着目し、数量の関係を簡潔に、また一般的に表現したり、式の意味を読み取ったりすること。
- (7) 計算に関して成り立つ性質に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
 - (ア) 四則に関して成り立つ性質についての理解を深めること。
 - イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
 - (ア) 数量の関係に着目し、計算に関して成り立つ性質を用いて計算の仕方を考えること。
- (8) そろばんを用いた数の表し方と計算に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
 - (ア) 加法及び減法の計算をすること。
 - イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
 - (ア) そろばんの仕組みに着目し、大きな数や小数の計算の仕方を考えること。

B 図形

- (1) 平面図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
 - (ア) 直線の平行や垂直の関係について理解すること。
 - (イ) 平行四辺形、ひし形、台形について知ること。
 - イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
 - (ア) 図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、構成の仕方を考察し図形の性質を見いだすとともに、その性質を基に既習の図形を捉え直すこと。
- (2) 立体図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
 - (ア) 立方体、直方体について知ること。
 - (イ) 直方体に関連して、直線や平面の平行や垂直の関係について理解すること。
 - (ウ) 見取図、展開図について知ること。
 - イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
 - (ア) 図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、立体図形の平面上での表現や構成の仕方を考察し図形の性質を見いだすとともに、日常の事象を図形の性質から捉え直すこと。
- (3) ものの位置に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
 - (ア) ものの位置の表し方について理解すること。
 - イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
 - (ア) 平面や空間における位置を決める要素に着目し、その位置を数を用いて表現する方法を考察すること。
- (4) 平面図形の面積に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
 - (ア) 面積の単位(平方センチメートル(**cm²**)、平方メートル(**m²**)、平方キロメートル(**km²**))について知ること。
 - (イ) 正方形及び長方形の面積の計算による求め方について理解すること。
 - イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
 - (ア) 面積の単位や図形を構成する要素に着目し、図形の面積の求め方を考えると同時に、面積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考察すること。
- (5) 角の大きさに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
 - (ア) 角の大きさを回転の大きさとして捉えること。
 - (イ) 角の大きさの単位(度(**°**))について知り、角の大きさを測定すること。
 - イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
 - (ア) 図形の角の大きさに着目し、角の大きさを柔軟に表現したり、図形の考察に生かしたりすること。

C 変化と関係

- (1) 伴って変わる二つの数量に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

- (ア) 変化の様子を表や式、折れ線グラフを用いて表したり、変化の特徴を読み取ったりすること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 伴って変わる二つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、表や式を用いて変化や対応の特徴を考察すること。
- (2) 二つの数量の関係に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 簡単な場合について、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係とを比べる場合に割合を用いる場合があることを知ること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係との比べ方を考察すること。
- D データの活用
- (1) データの収集とその分析に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) データを二つの観点から分類整理する方法を知ること。
- (イ) 折れ線グラフの特徴とその使い方を理解すること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、問題を解決するために適切なグラフを選択して判断し、その結論について考察すること。

〔数学的活動〕

- (1) 内容の「A数と計算」、「B図形」、「C変化と関係」及び「Dデータの活用」に示す学習については、次のような数学的活動に取り組むものとする。
- ア 日常の事象から算数の問題を見いだして解決し、結果を確かめたり、日常生活等に生かしたりする活動
- イ 算数の学習場面から算数の問題を見いだして解決し、結果を確かめたり、発展的に考察したりする活動
- ウ 問題解決の過程や結果を、図や式などを用いて数学的に表現し伝え合う活動

〔用語・記号〕

和 差 積 商 以上 以下 未満 真分数 仮分数 帯分数 平行 垂直 対角線 平面

3 内容の取扱い

- (1) 内容の「A数と計算」の(1)については、大きな数を表す際に、3桁ごとに区切りを用いる場合があることに触れるものとする。
- (2) 内容の「A数と計算」の(2)のアの(ウ)及び(3)については、簡単な計算は暗算でできるように配慮するものとする。また、暗算を筆算や見積りに生かすよう配慮するものとする。
- (3) 内容の「A数と計算」の(3)については、第1学年から第4学年までに示す整数の計算の能力を定着させ、それを用いる能力を伸ばすことに配慮するものとする。
- (4) 内容の「A数と計算」の(3)のアの(エ)については、除数及び被除数に同じ数をかけても、同じ数で割っても商は変わらないという性質などを取り扱うものとする。
- (5) 内容の「A数と計算」の(4)のアの(エ)については、整数を整数で割って商が小数になる場合も含めるものとする。
- (6) 内容の「A数と計算」の(7)のアの(ア)については、交換法則、結合法則、分配法則を扱うものとする。
- (7) 内容の「B図形」の(1)については、平行四辺形、ひし形、台形で平面を敷き詰めるなどの操作的な活動を重視するよう配慮するものとする。
- (8) 内容の「B図形」の(4)のアの(ア)については、アール (a)、ヘクタール (ha) の単位についても触れるものとする。
- (9) 内容の「Dデータの活用」の(1)のアの(ア)については、資料を調べるときに、落ちや重なりがないようにすることを取り扱うものとする。
- (10) 内容の「Dデータの活用」の(1)のアの(イ)については、複数系列のグラフや組み合わせたグラフにも触れるものとする。

〔第5学年〕

1 目標

- (1) 整数の性質、分数の意味、小数と分数の計算の意味、面積の公式、図形の意味と性質、図形の体積、速さ、割合、帯グラフなどについて理解するとともに、小数や分数の計算をしたり、図形の性質を調べたり、図形の面積や体積を求めたり、表やグラフに表したりすることなどについての技能を身に付けるようにする。

- (2) 数とその表現や計算の意味に着目し、目的に合った表現方法を用いて数の性質や計算の仕方などを考察する力、図形を構成する要素や図形間の関係などに着目し、図形の性質や図形の計量について考察する力、伴って変わる二つの数量やそれらの関係に着目し、変化や対応の特徴を見いだして、二つの数量の関係を表や式を用いて考察する力、目的に応じてデータを収集し、データの特徴や傾向に着目して表やグラフに的確に表現し、それらを用いて問題解決したり、解決の過程や結果を多面的に捉え考察したりする力を養う。
- (3) 数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。

2 内容

A 数と計算

- (1) 整数の性質及び整数の構成に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 整数は、観点を決めると偶数と奇数に類別されることを知ること。
- (イ) 約数、倍数について知ること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 乗法及び除法に着目し、観点を決めて整数を類別する仕方を考えたり、数の構成について考察したりするとともに、日常生活に生かすこと。
- (2) 整数及び小数の表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) ある数の 10 倍、100 倍、1000 倍、 $1/10$ 、 $1/100$ などの大きさの数を、小数点の位置を移してつくること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 数の表し方の仕組みに着目し、数の相対的な大きさを考察し、計算などに有効に生かすこと。
- (3) 小数の乗法及び除法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 乗数や除数が小数である場合の小数の乗法及び除法の意味について理解すること。
- (イ) 小数の乗法及び除法の計算ができること。また、余りの大きさについて理解すること。
- (ウ) 小数の乗法及び除法についても整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解すること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 乗法及び除法の意味に着目し、乗数や除数が小数である場合まで数の範囲を広げて乗法及び除法の意味を捉え直すとともに、それらの計算の仕方を考えたり、それらを日常生活に生かしたりすること。
- (4) 分数に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 整数及び小数を分数の形に直したり、分数を小数で表したりすること。
- (イ) 整数の除法の結果は、分数を用いると常に一つの数として表すことができることを理解すること。
- (ウ) 一つの分数の分子及び分母に同じ数を乗除してできる分数は、元の分数と同じ大きさを表すことを理解すること。
- (エ) 分数の相等及び大小について知り、大小を比べること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 数を構成する単位に着目し、数の相等及び大小関係について考察すること。
- (イ) 分数の表現に着目し、除法の結果の表し方を振り返り、分数の意味をまとめること。
- (5) 分数の加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 異分母の分数の加法及び減法の計算ができること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 分数の意味や表現に着目し、計算の仕方を考えること。
- (6) 数量の関係を表す式に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 数量の関係を表す式についての理解を深めること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 二つの数量の対応や変わり方に着目し、簡単な式で表されている関係について考察すること。

B 図形

- (1) 平面図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 図形の形や大きさが決まる要素について理解するとともに、図形の合同について理解すること。
- (イ) 三角形や四角形など多角形についての簡単な性質を理解すること。
- (ウ) 円と関連させて正多角形の基本的な性質を知ること。
- (エ) 円周率の意味について理解し、それを用いること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し、構成の仕方を考察したり、図形の性質を見だし、その性質を筋道を立てて考え説明したりすること。
- (2) 立体図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 基本的な角柱や円柱について知ること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 図形を構成する要素に着目し、図形の性質を見だすとともに、その性質を基に既習の図形を捉え直すこと。
- (3) 平面図形の面積に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積の計算による求め方について理解すること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 図形を構成する要素などに着目して、基本図形の面積の求め方を見だすとともに、その表現を振り返り、簡潔かつ確かな表現に高め、公式として導くこと。
- (4) 立体図形の体積に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 体積の単位（立方センチメートル（ cm^3 ）、立方メートル（ m^3 ））について知ること。
- (イ) 立方体及び直方体の体積の計算による求め方について理解すること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 体積の単位や図形を構成する要素に着目し、図形の体積の求め方を考えるとともに、体積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考察すること。
- C 変化と関係
- (1) 伴って変わる二つの数量に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 簡単な場合について、比例の関係があることを知ること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 伴って変わる二つの数量を見だして、それらの関係に着目し、表や式を用いて変化や対応の特徴を考察すること。
- (2) 異種の二つの量の割合として捉えられる数量に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 速さなど単位量当たりの大きさの意味及び表し方について理解し、それを求めること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を考察し、それらを日常生活に生かすこと。
- (3) 二つの数量の関係に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を比べる場合に割合を用いる場合があることを理解すること。
- (イ) 百分率を用いた表し方を理解し、割合などを求めること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて、ある二つの数量の関係を別の二つの数量の関係との比べ方を考察し、それを日常生活に生かすこと。
- D データの活用
- (1) データの収集とその分析に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 円グラフや帯グラフの特徴とそれらの用い方を理解すること。
- (イ) データの収集や適切な手法の選択など統計的な問題解決の方法を知ること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

- (ア) 目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、問題を解決するために適切なグラフを選択して判断し、その結論について多面的に捉え考察すること。
- (2) 測定した結果を平均する方法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
 - (ア) 平均の意味について理解すること。
 - イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
 - (ア) 概括的に捉えることに着目し、測定した結果を平均する方法について考察し、それを学習や日常生活に生かすこと。

〔数学的活動〕

- (1) 内容の「A数と計算」、「B図形」、「C変化と関係」及び「Dデータの活用」に示す学習については、次のような数学的活動に取り組むものとする。
 - ア 日常の事象から算数の問題を見いだして解決し、結果を確かめたり、日常生活等に生かしたりする活動
 - イ 算数の学習場面から算数の問題を見いだして解決し、結果を確かめたり、発展的に考察したりする活動
 - ウ 問題解決の過程や結果を、図や式などを用いて数学的に表現し伝え合う活動

〔用語・記号〕

最大公約数 最小公倍数 通分 約分 底面 側面 比例 %

3 内容の取扱い

- (1) 内容の「A数と計算」の(1)のアの(イ)については、最大公約数や最小公倍数を形式的に求めることに偏ることなく、具体的な場面に即して取り扱うものとする。
- (2) 内容の「B図形」の(1)については、平面を合同な図形で敷き詰めるなどの操作的な活動を重視するよう配慮するものとする。
- (3) 内容の「B図形」の(1)のアの(エ)については、円周率は3.14を用いるものとする。
- (4) 内容の「C変化と関係」の(3)のアの(イ)については、歩合の表し方について触れるものとする。
- (5) 内容の「Dデータの活用」の(1)については、複数の帯グラフを比べることに触れるものとする。

〔第6学年〕

1 目標

- (1) 分数の計算の意味、文字を用いた式、図形の意味、図形の体積、比例、度数分布を表す表などについて理解するとともに、分数の計算をしたり、図形を構成したり、図形の面積や体積を求めたり、表やグラフに表したりすることなどについての技能を身に付けるようにする。
- (2) 数とその表現や計算の意味に着目し、発展的に考察して問題を見いだすとともに、目的に応じて多様な表現方法を用いながら数の表し方や計算の仕方などを考察する力、図形を構成する要素や図形間の関係などに着目し、図形の性質や図形の計量について考察する力、伴って変わる二つの数量やそれらの関係に着目し、変化や対応の特徴を見いだして、二つの数量の関係を表や式、グラフを用いて考察する力、身の回りの事象から設定した問題について、目的に応じてデータを収集し、データの特徴や傾向に着目して適切な手法を選択して分析を行い、それらを用いて問題解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察したりする力などを養う。
- (3) 数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。

2 内容

A 数と計算

- (1) 分数の乗法及び除法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
 - (ア) 乗数や除数が整数や分数である場合も含めて、分数の乗法及び除法の意味について理解すること。
 - (イ) 分数の乗法及び除法の計算ができること。
 - (ウ) 分数の乗法及び除法についても、整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解すること。
 - イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
 - (ア) 数の意味と表現、計算について成り立つ性質に着目し、計算の仕方を多面的に捉え考えること。
- (2) 数量の関係を表す式に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

- (ア) 数量を表す言葉や□、△などの代わりに、 a 、 x などの文字を用いて式に表したり、文字に数を当てはめて調べたりすること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 問題場面の数量の関係に着目し、数量の関係を簡潔かつ一般的に表現したり、式の意味を読み取ったりすること。
- B 図形**
- (1) 平面図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 縮図や拡大図について理解すること。
- (イ) 対称な図形について理解すること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 図形を構成する要素及び図形間関係に着目し、構成の仕方を考察したり図形の性質を見いだしたりするとともに、その性質を基に既習の図形を捉え直したり日常生活に生かしたりすること。
- (2) 身の回りにある形の概形やおよその面積などに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 身の回りにある形について、その概形を捉え、およその面積などを求めること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 図形を構成する要素や性質に着目し、筋道を立てて面積などの求め方を考え、それを日常生活に生かすこと。
- (3) 平面図形の面積に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 円の面積の計算による求め方について理解すること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 図形を構成する要素などに着目し、基本図形の面積の求め方を見いだすとともに、その表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導くこと。
- (4) 立体図形の体積に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 基本的な角柱及び円柱の体積の計算による求め方について理解すること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 図形を構成する要素に着目し、基本図形の体積の求め方を見いだすとともに、その表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導くこと。
- C 変化と関係**
- (1) 伴って変わる二つの数量に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 比例の関係の意味や性質を理解すること。
- (イ) 比例の関係をを用いた問題解決の方法について知ること。
- (ウ) 反比例の関係について知ること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 伴って変わる二つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、目的に応じて表や式、グラフを用いてそれらの関係を表現して、変化や対応の特徴を見いだすとともに、それらを日常生活に生かすこと。
- (2) 二つの数量の関係に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 比の意味や表し方を理解し、数量の関係を比で表したり、等しい比をつくったりすること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて数量の関係の比べ方を考察し、それを日常生活に生かすこと。
- D データの活用**
- (1) データの収集とその分析に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 代表値の意味や求め方を理解すること。
- (イ) 度数分布を表す表やグラフの特徴及びそれらの用い方を理解すること。
- (ウ) 目的に応じてデータを収集したり適切な手法を選択したりするなど、統計的な問題解決の方法を知ること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

- (ア) 目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、代表値などを用いて問題の結論について判断するとともに、その妥当性について批判的に考察すること。
- (2) 起こり得る場合に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
 - (ア) 起こり得る場合を順序よく整理するための図や表などの使い方を知ること。
 - イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
 - (ア) 事象の特徴に着目し、順序よく整理する観点を決めて、落ちや重なりなく調べる方法を考察すること。

〔数学的活動〕

- (1) 内容の「A数と計算」、「B図形」、「C変化と関係」及び「Dデータの活用」に示す学習については、次のような数学的活動に取り組むものとする。
 - ア 日常の事象を数理的に捉え問題を見いだして解決し、解決過程を振り返り、結果や方法を改善したり、日常生活等に生かしたりする活動
 - イ 算数の学習場面から算数の問題を見いだして解決し、解決過程を振り返り統合的・発展的に考察する活動
 - ウ 問題解決の過程や結果を、目的に応じて図や式などを用いて数学的に表現し伝え合う活動

〔用語・記号〕

線対称 点対称 対称の軸 対称の中心 比の値 ドットプロット 平均値 中央値 最頻値
階級 :

3 内容の取扱い

- (1) 内容の「A数と計算」の(1)については、逆数を用いて除法を乗法の計算としてみることや、整数や小数の乗法や除法を分数の場合の計算にまとめることも取り扱うものとする。
- (2) 内容の「A数と計算」の(1)については、第3学年から第6学年までに示す小数や分数の計算の能力を定着させ、それらを用いる能力を伸ばすことに配慮するものとする。
- (3) 内容の「B図形」の(3)のアの(ア)については、円周率は **3.14** を用いるものとする。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、数学的活動を通して、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、数学的な見方・考え方を働かせながら、日常の事象を数理的に捉え、算数の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決し、学習の過程を振り返り、概念を形成するなどの学習の充実を図ること。
- (2) 第2の各学年の内容は、次の学年以降においても必要に応じて継続して指導すること。数量や図形についての基礎的な能力の習熟や維持を図るため、適宜練習の機会を設けて計画的に指導すること。なお、その際、第1章総則の第2の3の(2)のウの(イ)に掲げる指導を行う場合には、当該指導のねらいを明確にするとともに、単元など内容や時間のまとまりを見通して資質・能力が偏りなく育成されるよう計画的に指導すること。また、学年間の指導内容を円滑に接続させるため、適切な反復による学習指導をめるようにすること。
- (3) 第2の各学年の内容の「A数と計算」、「B図形」、「C測定」、「C変化と関係」及び「Dデータの活用」の間の指導の関連を図ること。
- (4) 低学年においては、第1章総則の第2の4の(1)を踏まえ、他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにするとともに、幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に、小学校入学当初においては、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。
- (5) 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
- (6) 第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、道徳科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容について、算数科の特質に応じて適切な指導をすること。

2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 思考力、判断力、表現力等を育成するため、各学年の内容の指導に当たっては、具体物、図、言葉、数、式、表、グラフなどを用いて考えたり、説明したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったり、学び合ったり、高め合ったりするなどの学習活動を積極的に取り入れるようにすること。
- (2) 数量や図形についての感覚を豊かにしたり、表やグラフを用いて表現する力を高めたりするなどのため、必要な場面においてコンピュータなどを適切に活用すること。また、第1章総則の第3の1の(3)のイに掲げるプログラミングを体験しながら論理的思考力を身に付けるための学習活動を行う場合には、児童の負担に配慮しつつ、例えば第2の各学年の内容の〔第5

- 学年]の「B図形」の(1)における正多角形の作図を行う学習に関連して、正確な繰り返し作業を行う必要があり、更に一部を変えることでいろいろな正多角形を同様に考えることができる場面などで取り扱うこと。
- (3) 各領域の指導に当たっては、具体物を操作したり、日常の事象を観察したり、児童にとって身近な算数の問題を解決したりするなどの具体的な体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をしたり、算数を学ぶ意義を実感したりする機会を設けること。
 - (4) 第2の各学年の内容に示す〔用語・記号〕は、当該学年で取り上げる内容の程度や範囲を明確にするために示したものであり、その指導に当たっては、各学年の内容と密接に関連させて取り上げるようにし、それらを用いて表したり考えたりすることのよさが分かるようにすること。
 - (5) 数量や図形についての豊かな感覚を育てるとともに、およその大きさや形を捉え、それらに基づいて適切に判断したり、能率的な処理の仕方を考え出したりすることができるようにすること。
 - (6) 筆算による計算の技能を確実に身に付けることを重視するとともに、目的に応じて計算の結果の見積りをして、計算の仕方や結果について適切に判断できるようにすること。また、低学年の「A数と計算」の指導に当たっては、そろばんや具体物などの教具を適宜用いて、数と計算についての意味の理解を深めるよう留意すること。
- 3 数学的活動の取組においては、次の事項に配慮するものとする。
- (1) 数学的活動は、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けたり、思考力、判断力、表現力等を高めたり、算数を学ぶことの楽しさや意義を実感したりするために、重要な役割を果たすものであることから、各学年の内容の「A数と計算」、「B図形」、「C測定」、「C変化と関係」及び「Dデータの活用」に示す事項については、数学的活動を通して指導するようにすること。
 - (2) 数学的活動を楽しめるようにする機会を設けること。
 - (3) 算数の問題を解決する方法を理解するとともに、自ら問題を見だし、解決するための構想を立て、実践し、その結果を評価・改善する機会を設けること。
 - (4) 具体物、図、数、式、表、グラフ相互の関連を図る機会を設けること。
 - (5) 友達と考えを伝え合うことで学び合ったり、学習の過程と成果を振り返り、よりよく問題解決できたことを実感したりする機会を設けること。

【資料1 算数 観点一覧】

| 項目 | 観 点 |
|--------------------------------|---|
| 1 目標・内容 の取扱い | <p>算数科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 数量や図形等の基礎的・基本的な概念や性質の理解や日常の事象を数理的に処理する技能について ○ 見通しをもち道筋立てて考察する力、基礎的・基本的な内容から統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を表す力について ○ 学んだことを生活や学習に活用しようとする態度について |
| 2 人権の 取扱い | <p>人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権への配慮について ○ ユニバーサルデザインに関する配慮について |
| 3 内容の程度 | <p>児童の発達段階を考慮した内容となっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 文章の記述や分量について ○ 写真、挿絵、図、表などの資料について ○ 具体物の操作、日常の事象の観察など、具体的な体験を伴う学習について |
| 4 組織・配列 | <p>各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元配列について ○ 単元構成について ○ ページの構成（本文・写真・挿絵・図・表などの配置）について |
| 5 創意工夫 | <p>数学的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各単元の学習のはじめに扱う素材について ○ 問題を自立的、協働的に解決する学習活動について |
| 6 補充的な 学習・ 発展的な 学習 | <p>学習した内容を確実に習得できるよう、学習の内容や過程などを振り返ったり、児童の興味・関心に応じて学習を深め広げたりすることができるよう配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 資料やコラムなど |

| 項目 | 観 点 |
|--------------------|---|
| 1 目標・内容 の取扱い | 算数科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。 ○ 数量や図形等の基礎的・基本的な概念や性質の理解や日常の事象を数理的に処理する技能について ○ 見通しをもち道筋立てて考察する力、基礎的・基本的な内容から統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を表す力について ○ 学んだことを生活や学習に活用しようとする態度について |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|--|
| 東 書 | 算数科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられている。 ○ 基礎的・基本的な概念や性質について理解し、日常の事象を数理的に処理する技能が身につくよう、適切な課題が設定されている。 ○ 数学的な見方・考え方を「虫めがねマーク」で示すこと等で、見通しをもち、筋道を立てて、思考・判断・表現することができる内容となっている。 ○ 「いかしてみよう」で、学習したことを生活の中で生かすことができるよう取り扱われている。 |
| 大日本 | 算数科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられている。 ○ 基礎的・基本的な概念や性質について理解し、日常の事象を数理的に処理する技能が身につくよう、適切な課題が設定されている。 ○ 数学的な見方・考え方を「ひらめきアイテム」として示すこと等で、見通しをもち、筋道を立てて、思考・判断・表現することができる内容となっている。 ○ 低学年での「おうちで算数」や「算数たまたまばこ」で、学習したことを生活の中で生かすことができるよう取り扱われている。 |
| 学 図 | 算数科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられている。 ○ 基礎的・基本的な概念や性質について理解し、日常の事象を数理的に処理する技能が身につくよう、適切な課題が設定されている。 ○ 数学的な見方・考え方を複数のキャラクターで示すこと等で、見通しをもち、筋道を立てて、思考・判断・表現することができる内容となっている。 ○ 「活動!!」「アクティブ!!」「深めよう」で、学習したことを生活の中で生かすことができるよう取り扱われている。 |

【資料1 算数】

| | |
|------------|--|
| <p>教 出</p> | <p>算数科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎的・基本的な概念や性質について理解し、日常の事象を数理的に処理する技能が身につくよう、適切な課題が設定されている。 ○ 数学的な見方・考え方を、「なるほどマーク」で示すこと等で、見通しをもち、筋道を立てて、思考・判断・表現することができる内容となっている。 ○ 「学んだことをつかおう」や「広がる算数」で、学習したことを生活の中で生かすことができるよう取り扱われている。 |
| <p>啓林館</p> | <p>算数科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎的・基本的な概念や性質について理解し、日常の事象を数理的に処理する技能が身につくよう、適切な課題が設定されている。 ○ 数学的な見方・考え方を、子どもの考えや吹き出し、単元末の「ふりかえろう」で示すこと等で、見通しをもち、筋道を立てて、思考・判断・表現することができる内容となっている。 ○ 「わくわく算数ひろば」で、学習したことを生活の中で生かすことができるよう取り扱われている。 |
| <p>日 文</p> | <p>算数科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎的・基本的な概念や性質について理解し、日常の事象を数理的に処理する技能が身につくよう、適切な課題が設定されている。 ○ 数学的な見方・考え方を「鍵マーク」で示すこと等で、見通しをもち、筋道を立てて、思考・判断・表現することができる内容となっている。 ○ 「ハロー！算数」「Hello! Math」で、学習したことを生活の中で生かすことができるよう取り扱われている。 |

| 項目 | 観 点 |
|---------------------|---|
| 2 人 権 の 取 扱 い | <p>人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権への配慮について ○ ユニバーサルデザインに関する配慮について |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|--|
| 東 書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 文章、写真、挿絵、図、資料など、人権尊重の観点から配慮されている。例えば、登場する男女の数や服装の色などが偏りのないよう配慮されている。また、4年「角の大きさ」では、スロープの角度が取り扱われている。 ○ ユニバーサルデザインの観点から、フォントや配置、色、図などが工夫され、すべての児童にとって扱いやすいよう配慮されている。 |
| 大日本 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 文章、写真、挿絵、図、資料など、人権尊重の観点から配慮されている。例えば、登場する男女の数等に偏りがなく、また、挿絵のキャラクターの一人に、外国にルーツがあると思われる子どもが登場している。また、数学的に点字のしくみを紹介している。 ○ ユニバーサルデザインの観点から、フォントや配置、色、図などが工夫され、すべての児童にとって扱いやすいよう配慮されている。 |
| 学 図 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 文章、写真、挿絵、図、資料など、人権尊重の観点から配慮されている。例えば、登場する男女の数や役割に偏りがなく配慮されている。また、外国にルーツがあると思われる児童のイラストも掲載されている。 ○ ユニバーサルデザインの観点から、フォントや配置、色、図などが工夫され、すべての児童にとって扱いやすいよう配慮されている。 |
| 教 出 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 文章、写真、挿絵、図、資料など、人権尊重の観点から配慮されている。例えば、登場する男女の数や役割に偏りがなく配慮されている。また、6年では、数学的に点字のしくみを紹介している。 ○ ユニバーサルデザインの観点から、フォントや配置、色、図などが工夫され、すべての児童にとって扱いやすいよう配慮されている。 |
| 啓林館 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 文章、写真、挿絵、図、資料など、人権尊重の観点から配慮されている。例えば、登場する男女の数や役割に偏りがなく配慮されている。また、車いすを使用している子どもや車いすマラソン大会のイラストが掲載されている。 ○ ユニバーサルデザインの観点から、フォントや配置、色、図などが工夫され、すべての児童にとって扱いやすいよう配慮されている。 |

【資料1 算数】

| | |
|-----|---|
| 日 文 | <ul style="list-style-type: none">○ 文章、写真、挿絵、図、資料など、人権尊重の観点から配慮されている。例えば、登場する男女の数や役割に偏りが無いよう配慮されている。また、外国にルーツがあると思われる児童のイラストも掲載されている。 ○ ユニバーサルデザインの観点から、フォントや配置、色、図などが工夫され、すべての児童にとって扱いやすいよう配慮されている。 |
|-----|---|

| 項目 | 観 点 |
|------------|---|
| 3 内容の程度 | <p>児童の発達段階を考慮した内容となっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 文章の記述や分量について ○ 写真、挿絵、図、表などの資料について ○ 具体物の操作、日常の事象の観察など、具体的な体験を伴う学習について |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|--|
| 東 書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 文章の記述や分量について、児童の発達段階を考慮した内容となっている。1年生の最初の2単元は、サイズの大きな分冊としている。 ○ 写真、挿絵、図、表などの資料が発達段階を考慮したものになっている。例えば、1年では、基本となる数の合成・分解の関係を捉えさせるため、具体的な活動から抽象的な思考へと、段階的に適切な資料が取り扱われている。 ○ 児童の発達段階に応じて、具体的な体験を伴う学習活動が行われるよう配慮されている。例えば、1年「かたちであそぼう」では、箱やボールなどの様々な形に触れる活動、5年では、巻末資料の三角形や四角形を用いて角度や合同について考える活動などが取り扱われている。 |
| 大日本 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 文章の記述や分量について、児童の発達段階を考慮した内容となっている。 ○ 写真、挿絵、図、表などの資料が発達段階を考慮したものになっている。例えば、1年では、基本となる数の合成・分解の関係を捉えさせるため、具体的な活動から抽象的な思考へと、段階的に適切な資料が取り扱われている。 ○ 児童の発達段階に応じて、具体的な体験を伴う学習活動が行われるよう配慮されている。例えば、3年では、校庭のトラックで1kmを歩く時間を予想してから実際に歩いて時間を計る活動、5年では、巻末資料の三角形や四角形を用いて角度や合同について考える活動などが取り扱われている。 |
| 学 図 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 文章の記述や分量について、児童の発達段階を考慮した内容となっている。 ○ 写真、挿絵、図、表などの資料が発達段階を考慮したものになっている。例えば、1年では、基本となる数の合成・分解の関係を捉えさせるため、具体的な活動から抽象的な思考へと、段階的に適切な資料が取り扱われている。 ○ 児童の発達段階に応じて、具体的な体験を伴う学習活動が行われるよう配慮されている。例えば、1年「たしざん」「ひきざん」では、カード取りやカード合わせ、大きさ比べなどの計算カードを用いた活動、5年では、巻末資料の三角形や四角形を用いて角度や合同について考える活動などが取り扱われている。 |

【資料1 算数】

| | |
|------------|--|
| <p>教 出</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 文章の記述や分量について、児童の発達段階を考慮した内容となっている。 ○ 写真、挿絵、図、表などの資料が発達段階を考慮したものになっている。例えば、1年では、基本となる数の合成・分解の関係を捉えさせるため、具体的な活動から抽象的な思考へと、段階的に適切な資料が取り扱われている。 ○ 児童の発達段階に応じて、具体的な体験を伴う学習活動が行われるよう配慮されている。例えば、2年「長さ」の単元では、ブロック・乾電池・1円玉・クレヨンなど身の回りの具体物を操作する活動、5年では、巻末資料の三角形や四角形を用いて角度や合同について考える活動などが取り扱われている。 |
| <p>啓林館</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 文章の記述や分量について、児童の発達段階を考慮した内容となっている。 ○ 写真、挿絵、図、表などの資料が発達段階を考慮したものになっている。例えば、1年では、基本となる数の合成・分解の関係を捉えさせるため、具体的な活動から抽象的な思考へと、段階的に適切な資料が取り扱われている。 ○ 児童の発達段階に応じて、具体的な体験を伴う学習活動が行われるよう配慮されている。例えば、1年「ふえたりへったり」では、見開き左ページの人数が増減する場面の挿絵を見ながら右ページにブロックで操作する活動、5年では、巻末資料の三角形や四角形を用いて角度や合同について考える活動などが取り扱われている。 |
| <p>日 文</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 文章の記述や分量について、児童の発達段階を考慮した内容となっている。 ○ 写真、挿絵、図、表などの資料が発達段階を考慮したものになっている。例えば、1年では、基本となる数の合成・分解の関係を捉えさせるため、具体的な活動から抽象的な思考へと、段階的に適切な資料が取り扱われている。 ○ 児童の発達段階に応じて、具体的な体験を伴う学習活動が行われるよう配慮されている。例えば、3年「時間の計算と短い時間」では、ストップウォッチを使って短い時間をゲーム的に体験する活動、5年では、巻末資料の三角形や四角形を用いて角度や合同について考える活動などが取り扱われている。 |

| 項目 | 観 点 |
|------------|--|
| 4 組織・配列 | <p>各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元配列について ○ 単元構成について ○ ページの構成（本文・写真・挿絵・図・表などの配置）について |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|--|
| 東 書 | <p>各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年間を通して、各領域を学習できるよう配列されている。単元配列を一覧で確認することができる巻頭のもくじでは、それまでに学習した関連単元を明示するとともに、それ以降に学習する関連単元も示されている。 ○ 生活の中にある算数やこれまでに学習してきたことなどについて話し合いながらめあてをつくり、課題解決的に問題に取り組んでいく構成になっている。単元の終わりのまとめには「いかしてみよう」「たしかめよう」「つないでいこう算数の目」などが配置されている。 ○ 効果的な指導が行われるよう、本文・写真・挿絵・図・表などが適切に配置されている。他教科と関連している箇所をマークで示している。 |
| 大日本 | <p>各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年間を通して、各領域を学習できるよう配列されている。単元配列を一覧で確認することができる巻頭のもくじでは、それまでに学習した関連単元を明示するとともに、それ以降に学習する関連単元も示し、学習する内容に応じて単元番号が色分けされている。 ○ 身近な生活の中で出てくる疑問を導入で扱い、課題解決的に問題に取り組んでいく構成となっている。単元の終わりには「たしかめ問題」「読み取る力をのばそう」などが配置されている。 ○ 効果的な指導が行われるよう、本文・写真・挿絵・図・表などが適切に配置されている。他教科と関連している箇所をマークで示している。 |

【資料1 算数】

| | |
|------------|--|
| <p>学 図</p> | <p>各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年間を通して、各領域を学習できるよう配列されている。単元配列を一覧で確認することができる巻頭のもくじでは、それまでに学習した関連単元が明示されている。 ○ 「もんだい」で生活の中や算数の中から問題を見つけ、「知りたいな」や「くらべたいな」などの中で、課題解決的に問題に取り組んでいく構成となっている。単元の終わりには「たしかめたいな」「やってみたいな」などが配置されている。 ○ 効果的な指導が行われるよう、本文・写真・挿絵・図・表などが適切に配置されている。 |
| <p>教 出</p> | <p>各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年間を通して、各領域を学習できるよう配列されている。単元配列を一覧で確認することができる巻頭のもくじでは、それまでに学習した関連単元が明示されている。 ○ 各単元前の「どんな学習がはじまるのかな？」で身近な題材から問題を見つけ、課題解決的に問題に取り組んでいく構成となっている。単元ごとに学習したことを日常場面に活用する「学んだことをつかおう」などが設定されている。 ○ 効果的な指導が行われるよう、本文・写真・挿絵・図・表などが適切に配置されている。 |

| | |
|-----|---|
| 啓林館 | <p>各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年間を通して、各領域を学習できるよう配列されている。単元配列を一覧で確認することができる巻頭のもくじでは、それまでに学習した関連単元が明示されている。 ○ 各単元の導入のページで、身のまわりの疑問からみんなで考える問題を設定し、課題解決的に問題に取り組んでいく構成となっている。単元の終わりには「学びのまとめ」として「たしかめよう」「ふりかえろう」「やってみよう」などが配置されている。 ○ 効果的な指導が行われるよう、本文・写真・挿絵・図・表などが適切に配置されている。 |
| 日 文 | <p>各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年間を通して、各領域を学習できるよう配列されている。単元配列を一覧で確認することができる巻頭のもくじでは、それまでに学習した関連単元を明示するとともに、以降の学年で学習する関連単元も示されている。 ○ 「次の学習のために」で、これまでに学んだことをふりかえった後、単元が始まる。単元の導入は、操作活動や身の回りの観察などで課題を見つけ、課題解決的に問題に取り組んでいく構成となっている。単元の終わりには「たしかめポイント」などが配置されている。 ○ 効果的な指導が行われるよう、本文・写真・挿絵・図・表などが適切に配置されている。 |

【資料1 算数】

| 項目 | 観 点 |
|-----------|---|
| 5 創意工夫 | <p>数学的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各単元の学習のはじめに扱う素材について ○ 問題を自立的、協働的に解決する学習活動について |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|--|
| 東 書 | <p>数学的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の導入では、日常の事象や児童の生活体験を基にした題材が扱われている。例えば、5年「単位量あたりの大きさ」の単元では、学校のうさぎ小屋を扱い、「うさぎ小屋の面積」と「うさぎの数」の二つの量が扱われている。 ○ 児童が主体的に考えられる課題が設定され、その課題解決に向けて、吹き出しでの問いかけやアドバイスで、自分で考えることや、友だちと話し合うことが促されている。また、「学びのとびら」や「今日の深い学び」で学習の進め方が説明されている。 |
| 大日本 | <p>数学的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の導入場面で「じっくり深く、学び合おう！」とタグ付けされた問題があり、単元の中で、特によく考えて、話し合うべき問題を明示している。例えば、5年「単位量あたりの大きさ」の単元では、遠足でお弁当を食べる場面を扱い、「シートの枚数」と「子どもの人数」の二つの量が扱われている。 ○ 児童が主体的に考えられる課題が設定され、その課題解決に向けて、吹き出しでの問いかけやアドバイスで、自分で考えることや、友だちと話し合うことが促されている。また、「算数まなびナビ」で学習の進め方が説明されている。 |

| | |
|-----|---|
| 学 図 | <p>数学的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元前に「?を発見」が設定されており、日常生活などの身近なことや既習事項から問題が発見できるようマンガ形式の導入を用いている。例えば、5年「単位量あたりの大きさ」の単元では、子どもがマットの上に乗っている場面を扱い、「マットの数」と「子どもの人数」の二つの量が扱われている。 ○ 児童が主体的に考えられる課題が設定され、その課題解決に向けて、吹き出しでの問いかけやアドバイスで、自分で考えることや、友だちと話し合うことが促されている。また、「3つの学び方で学習を進めよう」で学習の進め方が説明されている。 |
| 教 出 | <p>数学的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 2年以上では、単元導入時の「どんな学習が始まるかな？」で、身のまわりの具体物を多く取り入れた問題場面を設定している。例えば、5年「単位量あたりの大きさ」の単元では、子ども会の旅行での宿泊場面を扱い、「畳の枚数」と「子どもの人数」の二つの量が扱われている。 ○ 児童が主体的に考えられる課題が設定され、その課題解決に向けて、吹き出しでの問いかけやアドバイスで、自分で考えることや、友だちと話し合うことが促されている。また、「算数をはじめよう！」で学習の進め方が説明されている。 |
| 啓林館 | <p>数学的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新しい学習のはじめに「単元のとびら」を設定し、日常の事象や既習事項から問題を見出し、問題解決に取り組むように構成されている。例えば、5年「単位量あたりの大きさ」の単元では、旅行での宿泊場面を扱い、「畳の枚数」と「子どもの人数」の二つの量が扱われている。 ○ 児童が主体的に考えられる課題が設定され、その課題解決に向けて、吹き出しでの問いかけやアドバイスで、自分で考えることや、友だちと話し合うことが促されている。また、「学習の進め方」で学習方法が説明されている。 |

【資料1 算数】

| | |
|-----|---|
| 日 文 | <p>数学的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none">○ 単元の導入では、児童の興味や好奇心に働きかけるような題材が扱われている。例えば、5年「単位量あたりの大きさ」の単元では、公園でシートを広げている場面を扱い、「シートの枚数」と「子どもの人数」の二つの量が扱われている。○ 児童が主体的に考えられる課題が設定され、その課題解決に向けて、吹き出しでの問いかけやアドバイスで、自分で考えることや、友だちと話し合うことが促されている。また、「学び方ガイド」で学習の進め方が説明されている。 |
|-----|---|

| 項目 | 観 点 |
|----------------------------------|---|
| 6 補充的な 学 習・ 発展的な 学 習 | <p>学習した内容を確実に習得できるよう、学習の内容や過程などを振り返ったり、児童の興味・関心に応じて学習を深め広げたりすることができるよう配慮されているか。</p> <p>○ 資料やコラムなど</p> |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|--|
| 東 書 | <p>○ 単元末や巻末に「たしかめよう」「つないでいこう 算数の目」「ほじゅうのもんだい」「おもしろ問題にチャレンジ」「ふりかえりコーナー」などが設けられ、学習を振り返り、深めることができるよう配慮されている。</p> <p>なお、Dマークのあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p> |
| 大日本 | <p>○ 単元末や巻末に「復習」「ふくろう先生のなるほど算数教室」「プラスワン」「前学年までのまとめ」「ひらめきアイテム集」などが設けられ、学習を振り返り、深めることができるよう配慮されている。</p> <p>なお、ウェブマークのあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p> |
| 学 図 | <p>○ 単元末や巻末に「できるようになったこと」「深めよう」「学年の復習」「今の自分を知ろう」「ほじゅう問題」などが設けられ、学習を振り返り、深めることができるよう配慮されている。</p> <p>なお、QRコードのあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p> |
| 教 出 | <p>○ 単元末や巻末に「たしかめよう」「算数ワールド」「学年のまとめ」「ステップアップ算数」「広がる算数」などが設けられ、学習を振り返り、深めることができるよう配慮されている。</p> <p>なお、「まなびリンク」のあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p> |
| 啓林館 | <p>○ 単元末や巻末に「学びのまとめ」「わくわく算数ひろば」「復習」「もうすぐ○年生」「学びのサポート」などが設けられ、学習を振り返り、深めることができるよう配慮されている。</p> <p>なお、QRコードのあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p> |
| 日 文 | <p>○ 単元末や巻末に「まちがいやすい問題」「たしかめポイント」「次の学習のために」「学年のまとめ」「算数マイトライ」などが設けられ、学習を振り返り、深めることができるよう配慮されている。</p> <p>なお、WEBマークのあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p> |

【資料2 算数】

○ 各領域を取り扱っているページ数と総ページ数に占める割合

| | 東書 | | 大日本 | | 学図 | | 教出 | | 啓林館 | | 日文 | |
|------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| | 頁数 | 割合 | 頁数 | 割合 | 頁数 | 割合 | 頁数 | 割合 | 頁数 | 割合 | 頁数 | 割合 |
| A 数と計算 | 809 | 49% | 729 | 48% | 830 | 47% | 808 | 47% | 828 | 49% | 820 | 47% |
| B 図形 | 321 | 19% | 312 | 20% | 371 | 21% | 363 | 21% | 312 | 18% | 361 | 21% |
| C 測定・変化と関係 | 201 | 12% | 184 | 12% | 239 | 14% | 195 | 12% | 229 | 14% | 203 | 12% |
| D データの活用 | 93 | 6% | 105 | 7% | 135 | 8% | 118 | 7% | 108 | 6% | 99 | 6% |
| その他 | 232 | 14% | 198 | 13% | 189 | 10% | 220 | 13% | 223 | 13% | 251 | 14% |
| 計 | 1656 | 100% | 1528 | 100% | 1764 | 100% | 1704 | 100% | 1700 | 100% | 1734 | 100% |

○ プログラミングについて取り上げている題材数

| | 東書 | 大日本 | 学図 | 教出 | 啓林館 | 日文 |
|---------------------------|-------------|-------------|-------------|-----------|-------------|-----------|
| プログラミングについて取り上げている題材数(学年) | 3 (5・6年) | 6 (1～6年) | 6 (1～6年) | 1 (5年) | 2 (5・6年) | 1 (5年) |

○ 各観点について取り上げている箇所数

| | 東書 | 大日本 | 学図 | 教出 | 啓林館 | 日文 |
|-------------------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 学習したことを日常生活に活用する場面について取り上げている箇所数 | 47 | 75 | 78 | 111 | 87 | 76 |
| 他教科に関連した内容について取り上げている箇所数 | 67 | 82 | 66 | 90 | 76 | 78 |
| 演算決定に関わる図が提示されている箇所数 | 159 | 149 | 152 | 163 | 112 | 137 |
| 対話的な学びにつながる箇所数 | 146 | 132 | 183 | 86 | 100 | 155 |
| 吹き出し等の「…」の部分を考えることでめあてに向かうことができる箇所数 | 545 | 238 | 115 | 197 | 210 | 147 |
| デジタルコンテンツの箇所数 | 85 | 86 | 28 | 102 | 358 | 34 |

理 科

学習指導要領（理科）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1～8
 資料 1・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9～22
 資料 2・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

| 発行者の 番号・略号 | 書 名 | 著 者 者 | 資料中 の表記 |
|---------------|------------------|------------------------|------------|
| 2 東 書 | 新しい理科 | 毛利 衛 大島 まり ほか 101名 | 東 書 |
| 4 大日本 | たのしい理科 | 有馬 朗人 ほか 57名 | 大日本 |
| 11 学 図 | みんなと学ぶ 小学校 理科 | 霜田 光一 森本 信也 ほか 44名 | 学 図 |
| 17 教 出 | 未来をひらく 小学理科 | 養老 孟司 角屋 重樹 ほか 30名 | 教 出 |
| 26 信 教 | 楽しい理科 | 村松 久和 | 信 教 |
| 61 啓林館 | わくわく理科 | 石浦 章一 鎌田 正裕 ほか 105名 | 啓林館 |

第2章 各教科

第4節 理科

第1 目標

自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 自然の事物・現象についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、問題解決の力を養う。
- (3) 自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を養う。

第2 各学年の目標及び内容

[第3学年]

1 目標

(1) 物質・エネルギー

- ① 物の性質、風とゴムの力の働き、光と音の性質、磁石の性質及び電気の回路についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- ② 物の性質、風とゴムの力の働き、光と音の性質、磁石の性質及び電気の回路について追究する中で、主に差異点や共通点を基に、問題を見いだす力を養う。
- ③ 物の性質、風とゴムの力の働き、光と音の性質、磁石の性質及び電気の回路について追究する中で、主体的に問題解決しようとする態度を養う。

(2) 生命・地球

- ① 身の回りの生物、太陽と地面の様子についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- ② 身の回りの生物、太陽と地面の様子について追究する中で、主に差異点や共通点を基に、問題を見いだす力を養う。
- ③ 身の回りの生物、太陽と地面の様子について追究する中で、生物を愛護する態度や主体的に問題解決しようとする態度を養う。

2 内容

A 物質・エネルギー

(1) 物と重さ

物の性質について、形や体積に着目して、重さを比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 物は、形が変わっても重さは変わらないこと。

(イ) 物は、体積が同じでも重さは違うことがあること。

イ 物の形や体積と重さとの関係について追究する中で、差異点や共通点を基に、物の性質についての問題を見だし、表現すること。

(2) 風とゴムの力の働き

風とゴムの力の働きについて、力と物の動く様子に着目して、それらを比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 風の力は、物を動かすことができること。また、風の力の大きさを変えると、物が動く様子も変わること。

(イ) ゴムの力は、物を動かすことができること。また、ゴムの力の大きさを変えると、物が動く様子も変わること。

イ 風とゴムの力で物が動く様子について追究する中で、差異点や共通点を基に、風とゴムの力の働きについての問題を見だし、表現すること。

(3) 光と音の性質

光と音の性質について、光を当てたときの明るさや暖かさ、音を出したときの震え方に着目して、光の強さや音の大きさを変えたときの違いを比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 日光は直進し、集めたり反射させたりできること。

(イ) 物に日光を当てると、物の明るさや暖かさが変わること。

- (ウ) 物から音が出たり伝わったりするとき、物は震えていること。また、音の大きさが変わるとき物の震え方が変わること。
- イ 光を当てたときの明るさや暖かさの様子、音を出したときの震え方の様子について追究する中で、差異点や共通点を基に、光と音の性質についての問題を見だし、表現すること。
- (4) 磁石の性質
磁石の性質について、磁石を身の回りの物に近付けたときの様子に着目して、それらを比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。
(ア) 磁石に引き付けられる物と引き付けられない物があること。また、磁石に近づけると磁石になる物があること。
(イ) 磁石の異極は引き合い、同極は退け合うこと。
イ 磁石を身の回りの物に近づけたときの様子について追究する中で、差異点や共通点を基に、磁石の性質についての問題を見だし、表現すること。
- (5) 電気の通り道
電気の回路について、乾電池と豆電球などのつなぎ方と乾電池につないだ物の様子に着目して、電気を通すときと通さないときのつなぎ方を比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。
(ア) 電気を通すつなぎ方と通さないつなぎ方があること。
(イ) 電気を通す物と通さない物があること。
イ 乾電池と豆電球などのつなぎ方と乾電池につないだ物の様子について追究する中で、差異点や共通点を基に、電気の回路についての問題を見だし、表現すること。
- B 生命・地球
- (1) 身の回りの生物
身の回りの生物について、探したり育てたりする中で、それらの様子や周辺の環境、成長の過程や体のつくりに着目して、それらを比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。
(ア) 生物は、色、形、大きさなど、姿に違いがあること。また、周辺の環境と関わって生きていること。
(イ) 昆虫の育ち方には一定の順序があること。また、成虫の体は頭、胸及び腹からできていること。
(ウ) 植物の育ち方には一定の順序があること。また、その体は根、茎及び葉からできていること。
イ 身の回りの生物の様子について追究する中で、差異点や共通点を基に、身の回りの生物と環境との関わり、昆虫や植物の成長のきまりや体のつくりについての問題を見だし、表現すること。
- (2) 太陽と地面の様子
太陽と地面の様子との関係について、日なたと日陰の様子に着目して、それらを比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。
(ア) 日陰は太陽の光を遮るとでき、日陰の位置は太陽の位置の変化によって変わること。
(イ) 地面は太陽によって暖められ、日なたと日陰では地面の暖かさや湿り気に違いがあること。
イ 日なたと日陰の様子について追究する中で、差異点や共通点を基に、太陽と地面の様子との関係についての問題を見だし、表現すること。
- 3 内容の取扱い
- (1) 内容の「A物質・エネルギー」の指導に当たっては、3種類以上のものづくりを行うものとする。
- (2) 内容の「A物質・エネルギー」の(4)のアの(ア)については、磁石が物を引き付ける力は、磁石と物の距離によって変わることにも触れること。
- (3) 内容の「B生命・地球」の(1)については、次のとおり取り扱うものとする。
ア アの(イ)及び(ウ)については、飼育、栽培を通して行うこと。
イ アの(ウ)の「植物の育ち方」については、夏生一年生の双子葉植物を扱うこと。
- (4) 内容の「B生命・地球」の(2)のアの(ア)の「太陽の位置の変化」については、東から南、西へと変化することを取り扱うものとする。また、太陽の位置を調べるときの方位は東、西、南、北を扱うものとする。

[第4学年]

1 目標

(1) 物質・エネルギー

- ① 空気、水及び金属の性質、電流の働きについての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。

- ② 空気、水及び金属の性質、電流の働きについて追究する中で、主に既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想する力を養う。
 - ③ 空気、水及び金属の性質、電流の働きについて追究する中で、主体的に問題解決しようとする態度を養う。
- (2) 生命・地球
- ① 人の体のつくりと運動、動物の活動や植物の成長と環境との関わり、雨水の行方と地面の様子、気象現象、月や星についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
 - ② 人の体のつくりと運動、動物の活動や植物の成長と環境との関わり、雨水の行方と地面の様子、気象現象、月や星について追究する中で、主に既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想する力を養う。
 - ③ 人の体のつくりと運動、動物の活動や植物の成長と環境との関わり、雨水の行方と地面の様子、気象現象、月や星について追究する中で、生物を愛護する態度や主体的に問題解決しようとする態度を養う。

2 内容

A 物質・エネルギー

(1) 空気と水の性質

空気と水の性質について、体積や^お押し返す力の変化に着目して、それらと圧す力とを関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 閉じ込めた空気を^お押しすると、体積は小さくなるが、押し返す力は大きくなること。

(イ) 閉じ込めた空気は押し縮められるが、水は押し縮められないこと。

イ 空気と水の性質について追究する中で、既習の内容や生活経験を基に、空気と水の体積や^お押し返す力の変化と圧す力との関係について、根拠のある予想や仮説を発想し、表現すること。

(2) 金属、水、空気と温度

金属、水及び空気の性質について、体積や状態の変化、熱の伝わり方に着目して、それらと温度の変化とを関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 金属、水及び空気は、温めたり冷やしたりすると、それらの体積が変わるが、その程度には違いがあること。

(イ) 金属は熱せられた部分から順に温まるが、水や空気は熱せられた部分が移動して全体が温まること。

(ウ) 水は、温度によって水蒸気や氷に変わること。また、水が氷になると体積が増えること。

イ 金属、水及び空気の性質について追究する中で、既習の内容や生活経験を基に、金属、水及び空気の温度を変化させたときの体積や状態の変化、熱の伝わり方について、根拠のある予想や仮説を発想し、表現すること。

(3) 電流の働き

電流の働きについて、電流の大きさや向きと乾電池につないだ物の様子に着目して、それらと関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 乾電池の数やつなぎ方を変えると、電流の大きさや向きが変わり、豆電球の明るさやモーターの回り方が変わること。

イ 電流の働きについて追究する中で、既習の内容や生活経験を基に、電流の大きさや向きと乾電池につないだ物の様子との関係について、根拠のある予想や仮説を発想し、表現すること。

B 生命・地球

(1) 人の体のつくりと運動

人や他の動物について、骨や筋肉のつくりと働きに着目して、それらと関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 人の体には骨と筋肉があること。

(イ) 人が体を動かすことができるのは、骨、筋肉の働きによること。

イ 人や他の動物について追究する中で、既習の内容や生活経験を基に、人や他の動物の骨や筋肉のつくりと働きについて、根拠のある予想や仮説を発想し、表現すること。

(2) 季節と生物

身近な動物や植物について、探したり育てたりする中で、動物の活動や植物の成長と季節の変化に着目して、それらと関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

- (ア) 動物の活動は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあること。
 (イ) 植物の成長は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあること。
- イ 身近な動物や植物について追究する中で、既習の内容や生活経験を基に、季節ごとの動物の活動や植物の成長の変化について、根拠のある予想や仮説を発想し、表現すること。
- (3) 雨水の行方と地面の様子
 雨水の行方と地面の様子について、流れ方やしみ込み方に着目して、それらと地面の傾きや土の粒の大きさを関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。
 (ア) 水は、高い場所から低い場所へと流れて集まること。
 (イ) 水のはみ込み方は、土の粒の大きさによって違いがあること。
 イ 雨水の行方と地面の様子について追究する中で、既習の内容や生活経験を基に、雨水の流れ方やしみ込み方と地面の傾きや土の粒の大きさとの関係について、根拠のある予想や仮説を発想し、表現すること。
- (4) 天気の様子
 天気や自然界の水の様子について、気温や水の行方に着目して、それらと天気の様子や水の状態変化とを関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。
 (ア) 天気によって1日の気温の変化の仕方に違いがあること。
 (イ) 水は、水面や地面などから蒸発し、水蒸気になって空気中に含まれていくこと。また、空気中の水蒸気は、結露して再び水になって現れることがあること。
 イ 天気や自然界の水の様子について追究する中で、既習の内容や生活経験を基に、天気の様子や水の状態変化と気温や水の行方との関係について、根拠のある予想や仮説を発想し、表現すること。
- (5) 月と星
 月や星の特徴について、位置の変化や時間の経過に着目して、それらを関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。
 (ア) 月は日によって形が変わって見え、1日のうちでも時刻によって位置が変わること。
 (イ) 空には、明るさや色の違う星があること。
 (ウ) 星の集まりは、1日のうちでも時刻によって、並び方は変わらないが、位置が変わること。
 イ 月や星の特徴について追究する中で、既習の内容や生活経験を基に、月や星の位置の変化と時間の経過との関係について、根拠のある予想や仮説を発想し、表現すること。
- 3 内容の取扱い
 (1) 内容の「A物質・エネルギー」の(3)のアの(ア)については、直列つなぎと並列つなぎを扱うものとする。
 (2) 内容の「A物質・エネルギー」の指導に当たっては、2種類以上のものづくりを行うものとする。
 (3) 内容の「B生命・地球」の(1)のアの(イ)については、関節の働きを扱うものとする。
 (4) 内容の「B生命・地球」の(2)については、1年を通じて動物の活動や植物の成長をそれぞれ2種類以上観察するものとする。

[第5学年]

1 目 標

(1) 物質・エネルギー

- ① 物の溶け方、振り子の運動、電流がつくる磁力についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
 ② 物の溶け方、振り子の運動、電流がつくる磁力について追究する中で、主に予想や仮説を基に、解決の方法を発想する力を養う。
 ③ 物の溶け方、振り子の運動、電流がつくる磁力について追究する中で、主体的に問題解決しようとする態度を養う。

(2) 生命・地球

- ① 生命の連続性、流れる水の働き、気象現象の規則性についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
 ② 生命の連続性、流れる水の働き、気象現象の規則性について追究する中で、主に予想や仮説を基に、解決の方法を発想する力を養う。
 ③ 生命の連続性、流れる水の働き、気象現象の規則性について追究する中で、生命を尊重する態度や主体的に問題解決しようとする態度を養う。

2 内 容

A 物質・エネルギー

(1) 物の溶け方

物の溶け方について、溶ける量や様子に着目して、水の温度や量などの条件を制御しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 物が水に溶けても、水と物とを合わせた重さは変わらないこと。

(イ) 物が水に溶ける量には、限度があること。

(ウ) 物が水に溶ける量は水の温度や量、溶ける物によって違うこと。また、この性質を利用して、溶けている物を取り出すことができること。

イ 物の溶け方について追究する中で、物の溶け方の規則性についての予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現すること。

(2) 振り子の運動

振り子の運動の規則性について、振り子が1往復する時間に着目して、おもりの重さや振り子の長さなどの条件を制御しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 振り子が1往復する時間は、おもりの重さなどによっては変わらないが、振り子の長さによって変わること。

イ 振り子の運動の規則性について追究する中で、振り子が1往復する時間に関する条件についての予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現すること。

(3) 電流がつくる磁力

電流がつくる磁力について、電流の大きさや向き、コイルの巻数などに着目して、それらの条件を制御しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 電流の流れているコイルは、鉄心を磁化する働きがあり、電流の向きが変わると、電磁石の極も変わること。

(イ) 電磁石の強さは、電流の大きさや導線の巻数によって変わること。

イ 電流がつくる磁力について追究する中で、電流がつくる磁力の強さに関する条件についての予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現すること。

B 生命・地球

(1) 植物の発芽、成長、結実

植物の育ち方について、発芽、成長及び結実の様子に着目して、それらに関わる条件を制御しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 植物は、種子の中の養分を基にして発芽すること。

(イ) 植物の発芽には、水、空気及び温度が関係していること。

(ウ) 植物の成長には、日光や肥料などが関係していること。

(エ) 花にはおしべやめしべなどがあり、花粉がめしべの先に付くとめしべのもとが実になり、実の中に種子ができること。

イ 植物の育ち方について追究する中で、植物の発芽、成長及び結実とそれらに関わる条件についての予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現すること。

(2) 動物の誕生

動物の発生や成長について、魚を育てたり人の発生についての資料を活用したりする中で、卵や胎児の様子に着目して、時間の経過と関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 魚には雌雄があり、生まれた卵は日がつたつにつれて中の様子に変化してかえること。

(イ) 人は、母体内で成長して生まれること。

イ 動物の発生や成長について追究する中で、動物の発生や成長の様子と経過についての予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現すること。

(3) 流れる水の働きと土地の変化

流れる水の働きと土地の変化について、水の速さや量に着目して、それらの条件を制御しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 流れる水には、土地を侵食したり、石や土などを運搬したり堆積させたりする働きがあること。

(イ) 川の川上と下流によって、川原の石の大きさや形に違いがあること。

(ウ) 雨の降り方によって、流れる水の速さや量は変わり、増水により土地の様子が大きく変化する場合があること。

イ 流れる水の働きについて追究する中で、流れる水の働きと土地の変化との関係についての予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現すること。

(4) 天気の変化

天気の変化の仕方について、雲の様子を観測したり、映像などの気象情報を活用したりする中で、雲の量や動きに着目して、それらと天気の変化とを関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 天気の変化は、雲の量や動きと関係があること。

(イ) 天気の変化は、映像などの気象情報を用いて予想できること。

イ 天気の変化の仕方について追究する中で、天気の変化の仕方と雲の量や動きとの関係についての予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現すること。

3 内容の取扱い

(1) 内容の「A物質・エネルギー」の指導に当たっては、2種類以上のものづくりを行うものとする。

(2) 内容の「A物質・エネルギー」の(1)については、水溶液の中では、溶けている物が均一に広がることにも触れること。

(3) 内容の「B生命・地球」の(1)については、次のとおり取り扱うものとする。

ア アの(ア)の「種子の中の養分」については、でんぷんを扱うこと。

イ アの(エ)については、おしべ、めしべ、がく及び花びらを扱うこと。また、受粉については、風や昆虫などが関係していることにも触れること。

(4) 内容の「B生命・地球」の(2)の(イ)については、人の受精に至る過程は取り扱わないものとする。

(5) 内容の「B生命・地球」の(3)の(ウ)については、自然災害についても触れること。

(6) 内容の「B生命・地球」の(4)の(イ)については、台風の進路による天気の変化や台風と降雨との関係及びそれに伴う自然災害についても触れること。

[第6学年]

1 目標

(1) 物質・エネルギー

① 燃焼の仕組み、水溶液の性質、てこの規則性及び電気の性質や働きについての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。

② 燃焼の仕組み、水溶液の性質、てこの規則性及び電気の性質や働きについて追究する中で、主にそれらの仕組みや性質、規則性及び働きについて、より妥当な考えをつくりだす力を養う。

③ 燃焼の仕組み、水溶液の性質、てこの規則性及び電気の性質や働きについて追究する中で、主体的に問題解決しようとする態度を養う。

(2) 生命・地球

① 生物の体のつくりと働き、生物と環境との関わり、土地のつくりと変化、月の形の見え方と太陽との位置関係についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。

② 生物の体のつくりと働き、生物と環境との関わり、土地のつくりと変化、月の形の見え方と太陽との位置関係について追究する中で、主にそれらの働きや関わり、変化及び関係について、より妥当な考えをつくりだす力を養う。

③ 生物の体のつくりと働き、生物と環境との関わり、土地のつくりと変化、月の形の見え方と太陽との位置関係について追究する中で、生命を尊重する態度や主体的に問題解決しようとする態度を養う。

2 内容

A 物質・エネルギー

(1) 燃焼の仕組み

燃焼の仕組みについて、空気の変化に着目して、物の燃え方を多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 植物体が燃えるときには、空気中の酸素が使われて二酸化炭素ができること。

イ 燃焼の仕組みについて追究する中で、物が燃えたときの空気の変化について、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。

(2) 水溶液の性質

水溶液について、溶けている物に着目して、それらによる水溶液の性質や働きの違いを多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 水溶液には、酸性、アルカリ性及び中性のものがあること。

(イ) 水溶液には、気体が溶けているものがあること。

(ウ) 水溶液には、金属を変化させるものがあること。

イ 水溶液の性質や働きについて追究する中で、溶けているものによる性質や働きの違いについて、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。

(3) てこの規則性

てこの規則性について、力を加える位置や力の大きさに着目して、てこの働きを多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 力を加える位置や力の大きさを変えると、てこを傾ける働きが変わり、てこがつり合うときにはそれらの間に規則性があること。

(イ) 身の回りには、てこの規則性を利用した道具があること。

イ てこの規則性について追究する中で、力を加える位置や力の大きさとてこの働きとの関係について、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。

(4) 電気の利用

発電や蓄電、電気の変換について、電気の量や働きに着目して、それらを多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 電気は、つくりだしたり蓄えたりすることができること。

(イ) 電気は、光、音、熱、運動などに変換することができること。

(ウ) 身の回りには、電気の性質や働きを利用した道具があること。

イ 電気の性質や働きについて追究する中で、電気の量と働きとの関係、発電や蓄電、電気の変換について、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。

B 生命・地球

(1) 人の体のつくりと働き

人や他の動物について、体のつくりと呼吸、消化、排出及び循環の働きに着目して、生命を維持する働きを多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 体内に酸素が取り入れられ、体外に二酸化炭素などが出されていること。

(イ) 食べ物は、口、胃、腸などを通る間に消化、吸収され、吸収されなかった物は排出されること。

(ウ) 血液は、心臓の働きで体内を巡り、養分、酸素及び二酸化炭素などを運んでいること。

(エ) 体内には、生命活動を維持するための様々な臓器があること。

イ 人や他の動物の体のつくりと働きについて追究する中で、体のつくりと呼吸、消化、排出及び循環の働きについて、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。

(2) 植物の養分と水の通り道

植物について、その体のつくり、体内の水などの行方及び葉で養分をつくる働きに着目して、生命を維持する働きを多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 植物の葉に日光が当たるとでんぷんができること。

(イ) 根、茎及び葉には、水の通り道があり、根から吸い上げられた水は主に葉から蒸散により排出されること。

イ 植物の体のつくりと働きについて追究する中で、体のつくり、体内の水などの行方及び葉で養分をつくる働きについて、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。

(3) 生物と環境

生物と環境について、動物や植物の生活を観察したり資料を活用したりする中で、生物と環境との関わりに着目して、それらを多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 生物は、水及び空気を通して周囲の環境と関わって生きていること。

(イ) 生物の間には、食う食われるという関係があること。

(ウ) 人は、環境と関わり、工夫して生活していること。

イ 生物と環境について追究する中で、生物と環境との関わりについて、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。

(4) 土地のつくりと変化

土地のつくりと変化について、土地やその中に含まれる物に着目して、土地のつくりやでき方を多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 土地は、礫、砂、泥、火山灰などからできており、層をつくって広がっているものがあること。また、層には化石が含まれているものがあること。

(イ) 地層は、流れる水の働きや火山の噴火によってできること。

(ウ) 土地は、火山の噴火や地震によって変化すること。

イ 土地のつくりと変化について追究する中で、土地のつくりやでき方について、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。

(5) 月と太陽

月の形の見え方について、月と太陽の位置に着目して、それらの位置関係を多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 月の輝いている側に太陽があること。また、月の形の見え方は、太陽と月との位置関係によって変わること。

イ 月の形の見え方について追究する中で、月の位置や形と太陽の位置との関係について、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。

3 内容の取扱い

- (1) 内容の「A物質・エネルギー」の指導に当たっては、2種類以上のものづくりを行うものとする。
- (2) 内容の「A物質・エネルギー」の(4)のアの(ア)については、電気をつくりだす道具として、手回し発電機、光電池などを扱うものとする。
- (3) 内容の「B生命・地球」の(1)については、次のとおり取り扱うものとする。
 - ア アの(ウ)については、心臓の拍動と脈拍とが関係することにも触れること。
 - イ アの(エ)については、主な臓器として、肺、胃、小腸、大腸、肝臓、腎臓、心臓を扱うこと。
- (4) 内容の「B生命・地球」の(3)については、次のとおり取り扱うものとする。
 - ア アの(ア)については、水が循環していることにも触れること。
 - イ アの(イ)については、水中の小さな生物を観察し、それらが魚などの食べ物になっていることに触れること。
- (5) 内容の「B生命・地球」の(4)については、次のとおり取り扱うものとする。
 - ア アの(イ)については、流れる水の働きでできた岩石として礫岩、砂岩、泥岩を扱うこと。
 - イ アの(ウ)については、自然災害についても触れること。
- (6) 内容の「B生命・地球」の(5)のアの(ア)については、地球から見た太陽と月との位置関係で扱うものとする。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、理科の学習過程の特質を踏まえ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどの、問題を科学的に解決しようとする学習活動の充実を図ること。
- (2) 各学年で育成を目指す思考力、判断力、表現力等については、該当学年において育成することを目指す力のうち、主なものを示したものであり、実際の指導に当たっては、他の学年で掲げている力の育成についても十分に配慮すること。
- (3) 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
- (4) 第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、道徳科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容について、理科の特質に応じて適切な指導をすること。

2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 問題を見だし、予想や仮説、観察、実験などの方法について考えたり説明したりする学習活動、観察、実験の結果を整理し考察する学習活動、科学的な言葉や概念を使用して考えたり説明したりする学習活動などを重視することによって、言語活動が充実するようにすること。
- (2) 観察、実験などの指導に当たっては、指導内容に応じてコンピュータや情報通信ネットワークなどを適切に活用できるようにすること。また、第1章総則の第3の1の(3)のイに掲げるプログラミングを体験しながら論理的思考力を身に付けるための学習活動を行う場合には、児童の負担に配慮しつつ、例えば第2の各学年の内容の〔第6学年〕の「A物質・エネルギー」の(4)における電気の性質や働きを利用した道具があることを捉える学習など、与えた条件に応じて動作していることを考察し、更に条件を変えることにより、動作が変化することについて考える場面で取り扱うものとする。
- (3) 生物、天気、川、土地などの指導に当たっては、野外に出掛け地域の自然に親しむ活動や体験的な活動を多く取り入れるとともに、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うようにすること。
- (4) 天気、川、土地などの指導に当たっては、災害に関する基礎的な理解が図られるようにすること。
- (5) 個々の児童が主体的に問題解決の活動を進めるとともに、日常生活や他教科等との関連を図った学習活動、目的を設定し、計測して制御するという考え方に基づいた学習活動が充実するようにすること。
- (6) 博物館や科学学習センターなどと連携、協力を図りながら、それらを積極的に活用すること。

3 観察、実験などの指導に当たっては、事故防止に十分留意すること。また、環境整備に十分配慮するとともに、使用薬品についても適切な措置をとるよう配慮すること。

| 項目 | 観 点 |
|----------------------------------|---|
| 1 目標・内容 の取扱い | <p>理科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自然の事物・現象についての理解や観察、実験などに関する基本的な技能について ○ 観察、実験などを行い、問題解決の力を養うことについて ○ 自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度について |
| 2 人 権 の 取扱い | <p>人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権への配慮について ○ ユニバーサルデザインに関する配慮について ○ 自然環境への配慮や防災について <p>児童の安全について適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 安全の確保や事故防止について |
| 3 内容の程度 | <p>児童の発達段階を考慮した内容になっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 文章の記述や分量について ○ 写真、挿絵、図、表などの資料について |
| 4 組織・配列 | <p>各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元配列について ○ 単元構成について ○ ページの構成（本文・写真・挿絵・図・表などの配置）について |
| 5 創意工夫 | <p>理科の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 観察・実験を通した問題解決の活動について ○ 日常生活や社会との関連について ○ ものづくりの活動について |
| 6 補充的な 学 習・ 発展的な 学 習 | <p>学習した内容を確実に習得できるよう、学習の内容や過程などを振り返ったり、学んだことを生活に生かしたりすることができるよう配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 資料やコラムなど |

【資料1 理科】

| 項目 | 観 点 |
|--------------------|---|
| 1 目標・内容 の取扱い | <p>理科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自然の事物・現象についての理解や観察、実験などに関する基本的な技能について ○ 観察、実験などを行い、問題解決の力を養うことについて ○ 自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度について |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|--|
| 東 書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 自然の事物・現象から気づいたことや疑問に思ったことから問題をつくり、予想を立て、実験や観察をすることを通して、自然の事物・現象についての理解や基本的な技能について、身に付けられる内容が取りあげられている。 ○ 問題解決に必要な力を養うために、その過程や進め方を、巻頭の「理科の学び方」で示している。 ○ 自然の事物・現象について追究する中で、自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を育むための適切な内容が取りあげられている。 |
| 大日本 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 自然の事物・現象から気づいたことを整理し、問題をつくり、予想を立て、実験や観察をすることを通して、自然の事物・現象についての理解や基本的な技能について、身に付けられる内容が取りあげられている。 ○ 問題解決に必要な力を養うために、その過程や進め方を、巻頭の「理科の学び方」で示している。 ○ 自然の事物・現象について追究する中で、自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を育むための適切な内容が取りあげられている。 |
| 学 図 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 自然の事物・現象を比べて調べたいことを見つけ、予想を立て、実験や観察をすることを通して、自然の事物・現象についての理解や基本的な技能について、身に付けられる内容が取りあげられている。 ○ 問題解決に必要な力を養うために、その過程や進め方を、巻頭の「科学の芽を育てよう」で示している。 ○ 自然の事物・現象について追究する中で、自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を育むための適切な内容が取りあげられている。 |
| 教 出 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 自然との関わりから疑問を持ち、話し合っ調べていくことを決め、予想を立て、実験や観察をすることを通して、自然の事物・現象についての理解や基本的な技能について、身に付けられる内容が取りあげられている。 ○ 問題解決に必要な力を養うために、その過程や進め方を、巻頭の「学習の進め方」で示している。 ○ 自然の事物・現象について追究する中で、自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を育むための適切な内容が取りあげられている。 |

| | |
|-----|--|
| 信 教 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 自然とふれあい、疑問を大切にしながら、問題を見つけ、予想を立て、実験や観察をすることを通して、自然の事物・現象についての理解や基本的な技能について、身に付けられる内容が取りあげられている。 ○ 問題解決に必要な力を養うために、その過程や進め方を、巻頭の「理科の学習の進め方」で示している。 ○ 自然の事物・現象について追究する中で、自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を育むための適切な内容が取りあげられている。 |
| 啓林館 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 自然の「不思議」を見つけ、話し合ったことから問題をつくり、予想を立て、実験や観察をすることを通して、自然の事物・現象についての理解や基本的な技能について、身に付けられる内容が取りあげられている。 ○ 問題解決に必要な力を養うために、その過程や進め方を、巻頭の「自然の不思議を、とき明かそう！」で示している。 ○ 自然の事物・現象について追究する中で、自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を育むための適切な内容が取りあげられている。 |

【資料1 理科】

| 項 目 | 観 点 |
|---------------------|---|
| 2 人 権 の 取 扱 い | <p>人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権への配慮について ○ ユニバーサルデザインに関する配慮について ○ 自然環境への配慮や防災について <p>児童の安全について適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 安全の確保や事故防止について |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|---|
| 東 書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。 ○ すべての児童にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。 ○ 自然環境への配慮や防災について適切に取り扱われている。例えば、6年の学習の中で林業を営む人の話を取り扱い、他教科との関連で環境保全について考えられるようにしていたり、マークで環境保全に向けた行動を示したりしている。 ○ 児童の安全の確保や事故防止について、「きけんマーク」と赤字の活字を活用し、危険が回避できるよう配慮されている。また、巻末の「理科室の使い方」で、理科室での活動の基本的な注意点が示されている。 |
| 大日本 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。 ○ すべての児童にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。 ○ 自然環境への配慮や防災について適切に取り扱われている。例えば、5年の巻末付録に「災害に備えよう」ブックをつけ、実用的な防災行動につながるよう取りあげたり、「ESD」「かんきょう」「ぼうさい」などのマークを使って関連や行動を示したりしている。 ○ 児童の安全の確保や事故防止について、「注意マーク」と赤字の活字を活用し、危険が回避できるよう配慮されている。また、巻末の「わたしたちの理科室」で理科室での活動の配慮事項がまとめられ、実験に関するきまりが示されている。 |

| | |
|-----|--|
| 学 図 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。 ○ すべての児童にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。 ○ 自然環境への配慮や防災について適切に取り扱われている。例えば、3年の「ソーラークッカー作ろう」などで防災へのつながりを「ぼうさい」マークで示したり、別のマークで環境保全に向けた行動を示したりしている。 ○ 児童の安全の確保や事故防止について、「注意マーク」と赤字の活字を活用し、観察・実験における危険が回避できるよう配慮されている。巻末の「理科室の使い方」で、実験に関するきまりや、地震の時の対応方法などが示されている。 |
| 教 出 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。 ○ すべての児童にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。 ○ 自然環境への配慮や防災について適切に取り扱われている。例えば、6年巻末資料「環境ミニずかん」で、地球環境の保全に関する複数のコラムが掲載されている。 ○ 児童の安全の確保や事故防止について、「注意」「危険」マークと赤字の活字を活用し、危険が回避できるよう配慮されている。また、裏表紙の「理科の安全の手引き」で安全に係る基本事項が示されている。 |

【資料1 理科】

| | |
|------------|--|
| <p>信 教</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。 ○ すべての児童にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。 ○ 自然環境への配慮や防災について適切に取り扱われている。例えば、6年生の「電気の利用」や「人と環境」で省資源や環境配慮の視点を示している。 ○ 児童の安全の確保や事故防止について、「注意」マークと注意事項を赤囲みするなどし、危険を回避し安全に観察や実験ができるよう配慮されている。 |
| <p>啓林館</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。 ○ すべての児童にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。 ○ 自然環境への配慮や防災について適切に取り扱われている。例えば、4～6年では特設小単元「くらしページ」を設け、系統的に防災について学習できるようにしたり、マークで環境保全に向けた行動を示したりしている。 ○ 児童の安全の確保や事故防止について、「注意」マークに加え、「やけど」マークなど具体的に注意すべき行動について示し、危険が回避できるよう配慮されている。また、巻末の「資料室」では、器具の使い方などが示されている。 |

| 項目 | 観 点 |
|------------|--|
| 3 内容の程度 | <p>児童の発達段階を考慮した内容になっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 文章の記述や分量について ○ 写真、挿絵、図、表などの資料について |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|---|
| 東 書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の発達段階に応じた文の量とわかりやすい表現で記述されている。また、重要語句については、本文上で太字にし、巻末の「学んだことをふり返ろう！」でも取りあげられている。 ○ 写真、挿絵、図、表などの資料について、児童の発達段階を考慮した内容となっている。 |
| 大日本 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の発達段階に応じた文の量とわかりやすい表現で記述されている。また、重要語句については、本文上で太字にし、巻末の「まとめ」ページでも取りあげられている。 ○ 写真、挿絵、図、表などの資料について、児童の発達段階を考慮した内容となっている。 |
| 学 図 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の発達段階に応じた文の量とわかりやすい表現で記述されている。また、重要語句については、本文上で太字にし、同ページの本文外に「大事な言葉」として取りあげられている。 ○ 写真、挿絵、図、表などの資料について、児童の発達段階を考慮した内容となっている。 |
| 教 出 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の発達段階に応じた文の量とわかりやすい表現で記述されている。また、重要語句については、本文上で太字にし、巻末の「〇年で学んだこと」でも取りあげられている。 ○ 写真、挿絵、図、表などの資料について、児童の発達段階を考慮した内容となっている。 |
| 信 教 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の発達段階に応じた文の量とわかりやすい表現で記述されている。また、重要語句については、本文上に太字で示されている。 ○ 写真、挿絵、図、表などの資料について、児童の発達段階を考慮した内容となっている。 |
| 啓林館 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の発達段階に応じた文の量とわかりやすい表現で記述されている。また、重要語句については、本文上で太字にし、単元末の「まとめノート」のページでも取りあげられている。 ○ 写真、挿絵、図、表などの資料について、児童の発達段階を考慮した内容となっている。 |

【資料1 理科】

| 項目 | 観 点 |
|------------|--|
| 4 組織・配列 | <p>各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元配列について ○ 単元構成について ○ ページの構成（本文・写真・挿絵・図・表などの配置）について |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|---|
| 東 書 | <p>各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年間を通して、各内容を学習できるよう配列されている。巻頭のページでは、内容ごとに単元が示され、単元の系統性が一覧で確認できる。 ○ 「問題をつかむ」「調べる」「まとめる」を進め方の基本とした単元構成となっている。また、単元末の「たしかめよう」で、学習した内容を振り返ることができるよう取り扱われている。さらに、他教科との関連について「学んだことを使おう」で示されている。 ○ 課題提示やまとめ以外、主に本文はページの左に、写真・イラストなどは中央から右に配置されている。ページ左側には、問題解決学習の過程がわかるように見出しやマークが付けられている。 |
| 大日本 | <p>各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年間を通して、各内容を学習できるよう配列されている。巻頭の目次では、内容に応じて単元番号が色分けされ、単元の系統性が一覧で確認できる。 ○ 「見つけよう」「調べよう」「伝えよう」を進め方の基本とした単元構成となっている。また、単元末の「確かめよう」で、学習した内容を振り返ることができるよう取り扱われている。さらに、他教科との関連について「○○で学んだこと」で示されている。 ○ 本文、写真など、順番に配置されている。ページ上部には、問題解決学習の過程がわかるように見出しやマークが付けられている。 |

| | |
|-----|--|
| 学 図 | <p>各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年間を通して、各内容を学習できるよう配列されている。巻頭の「○年生で学ぶこと」では、内容ごとに単元が明示され、単元の系統性が一覧で確認できる。 ○ 「みつけよう」「調べよう」「まとめよう」を進め方の基本とした単元構成となっている。また、単元末の「まとめてみよう」で、学習した内容を振り返ることができるよう取り扱われている。 ○ 本文、写真など、順番に配置されている。ページ左側と下部には、問題解決学習の過程がわかるように見出しやマークが付けられている。 |
| 教 出 | <p>各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年間を通して、各内容を学習できるよう配列されている。巻頭の目次では、内容に応じて単元番号が色分けされ、単元の系統性が一覧で確認できる。 ○ 「問題をみつける」「考えをつくる」「考えを確かめる」「表現する」を進め方の基本とした単元構成となっている。また、単元末の「確かめ」で、学習した内容を振り返ることができるよう取り扱われている。さらに、算数科との関連について、「算数とのつながり」で示されている。 ○ 本文、写真など、順番に配置されている。ページ左側と下部には、問題解決学習の過程がわかるように見出しやマークが付けられている。 |

【資料1 理科】

| | |
|------------|--|
| <p>信 教</p> | <p>各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年間を通して、各内容を学習できるよう配列されている。巻頭の「1年間の学習」では、内容ごとに単元が明示され、単元の系統性が一覧で確認できる。 ○ 「見つける」「予想する」「確かめる」「まとめる」を進め方の基本とした単元構成となっている。 ○ 本文、写真など、順番に配置されている。 |
| <p>啓林館</p> | <p>各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年間を通して、各内容を学習できるよう配列されている。巻頭の目次では、内容に応じて単元番号が色分けされ、単元の系統性が一覧で確認できる。 ○ 「見つける」「調べる」「ふり返る」を進め方の基本とした単元構成となっている。また、単元末の「まとめノート」で、学習した内容を振り返ることができるよう取り扱われている。さらに、他教科との関連について「キャラクター」の吹き出しで示されている。 ○ 主に本文はページの左に、写真・イラストなどは中央から右に配置されている。ページ左側には、問題解決学習の過程がわかるように見出しやマークが付けられている。 |

| 項目 | 観 点 |
|-----------|---|
| 5 創意工夫 | <p>理科の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 観察・実験を通じた問題解決の活動について ○ 日常生活や社会との関連について ○ ものづくりの活動について |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|--|
| 東 書 | <p>理科の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「問題をつかむ」「調べる」「まとめる」の問題解決の活動の中で、働かせたい学び方や見方・考え方について「理科のミカタ」でヒントを示している。 ○ 日常生活や社会との関連について、「理科のひろば」や「学びを生かして深めよう」で、働く人の話や生活の場面と関連付けて考えることができる。 ○ 複数の単元で学習を生かしたものづくりが設定されている。例えば、5年の「電流がうみ出す力」では、電磁石を利用した空き缶拾い機が紹介されている。 |
| 大日本 | <p>理科の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「見つけよう」「調べよう」「伝えよう」の問題解決の活動の中で、働かせたい学び方や見方・考え方についてキャラクターの吹き出しでヒントを示している。 ○ 日常生活や社会との関連について、マークをつけた箇所の内容と、仕事や生活の場面と学習がつながっていることに気づかせるようにしている。 ○ 「作ってみよう」などでは、学習を生かしたものづくりが設定されている。例えば、5年の「ふりこの動き」に関連して、メトロノーム作りが紹介されている。 |
| 学 図 | <p>理科の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「みつけよう」「調べよう」「まとめよう」の問題解決の活動の中で、働かせたい学び方や見方・考え方についてキャラクターの吹き出しでヒントを示している。 ○ 日常生活や社会との関連について、「しりょう」や「くらしに生きる」で、学習と生活の場面をつなげて考えることができるようにしている。 ○ 「作ってみよう」「やってみよう」などでは学習を生かしたものづくりが設定されている。例えば、5年の「電流のはたらき」では、コイルモーター作りが紹介されている。 |

【資料1 理科】

| | |
|------------|---|
| <p>教 出</p> | <p>理科の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「問題を見つける」「考えをつくる」「考えを確かめる」「表現する」の問題解決の活動の中で、働かせたい学び方や見方・考え方についてキャラクターの吹き出しでヒントを示している。 ○ 日常生活や社会との関連について、「科学のまど」や巻末の特設コラム「広がる科学の世界」で、最先端の科学技術などを取り上げ、理科の学びと社会とのつながりについて気づかせるようにしている。 ○ 「チャレンジ」などで、学習を生かしたものづくりが設定されている。例えば、5年の「電流が生み出す力」では、電磁石を利用した電池チェッカー作りが紹介されている。 |
| <p>信 教</p> | <p>理科の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 問題解決の活動の中で、働かせたい学び方や見方・考え方についてキャラクターの吹き出しでヒントを示している。 ○ 日常生活や社会との関連について、地域の特色ある自然や身近な事物・現象を取りあげることと考えるようにしている。「しりょう」では学習したことと関連し自然の事物・現象や科学史などについて取りあげている。 ○ 様々な場面で学習を生かしたものづくりが設定されている。例えば、5年の「ふりこの運動」では、ふりこの動きを利用したおもちゃやメトロノーム作りが紹介されている。 |
| <p>啓林館</p> | <p>理科の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「見つける」「調べる」「ふり返る」の問題解決の活動の中で、働かせたい学び方や見方・考え方についてキャラクターの吹き出しでヒントを示している。 ○ 日常生活や社会との関連について、「理科の広場」や「つなげよう」で、学習してきたことと関連する日常の話題や理科と関連する業界で活躍する人などを取りあげている。 ○ 「ものづくり広場」などでは、学習を生かしたものづくりが設定されている。例えば、5年の「電流と電磁石」に関連して、電磁石を利用したモーター作りが紹介されている。 |

| 項目 | 観 点 |
|----------------------------------|--|
| 6 補足的な 学 習・ 発展的な 学 習 | <p>学習した内容を確実に習得できるよう、学習の内容や過程などを振り返ったり、学んだことを生活に生かしたりすることができるよう配慮されているか。</p> <p>○ 資料やコラムなど</p> |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|---|
| 東 書 | <p>○ 巻末の「学んだことをふり返ろう」では、学習した内容を振り返ることができる。また、「学びを生かして深めよう」では、学んだことを生かして日常生活の事象などについて考えることができる。さらに、プログラミングを体験する場面を設定している。</p> <p>なお、「インターネット」マークがあるところでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p> |
| 大日本 | <p>○ 巻末の「まとめ」では、学習した内容を振り返ることができる。また、「学んだことを生かそう」や「りかのたまてばこ」では、その単元で習得した知識と身近な生活との関わりを考えることができる。さらに、プログラミングを体験する場面を設定している。</p> <p>なお、「たのしい理科ウェブ」マークがあるところでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p> |
| 学 図 | <p>○ 巻末の「〇年生で学んだこと」では、学習した内容を振り返ることができる。また、高学年の「はってん」のマークがついた「資料」では、学習したことをさらに深めて考えることができる。さらに、プログラミングを体験する場面を設定している。</p> <p>なお、QRコードがあるところでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p> |
| 教 出 | <p>○ 巻末の「〇年で学んだこと」では、学習した内容を振り返ることができる。また、「学びを広げよう」や「しりょう」では、学習した知識を身近な現象にあてはめて考えることができる。さらに、プログラミングを体験する場面を設定している。</p> <p>なお、「まなびリンク」があるところでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p> |

【資料1 理科】

| | |
|-----|---|
| 信 教 | <p>○ 単元内にある「まとめよう」では、学習した内容を振り返ることができる。また、「しらべてみよう」では、学習した内容を使って身近な事物・現象について調べることができる。さらに、プログラミングを体験する場面を設定している。</p> <p>なお、「インターネットで調べよう」があるところでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p> |
| 啓林館 | <p>○ 巻末の「○年の理科をふり返ろう」では、学習した内容を振り返ることができる。また、「活用しよう」では、学習したことをさらに深めて考えることができる。さらに、巻末の付録を用いて、プログラミング的思考についての学習を設定している。</p> <p>なお、QRコードがあるところでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p> |

○ 各教科書の判型・領域別ページ数と総ページ数

| | 東書 | 大日本 | 学図 | 教出 | 信教 | 啓林館 |
|------------|-----|-----|-----|--------|-----|-----|
| 判型 | A 4 | A B | A B | A 4 変型 | A B | A B |
| A 物資・エネルギー | 258 | 296 | 298 | 325 | 205 | 284 |
| B 生命・地球 | 386 | 452 | 402 | 517 | 284 | 405 |
| その他 | 168 | 96 | 112 | 80 | 191 | 123 |
| 総ページ数 | 812 | 844 | 812 | 922 | 680 | 812 |

○ 観察・実験等を扱った箇所数

| | 東書 | 大日本 | 学図 | 教出 | 信教 | 啓林館 |
|----------------------|----|-----|----|----|-----|-----|
| 観察 | 50 | 43 | 46 | 37 | 76 | 39 |
| 実験 | 69 | 68 | 78 | 79 | 137 | 73 |
| 調査等 (調査・資料調べ・活動等) | 7 | 14 | 8 | 13 | 18 | 15 |

○ 環境保全・防災を扱った資料の数

| | 東書 | 大日本 | 学図 | 教出 | 信教 | 啓林館 |
|------|----|-----|----|----|----|-----|
| 環境保全 | 12 | 23 | 10 | 25 | 11 | 10 |
| 防災 | 8 | 10 | 18 | 4 | 3 | 15 |

○ 日常生活・社会との関係、ものづくりを扱った箇所数

| | 東書 | 大日本 | 学図 | 教出 | 信教 | 啓林館 |
|-----------------|----|-----|----|-----|----|-----|
| 日常生活・社会 との関連 | 96 | 113 | 87 | 121 | 64 | 89 |
| ものづくり | 14 | 16 | 12 | 16 | 20 | 15 |

○ 発展的な学習や復習・補足的な学習を扱った箇所数

| | 東書 | 大日本 | 学図 | 教出 | 信教 | 啓林館 |
|-----------------|----|-----|----|----|----|-----|
| 発展 | 16 | 40 | 34 | 40 | 30 | 41 |
| まとめ問題 (ページ数) | 74 | 86 | 57 | 44 | 0 | 41 |

生 活

学習指導要領（生活）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1～3
 資料 1・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4～19
 資料 2・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

| 発行者の 番号・略号 | 書 名 | 著 者 | 資料中 の表記 |
|---------------|------------------------|----------------------------|------------|
| 2 東 書 | 新しい生活 | 田村 学 奈須 正裕 吉田 豊香 ほか 82名 | 東 書 |
| 4 大日本 | たのしいせいかつ | 野田 敦敬 ほか 17名 | 大日本 |
| 11 学 図 | みんなとまなぶ しょうがっこうせいかつ | 片上 宗二 山口 令司 ほか 27名 | 学 図 |
| 17 教 出 | せいかつ | 養老 孟司 藤井 千恵子 ほか 25名 | 教 出 |
| 26 信 教 | せいかつ | 前田 好文 | 信 教 |
| 38 光 村 | せいかつ | 嶋野 道弘 ほか 22名 | 光 村 |
| 61 啓林館 | せいかつ | 寺尾 慎一 中野 真志 ほか 68名 | 啓林館 |
| 116 日 文 | わたしとせいかつ | 村川 雅弘 堀田 力 ほか 35名 | 日 文 |

第2章 各教科

第5節 生活

第1 目標

具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。
- (2) 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。
- (3) 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。

第2 各学年の目標及び内容

〔第1学年及び第2学年〕

1 目標

- (1) 学校、家庭及び地域の生活に関わることを通して、自分と身近な人々、社会及び自然との関わりについて考えることができ、それらのよさやすばらしさ、自分との関わりに気付き、地域に愛着をもち自然を大切にしたり、集団や社会の一員として安全で適切な行動をしたりするようにする。
- (2) 身近な人々、社会及び自然と触れ合ったり関わったりすることを通して、それらを工夫したり楽しんだりすることができ、活動のよさや大切さに気付き、自分たちの遊びや生活をよりよくするようにする。
- (3) 自分自身を見つめることを通して、自分の生活や成長、身近な人々の支えについて考えることができ、自分のよさや可能性に気付き、意欲と自信をもって生活するようにする。

2 内容

1の資質・能力を育成するため、次の内容を指導する。

〔学校、家庭及び地域の生活に関する内容〕

- (1) 学校生活に関わる活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えることができ、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かり、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとする。
- (2) 家庭生活に関わる活動を通して、家庭における家族のことや自分でできることなどについて考えることができ、家庭での生活は互いに支え合っていることが分かり、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとする。
- (3) 地域に関わる活動を通して、地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考えることができ、自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとする。

〔身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容〕

- (4) 公共物や公共施設を利用する活動を通して、それらのよさを感じたり働きを捉えたりすることができ、身の回りにはみんなで使うものがあることやそれらを支えている人々がいることなどが分かるとともに、それらを大切に、安全に気を付けて正しく利用しようとする。

- (5) 身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、それらの違いや特徴を見付けることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること気付くとともに、それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする。
 - (6) 身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。
 - (7) 動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。
 - (8) 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合い交流しようとする。
- 〔自分自身の生活や成長に関する内容〕
- (9) 自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分のことや支えてくれた人々について考えることができ、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かるとともに、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとする。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 年間や、単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、児童が具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自分と地域の人々、社会及び自然との関わりが具体的に把握できるような学習活動の充実を図ることとし、校外での活動を積極的に取り入れること。
- (2) 児童の発達の段階や特性を踏まえ、2学年間を見通して学習活動を設定すること。
- (3) 第2の内容の(7)については、2学年間にわたって取り扱うものとし、動物や植物への関わり方が深まるよう継続的な飼育、栽培を行うようにすること。
- (4) 他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高め、低学年における教育全体の充実を図り、中学年以降の教育へ円滑に接続できるようにするとともに、幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期における遊びを通した総合的な学びから他教科等における学習に円滑に移行し、主体的に自己を発揮しながら、より自覚的な学びに向かうことが可能となるようにすること。その際、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。
- (5) 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
- (6) 第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、道徳科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容について、生活科の特質に応じて適切な指導をすること。

2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 地域の人々、社会及び自然を生かすとともに、それらを一体的に扱うよう学習活動を工夫すること。
- (2) 身近な人々、社会及び自然に関する活動の楽しさを味わうとともに、それらを通して気付いたことや楽しかったことなどについて、言葉、絵、動作、劇化などの多様な方法により表現し、考えることができるようにすること。また、このように表現し、考えることを

通して、気づきを確かなものとしたり、気付いたことを関連付けたりすることができるよう工夫すること。

- (3) 具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考えることができるようにするため、見付ける、比べる、たとえば、試す、見通す、工夫するなどの多様な学習活動を行うようにすること。
- (4) 学習活動を行うに当たっては、コンピュータなどの情報機器について、その特質を踏まえ、児童の発達の段階や特性及び生活科の特質などに応じて適切に活用するようにすること。
- (5) 具体的な活動や体験を行うに当たっては、身近な幼児や高齢者、障害のある児童生徒などの多様な人々と触れ合うことができるようにすること。
- (6) 生活上必要な習慣や技能の指導については、人、社会、自然及び自分自身に関わる学習活動の展開に即して行うようにすること。

【資料1 生活：観点一覧】

| 項目 | 観点 |
|--------------------------------|---|
| 1 目標・内容 の取扱い | <p>生活科の目標を達成するために、適切な内容が取り上げられているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分自身、身近な人、社会及び自然についての理解や生活上必要な技能について ○ 自分自身や自分の生活について考え、表現することについて ○ 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度について |
| 2 人権の 取扱い | <p>人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権への配慮について ○ ユニバーサルデザインに関する配慮について |
| 3 内容の程度 | <p>児童の発達段階を考慮した内容になっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 文章の記述や分量について ○ 写真、挿絵、図、表などの資料について |
| 4 組織・配列 | <p>各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元構成について ○ ページの構成（本文・写真・挿絵・図・表などの配置）について |
| 5 創意工夫 | <p>身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自然の不思議さや面白さを実感する学習活動について ○ 身近な人々や社会と関わる活動について ○ 見付ける、比べる、たとえば、試す、見通す、工夫するなどの多様な学習活動について |
| 6 補充的な 学習・ 発展的な 学習 | <p>学習した内容を確実に習得できるよう、学習の内容や過程などを振り返ったり、他の学習や生活に生かしたりすることができるよう配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 資料やコラムなど |

| 項目 | 観 点 |
|--------------------|---|
| 1 目標・内容 の取扱い | <p>生活科の目標を達成するために、適切な内容が取り上げられているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分自身、身近な人、社会及び自然についての理解や生活上必要な技能について ○ 自分自身や自分の生活について考え、表現することについて ○ 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度について |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|---|
| 東 書 | <p>生活科の目標を達成するために、適切な内容が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分自身、身近な人、社会及び自然についての理解や生活上必要な技能について適切な内容が取りあげられている。例えば、「かつどうべんりてちょう」を手がかりにして、習慣や技能などを身につけられるよう配慮されている。 ○ 自分自身や自分の生活について考え、表現することについて適切な内容が取りあげられている。「かつどうべんりてちょう」を手がかりにして、学習の過程で児童が考え、表現する内容が取り扱われている。 ○ 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度について適切な内容が取りあげられている。 |
| 大日本 | <p>生活科の目標を達成するために、適切な内容が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分自身、身近な人、社会及び自然についての理解や生活上必要な技能について適切な内容が取りあげられている。例えば、「がくしゅうどうぐばこ」を手がかりにして、習慣や技能などを身につけられるよう配慮されている。 ○ 自分自身や自分の生活について考え、表現することについて適切な内容が取りあげられている。「がくしゅうどうぐばこ」を手がかりにして、学習の過程で児童が考え、表現する内容が取り扱われている。 ○ 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度について適切な内容が取りあげられている。 |

【資料1 生活】

| | |
|------------|---|
| <p>学 図</p> | <p>生活科の目標を達成するために、適切な内容が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分自身、身近な人、社会及び自然についての理解や生活上必要な技能について適切な内容が取りあげられている。例えば、「学び方図かん」を手がかりにして、習慣や技能などを身につけられるよう配慮されている。 ○ 自分自身や自分の生活について考え、表現することについて適切な内容が取りあげられている。「学び方図かん」を手がかりにして、学習の過程で児童が考え、表現する内容が取り扱われている。 ○ 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度について適切な内容が取りあげられている。 |
| <p>教 出</p> | <p>生活科の目標を達成するために、適切な内容が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分自身、身近な人、社会及び自然についての理解や生活上必要な技能について適切な内容が取りあげられている。例えば、「学びのポケット」を手がかりにして、習慣や技能などを身につけられるよう配慮されている。 ○ 自分自身や自分の生活について考え、表現することについて適切な内容が取りあげられている。「学びのポケット」を手がかりにして、学習の過程で児童が考え、表現する内容が取り扱われている。 ○ 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度について適切な内容が取りあげられている。 |
| <p>信 教</p> | <p>生活科の目標を達成するために、適切な内容が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分自身、身近な人、社会及び自然についての理解や生活上必要な技能について適切な内容が取りあげられている。例えば、その地域ならではの関わりやふれあいなどを通じた内容が取りあげられている。 ○ 自分自身や自分の生活について考え、表現することについて適切な内容が取りあげられている。「感動体験」「探求活動」「表現活動」を示し、学習の過程で児童が考え、表現する内容が取り扱われている。 ○ 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度について適切な内容が取りあげられている。 |

| | |
|------------|---|
| <p>光 村</p> | <p>生活科の目標を達成するために、適切な内容が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分自身、身近な人、社会及び自然についての理解や生活上必要な技能について適切な内容が取りあげられている。例えば、各単元の活動を通して、習慣や技能などを身につけられるよう配慮されている。 ○ 自分自身や自分の生活について考え、表現することについて適切な内容が取りあげられている。「ホップ」「ステップ」「ジャンプ」の学習の過程で児童が考え、表現する内容が取り扱われている。 ○ 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度について適切な内容が取りあげられている。 |
| <p>啓林館</p> | <p>生活科の目標を達成するために、適切な内容が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分自身、身近な人、社会及び自然についての理解や生活上必要な技能について適切な内容が取りあげられている。例えば、「がくしゅうずかん」を手がかりにして、習慣や技能などを身につけられるよう配慮されている。 ○ 自分自身や自分の生活について考え、表現することについて適切な内容が取りあげられている。「がくしゅうずかん」を手がかりにして、学習の過程で児童が考え、表現する内容が取り扱われている。 ○ 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度について適切な内容が取りあげられている。 |
| <p>日 文</p> | <p>生活科の目標を達成するために、適切な内容が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分自身、身近な人、社会及び自然についての理解や生活上必要な技能について適切な内容が取りあげられている。例えば、「ちえとわざのたからばこ」を手がかりにして、習慣や技能などを身につけられるよう配慮されている。 ○ 自分自身や自分の生活について考え、表現することについて適切な内容が取りあげられている。「ちえとわざのたからばこ」を手がかりにして、学習の過程で児童が考え、表現する内容が取り扱われている。 ○ 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度について適切な内容が取りあげられている。 |

【資料1 生活】

| 項目 | 観 点 |
|---------------------|---|
| 2 人 権 の 取 扱 い | <p>人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権への配慮について ○ ユニバーサルデザインに関する配慮について |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|--|
| 東 書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。例えば、幼児や高齢者、障がいのある人、外国の人など、多様な人々と関わる活動場面が取り扱われている。 ○ すべての児童にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。 |
| 大日本 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。例えば、幼児や高齢者、障がいのある人、外国の人など、多様な人々と関わる活動場面が取り扱われている。 ○ すべての児童にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。 |
| 学 図 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。例えば、幼児や高齢者、障がいのある人、外国の人など、多様な人々と関わる活動場面が取り扱われている。 ○ すべての児童にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。 |
| 教 出 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。例えば、幼児や高齢者、障がいのある人、外国の人など、多様な人々と関わる活動場面が取り扱われている。 ○ すべての児童にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。 |

| | |
|------------|---|
| <p>信 教</p> | <p>○ 人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。例えば、幼児や高齢者、障がいのある人、外国の人など、多様な人々と関わる活動場面が取り扱われている。</p> <p>○ すべての児童にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。</p> |
| <p>光 村</p> | <p>○ 人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。例えば、幼児や高齢者、障がいのある人、外国の人など、多様な人々と関わる活動場面が取り扱われている。</p> <p>○ すべての児童にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。</p> |
| <p>啓林館</p> | <p>○ 人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。例えば、幼児や高齢者、障がいのある人、外国の人など、多様な人々と関わる活動場面が取り扱われている。</p> <p>○ すべての児童にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。</p> |
| <p>日 文</p> | <p>○ 人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。例えば、幼児や高齢者、障がいのある人、外国の人など、多様な人々と関わる活動場面が取り扱われている。</p> <p>○ すべての児童にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。</p> |

【資料1 生活】

| 項目 | 観 点 |
|------------|--|
| 3 内容の程度 | <p>児童の発達段階を考慮した内容になっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 文章の記述や分量について ○ 写真、挿絵、図、表などの資料について |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|---|
| 東 書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 文字の分量は適切で、文節で分かち書きされており、低学年の児童にも読みやすいよう配慮されている。また、表現方法も豊かで児童の興味・関心を引くよう工夫するなど配慮されている。 ○ 活動意欲を引き出し、活動内容や活動の流れを分かりやすくなるよう、写真、挿絵、図、表などが効果的に活用されており、児童の発達段階に考慮されている。 |
| 大日本 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 文字の分量は適切で、文節で分かち書きされており、低学年の児童にも読みやすいよう配慮されている。また、表現方法も豊かで児童の興味・関心を引くよう工夫するなど配慮されている。 ○ 活動意欲を引き出し、活動内容や活動の流れを分かりやすくなるよう、写真、挿絵、図、表などが効果的に活用されており、児童の発達段階に考慮されている。 |
| 学 図 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 文字の分量は適切で、文節で分かち書きされており、低学年の児童にも読みやすいよう配慮されている。また、表現方法も豊かで児童の興味・関心を引くよう工夫するなど配慮されている。 ○ 活動意欲を引き出し、活動内容や活動の流れを分かりやすくなるよう、写真、挿絵、図、表などが効果的に活用されており、児童の発達段階に考慮されている。 |
| 教 出 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 文字の分量は適切で、文節で分かち書きされており、低学年の児童にも読みやすいよう配慮されている。また、表現方法も豊かで児童の興味・関心を引くよう工夫するなど配慮されている。 ○ 活動意欲を引き出し、活動内容や活動の流れを分かりやすくなるよう、写真、挿絵、図、表などが効果的に活用されており、児童の発達段階に考慮されている。 |

| | |
|-----|---|
| 信 教 | <p>○ 文字の分量は適切で、文節で分ち書きされており、低学年の児童にも読みやすいよう配慮されている。また、表現方法も豊かで児童の興味・関心を引くよう工夫するなど配慮されている。</p> <p>○ 活動意欲を引き出し、活動内容や活動の流れを分かりやすくなるよう、写真、挿絵、図、表などが効果的に活用されており、児童の発達段階に考慮されている。</p> |
| 光 村 | <p>○ 文字の分量は適切で、文節で分ち書きされており、低学年の児童にも読みやすいよう配慮されている。また、表現方法も豊かで児童の興味・関心を引くよう工夫するなど配慮されている。</p> <p>○ 活動意欲を引き出し、活動内容や活動の流れを分かりやすくなるよう、写真、挿絵、図、表などが効果的に活用されており、児童の発達段階に考慮されている。</p> |
| 啓林館 | <p>○ 文字の分量は適切で、文節で分ち書きされており、低学年の児童にも読みやすいよう配慮されている。また、表現方法も豊かで児童の興味・関心を引くよう工夫するなど配慮されている。</p> <p>○ 活動意欲を引き出し、活動内容や活動の流れを分かりやすくなるよう、写真、挿絵、図、表などが効果的に活用されており、児童の発達段階に考慮されている。</p> |
| 日 文 | <p>○ 文字の分量は適切で、文節で分ち書きされており、低学年の児童にも読みやすいよう配慮されている。また、表現方法も豊かで児童の興味・関心を引くよう工夫するなど配慮されている。</p> <p>○ 活動意欲を引き出し、活動内容や活動の流れを分かりやすくなるよう、写真、挿絵、図、表などが効果的に活用されており、児童の発達段階に考慮されている。</p> |

【資料1 生活】

| 項目 | 観 点 |
|------------|--|
| 4 組織・配列 | <p>各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元構成について ○ ページの構成（本文・写真・挿絵・図・表などの配置）について |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|---|
| 東 書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 各単元は、課題を設定し、活動を行い、振り返るという流れになっている。また、スタートカリキュラムについては、「どきどきわくわく1ねんせい」で、児童の活動場面のイラストや写真に、「幼児期につけたい10の力」が記載されている。 ○ 大きな写真やイラスト、子どもたちの活動のヒントになる吹き出しなど、活動がイメージしやすくなるように構成されている。 |
| 大日本 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 各単元は、課題を設定し、活動を行い、振り返るという流れになっている。また、スタートカリキュラムについては、「みんな なかよし」で、「仲間づくり」の活動を意識した内容となっている。 ○ 大きな写真やイラスト、子どもたちの活動のヒントになる吹き出しなど、活動がイメージしやすくなるように構成されている。 |
| 学 図 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 各単元は、「どきどき」「いきいき」「ふむふむ」「にこにこ」の4つの段階での単元構成になっている。また、スタートカリキュラムについては、「がっこうだいすき」で、各教科等を意識した入学当初の活動が、イラストで示されている。 ○ 大きな写真やイラスト、子どもたちの活動のヒントになる吹き出しなど、活動がイメージしやすくなるように構成されている。 |

| | |
|-----|--|
| 教 出 | <p>○ 各単元は、課題を設定し、活動を行い、振り返るという流れになっている。また、スタートカリキュラムについては、「きょうから1ねんせい」で、児童の活動場面のイラストや写真に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」が記載されている。</p> <p>○ 大きな写真やイラスト、子どもたちの活動のヒントになる吹き出しなど、活動がイメージしやすくなるように構成されている。</p> |
| 信 教 | <p>○ 各単元には、活動の様子が記載され、指導者の工夫を生かせる内容となっている。また、スタートカリキュラムについては、「うれしいな いちねんせい」で、学校生活のきまりや気を付けることなどが記載されている。</p> <p>○ 大きな写真やイラスト、子どもたちの活動のヒントになる吹き出しなど、活動がイメージしやすくなるように構成されている。</p> |
| 光 村 | <p>○ 各単元は、「ホップ」「ステップ」「ジャンプ」の3段階での単元構成となっている。また、スタートカリキュラムについては、「あたらしい いちねんせい」で、各教科等を意識した入学当初の活動が、写真やイラストで示されている。</p> <p>○ 大きな写真やイラスト、子どもたちの活動のヒントになる吹き出しなど、活動がイメージしやすくなるように構成されている。</p> |
| 啓林館 | <p>○ 「わくわく」「いきいき」「ぐんぐん」という3段階での単元構成となっている。また、スタートカリキュラムについては、「すたあとぶっく『がっこうだいすき あいうえお』」で、各教科等を意識した入学当初の活動が、写真やイラストで示されている。</p> <p>○ 大きな写真やイラスト、子どもたちの活動のヒントになる吹き出しなど、活動がイメージしやすくなるように構成されている。</p> |
| 日 文 | <p>○ 各単元は、課題を設定し、活動を行い、振り返るという流れになっている。また、スタートカリキュラムについては、「いちねんせいになったら」で、各教科等を意識した入学当初の活動が、写真やイラストで示されている。</p> <p>○ 大きな写真やイラスト、子どもたちの活動のヒントになる吹き出しなど、活動がイメージしやすくなるように構成されている。</p> |

【資料1 生活】

| 項目 | 観 点 |
|-----------|---|
| 5 創意工夫 | <p>身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自然の不思議さや面白さを実感する学習活動について ○ 身近な人々や社会と関わる活動について ○ 見付ける、比べる、たとえば、試す、見通す、工夫するなどの多様な学習活動について |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|--|
| 東 書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 自然の不思議さや面白さを実感する学習活動が取りあげられている。例えば、植物にかかわる単元では、主に7種類の花を扱い、あさがおの観察カードの記載例が大きく載っている。また、ページをめくるごとにそれぞれの植物の成長過程が追えたり、秋に育てることができる花を紹介したりするなど工夫されている。 ○ 身近な人々や社会と関わる活動が取りあげられている。例えば、町探検にかかわる単元では、「どきどきわくわくまちたんけん」と「もっとなかよしまちたんけん」の2回設定されるなど工夫されている。 ○ イラストや写真、登場人物の吹き出しを使って、多様な学習活動が行われるよう工夫されている。 |
| 大日本 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 自然の不思議さや面白さを実感する学習活動が取りあげられている。例えば、植物にかかわる単元では、主に8種類の花や野菜を扱い、あさがおの観察カードの記載例が載っている。また、ページをめくるごとにそれぞれの植物の成長過程が追えたり、花や実から色水を作る活動を紹介したりするなど工夫されている。 ○ 身近な人々や社会と関わる活動が取りあげられている。例えば、町探検にかかわる単元では、「春はっけん」の単元で春の町をさんぽして気づいたことをもとに、「わたしの町はっけん」の単元が設定されるなど工夫されている。 ○ イラストや写真、登場人物の吹き出しを使って、多様な学習活動が行われるよう工夫されている。 |

| | |
|-----|---|
| 学 図 | <p>○ 自然の不思議さや面白さを実感する学習活動が取りあげられている。例えば、植物にかかわる単元では、主に6種類の花を扱い、あさがおの観察カードの記載例が載っている。また、ページをめくるごとにそれぞれの植物の成長過程が追えたり、花から色水を作る活動を紹介したりするなど工夫されている。</p> <p>○ 身近な人々や社会と関わる活動が取りあげられている。例えば、町探検にかかわる単元では、「まちたんけん」と「あの人に会いたいな」の2回設定され、2回目は人との関わりにクローズアップするなど工夫されている。</p> <p>○ イラストや写真、登場人物の吹き出しを使って、多様な学習活動が行われるよう工夫されている。</p> |
| 教 出 | <p>○ 自然の不思議さや面白さを実感する学習活動が取りあげられている。例えば、植物にかかわる単元では、主に7種類の花を扱い、あさがおの観察カードの記載例が載っている。また、ページをめくるごとにそれぞれの植物の成長過程が追えたり、色水作り・押し花作りを紹介したりするなど工夫されている。</p> <p>○ 身近な人々や社会と関わる活動が取りあげられている。例えば、町探検にかかわる単元では、発展的な活動として、「しごとにチャレンジしよう」「ありがとうをつたえよう」など、工夫されている。</p> <p>○ イラストや写真、登場人物の吹き出しを使って、多様な学習活動が行われるよう工夫されている。</p> |
| 信 教 | <p>○ 自然の不思議さや面白さを実感する学習活動が取りあげられている。例えば、植物にかかわる単元では、あさがおの花を扱い、観察カードの記載例が載っている。また、育てたあさがおを使ったたたき染めや灯籠づくりを紹介するなど工夫されている。</p> <p>○ 身近な人々や社会と関わる活動が取りあげられている。例えば、町探検にかかわる単元では、「わたしたちがすむ町」では、人にやさしい町の視点として、障がいのある人や高齢者、おむつ交換台や児童センターなどが取りあげられている。</p> <p>○ イラストや写真、登場人物の吹き出しを使って、多様な学習活動が行われるよう工夫されている。</p> |

【資料1 生活】

| | |
|------------|---|
| <p>光 村</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 自然の不思議さや面白さを実感する学習活動が取りあげられている。例えば、植物にかかわる単元では、主に8種類の花を扱い、あさがおの観察カードの記載例が載っている。また、ページをめくるごとにそれぞれの植物の成長過程が追えたり、秋に育てることができる花を紹介したりするなど工夫されている。 ○ 身近な人々や社会と関わる活動が取りあげられている。例えば、町探検にかかわる単元では、町探検が春と秋に設定され、秋の探検では、グループでの活動が例示されている。 ○ イラストや写真、登場人物の吹き出しを使って、多様な学習活動が行われるよう工夫されている。 |
| <p>啓林館</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 自然の不思議さや面白さを実感する学習活動が取りあげられている。例えば、植物にかかわる単元では、主に6種類の花を扱い、あさがおの観察カードの記載例が載っている。また、ページをめくるごとにそれぞれの植物の成長過程が追えたり、色水作り・押し花作りを紹介したりするなど工夫されている。 ○ 身近な人々や社会と関わる活動が取りあげられている。例えば、町探検にかかわる単元では、町探検が春と秋に複数回設定されている。春の町探検では、パン屋のにおいや信号の音などを例示し、感覚を働かせて探検ができるよう工夫されている。 ○ イラストや写真、登場人物の吹き出しを使って、多様な学習活動が行われるよう工夫されている。 |
| <p>日 文</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 自然の不思議さや面白さを実感する学習活動が取りあげられている。例えば、植物にかかわる単元では、主に6種類の花を扱い、あさがおの観察カードの記載例が載っている。また、数ページを「やまおり」することでそれぞれの植物の成長過程が追えたり、色水作り・押し花作りを紹介したりするなど工夫されている。 ○ 身近な人々や社会と関わる活動が取りあげられている。例えば、町探検にかかわる単元では、2部構成とし、1部では公共施設の見学を通して町探検のノウハウを身に付け、2部ではグループごとに、人や町のよさに気づく内容となっている。 ○ イラストや写真、登場人物の吹き出しを使って、多様な学習活動が行われるよう工夫されている。 |

| 項目 | 観 点 |
|----------------------------------|---|
| 6 補充的な 学 習・ 発展的な 学 習 | <p>学習した内容を確実に習得できるよう、学習の内容や過程などを振り返ったり、他の学習や生活に生かしたりすることができるよう配慮されているか。</p> <p>○ 資料やコラムなど</p> |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|--|
| 東 書 | <p>学習した内容を確実に習得できるよう、学習の内容や過程などを振り返ったり、他の学習や生活に生かしたりすることができるよう配慮されている。</p> <p>○ 学習や生活を振り返り、生活上必要な習慣や技能の習得を確かなものにするため「できるようになったことをふりかえろう」が設けられている。また、巻末の「がくしゅうべんりてちょう」では、「まとめよう つたえよう」で新聞やパンフレットへのまとめ方、「じょうほうききを つかおう」でデジタルカメラやタブレットの使い方が示されている。</p> <p>なお、Dマークがあるところでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p> |
| 大日本 | <p>学習した内容を確実に習得できるよう、学習の内容や過程などを振り返ったり、他の学習や生活に生かしたりすることができるよう配慮されている。</p> <p>○ 活動を通して、学習や生活を振り返り、生活上必要な習慣や技能の習得を確かなものにする内容が取りあげられている。また、巻末の「がくしゅうどうぐばこ」では、「地図を作ろう」で写真や絵をはりつけた地図の作り方、「しらべ方 つたえ方」で具体的な調べ方や発表のしかたが示されている。</p> <p>なお、ウェブマークがあるところでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p> |
| 学 図 | <p>学習した内容を確実に習得できるよう、学習の内容や過程などを振り返ったり、他の学習や生活に生かしたりすることができるよう配慮されている。</p> <p>○ 学習や生活を振り返り、生活上必要な習慣や技能の習得を確かなものにするため「ふりかえろう」が設けられている。また、巻末の「学び方図かん」では、「書く」で作文や手紙の書き方、「つかう」でデジタルカメラやタブレットの使い方などが示されている。</p> <p>なお、QRコードがあるところでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p> |

【資料1 生活】

| | |
|------------|--|
| <p>教 出</p> | <p>学習した内容を確実に習得できるよう、学習の内容や過程などを振り返ったり、他の学習や生活に生かしたりすることができるよう配慮されている。</p> <p>○ 学習や生活を振り返り、生活上必要な習慣や技能の習得を確かなものにするため「何をかんじたかな」が設けられている。また、巻末の「学びのポケット」では、「しらべよう」でインターネットでの調べ方やデジタルカメラの使い方、「手紙や電話でつたえよう」で手紙の書き方や電話のかけ方などが示されている。</p> <p>なお、「まなびリンク」があるところでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p> |
| <p>信 教</p> | <p>学習した内容を確実に習得できるよう、学習の内容や過程などを振り返ったり、他の学習や生活に生かしたりすることができるよう配慮されている。</p> <p>○ 学習や生活を振り返り、生活上必要な習慣や技能の習得を確かなものにするため、巻頭に「ご家庭のみなさんへ」が記載されており、生活科での学習が子どもの生活そのものを創っていける活動になるよう、家庭に向けてのメッセージを示している。</p> <p>なお、QRコードのあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p> |
| <p>光 村</p> | <p>学習した内容を確実に習得できるよう、学習の内容や過程などを振り返ったり、他の学習や生活に生かしたりすることができるよう配慮されている。</p> <p>○ 学習や生活を振り返り、生活上必要な習慣や技能の習得を確かなものにするため、各単元で学んだことをシールに記入して振り返る内容となっている。また、巻末の「ひろがるせいかつじてん」では、「れんらくするときのやくそく」で電話のかけ方や手紙の書き方、「あらわす、つたえる」で発表のしかたが示されている。</p> <p>なお、QRコードのあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p> |

| | |
|-----|---|
| 啓林館 | <p>学習した内容を確実に習得できるよう、学習の内容や過程などを振り返ったり、他の学習や生活に生かしたりすることができるよう配慮されている。</p> <p>○ 学習や生活を振り返り、生活上必要な習慣や技能の習得を確かなものにするため「こんなときどうする」が設けられている。また、巻末の「がくしゅうずかん」では、「記ろくしよう」で記録カードの書き方や写真や動画のとり方、「手紙や電話をつかおう」で手紙の書き方や電話のかけ方などが示されている。</p> <p>なお、QRコードがあるところでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p> |
| 日 文 | <p>学習した内容を確実に習得できるよう、学習の内容や過程などを振り返ったり、他の学習や生活に生かしたりすることができるよう配慮されている。</p> <p>○ 学習や生活を振り返り、生活上必要な習慣や技能の習得を確かなものにするため「ふりかえる つなげる」が設けられている。また、巻末の「ちえとわざのたからばこ」では、「手紙の書き方 電話のかけ方」や、デジタルカメラやボイスレコーダー等の使い方を示した「べんりな道ぐのつかい方」などが示されている。</p> <p>なお、WEBマークのあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p> |

【資料2 生活】

○ 総ページ数(上巻・下巻)

| | 東書 | 大日本 | 学図 | 教出 | 信教 | 光村 | 啓林館 | 日文 |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 総ページ数 | 262 | 282 | 256 | 276 | 232 | 258 | 290 | 280 |

○ 生活科の9つの内容を扱ったページ数

| | 東書 | 大日本 | 学図 | 教出 | 信教 | 光村 | 啓林館 | 日文 |
|-------------|----|-----|----|----|----|----|-----|----|
| | 頁数 | 頁数 | 頁数 | 頁数 | 頁数 | 頁数 | 頁数 | 頁数 |
| 学校と生活 | 20 | 19 | 24 | 15 | 30 | 20 | 17 | 26 |
| 家庭と生活 | 8 | 12 | 10 | 12 | 2 | 12 | 8 | 8 |
| 地域と生活 | 21 | 17 | 10 | 41 | 10 | 20 | 38 | 12 |
| 公共物や公共施設の利用 | 12 | 4 | 4 | 14 | 12 | 2 | 10 | 10 |
| 季節の変化と生活 | 36 | 38 | 44 | 54 | 53 | 44 | 39 | 22 |
| 自然や物を使った遊び | 33 | 38 | 18 | 43 | 34 | 24 | 30 | 31 |
| 動植物の飼育・栽培 | 39 | 50 | 70 | 51 | 49 | 47 | 56 | 50 |
| 生活や出来事の交流 | 28 | 35 | 20 | 16 | 9 | 49 | 10 | 35 |
| 自分の成長 | 21 | 20 | 26 | 21 | 18 | 20 | 12 | 28 |

※1つのページが複数の内容を取り扱っている場合、両方にカウント。

○ 安全について取り上げているページ数

| | 東書 | 大日本 | 学図 | 教出 | 信教 | 光村 | 啓林館 | 日文 |
|----|----|-----|----|----|----|----|-----|----|
| 安全 | 46 | 25 | 14 | 17 | 9 | 12 | 15 | 26 |

○ 子どもが書いた手紙やカード、ワークシート例を取り上げているページ数

| | 東書 | 大日本 | 学図 | 教出 | 信教 | 光村 | 啓林館 | 日文 |
|----------|----|-----|----|----|----|----|-----|----|
| ワークシート例等 | 61 | 80 | 72 | 90 | 34 | 61 | 64 | 57 |

音 楽

学習指導要領（音楽）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1～9
資料 1・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10～16
資料 2・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

| 発行者の 番号・略号 | 書 名 | 著 者 者 | 資料中 の表記 |
|---------------|------------------|--------------|------------|
| 17 教 出 | 小学音楽 音楽のおくりもの | 新実 徳英 ほかに21名 | 教 出 |
| 27 教 芸 | 小学生の音楽 | 小原 光一 ほかに17名 | 教 芸 |

第2章 各教科

第6節 音楽

第1 目標

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。
- (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。

第2 各学年の目標及び内容

〔第1学年及び第2学年〕

1 目標

- (1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付くとともに、音楽表現を楽しむために必要な歌唱、器楽、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を考えて表現に対する思いをもつことや、曲や演奏の楽しさを見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにする。
- (3) 楽しく音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、身の回りの様々な音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。

2 内容

A 表現

- (1) 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもつこと。
 - イ 曲想と音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付くこと。
 - ウ 思いに合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。
 - (ア) 範唱を聴いて歌ったり、階名で模唱したり暗唱したりする技能
 - (イ) 自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能
 - (ウ) 互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能
- (2) 器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いをもつこと。
 - イ 次の(ア)及び(イ)について気付くこと。
 - (ア) 曲想と音楽の構造との関わり
 - (イ) 楽器の音色と演奏の仕方との関わり
 - ウ 思いに合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。
 - (ア) 範奏を聴いたり、リズム譜などを見たりして演奏する技能
 - (イ) 音色に気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能

- (ウ) 互いの楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能
- (3) 音楽づくりの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ア)及び(イ)をできるようにすること。
- (ア) 音遊びを通して、音楽づくりの発想を得ること。
- (イ) どのように音を音楽にしていくかについて思いをもつこと。
- イ 次の(ア)及び(イ)について、それらが生み出す面白さなど関わらせて気付くこと。
- (ア) 声や身の回りの様々な音の特徴
- (イ) 音やフレーズのつなげ方の特徴
- ウ 発想を生かした表現や、思いに合った表現をするために必要な次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。
- (ア) 設定した条件に基づいて、即興的に音を選んだりつなげたりして表現する技能
- (イ) 音楽の仕組みを用いて、簡単な音楽をつくる技能

B 鑑賞

- (1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏の楽しさを見だし、曲全体を味わって聴くこと。
- イ 曲想と音楽の構造との関わりについて気付くこと。

[共通事項]

- (1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考えること。
- イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる身近な音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて理解すること。

3 内容の取扱い

- (1) 歌唱教材は次に示すものを取り扱う。
- ア 主となる歌唱教材については、各学年ともイの共通教材を含めて、斉唱及び輪唱で歌う曲
- イ 共通教材

[第1学年]

「うみ」 (文部省唱歌) はやし りゅう は 林 柳 波 作詞 いのうえたけし 井上武士作曲

「かたつむり」 (文部省唱歌)

「日のまる」 (文部省唱歌) たかのたつゆき 高野辰之作詞 おかのていいち 岡野貞一作曲

「ひらいたひらいた」 (わらべうた)

[第2学年]

「かくれんぼ」 (文部省唱歌) はやし りゅう は 林 柳 波 作詞 しもふさかんいち 下総皖一作曲

「春がきた」 (文部省唱歌) たかのたつゆき 高野辰之作詞 おかのていいち 岡野貞一作曲

「虫のこえ」 (文部省唱歌)

「夕やけこやけ」 なかむらうこう 中村雨紅作詞 くさかわしん 草川信 作曲

- (2) 主となる器楽教材については、既習の歌唱教材を含め、主旋律に簡単なりズム伴奏や低声部などを加えた曲を取り扱う。

(3) 鑑賞教材は次に示すものを取り扱う。

ア 我が国及び諸外国のわらべうたや遊びうた、行進曲や踊りの音楽など体を動かすことの快さを感じ取りやすい音楽、日常生活に関連して情景を思い浮かべやすい音楽など、いろいろな種類の曲

イ 音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りやすく、親しみやすい曲

ウ 楽器の音色や人の声の特徴を捉えやすく親しみやすい、いろいろな演奏形態による曲

[第3学年及び第4学年]

1 目標

(1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付くとともに、表したい音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。

(2) 音楽表現を考えて表現に対する思いや意図をもつことや、曲や演奏のよさなどを見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにする。

(3) 進んで音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、様々な音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。

2 内容

A 表現

(1) 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。

イ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付くこと。

ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。

(ア) 範唱を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして歌う技能

(イ) 呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能

(ウ) 互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能

(2) 器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。

イ 次の(ア)及び(イ)について気付くこと。

(ア) 曲想と音楽の構造との関わり

(イ) 楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり

ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。

(ア) 範奏を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして演奏する技能

(イ) 音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能

(ウ) 互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能

(3) 音楽づくりの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ア)及び(イ)をできるようにすること。

(ア) 即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得ること。

(イ) 音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつこと。

イ 次の(ア)及び(イ)について、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて気付くこと。

(ア) いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴

- (イ) 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴
- ウ 発想を生かした表現や、思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。
- (ア) 設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能
- (イ) 音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能

B 鑑賞

- (1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴くこと。
 - イ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付くこと。

[共通事項]

- (1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること。
 - イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて理解すること。

3 内容の取扱い

- (1) 歌唱教材は次に示すものを取り扱う。
 - ア 主となる歌唱教材については、各学年ともイの共通教材を含めて、斉唱及び簡単な合唱で歌う曲
 - イ 共通教材
 - [第3学年]
 - 「うさぎ」 (日本古謡)
 - 「茶つみ」 (文部省唱歌)
 - 「春の小川」 (文部省唱歌) たかのたつゆき 高野辰之作詞 おかのていいち 岡野貞一作曲
 - 「ふじ山」 (文部省唱歌) いわやさぎなみ 巖谷小波作詞
 - [第4学年]
 - 「さくらさくら」 (日本古謡)
 - 「とんび」 くずほら 葛原しげる作詞 やなただだし 梁田貞作曲
 - 「まきばの朝」 (文部省唱歌) ふなぼしえいきち 船橋栄吉作曲
 - 「もみじ」 (文部省唱歌) たかのたつゆき 高野辰之作詞 おかのていいち 岡野貞一作曲
- (2) 主となる器楽教材については、既習の歌唱教材を含め、簡単な重奏や合奏などの曲を取り扱う。
- (3) 鑑賞教材は次に示すものを取り扱う。
 - ア 和楽器の音楽を含めた我が国の音楽、郷土の音楽、諸外国に伝わる民謡など生活との関わりを捉えやすい音楽、劇の音楽、人々に長く親しまれている音楽など、いろいろな種類の曲
 - イ 音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りやすく、聴く楽しさを得やすい曲
 - ウ 楽器や人の声による演奏表現の違いを聴き取りやすい、独奏、重奏、独唱、重唱を含めたいろいろな演奏形態による曲

〔第5学年及び第6学年〕

1 目 標

- (1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を考えて表現に対する思いや意図をもつことや、曲や演奏のよさなどを見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにする。
- (3) 主体的に音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを味わいながら、様々な音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。

2 内 容

A 表 現

- (1) 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。
 - イ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解すること。
 - ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。
 - (ア) 範唱を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして歌う技能
 - (イ) 呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能
 - (ウ) 各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能
- (2) 器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。
 - イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。
 - (ア) 曲想と音楽の構造との関わり
 - (イ) 多様な楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり
 - ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。
 - (ア) 範奏を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏する技能
 - (イ) 音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能
 - (ウ) 各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能
- (3) 音楽づくりの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ア)及び(イ)をできるようにすること。
 - (ア) 即興的に表現することを通して、音楽づくりの様々な発想を得ること。
 - (イ) 音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつこと。
 - イ 次の(ア)及び(イ)について、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて理解すること。
 - (ア) いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴
 - (イ) 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴
 - ウ 発想を生かした表現や、思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。
 - (ア) 設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能
 - (イ) 音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能

B 鑑 賞

- (1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くこと。

イ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解すること。

[共通事項]

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること。

イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて理解すること。

3 内容の取扱い

(1) 歌唱教材は次に示すものを取り扱う。

ア 主となる歌唱教材については、各学年ともイの共通教材の中の3曲を含めて、斉唱及び合唱で歌う曲

イ 共通教材

[第5学年]

「こいのぼり」 (文部省唱歌)

「子もり歌」 (日本古謡)

「スキーの歌」 (文部省唱歌) 林柳波作詞 橋本國彦作曲

「冬げしき」 (文部省唱歌)

[第6学年]

「越天楽今様 (歌詞は第2節まで)」 (日本古謡) 慈鎮和尚作曲

「おぼろ月夜」 (文部省唱歌) 高野辰之作詞 岡野貞一作曲

「ふるさと」 (文部省唱歌) 高野辰之作詞 岡野貞一作曲

「われは海の子 (歌詞は第3節まで)」 (文部省唱歌)

(2) 主となる器楽教材については、楽器の演奏効果を考慮し、簡単な重奏や合奏などの曲を取り扱う。

(3) 鑑賞教材は次に示すものを取り扱う。

ア 和楽器の音楽を含めた我が国の音楽や諸外国の音楽など文化との関わりを捉えやすい音楽、人々に長く親しまれている音楽など、いろいろな種類の曲

イ 音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りやすく、聴く喜びを深めやすい曲

ウ 楽器の音や人の声が重なり合う響きを味わうことができる、合奏、合唱を含めたいろいろな演奏形態による曲

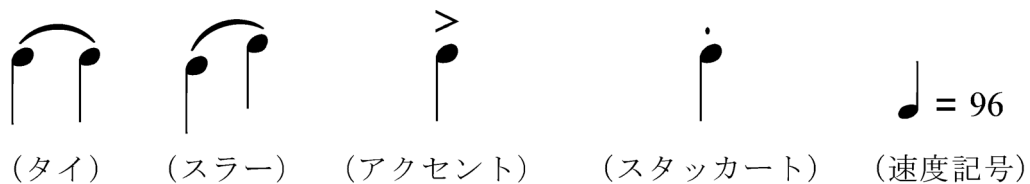
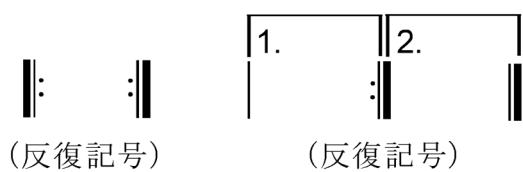
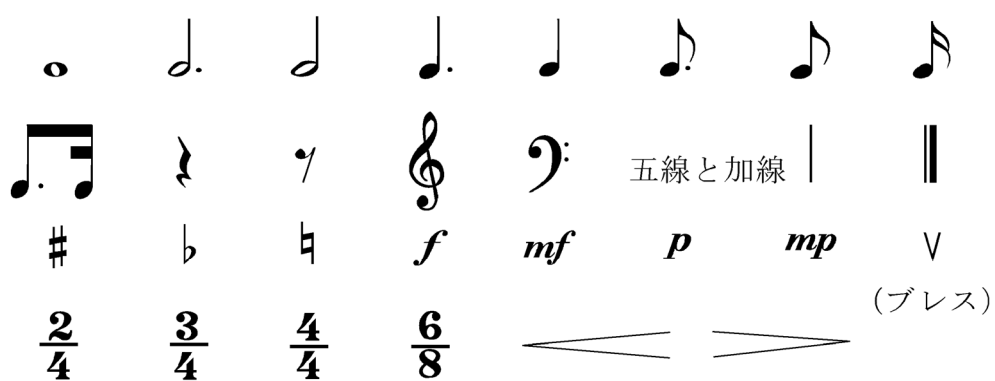
第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(1) 題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさなどを見だしたりするなど、思考、判断し、表現する一連の過程を大切に学習の充実を図ること。

- (2) 第2の各学年の内容の「A表現」の(1)、(2)及び(3)の指導については、ア、イ及びウの各事項を、「B鑑賞」の(1)の指導については、ア及びイの各事項を適切に関連させて指導すること。
 - (3) 第2の各学年の内容の〔共通事項〕は、表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力であり、「A表現」及び「B鑑賞」の指導と併せて、十分な指導が行われるよう工夫すること。
 - (4) 第2の各学年の内容の「A表現」の(1)、(2)及び(3)並びに「B鑑賞」の(1)の指導については、適宜、〔共通事項〕を要として各領域や分野の関連を図るようにすること。
 - (5) 国歌「君が代」は、いずれの学年においても歌えるよう指導すること。
 - (6) 低学年においては、第1章総則の第2の4の(1)を踏まえ、他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにするとともに、幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に、小学校入学当初においては、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。
 - (7) 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
 - (8) 第1章総則の第1の2の(2)に示す道德教育の目標に基づき、道德科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道德の第2に示す内容について、音楽科の特質に応じて適切な指導をすること。
- 2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。
- (1) 各学年の「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、次のとおり取り扱うこと。
 - ア 音楽によって喚起されたイメージや感情、音楽表現に対する思いや意図、音楽を聴いて感じ取ったことや想像したことなどを伝え合い共感するなど、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けられるよう指導を工夫すること。
 - イ 音楽との一体感を味わい、想像力を働かせて音楽と関わるができるよう、指導のねらいに即して体を動かす活動を取り入れること。
 - ウ 児童が様々な感覚を働かせて音楽への理解を深めたり、主体的に学習に取り組んだりすることができるようにするため、コンピュータや教育機器を効果的に活用できるよう指導を工夫すること。
 - エ 児童が学校内及び公共施設などの学校外における音楽活動とのつながりを意識できるようにするなど、児童や学校、地域の実態に応じ、生活や社会の中の音や音楽と主体的に関わっていくことができるよう配慮すること。
 - オ 表現したり鑑賞したりする多くの曲について、それらを創作した著作者がいることに気づき、学習した曲や自分たちのつくった曲を大切にする態度を養うようにするとともに、それらの著作者の創造性を尊重する意識をもてるようにすること。また、このことが、音楽文化の継承、発展、創造を支えていることについて理解する素地となるよう配慮すること。
 - (2) 和音の指導に当たっては、合唱や合奏などの活動を通して和音のもつ表情を感じ取ることができるようにすること。また、長調及び短調の曲においては、I、IV、V及びV₇などの和音を中心に指導すること。
 - (3) 我が国や郷土の音楽の指導に当たっては、そのよさなどを感じ取って表現したり鑑賞したりできるよう、音源や楽譜等の示し方、伴奏の仕方、曲に合った歌い方や楽器の演奏の仕方などの指導方法を工夫すること。
 - (4) 各学年の「A表現」の(1)の歌唱の指導に当たっては、次のとおり取り扱うこと。
 - ア 歌唱教材については、我が国や郷土の音楽に愛着がもてるよう、共通教材のほか、長い間親しまれてきた唱歌、それぞれの地方に伝承されているわらべうたや民謡など日本のうたを含めて取り上げるようにすること。

- イ 相対的な音程感覚を育てるために、適宜、移動ド唱法を用いること。
- ウ 変声以前から自分の声の特徴に関心をもたせるとともに、変声期の児童に対して適切に配慮すること。
- (5) 各学年の「A表現」の(2)の楽器については、次のとおり取り扱うこと。
- ア 各学年で取り上げる打楽器は、木琴、鉄琴、和楽器、諸外国に伝わる様々な楽器を含めて、演奏の効果、児童や学校の実態を考慮して選択すること。
- イ 第1学年及び第2学年で取り上げる旋律楽器は、オルガン、鍵盤ハーモニカなどの中から児童や学校の実態を考慮して選択すること。
- ウ 第3学年及び第4学年で取り上げる旋律楽器は、既習の楽器を含めて、リコーダーや鍵盤楽器、和楽器などの中から児童や学校の実態を考慮して選択すること。
- エ 第5学年及び第6学年で取り上げる旋律楽器は、既習の楽器を含めて、電子楽器、和楽器、諸外国に伝わる楽器などの中から児童や学校の実態を考慮して選択すること。
- オ 合奏で扱う楽器については、各声部の役割を生かした演奏ができるよう、楽器の特性を生かして選択すること。
- (6) 各学年の「A表現」の(3)の音楽づくりの指導に当たっては、次のとおり取り扱うこと。
- ア 音遊びや即興的な表現では、身近なものから多様な音を探したり、リズムや旋律を模倣したりして、音楽づくりのための発想を得ることができるよう指導すること。その際、適切な条件を設定するなど、児童が無理なく音を選択したり組み合わせたりすることができるよう指導を工夫すること。
- イ どのような音楽を、どのようにしてつくるかなどについて、児童の実態に応じて具体的な例を示しながら指導するなど、見通しをもって音楽づくりの活動ができるよう指導を工夫すること。
- ウ つくった音楽については、指導のねらいに即し、必要に応じて作品を記録させること。作品を記録する方法については、図や絵によるもの、五線譜など柔軟に指導すること。
- エ 拍のないリズム、我が国の音楽に使われている音階や調性にとらわれない音階などを児童の実態に応じて取り上げるようにすること。
- (7) 各学年の「B鑑賞」の指導に当たっては、言葉などで表す活動を取り入れ、曲想と音楽の構造との関わりについて気付いたり理解したり、曲や演奏の楽しさやよさなどを見いだしたりすることができるよう指導を工夫すること。
- (8) 各学年の〔共通事項〕に示す「音楽を形づくっている要素」については、児童の発達の段階や指導のねらいに応じて、次のア及びイから適切に選択したり関連付けたりして指導すること。
- ア 音楽を特徴付けている要素
音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、和音の響き、音階、調、拍、フレーズなど
- イ 音楽の仕組み
反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横との関係など
- (9) 各学年の〔共通事項〕の(1)のイに示す「音符、休符、記号や用語」については、児童の学習状況を考慮して、次に示すものを音楽における働きと関わらせて理解し、活用できるように取り扱うこと。



【資料1 音楽：観点一覧】

| 項目 | 観 点 |
|----------------------------------|--|
| 1 目標・内容 の取扱い | <p>音楽科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 曲想と音楽の構造などとの関わりについての理解や表したい音楽表現をするために必要な技能について ○ 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことについて ○ 音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育み、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培うことについて |
| 2 人 権 の 取 扱 い | <p>人権尊重の観点から、選曲、歌詞、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権への配慮について ○ ユニバーサルデザインに関する配慮について |
| 3 内容の程度 | <p>児童の発達段階を考慮した内容になっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 表現の活動について ○ 鑑賞の活動について ○ [共通事項] の扱いについて |
| 4 組織・配列 | <p>音楽的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 表現および鑑賞領域での思考、判断し、表現する一連の過程について ○ 言語活動の扱いについて |
| 5 創意工夫 | <p>音楽的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 表現および鑑賞領域での思考、判断し、表現する一連の過程について ○ 言語活動の扱いについて |
| 6 補充的な 学 習・ 発展的な 学 習 | <p>学習した内容を確実に習得できるよう、学習の内容や過程などを振り返ったり、学んだことを生活に生かしたりすることができるよう配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 資料やコラムなど |

| 項目 | 観 点 |
|--------------------|--|
| 1 目標・内容 の取扱い | <p>音楽科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 曲想と音楽の構造などとの関わりについての理解や表したい音楽表現をするために必要な技能について ○ 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことについて ○ 音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育み、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培うことについて |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|---|
| 教 出 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 目次にそれぞれの題材においてつけるべき力が示されている。1つの楽曲で、表現の他の分野や鑑賞を関連付けて学ぶことができる内容となっており、繰り返し学び、技能を習得できるよう取りあげられている。 ○ 役割を決めて行う活動や身体表現を取り入れながら、音楽を表現したり、味わって聴いたりできるような内容になっている。 ○ 生活や社会と音楽の関わりを取りあげるなど、子どもたちが興味をもてる教材を多く取りあげることで、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育み、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う内容になっている。 |
| 教 芸 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭に1年間の学習の見通しをもてるよう、学習内容が示されている。1つの楽曲で、歌唱と器楽の両方の領域が学べる内容となっており、繰り返し学び、技能を習得できるよう取りあげられている。 ○ 話し合う活動や身体表現を取り入れながら、音楽を表現したり、味わって聴いたりできるような内容になっている。 ○ 生活や社会と音楽の関わりを取りあげるなど、子どもたちが興味をもてる教材を多く取りあげることで、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育み、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う内容になっている。 |

【資料1 音楽】

| 項目 | 観 点 |
|---------------------|---|
| 2 人 権 の 取 扱 い | <p>人権尊重の観点から、選曲、歌詞、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権への配慮について ○ ユニバーサルデザインに関する配慮について |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|--|
| 教 出 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権を尊重する観点から選曲、歌詞、文章、写真、挿絵、図、資料などは適切であり、お互いを尊重し、多様な個性を認める配慮がされている。 ○ すべての児童にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。 |
| 教 芸 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権を尊重する観点から選曲、歌詞、文章、写真、挿絵、図、資料などは適切であり、お互いを尊重し、多様な個性を認める配慮がされている。 ○ すべての児童にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。 |

| 項目 | 観 点 |
|------------|--|
| 3 内容の程度 | <p>児童の発達段階を考慮した内容になっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○表現の活動について ○鑑賞の活動について ○〔共通事項〕の扱いについて |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|--|
| 教 出 | <p>各学年とも児童の発達段階を考慮した内容になっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 身体表現を取り入れ、教員や友だちと関わりながら題材のねらいに沿った活動ができるように考慮されている。また、「まなびナビ」のコーナーに学びの内容が示されている。 ○ 鑑賞領域では、身体表現を取り入れたり、感じたことを書き込んだりしながら、音楽を感じ取ったり、場面の様子をイメージしたりして聴く教材となっている。例えば、オーケストラを扱った教材では、オーケストラの配置や楽譜が紹介されるなど、児童が身体的、視覚的に音を結び付けて学習できるように考慮されている。 ○ 各ページの右上に「音楽を形づくっている要素」を「音楽のもと」として示されている。また、中高学年には、メモ欄が設けられている。 |
| 教 芸 | <p>各学年とも児童の発達段階を考慮した内容になっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 身体表現を取り入れ、教員や友だちと関わりながら題材のねらいに沿った活動できるように考慮されている。また、キャラクターの吹き出しなどにより、学びの内容が示されている。 ○ 鑑賞領域では、身体表現を取り入れたり、感じたことを書き込んだりしながら、音楽を感じ取ったり、場面の様子をイメージしたりして聴く教材となっている。例えば、オーケストラを扱った教材では、鑑賞資料として楽器の大きさがイメージできるような写真が紹介されるなど、児童が身体的、視覚的に音を結び付けて学習できるように考慮されている。 ○ 各ページの右下に「音楽を形づくっている要素」が示されている。また、題材で身に付ける要素が太字で示されている。 |

【資料1 音楽】

| 項 目 | 観 点 |
|------------|--|
| 4 組織・配列 | 各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。 ○単元配列について ○ページの構成（本文・写真・挿絵・図・表などの配置）について |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|--|
| 教 出 | ○ 低中高学年、それぞれ2年間を通して、題材どうしのつながりを持ち、学びが深まるように配列されている。また、全学年で「ショートタイムラーニング」として、英語の歌を取り扱っている。 ○ 題材のはじめのページの色帯に、題材ごとのねらいが示されている。また、教材ごとに学習のめあてが示されており、その教材で扱う「音楽を形づくっている要素」について右上部に配置しており、学習の見通しや活動が明示されている。 |
| 教 芸 | ○ 低中高学年、それぞれ2年間を通して、題材どうしのつながりを持ち、学びが深まるように配列されている。また、中高学年では、英語の歌を取り扱っている。 ○ 題材のはじめのページの色帯に、題材ごとのねらいが示されている。また、教材ごとに学習のめあてが示されており、その教材で扱う「音楽を形づくっている要素」について右下部に配置しており、学習の見通しや活動が明示されている。 |

| | 観 点 |
|-----------|---|
| 5 創意工夫 | <p>音楽的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 表現および鑑賞領域での思考、判断し、表現する一連の過程について ○ 言語活動の扱いについて |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|--|
| 教 出 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「まなびナビ」のコーナーで、音楽的な見方・考え方を働かせた学習活動を進めるヒントが示されている。また、折込みページを活用した大きな写真などを載せることで、曲のイメージを膨らませるよう工夫している。 ○ 聴き取ったこと、感じ取ったことを、絵、動作を通して表現し、伝え合うことで、互いの見方・考え方を知り、それを基にさらに言語活動を進めていけるよう段階的な指導が工夫されている。また、教科書に鑑賞領域において書き込む欄が設けられており、自分の思いを表現できるように工夫がされている。 |
| 教 芸 | <ul style="list-style-type: none"> ○ キャラクターの台詞で、音楽的な見方・考え方を働かせた学習活動を進めるヒントが示されている。また、情景の写真やイラストを載せることで、曲のイメージを膨らませるよう工夫している。 ○ 聴き取ったこと、感じ取ったことを、絵、動作を通して表現し、伝え合うことで、互いの見方・考え方を知り、それを基にさらに言語活動を進めていけるよう段階的な指導が工夫されている。また、教科書に鑑賞・表現の両領域において、書き込む欄が設けられており、自分の思いを表現できるように工夫がされている。 |

【資料1 音楽】

| | 観 点 |
|----------------------------------|--|
| 6 補充的な 学 習・ 発展的な 学 習 | <p>学習した内容を確実に習得できるよう、学習の内容や過程などを振り返ったり、学んだことを生活に生かしたりすることができるよう配慮されているか。</p> <p>○ 資料やコラムなど</p> |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|---|
| 教 出 | <p>○ 巻末に「音楽のもとまとめ」「音楽を表すいろいろな言葉」「音ぶや休ふ、記号など」があり、随時、関連事項を振り返ることができるように配慮されている。また、音楽と社会的事象を関連付けるコラム（震災、オリンピックなど）や作詞・作曲家、演奏者の思いも取りあげられている。</p> |
| 教 芸 | <p>○ 巻頭に「学びの地図」、巻末に「ふりかえりのページ」「いろいろな音符・休符・記号」を掲載し、1年間の学習を見通したり、随時、関連事項を振り返ったりできるように配慮されている。また、音楽と社会的事象を関連付けるコラム（震災、オリンピックなど）や作詞・作曲家、演奏者の思いも取りあげられている。</p> |

○ 表現領域及び鑑賞領域のページ数と総ページ数に占める割合

| | 教出 | | 教芸 | |
|------|-----|------|-----|------|
| | 頁数 | 割合 | 頁数 | 割合 |
| 表現領域 | 305 | 61% | 309 | 61% |
| 鑑賞領域 | 84 | 17% | 91 | 18% |
| その他 | 111 | 22% | 108 | 21% |
| 計 | 500 | 100% | 508 | 100% |

○ 表現領域の内容を取りあげている箇所数

| | 教出 | 教芸 |
|---------------------|-----|-----|
| 歌唱について取りあげている曲数 | 178 | 153 |
| 器楽について取りあげている曲数 | 66 | 75 |
| 音楽づくりについて取りあげている箇所数 | 35 | 27 |

○ 鑑賞領域の内容を取りあげている曲数

| | 教出 | 教芸 |
|------------------------------|----|----|
| 我が国の唱歌や民謡、郷土に伝わるうたを取りあげている曲数 | 18 | 23 |
| 他国の音楽文化を取りあげている曲数 | 53 | 38 |

○ [共通事項]及び発展的・補足的な学習の内容を取りあげている箇所数

| | 教出 | 教芸 |
|--------------------------|-----|-----|
| [共通事項]について取りあげている箇所数 | 101 | 166 |
| 発展的・補足的な学習の内容を取りあげている箇所数 | 101 | 128 |

図画工作

学習指導要領（図画工作）・・・・・・・・・・ 1～5
資料 1・・・・・・・・・・ 6～12
資料 2・・・・・・・・・・ 13

| 発行者の 番号・略号 | 書名 | 著作者 | 資料中 の表記 |
|---------------|------|------------------------------|------------|
| 9 開隆堂 | 図画工作 | 佐々木 達行 藤澤 英昭 柴田 和豊 ほか 58名 | 開隆堂 |
| 116 日 文 | 図画工作 | 水島 尚喜 阿部 宏行 辻 政博 ほか 44名 | 日 文 |

第2章 各教科

第7節 図画工作

第1 目標

表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。

第2 各学年の目標及び内容

〔第1学年及び第2学年〕

1 目標

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して気付くとともに、手や体全体の感覚などを働かせ材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。
- (2) 造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて考え、楽しく発想や構想をしたり、身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。
- (3) 楽しく表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする態度を養う。

2 内容

A 表現

- (1) 表現の活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 造形遊びをする活動を通して、身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に造形的な活動を思い付くことや、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するかについて考えること。
 - イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したことから、表したいことを見付けることや、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考えること。
- (2) 表現の活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 造形遊びをする活動を通して、身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れるとともに、並べたり、つないだり、積んだりするなど手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫してつくること。
 - イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表すこと。

B 鑑賞

- (1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 身の回りの作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品や身近な材料などの造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げること。

〔共通事項〕

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付くこと。

イ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。

〔第3学年及び第4学年〕

1 目標

(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して分かるとともに、手や体全体を十分に働かせ材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。

(2) 造形的なよさや面白さ、表したいこと、表し方などについて考え、豊かに発想や構想をしたり、身近にある作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。

(3) 進んで表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。

2 内容

A 表現

(1) 表現の活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 造形遊びをする活動を通して、身近な材料や場所などを基に造形的な活動を思い付くことや、新しい形や色などを思い付きながら、どのように活動するかについて考えること。

イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付けることや、表したいことや用途などを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えること。

(2) 表現の活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 造形遊びをする活動を通して、材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験を生かし、組み合わせたり、切ってつないだり、形を変えたりするなどして、手や体全体を十分に働かせ、活動を工夫してつくること。

イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すこと。

B 鑑賞

(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 身近にある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品や身近な美術作品、製作の過程などの造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げること。

〔共通事項〕

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じ分かること。

イ 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。

〔第5学年及び第6学年〕

1 目標

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を活用し、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、親しみのある作品などから自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。

2 内容

A 表現

- (1) 表現の活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 造形遊びをする活動を通して、材料や場所、空間などの特徴を基に造形的な活動を思い付くことや、構成したり周囲の様子を考え合わせたりしながら、どのように活動するかについて考えること。
 - イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいことから、表したいことを見付けることや、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、どのように主題を表すかについて考えること。
- (2) 表現の活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 造形遊びをする活動を通して、活動に応じて材料や用具を活用するとともに、前学年までの材料や用具についての経験や技能を総合的に生かしたり、方法などを組み合わせたりするなどして、活動を工夫してつくること。
 - イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、表現方法に応じて材料や用具を活用するとともに、前学年までの材料や用具などについての経験や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すこと。

B 鑑賞

- (1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 親しみのある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形などの造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること。

〔共通事項〕

- (1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴を理解すること。
 - イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習の充実を図ること。
- (2) 第2の各学年の内容の「A表現」及び「B鑑賞」の指導については相互の関連を図るようにすること。ただし、「B鑑賞」の指導については、指導の効果を高めるため必要がある場合には、児童や学校の実態に応じて、独立して行うようにすること。

- (3) 第2の各学年の内容の〔共通事項〕は、表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力であり、「A表現」及び「B鑑賞」の指導と併せて、十分な指導が行われるよう工夫すること。
- (4) 第2の各学年の内容の「A表現」については、造形遊びをする活動では、(1)のア及び(2)のアを、絵や立体、工作に表す活動では、(1)のイ及び(2)のイを関連付けて指導すること。その際、(1)のイ及び(2)のイの指導に相当する授業時数については、工作に表すことの内容に相当する授業時数が、絵や立体に表すことの内容に相当する授業時数とおよそ等しくなるように計画すること。
- (5) 第2の各学年の内容の「A表現」の指導については、適宜共同してつくりだす活動を取り上げるようにすること。
- (6) 第2の各学年の内容の「B鑑賞」においては、自分たちの作品や美術作品などの特質を踏まえて指導すること。
- (7) 低学年においては、第1章総則の第2の4の(1)を踏まえ、他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにするとともに、幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に、小学校入学当初においては、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。
- (8) 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
- (9) 第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、道徳科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容について、図画工作科の特質に応じて適切な指導をすること。
- 2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。
- (1) 児童が個性を生かして活動することができるようにするため、学習活動や表現方法などに幅をもたせるようにすること。
- (2) 各学年の「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、児童が〔共通事項〕のアとイとの関わりに気付くようにすること。
- (3) 〔共通事項〕のアの指導に当たっては、次の事項に配慮し、必要に応じて、その後の学年で繰り返し取り上げること。
- ア 第1学年及び第2学年においては、いろいろな形や色、触った感じなどを捉えること。
- イ 第3学年及び第4学年においては、形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じ、色の明るさなどを捉えること。
- ウ 第5学年及び第6学年においては、動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどを捉えること。
- (4) 各学年の「A表現」の指導に当たっては、活動の全過程を通して児童が実現したい思いを大切にしながら活動できるようにし、自分のよさや可能性を見いだし、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養うようにすること。
- (5) 各活動において、互いのよさや個性などを認め尊重し合うようにすること。
- (6) 材料や用具については、次のとおり取り扱うこととし、必要に応じて、当該学年より前の学年において初歩的な形で取り上げたり、その後の学年で繰り返し取り上げたりすること。
- ア 第1学年及び第2学年においては、土、粘土、木、紙、クレヨン、パス、はさみ、のり、簡単な小刀類など身近で扱いやすいものを用いること。
- イ 第3学年及び第4学年においては、木切れ、板材、釘、水彩絵の具、小刀、使いやすいのこぎり、金づちなどを用いること。
- ウ 第5学年及び第6学年においては、針金、糸のこぎりなどを用いること。

- (7) 各学年の「A表現」の(1)のイ及び(2)のイについては、児童や学校の実態に応じて、児童が工夫して楽しめる程度の版に表す経験や焼成する経験ができるようにすること。
 - (8) 各学年の「B鑑賞」の指導に当たっては、児童や学校の実態に応じて、地域の美術館などを利用したり、連携を図ったりすること。
 - (9) 各学年の「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、思考力、判断力、表現力等を育成する観点から、〔共通事項〕に示す事項を視点として、感じたことや思ったこと、考えたことなどを、話したり聞いたり話し合ったりする、言葉で整理するなどの言語活動を充実すること。
 - (10) コンピュータ、カメラなどの情報機器を利用することについては、表現や鑑賞の活動で使う用具の一つとして扱うとともに、必要性を十分に検討して利用すること。
 - (11) 創造することの価値に気づき、自分たちの作品や美術作品などに表れている創造性を大切にすることを養うようにすること。また、こうした態度を養うことが、美術文化の継承、発展、創造を支えていることについて理解する素地となるよう配慮すること。
- 3 造形活動で使用する材料や用具、活動場所については、安全な扱い方について指導する、事前に点検するなどして、事故防止に留意するものとする。
- 4 校内の適切な場所に作品を展示するなどし、平素の学校生活においてそれを鑑賞できるよう配慮するものとする。また、学校や地域の実態に応じて、校外に児童の作品を展示する機会を設けるなどするものとする。

【資料1 図工：観点一覧】

| 項 目 | 観 点 |
|----------------------------------|--|
| 1 目標・内容 の取扱い | <p>図画工作の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 造形的な視点についての理解や創造的につくったり表したりすることについて ○ 創造的に発想や構想したり、自分の見方や感じ方を広げたりすることについて ○ 感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培うことについて |
| 2 人権の 取扱い | <p>人権尊重の観点から、作品例、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権への配慮について ○ ユニバーサルデザインに関する配慮について <p>児童の安全について適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 安全の確保や事故防止について |
| 3 内容の程度 | <p>児童の発達段階を考慮した内容になっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 表現の活動について ○ 鑑賞の活動について ○ [共通事項]の扱いについて |
| 4 組織・配列 | <p>各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元配列について ○ ページの構成（本文・写真・挿絵・図・表などの配置）について |
| 5 創意工夫 | <p>造形的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 個性を生かした学習活動について ○ 表現および鑑賞の相互の関連について ○ 言語活動の扱いについて |
| 6 補充的な 学 習・ 発展的な 学 習 | <p>学習した内容を確実に習得できるよう、学習の内容や過程などを振り返ったり、学習を深め広げたりすることができるよう配置されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 資料やコラムなど |

| 項 目 | 観 点 |
|--------------------|--|
| 1 目標・内容 の取扱い | <p>図画工作の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 造形的な視点についての理解や創造的につくったり表したりすることについて ○ 創造的に発想や構想したり、自分の見方や感じ方を広げたりすることについて ○ 感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培うことについて |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|--|
| 開隆堂 | <p>単元ごとに学習のめあてが設定されており、適切な内容が取りあげられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 発達段階に応じた身近材料を題材に取りあげ、造形的な視点について理解し、形や色、材質感などを通してイメージや想像を広げ、創造的につくったり、表したりすることができる内容が取りあげられている。 ○ 課題を見つけ、試行錯誤しながら材料や方法などを選択し、活動できるよう題材が設定されている。「ひらめきさん」マークで造形的な視点で学習を深めるヒントを示し、児童が自主的、主体的に課題を追求する活動ができるような内容が取りあげられている。 ○ 「ひらめきコーナー」や「こころさんマーク」の助言により、他者と関わりながら活動する中で、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培うことができるよう配慮されている。 |
| 日 文 | <p>単元ごとに学習のめあてが設定されており、適切な内容が取りあげられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 発達段階に応じた身近材料を題材に取りあげ、造形的な視点について理解し、形や色の世界を広げ、思いに合うような材料や方法で見たり、つくったりできる内容が取りあげられている。 ○ 課題を見つけ、試行錯誤しながら材料や方法などを選択し、活動できるよう題材が設定されている。「ちろたん」マークや「ひらめきポケット」で造形的な視点で形や色などを見つけるヒントを示し、自分の見方や感じ方を深めることができるような内容が取りあげられている。 ○ 対話的な学びの場面を多く取りあげるなど、他者と関わりながら活動する中で、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培うことができるよう配慮されている。 |

【資料1 図工】

| 項目 | 観 点 |
|---------------------|--|
| 2 人 権 の 取 扱 い | <p>人権尊重の観点から、作品例、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権への配慮について ○ ユニバーサルデザインに関する配慮について <p>児童の安全について適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 安全の確保や事故防止について |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|---|
| 開隆堂 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権尊重の観点から、作品例、文章、挿絵、図、資料などが適切に取りあげられている。 ○ すべての児童にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。 ○ 児童の安全の確保や事故防止について適切に取りあげている。例えば、「安全」のマークにより、安全に活動するための注意事項が示されている。また、巻末の「学びの資料」には、学年に応じた道具の使用法や注意事項が示されている。 |
| 日 文 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権尊重の観点から、作品例、文章、挿絵、図、資料などが適切に取りあげられている。 ○ すべての児童にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。 ○ 児童の安全の確保や事故防止について適切に取りあげている。例えば、「気をつけよう」「かたづけ」のコーナーで、安全に活動するための注意事項が示されている。また、巻末の「使ってみよう材料と用具」では、学年に応じた道具の使用法や注意事項が示されている。 |

| 項目 | 観 点 |
|------------|---|
| 3 内容の程度 | <p>児童の発達段階を考慮した内容になっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 表現の活動について ○ 鑑賞の活動について ○ 【共通事項】の扱いについて |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|---|
| 開隆堂 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の発達段階に応じて表現活動の内容がバランスよく取りあげられている。また、題材に応じた複数の展開例が示され、自分の思いを幅広く表現できるよう考慮されている。 ○ 「小さな美術館」や「みんなのギャラリー」に鑑賞の対象となる作品が掲載されており、伝統や地域の方とのふれあいを中心に構成されている。 また、相互鑑賞については「造形のひきだし」で、造形的なものの見方・考え方、鑑賞の方法などが掲載され、児童が感じたことや思ったことを伝え合い、見方や感じ方を深めることができるように考慮されている。 ○ 対象の形や色、材質などの特徴を捉え、それぞれの発想で自由に表現する様子が紹介されている。対象の様子を自分の感覚で捉え、表現につながるイメージを持つことができるよう取りあげられている。 |
| 日 文 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の発達段階に応じて表現活動の内容がバランスよく取りあげられている。また、様々な技法や技能、材料、題材が掲載され、自分の思いを幅広く表現できるよう考慮されている。 ○ 「教科書美術館」に、鑑賞の対象となる絵画や立体作品、身近な自然の造形などが掲載されている。 また、相互鑑賞については、ページの中で写真や吹き出しを使って視点を示し、児童が感じたことや思ったことを伝え合い、見方や感じ方を深めることができるように考慮されている。 ○ 形や色、奥行きなどをとらえることができるように、様々な感覚を使って材料や用具に触れる題材が設定されている。題材のリード文は、表現につながるイメージを持つことができるよう取りあげられている。 |

【資料1 図工】

| 項目 | 観 点 |
|------------|--|
| 4 組織・配列 | <p>各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元配列について ○ ページの構成（本文・写真・挿絵・図・表などの配置）について |

| 発行者 | |
|-----|---|
| 開隆堂 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 1・2年、3・4年、5・6年で各上下巻の構成になっており、それぞれの学年の目標を踏まえたテーマ設定がされている。「あわせて学ぼう」のマークを活用することで他教科との横断的な学習ができるよう配慮されている。 ○ 見開き2ページで左上から右下に向かって活動の流れが示されている。完成作品だけでなく作品の展開例や、児童の吹き出しで発想や構想を働かせている場面が配置されている。 |
| 日 文 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 1・2年、3・4年、5・6年で各上下巻の構成になっており、それぞれの学年の目標を踏まえたテーマが設定され、1年の流れに沿って行事や季節によって題材を選択できるように配列されている。また、他教科での学習と関連付けた題材や事例を掲載し、教科等横断的な学習ができるよう配慮されている。 ○ 見開き2ページで1つの題材について掲載されている。児童が興味・関心を持つことができるように作品が大きく配置され、また、活動の流れが分かるように始まりから終わりまでの授業の写真が配置されている。 |

| 項目 | 観 点 |
|-----------|--|
| 5 創意工夫 | <p>造形的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 個性を生かした学習活動について ○ 表現および鑑賞の相互の関連について ○ 言語活動の扱いについて |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|---|
| 開隆堂 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の個性に合わせて、多様な表現ができるように多くの作品が掲載されている。また、吹き出しにより、互いを認め、それぞれの発想が生かされるよう工夫されている。 ○ 一つの題材に対して多くの作品例や技法、表現の手がかりとなるアイデアが示されており、鑑賞しながら主体的に表現することができるよう工夫されている。 ○ グループで製作したり、遊んだりする題材が示され、コミュニケーションや言語活動が活発になるよう工夫されている。 |
| 日 文 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の個性に合わせて、多様な表現ができるように多くの作品が掲載されている。また、作り方の手順などが掲載され、自信をもって主体的に活動できるように工夫されている。 ○ 児童が考えを伝えあったり、相談したりしながら、造形活動を行う様子が例示され、試行錯誤しながら表現と鑑賞を繰り返し、学べるよう工夫されている。 ○ 発想や構造、鑑賞など、様々な場面で児童がコミュニケーションをとりながら造形活動が行えるよう、児童のコメントを吹き出しで示すなど工夫されている。 |

【資料1 図工】

| 項目 | 観 点 |
|----------------------------------|---|
| 6 補足的な 学 習・ 発展的な 学 習 | <p>学習した内容を確実に習得できるよう、学習の内容や過程などを振り返ったり、学習を深め広げたりすることができるよう配置されているか。</p> <p>○ 資料やコラムなど</p> |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|--|
| 開隆堂 | <p>○ 「つながる造形」や「みんなのギャラリー」では、図画工作を通じた全国各地の伝統文化や工芸について紹介されており、学習を振り返ったり、学習を深め広げたりすることができるよう配置されている。</p> <p>なお、QRコードのあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p> |
| 日 文 | <p>○ 「図画工作のつながりひろがり」のページでは、図画工作を通じた伝統文化の良さや、平和や防災の観点をもった作品や芸術活動が紹介されており、学習を振り返ったり、深め広げたりすることができるよう配置されている。</p> <p>なお、デジタルマークのあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p> |

○ 各領域とその他のページ数

| 領域・その他 (ページ数) | | 開隆堂 | 日文 |
|------------------|--------------------|-----|-----|
| A 表現 | 造形 | 29 | 46 |
| | 絵画 | 79 | 88 |
| | 工作 | 25 | 52 |
| | 立体 | 75 | 60 |
| B 鑑賞 | | 14 | 22 |
| その他 | 材料・用具の 取扱い等 | 48 | 48 |
| | 発想や構想の ヒントとなる図版 | 56 | 60 |
| | その他 (目次等) | 10 | 10 |
| 総ページ数 | | 336 | 386 |

○ 共通事項に関連する主な題材数

| 題材 (箇所数) | 開隆堂 | 日文 |
|----------------------------|-----|-----|
| 遊ぶのもの・仕組みから 思いついたものをつくる | 10 | 16 |
| 光やかげを使って 思いついたものをつくる | 8 | 14 |
| 「相互鑑賞」について | 47 | 101 |

○ 材料や用具

| 開隆堂 | | 日 文 |
|-----------|---|---|
| 学習で使う主な用具 | | |
| 1・2 上 | クレヨン、パス 粘土板 粘土べら のり はさみ 接着剤 共同絵の具 筆 セロハンテープ カラーペン 液体粘土 タオル うちわ 板 バケツ トレ イ | クレヨン・パス 粘土板 粘土べら のり はさみ 木工用接着剤 絵の具 セロハン テープ ペン 粘着テープ 両面テープ 色鉛筆 コンテ・パステル ローラー シャ ベル |
| 1・2 下 | クレヨン、パス 粘土板 粘土べら 共同絵の具 はさみ 接着剤 紙の粘 着テープ セロハンテープ ホチキス カッターナイフ カラーペン 油性カ ラーペン 顔料マーカー インク 筆 タオル 洗濯のり ビニルテープ カッターマット 版画用具 ポウル トレイ 押しピン 画板 | クレヨン・パス 粘土板 粘土べら 絵の具 はさみ 木工用接着剤 粘着テープ セ ロハンテープ カッターナイフ ホチキス ペン コンテ・パステル 液体粘土 雑巾 のり 両面テープ 段ボールカッター 色鉛筆 ローラー 版画用ローラー バレン |
| 3・4 上 | クレヨン、パス 粘土板 粘土べら 絵の具 はさみ 接着剤 セロハンテー プ カッターナイフ ばれん 色鉛筆 かなづち 水彩用具 粘土 タオル カラーペン 紙粘土 カッターマット じょうぎ 版画用具 版画インク 新 聞紙 ペンチ ラジオペンチ くぎぬき 鉛筆 のこぎり 紙ヤスリ コンパス | クレヨン・パス 粘土板 粘土べら 絵の具 はさみ 木工用接着剤 化学接着剤 セ ロハンテープ カッターナイフ ばれん 色鉛筆 金槌 コンテ・パステル ペン の り 段ボールカッター 粘着テープ 両面テープ ローラー 版画用ローラー かきべ ら 切り糸 雑巾 送風機 カメラ |
| 3・4 下 | クレヨン、パス 粘土板 粘土べら 絵の具 はさみ 接着剤 カッターナイ フ 段ボールカッター のこぎり ばれん 彫刻刀 かなづち ストロー 歯 ブラシ ビー玉 粘土 タオル カラーペン 鉛筆 水彩用具 ホチキス カッターマット 結束バンド わりばし 定規 目打ち ぬの トレイ 紙ヤ スリ 版画インク 版画用具 すべり止め 新聞紙 | クレヨン・パス 粘土板 粘土べら 絵の具 はさみ 木工用接着剤 化学接着剤 カッターナイフ 段ボールカッター のこぎり ばれん 彫刻刀 金槌 色鉛筆、コン テ・パステル ペン のり セロハンテープ 粘着テープ 両面テープ ビニルテープ ローラー 版画用ローラー きり かきべら 切り糸 のし棒 雑巾、カメラ |
| 5・6 上 | クレヨン、パス 粘土板 粘土べら 絵の具 はさみ 接着剤 セロハンテー プ カッターナイフ 彫刻刀 電動糸鋸 ペンチ ラジオペンチ きり かな づち コンテ ローラー 色鉛筆 デジタルカメラ 水彩用具 ねん土 タオ ル カラーペン 版画インク 版画ようし 消しゴム 版画用具 板 紙やす り 新聞紙 フラフープ クリップ チョーク 針金 板材 ダンボール 片 面ダンボール ホチキス 練り板 カッターマット 定規 タブレット端末 | クレヨン・パス 粘土板 粘土べら 絵の具 はさみ 木工用接着剤 化学接着剤 セ ロハンテープ カッターナイフ 彫刻刀 電動糸のこぎり ペンチ ラジオペンチ き り 金槌 コンテ ローラー色鉛筆 カメラ パステル ペン インク 消しゴム の り 段ボールカッター 粘着テープ、両面テープ ビニルテープ 版画用ローラー バ レン のこぎり かきべら 切り糸 のし棒 雑巾 |
| 5・6 下 | クレヨン、パス 粘土板 粘土べら 絵の具 はさみ 接着剤 カッターナイ フ のこぎり かなづち きり ペンチ ラジオペンチ 粘着テープ ばれん 電動糸のこぎり 水彩用具 万能ばさみ 透明容器 色が変化するLEDライト 墨じゅう 版画インク 版画用具 カッターマット スチレンボード くぎ 紙やすり | クレヨン・パス 粘土板 粘土べら 絵の具 はさみ 木工用接着剤 化学接着剤 カッターナイフ のこぎり 金槌 きり ペンチ ラジオペンチ 粘着テープ ばれん 電動糸のこぎり 色鉛筆 コンテ・パステル ペン 墨 鉛筆 のり 段ボールカッ ター セロハンテープ 版画用ローラー 彫刻刀 液体粘土 かきべら 切り糸 のし 棒 雑巾 カメラ |

家 庭

学習指導要領（家庭）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1～4
資料 1・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5～11
資料 2・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

| 発行者の 番号・略号 | 書 名 | 著 者 者 | 資料中 の表記 |
|---------------|------------------|-------------------------------|------------|
| 2 東 書 | 新しい家庭 | 浜島 京子 岡 陽子 ほか 44名 | 東 書 |
| 9 開隆堂 | 小学校 わたしたちの家庭科 | 鳴海 多恵子 石井 克枝 堀内 かおる ほか 63名 | 開隆堂 |

第2章 各教科

第8節 家庭

第1 目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) 家庭生活を大切にする心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。

第2 各学年の内容

〔第5学年及び第6学年〕

1 内容

A 家族・家庭生活

次の(1)から(4)までの項目について、課題をもって、家族や地域の人々と協力し、よりよい家庭生活に向けて考え、工夫する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (1) 自分の成長と家族・家庭生活
 - ア 自分の成長を自覚し、家庭生活と家族の大切さや家庭生活が家族の協力によって営まれていることに気付くこと。
- (2) 家庭生活と仕事
 - ア 家庭には、家庭生活を支える仕事があり、互いに協力し分担する必要があることや生活時間の有効な使い方について理解すること。
 - イ 家庭の仕事の計画を考え、工夫すること。
- (3) 家族や地域の人々との関わり
 - ア 次のような知識を身に付けること。
 - (ア) 家族との触れ合いや団らんの大切さについて理解すること。
 - (イ) 家庭生活は地域の人々との関わりで成り立っていることが分かり、地域の人々との協力が大切であることを理解すること。
 - イ 家族や地域の人々とのよりよい関わりについて考え、工夫すること。
- (4) 家族・家庭生活についての課題と実践
 - ア 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、よりよい生活を考え、計画を立てて実践できること。

B 衣食住の生活

次の(1)から(6)までの項目について、課題をもって、健康・快適・安全で豊かな食生活、衣生活、住生活に向けて考え、工夫する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (1) 食事の役割
 - ア 食事の役割が分かり、日常の食事の大切さと食事の仕方について理解すること。

イ 楽しく食べるために日常の食事の仕方を考え、工夫すること。

(2) 調理の基礎

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 調理に必要な材料の分量や手順が分かり、調理計画について理解すること。

(イ) 調理に必要な用具や食器の安全で衛生的な取扱い及び加熱用調理器具の安全な取扱いについて理解し、適切に使用できること。

(ウ) 材料に応じた洗いや、調理に適した切り方、味の付け方、盛り付け、配膳及び後片付けを理解し、適切にできること。

(エ) 材料に適したゆで方、いため方を理解し、適切にできること。

(オ) 伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方を理解し、適切にできること。

イ おいしく食べるために調理計画を考え、調理の仕方を工夫すること。

(3) 栄養を考えた食事

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 体に必要な栄養素の種類と主な働きについて理解すること。

(イ) 食品の栄養的な特徴が分かり、料理や食品を組み合わせると必要なことを理解すること。

(ウ) 献立を構成する要素が分かり、1食分の献立作成の方法について理解すること。

イ 1食分の献立について栄養のバランスを考え、工夫すること。

(4) 衣服の着用と手入れ

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 衣服の主な働きが分かり、季節や状況に応じた日常着の快適な着方について理解すること。

(イ) 日常着の手入れが必要であることや、ボタンの付け方及び洗濯の仕方を理解し、適切にできること。

イ 日常着の快適な着方や手入れの仕方を考え、工夫すること。

(5) 生活を豊かにするための布を用いた製作

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画について理解すること。

(イ) 手縫いやミシン縫いによる目的に応じた縫いや及び用具の安全な取扱いについて理解し、適切にできること。

イ 生活を豊かにするために布を用いた物の製作計画を考え、製作を工夫すること。

(6) 快適な住まい方

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 住まいの主な働きが分かり、季節の変化に合わせた生活の大切さや住まい方について理解すること。

(イ) 住まいの整理・整頓や清掃の仕方を理解し、適切にできること。

イ 季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方を考え、快適な住まい方を工夫すること。

C 消費生活・環境

次の(1)及び(2)の項目について、課題をもって、持続可能な社会の構築に向けて身近な消費生活と環境を考え、工夫する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(1) 物や金銭の使い方と買物

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 買物の仕組みや消費者の役割が分かり、物や金銭の大切さと計画的な使い方について理解すること。

(イ) 身近な物の選び方、買い方を理解し、購入するために必要な情報の収集・整理が適切にできること。

イ 購入に必要な情報を活用し、身近な物の選び方、買い方を考え、工夫すること。

(2) 環境に配慮した生活

ア 自分の生活と身近な環境との関わりや環境に配慮した物の使い方などについて理解すること。

イ 環境に配慮した生活について物の使い方などを考え、工夫すること。

2 内容の取扱い

(1) 内容の「A家族・家庭生活」については、次のとおり取り扱うこと。

ア (1) のアについては、AからCまでの各内容の学習と関連を図り、日常生活における様々な問題について、家族や地域の人々との協力、健康・快適・安全、持続可能な社会の構築等を視点として考え、解決に向けて工夫することが大切であることに気付かせるようにすること。

イ (2) のイについては、内容の「B衣食住の生活」と関連を図り、衣食住に関わる仕事を具体的に実践できるよう配慮すること。

ウ (3) については、幼児又は低学年の児童や高齢者など異なる世代の人々との関わりについても扱うこと。また、イについては、他教科等における学習との関連を図るよう配慮すること。

(2) 内容の「B衣食住の生活」については、次のとおり取り扱うこと。

ア 日本の伝統的な生活についても扱い、生活文化に気付くことができるよう配慮すること。

イ (2) のアの(エ)については、ゆでる材料として青菜やじゃがいもなどを扱うこと。(オ)については、和食の基本となるだしの役割についても触れること。

ウ (3) のアの(ア)については、五大栄養素と食品の体内での主な働きを中心に扱うこと。(ウ)については、献立を構成する要素として主食、主菜、副菜について扱うこと。

エ 食に関する指導については、家庭科の特質に応じて、食育の充実に資するよう配慮すること。また、第4学年までの食に関する学習との関連を図ること。

オ (5) については、日常生活で使用する物を入れる袋などの製作を扱うこと。

カ (6) のアの(ア)については、主として暑さ・寒さ、通風・換気、採光、及び音を取り上げること。暑さ・寒さについては、(4) のアの(ア)の日常着の快適な着方と関連を図ること。

(3) 内容の「C消費生活・環境」については、次のとおり取り扱うこと。

ア (1) については、内容の「A家族・家庭生活」の(3)、「B衣食住の生活」の(2)、(5)及び(6)で扱う用具や実習材料などの身近な物を取り上げること。

イ (1) のアの(ア)については、売買契約の基礎について触れること。

ウ (2) については、内容の「B衣食住の生活」との関連を図り、実践的に学習できるようにすること。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(1) 題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、知識を生活体験等と関連付けてより深く理解するとともに、日常生活の中から問題を見いだして様々な解決方法を考え、他者と意見交流し、実践を評価・改善して、新たな課題を見いだす過程を重視した学習の充実に資すること。

(2) 第2の内容の「A家族・家庭生活」から「C消費生活・環境」までの各項目に相当する授業時数及び各項目の履修学年については、児童や学校、地域の実態等に応じて各学校において適

切に定めること。その際、「A家族・家庭生活」の（１）のアについては、第４学年までの学習を踏まえ、２学年間の学習の見通しをもたせるために、第５学年の最初に履修させるとともに、「A家族・家庭生活」、「B衣食住の生活」、「C消費生活・環境」の学習と関連させるようにすること。

- (3) 第２の内容の「A家族・家庭生活」の（４）については、実践的な活動を家庭や地域などで行うことができるよう配慮し、２学年間で一つ又は二つの課題を設定して履修させること。その際、「A家族・家庭生活」の（２）又は（３）、「B衣食住の生活」、「C消費生活・環境」で学習した内容との関連を図り、課題を設定できるようにすること。
 - (4) 第２の内容の「B衣食住の生活」の（２）及び（５）については、学習の効果を高めるため、２学年間にわたって取り扱い、平易なものから段階的に学習できるよう計画すること。
 - (5) 題材の構成に当たっては、児童や学校、地域の実態を的確に捉えるとともに、内容相互の関連を図り、指導の効果を高めるようにすること。その際、他教科等との関連を明確にするとともに、中学校の学習を見据え、系統的に指導ができるようにすること。
 - (6) 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
 - (7) 第１章総則の第１の２の（２）に示す道德教育の目標に基づき、道德科などとの関連を考慮しながら、第３章特別の教科道德の第２に示す内容について、家庭科の特質に応じて適切な指導をすること。
- 2 第２の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。
- (1) 指導に当たっては、衣食住など生活の中の様々な言葉を実感を伴って理解する学習活動や、自分の生活における課題を解決するために言葉や図表などを用いて生活をよりよくする方法を考えたり、説明したりするなどの学習活動の充実を図ること。
 - (2) 指導に当たっては、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用して、実習等における情報の収集・整理や、実践結果の発表などを行うことができるように工夫すること。
 - (3) 生活の自立の基礎を培う基礎的・基本的な知識及び技能を習得するために、調理や製作等の手順の根拠について考えたり、実践する喜びを味わったりするなどの実践的・体験的な活動を充実すること。
 - (4) 学習内容の定着を図り、一人一人の個性を生かし伸ばすよう、児童の特性や生活体験などを把握し、技能の習得状況に応じた少人数指導や教材・教具の工夫など個に応じた指導の充実に努めること。
 - (5) 家庭や地域との連携を図り、児童が身に付けた知識及び技能などを日常生活に活用できるよう配慮すること。
- 3 実習の指導に当たっては、次の事項に配慮するものとする。
- (1) 施設・設備の安全管理に配慮し、学習環境を整備するとともに、熱源や用具、機械などの取扱いに注意して事故防止の指導を徹底すること。
 - (2) 服装を整え、衛生に留意して用具の手入れや保管を適切に行うこと。
 - (3) 調理に用いる食品については、生の魚や肉は扱わないなど、安全・衛生に留意すること。また、食物アレルギーについても配慮すること。

| 項 目 | 観 点 |
|----------------------------------|--|
| 1 目標・内容 の取扱い | <p>家庭科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日常生活に必要な基礎的な知識・技能について ○ 日常生活の中から問題を見いだして課題を解決する力について ○ 家族の一員として生活をよりよくしようとする態度について |
| 2 人権の 取扱い | <p>人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権への配慮について ○ ユニバーサルデザインに関する配慮について <p>児童の安全について適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 安全の確保や事故防止について |
| 3 内容の程度 | <p>児童の発達段階を考慮した内容になっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 文章の記述や分量について ○ 写真、挿絵、図、表などの資料について |
| 4 組織・配列 | <p>各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元配列について ○ ページの構成（本文・写真・挿絵・図・表などの配置）について |
| 5 創意工夫 | <p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 実践的・体験的な活動について ○ 生活体験と関連づけた問題解決的な学習について |
| 6 補充的な 学 習・ 発展的な 学 習 | <p>学習した内容を確実に習得できるよう、学習の内容や過程などを振り返ったり、学んだことを生活に生かしたりすることができるよう配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 資料やコラムなど |

【資料1 家庭】

| 項目 | 観 点 |
|--------------------|--|
| 1 目標・内容 の取扱い | <p>家庭科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日常生活に必要な基礎的な知識・技能について ○ 日常生活の中から問題を見いだして課題を解決する力について ○ 家族の一員として生活をよりよくしようとする態度について |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|--|
| 東 書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、繰り返し実習を行うことを通してそれらに係る技能を身に付けることができるよう、発達段階に応じた内容が取りあげられている。 ○ 各題材とも「1見つめよう」「2計画しよう・実践しよう」「3生活に生かそう・新しい課題を見つけよう」から構成されており、一連の学習過程の中で、日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、多様な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、問題を解決する力を養う内容になっている。 ○ 学んだことを生活の中で生かすことができるように、各題材の最後の「3生活に生かそう・新しい課題を見つけよう」の中に「深めよう」のコーナーが設定されている。また、「生活を変えるチャンス!」「5年生のまとめ」「2年間のまとめ」において、生活の中から課題を設定し、新しい課題に取り組むことができるよう取り扱われている。 |
| 開隆堂 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、実習の積み重ねを通してそれらに係る技能を身に付けることができるよう、発達段階に応じた内容が取りあげられている。 ○ 各題材とも「1見つける・気づく」「2わかる・できる」「3生かす・深める」から構成されており、一連の学習過程の中で、日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、多様な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う内容になっている。 ○ 学んだことを生活の中で生かすことができるように、各題材の最後の「3生かす・深める」の中に「生活に生かそう」のコーナーが設定されている。また、学期、学年の区切りの時期に「家庭で実践しよう チャレンジコーナー」「レッツトライ 生活の課題と実践」において、学習で身につけたことをもとにして、さらに新しい「生活の中の課題」に取り組むことができるよう取り扱われている。 |

| 項目 | 観 点 |
|---------------------|--|
| 2 人 権 の 取 扱 い | <p>人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権への配慮について ○ ユニバーサルデザインに関する配慮について <p>児童の安全について適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 安全の確保や事故防止について |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|--|
| 東 書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 文章、写真、挿絵、図、資料などが、人権尊重の観点から配慮されている。例えば、登場する男女の数や役割に偏りがないようにするなど配慮されている。 ○ 手順図は視点の動きを考慮して、横に流れる図に統一され、児童が学習しやすいよう工夫されている。また、左利き児童の用具の使い方が写真で示され、フォントや色使いなどの配慮もなされている。 ○ 安全に調理や製作などの実習をすすめるため、特設ページが巻末に設定されるとともに、実習時や実習時以外において、安全に気をつける場面では「安全」マークで注意点が示されるなど、事故防止に留意するよう配慮されている。 |
| 開隆堂 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 文章、写真、挿絵、図、資料などが、人権尊重の観点から配慮されている。例えば、登場する男女の数や役割に偏りがないようにするなど配慮されている。 ○ 手順図は視点の動きを考慮して、横に流れる図に統一され、児童が学習しやすいよう工夫されている。また、左利き児童の用具の使い方が写真で示され、フォントや色使いなどの配慮もなされている。 ○ 安全に調理や製作などの実習をすすめるため、特設ページが巻頭に設定されるとともに、実習時や実習時以外において、安全に気をつける場面では「安全」マークで注意点が示されるなど、事故防止に留意するよう配慮されている。 |

【資料1 家庭】

| 項目 | 観 点 |
|------------|--|
| 3 内容の程度 | <p>児童の発達段階を考慮した内容になっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 文章の記述や分量について ○ 写真、挿絵、図、表などの資料について |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|---|
| 東 書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 文章の記述や分量が児童の発達段階を考慮された内容となっている。また、専門的な用語については、脚注などで、簡潔な表現で解説が補足されている。 ○ 作業がよく分かる大きな写真が多く、作品例、挿絵、図表などが豊富で、児童の発達段階が考慮されている。 |
| 開隆堂 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 文章の記述や分量が児童の発達段階を考慮された内容となっている。また、全ページの下部にある「ひとロメモ」の中で、専門的な用語などについて、簡潔な表現で解説されている。 ○ 実習は写真とイラストでわかりやすく例示されており、作品例、挿絵、図表などが豊富で、児童の発達段階が考慮されている。 |

| 項目 | 観 点 |
|------------|--|
| 4 組織・配列 | 各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。 ○ 単元配列について ○ ページの構成（本文・写真・挿絵・図・表などの配置）について |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|--|
| 東 書 | 各学年の目標や内容を踏まえて、教科など横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。 ○ 調理や製作などの実習の題材では、例えば、「ひと針に心をこめて」「ミシンにトライ！手作りで楽しい生活」「思いを形にして生活を豊かに」の順に配列されているなど、平易なものから段階的に発展させて学習できるよう配慮されている。また、他教科・他学年の学習内容や、中学校技術・家庭科「家庭分野」の学習内容と関連させて学習ができるよう、「関連」マークが示されていたり、「リンク」マークで他ページとの相互関連を図ったりするなど配慮されている。 ○ 見開きで実習の流れが確認できるように示されるなど、作業全体が把握しやすいように構成されている。 |
| 開隆堂 | 各学年の目標や内容を踏まえて、教科など横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。 ○ 調理や製作などの実習の題材は、例えば、「ソーイング はじめの一步」「ミシンでソーイング」「生活を豊かにソーイング」の順に配列されているなど、平易なものから段階的に発展させて学習できるよう配慮されている。また、他教科・他学年の学習内容と関連させて学習できるよう「関連」マークが示されている。中学校技術・家庭科「家庭分野」の学習とのつながりは、巻末の「2年間の学習をふり返って、中学校の学習に生かそう」で、内容ごとに、小学校の学びから発展した中学校の学習イメージが掲載されている。 ○ 見開きで実習の流れが確認できるように示されるなど、見通しを持って学習に取り組みやすいように構成されている。 |

【資料1 家庭】

| 項目 | 観 点 |
|-----------|---|
| 5 創意工夫 | <p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 実践的・体験的な活動について ○ 生活体験と関連づけた問題解決的な学習について |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|--|
| 東 書 | <p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各題材において、「話し合おう」「考えよう」「調べよう」「やってみよう」「深めよう」の表記で学習の課題が示され、児童が実践的・体験的な活動を行うことができるよう工夫されている。 ○ 学習で身につけたことを生活に生かすことができるよう、「生活を変えるチャンス！」が設けられ、実践や、進め方の具体的な方法が示されている。また、生活の営みに係る見方・考え方を働かせる場面において、学習のヒントを伝えるために、見方・考え方の4つの視点「協力」「健康・快適・安全」「生活文化」「持続可能な社会」が、それぞれ表記されている。 |
| 開隆堂 | <p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各題材において、「調べよう」「考えよう」「話し合おう」「やってみよう」の表記で学習の課題が示され、児童が実践的・体験的な活動を行うことができるよう工夫されている。 ○ 学習で身につけたことを生活に生かすことができるよう、「レッツトライ生活の課題と実践」が設けられ、実践の計画を立てやすいように課題解決に向かうためのステップが示されている。また、生活の営みに係る見方・考え方を働かせる場面において、学習のヒントを伝えるために、見方・考え方の4つの視点「協力する・助け合う」「健康・快適・安全な生活をする」「人びとの生活や文化の大切さに気づく」「持続可能な社会をめざす」が、それぞれのマークで示されている。 |

| 項目 | 観 点 |
|----------------------------------|--|
| 6 補充的な 学 習・ 発展的な 学 習 | <p>学習した内容を確実に習得できるよう、学習の内容や過程などを振り返ったり、学んだことを生活に生かしたりすることができるよう配慮されているか。</p> <p>○ 資料やコラムなど</p> |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|---|
| 東 書 | <p>○ 「いつも確かめよう」で、学習した内容をまとめ、繰り返し確認できる。また、資料やコラムが記載され、学んだ内容と実生活が結びつくよう配慮されている。</p> <p>なお、Dマークのあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p> |
| 開隆堂 | <p>○ 各題材の最後の「ふり返ろう」「生活に生かそう」で学習のめあてが達成できたか確認できる。また、コラムや、用語の補足説明である「ひとロメモ」が記載され、日常生活に必要な基礎的な理解を深めるよう配慮されている。</p> <p>なお、QRコードのあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p> |

【資料2 家庭】

○ 総ページ数、判型

| | 東 書 | 開隆堂 |
|-------|-----|-----|
| 総ページ数 | 146 | 138 |
| 判型 | A4 | AB |

○ 各内容項目の取扱いのある頁数

| | | 東 書 | 開隆堂 |
|-----------|------------------------|-----|-----|
| | | 頁数 | 頁数 |
| A 家族・家庭生活 | (1) 自分の成長と家族・家庭生活 | 10 | 7 |
| | (2) 家庭生活と仕事 | 9 | 6 |
| | (3) 家族や地域の人々との関わり | 9 | 7 |
| | (4) 家族・家庭生活についての課題と実践 | 5 | 9 |
| | 計 | 33 | 29 |
| B 衣食住の生活 | (1) 食事の役割 | 4 | 6 |
| | (2) 調理の基礎 | 24 | 20 |
| | (3) 栄養を考えた食事 | 10 | 6 |
| | (4) 衣服の着用と手入れ | 5 | 9 |
| | (5) 生活を豊かにするための布を用いた製作 | 28 | 26 |
| | (6) 快適な住まい方 | 16 | 16 |
| 計 | 87 | 83 | |
| C 消費生活・環境 | (1) 物や金銭の使い方と買物 | 10 | 8 |
| | (2) 環境に配慮した生活 | 5 | 5 |
| | 計 | 15 | 13 |

○ 安全、環境、伝統についてマークで明示している箇所数

| | 東 書 | 開隆堂 |
|---------|-----|-----|
| 「安全」マーク | 27 | 23 |
| 「環境」マーク | 13 | 13 |
| 「伝統」マーク | 15 | 12 |

○ 知識及び技能の確実な定着を図るための内容の箇所数

| | 東 書 | 開隆堂 |
|---------------|-----|-----|
| 「できたかな？」(東 書) | 15 | 10 |
| 「できたかな？」(開隆堂) | | |

○ 実生活で活用するための内容の箇所数

| | 東 書 | 開隆堂 |
|------------------------|-----|-----|
| 「深めよう」(東 書) | 14 | 19 |
| 「ふり返ろう」・「生活に生かそう」(開隆堂) | | |

○ ICTの効果的な活用をするための項目数

| | 東 書 | 開隆堂 |
|------------|-----|-----|
| Dマーク(東 書) | 14 | 29 |
| QRコード(開隆堂) | | |

保 健

学習指導要領（体育）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1～9
 資料 1・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10～18
 資料 2・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

| 発行者の 番号・略号 | 書 名 | 著 者 者 | 資料中 の表記 |
|---------------|----------|-------------------------|------------|
| 2 東 書 | 新しい保健 | 戸田 芳雄 ほか 33 名 | 東 書 |
| 4 大日本 | たのしい保健 | 大津 一義 ほか 14 名 | 大日本 |
| 207 文教社 | わたしたちの保健 | 成田 十次郎 脊山 洋右 ほか 16 名 | 文教社 |
| 208 光 文 | 小学保健 | 渡邊 正樹 ほか 15 名 | 光 文 |
| 224 学 研 | みんなの保健 | 森 昭三 ほか 26 名 | 学 研 |

第2章 各教科

第9節 体 育

第1 目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。

第2 各学年の目標及び内容

〔第1学年及び第2学年〕

1 目 標

- (1) 各種の運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、基本的な動きを身に付けるようにする。
- (2) 各種の運動遊びの行い方を工夫するとともに、考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3) 各種の運動遊びに進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、健康・安全に留意したりし、意欲的に運動をする態度を養う。

2 内 容

A 体づくりの運動遊び

体づくりの運動遊びについて、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (1) 次の運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、体を動かす心地よさを味わったり、基本的な動きを身に付けたりすること。
 - ア 体ほぐしの運動遊びでは、手軽な運動遊びを行い、心と体の変化に気付いたり、みんなで関わり合ったりすること。
 - イ 多様な動きをつくる運動遊びでは、体のバランスをとる動き、体を移動する動き、用具を操作する動き、力試しの動きをすること。
- (2) 体をほぐしたり多様な動きをつくったりする遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。
- (3) 運動遊びに進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたこと。

B 器械・器具を使つての運動遊び

器械・器具を使つての運動遊びについて、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (1) 次の運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、その動きを身に付けること。
 - ア 固定施設を使つた運動遊びでは、登り下りや懸垂移行、渡り歩きや跳び下りをする事。
 - イ マットを使つた運動遊びでは、いろいろな方向への転がり、手で支えての体の保持や回転をすること。

ウ 鉄棒を使った運動遊びでは、支持しての揺れや上がり下り、ぶら下がりや易しい回転をすること。

エ 跳び箱を使った運動遊びでは、跳び乗りや跳び下り、手を着いてのまたぎ乗りやまたぎ下りをする事。

- (2) 器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。
- (3) 運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすること。

C 走・跳の運動遊び

走・跳の運動遊びについて、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (1) 次の運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、その動きを身に付けること。
 - ア 走の運動遊びでは、いろいろな方向に走ったり、低い障害物を走り越えたりすること。
 - イ 跳の運動遊びでは、前方や上方に跳んだり、連続して跳んだりすること。
- (2) 走ったり跳んだりする簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。
- (3) 運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場の安全に気を付けたりすること。

D 水遊び

水遊びについて、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (1) 次の運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、その動きを身に付けること。
 - ア 水の中を移動する運動遊びでは、水につかって歩いたり走ったりすること。
 - イ もぐる・浮く運動遊びでは、息を止めたり吐いたりしながら、水にもぐったり浮いたりすること。
- (2) 水の中を移動したり、もぐったり浮いたりする簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。
- (3) 運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、水遊びの心得を守って安全に気を付けたりすること。

E ゲーム

ゲームについて、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (1) 次の運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、易しいゲームをすること。
 - ア ボールゲームでは、簡単なボール操作と攻めや守りの動きによって、易しいゲームをすること。
 - イ 鬼遊びでは、一定の区域で、逃げる、追いかける、陣地を取り合うなどをする事。
- (2) 簡単な規則を工夫したり、攻め方を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えること。
- (3) 運動遊びに進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場や用具の安全に気を付けたりすること。

F 表現リズム遊び

表現リズム遊びについて、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (1) 次の運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、題材になりきったりリズムに乗ったりして踊ること。
 - ア 表現遊びでは、身近な題材の特徴を捉え、全身で踊ること。
 - イ リズム遊びでは、軽快なリズムに乗って踊ること。
- (2) 身近な題材の特徴を捉えて踊ったり、軽快なリズムに乗って踊ったりする簡単な踊り方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。
- (3) 運動遊びに進んで取り組み、誰とでも仲よく踊ったり、場の安全に気を付けたりすること。

3 内容の取扱い

- (1) 内容の「A体づくりの運動遊び」については、2学年間にわたって指導するものとする。

- (2) 内容の「C走・跳の運動遊び」については、児童の実態に応じて投の運動遊びを加えて指導することができる。
- (3) 内容の「F表現リズム遊び」の(1)のイについては、簡単なフォークダンスを含めて指導することができる。
- (4) 学校や地域の実態に応じて歌や運動を伴う伝承遊び及び自然の中での運動遊びを加えて指導することができる。
- (5) 各領域の各内容については、運動と健康が関わっていることについての具体的な考えがもてるよう指導すること。

[第3学年及び第4学年]

1 目標

- (1) 各種の運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方及び健康で安全な生活や体の発育・発達について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。
- (2) 自己の運動や身近な生活における健康の課題を見付け、その解決のための方法や活動を工夫するとともに、考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3) 各種の運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで努力して運動をする態度を養う。また、健康の大切さに気付き、自己の健康の保持増進に進んで取り組む態度を養う。

2 内容

A 体づくり運動

体づくり運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (1) 次の運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、体を動かす心地よさを味わったり、基本的な動きを身に付けたりすること。
 - ア 体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体の変化に気付いたり、みんなで関わり合ったりすること。
 - イ 多様な動きをつくる運動では、体のバランスをとる動き、体を移動する動き、用具を操作する動き、力試しの動きをし、それらを組み合わせること。
- (2) 自己の課題を見付け、その解決のための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。
- (3) 運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすること。

B 器械運動

器械運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (1) 次の運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、その技を身に付けること。
 - ア マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技をすること。
 - イ 鉄棒運動では、支持系の基本的な技をすること。
 - ウ 跳び箱運動では、切り返し系や回転系の基本的な技をすること。
- (2) 自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。
- (3) 運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすること。

C 走・跳の運動

走・跳の運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (1) 次の運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、その動きを身に付けること。
 - ア かけっこ・リレーでは、調子よく走ったりバトンの受渡しをしたりすること。
 - イ 小型ハードル走では、小型ハードルを調子よく走り越えること。

ウ 幅跳びでは、短い助走から踏み切って跳ぶこと

エ 高跳びでは、短い助走から踏み切って跳ぶこと。

(2) 自己の能力に適した課題を見付け、動きを身に付けるための活動や競争の仕方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。

(3) 運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすること。

D 水泳運動

水泳運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(1) 次の運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、その動きを身に付けること。

ア 浮いて進む運動では、け伸びや初歩的な泳ぎをすること。

イ もぐる・浮く運動では、息を止めたり吐いたりしながら、いろいろなもぐり方や浮き方をすること。

(2) 自己の能力に適した課題を見付け、水の中での動きを身に付けるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。

(3) 運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、水泳運動の心得を守って安全に気を付けたりすること。

E ゲーム

ゲームについて、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(1) 次の運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、易しいゲームをすること。

ア ゴール型ゲームでは、基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによって、易しいゲームをすること。

イ ネット型ゲームでは、基本的なボール操作とボールを操作できる位置に体を移動する動きによって、易しいゲームをすること。

ウ ベースボール型ゲームでは、蹴る、打つ、捕る、投げるなどのボール操作と得点をとったり防いだりする動きによって、易しいゲームをすること。

(2) 規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えること。

(3) 運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすること。

F 表現運動

表現運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(1) 次の運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、表したい感じを表現したりリズムに乗ったりして踊ること。

ア 表現では、身近な生活などの題材からその主な特徴を捉え、表したい感じをひと流れの動きで踊ること。

イ リズムダンスでは、軽快なリズムに乗って全身で踊ること。

(2) 自己の能力に適した課題を見付け、題材やリズムの特徴を捉えた踊り方や交流の仕方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。

(3) 運動に進んで取り組み、誰とでも仲よく踊ったり、友達の動きや考えを認めたり、場の安全に気を付けたりすること。

G 保健

(1) 健康な生活について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 健康な生活について理解すること。

(ア) 心や体の調子がよいなどの健康の状態は、主体の要因や周囲の環境の要因が関わっていること。

(イ) 毎日を健康に過ごすには、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続けること、また、体の清潔を保つことなどが必要であること。

(ウ) 毎日を健康に過ごすには、明るさの調節、換気などの生活環境を整えることなどが必要であること。

イ 健康な生活について課題を見付け、その解決に向けて考え、それを表現すること。

(2) 体の発育・発達について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 体の発育・発達について理解すること。

(ア) 体は、年齢に伴って変化すること。また、体の発育・発達には、個人差があること。

(イ) 体は、思春期になると次第に大人の体に近づき、体つきが変わったり、初経、精通などが起こったりすること。また、異性への関心が芽生えること。

(ウ) 体をよりよく発育・発達させるには、適切な運動、食事、休養及び睡眠が必要であること。

イ 体がよりよく発育・発達するために、課題を見付け、その解決に向けて考え、それを表現すること。

3 内容の取扱い

(1) 内容の「A体づくり運動」については、2学年間にわたって指導するものとする。

(2) 内容の「C走・跳の運動」については、児童の実態に応じて投の運動を加えて指導することができる。

(3) 内容の「Eゲーム」の(1)のアについては、味方チームと相手チームが入り交じって得点を取り合うゲーム及び陣地を取り合うゲームを取り扱うものとする。

(4) 内容の「F表現運動」の(1)については、学校や地域の実態に応じてフォークダンスを加えて指導することができる。

(5) 内容の「G保健」については、(1)を第3学年、(2)を第4学年で指導するものとする。

(6) 内容の「G保健」の(1)については、学校でも、健康診断や学校給食など様々な活動が行われていることについて触れるものとする。

(7) 内容の「G保健」の(2)については、自分と他の人では発育・発達などに違いがあることに気付き、それらを肯定的に受け止めることが大切であることについて触れるものとする。

(8) 各領域の各内容については、運動と健康が密接に関連していることについての具体的な考えがもてるよう指導すること。

〔第5学年及び第6学年〕

1 目標

(1) 各種の運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方及び心の健康やけがの防止、病気の予防について理解するとともに、各種の運動の特性に応じた基本的な技能及び健康で安全な生活を営むための技能を身に付けるようにする。

(2) 自己やグループの運動の課題や身近な健康に関わる課題を見付け、その解決のための方法や活動を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。

(3) 各種の運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に留意したりし、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。また、健康・安全の大切さに気付き、自己の健康の保持増進や回復に進んで取り組む態度を養う。

2 内容

A 体づくり運動

体づくり運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(1) 次の運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、体を動かす心地よさを味わったり、体の動きを高めたりすること。

ア 体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体との関係に気付いたり、仲間と関わり合ったりすること。

イ 体の動きを高める運動では、ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動をすること。

(2) 自己の体の状態や体力に応じて、運動の行い方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。

(3) 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすること。

B 器械運動

器械運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(1) 次の運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、その技を身に付けること。

ア マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったり、それらを繰り返したり組み合わせたりすること。

イ 鉄棒運動では、支持系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったり、それらを繰り返したり組み合わせたりすること。

ウ 跳び箱運動では、切り返し系や回転系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったりすること。

(2) 自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。

(3) 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすること。

C 陸上運動

陸上運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(1) 次の運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、その技能を身に付けること。

ア 短距離走・リレーでは、一定の距離を全力で走ったり、滑らかなバトンの受渡しをしたりすること。

イ ハードル走では、ハードルをリズムカルに走り越えること。

ウ 走り幅跳びでは、リズムカルな助走から踏み切って跳ぶこと。

エ 走り高跳びでは、リズムカルな助走から踏み切って跳ぶこと。

(2) 自己の能力に適した課題の解決の仕方、競争や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。

(3) 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすること。

D 水泳運動

水泳運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(1) 次の運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、その技能を身に付けること。

ア クロールでは、手や足の動きに呼吸を合わせて続けて長く泳ぐこと。

イ 平泳ぎでは、手や足の動きに呼吸を合わせて続けて長く泳ぐこと。

ウ 安全確保につながる運動では、背浮きや浮き沈みをしながら続けて長く浮くこと。

(2) 自己の能力に適した課題の解決の仕方や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。

(3) 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、水泳運動の心得を守って安全に気を配ったりすること。

E ボール運動

ボール運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (1) 次の運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、その技能を身に付け、簡易化されたゲームをすること。
 - ア ゴール型では、ボール操作とボールを持たないときの動きによって、簡易化されたゲームをすること。
 - イ ネット型では、個人やチームによる攻撃と守備によって、簡易化されたゲームをすること。
 - ウ ベースボール型では、ボールを打つ攻撃と隊形をとった守備によって、簡易化されたゲームをすること。
- (2) ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。
- (3) 運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすること。

F 表現運動

表現運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (1) 次の運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、表したい感じを表現したり踊りで交流したりすること。
 - ア 表現では、いろいろな題材からそれらの主な特徴を捉え、表したい感じをひと流れの動きで即興的に踊ったり、簡単なひとま^{とまり}の動きにして踊ったりすること。
 - イ フォークダンスでは、日本の民踊や外国の踊りから、それらの踊り方の特徴を捉え、音楽に合わせて簡単なステップや動きで踊ること。
- (2) 自己やグループの課題の解決に向けて、表したい内容や踊りの特徴を捉えた練習や発表・交流の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。
- (3) 運動に積極的に取り組み、互いのよさを認め合い助け合って踊ったり、場の安全に気を配ったりすること。

G 保健

- (1) 心の健康について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 心の発達及び不安や悩みへの対処について理解するとともに、簡単な対処をすること。
 - (ア) 心は、いろいろな生活経験を通して、年齢に伴って発達すること。
 - (イ) 心と体には、密接な関係があること。
 - (ウ) 不安や悩みへの対処には、大人や友達に相談する、仲間と遊ぶ、運動をするなどいろいろな方法があること。
 - イ 心の健康について、課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現すること。
- (2) けがの防止について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア けがの防止に関する次の事項を理解するとともに、けがなどの簡単な手当をすること。
 - (ア) 交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止には、周囲の危険に気付くこと、的確な判断の下に安全に行動すること、環境を安全に整えることが必要であること。
 - (イ) けがなどの簡単な手当は、速やかに行う必要があること。
 - イ けがを防止するために、危険の予測や回避の方法を考え、それらを表現すること。
- (3) 病気の予防について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 病気の予防について理解すること。

- (ア) 病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境が関わりあって起こること。
 - (イ) 病原体が主な要因となって起こる病気の予防には、病原体が体に入るのを防ぐことや病原体に対する体の抵抗力を高めることが必要であること。
 - (ウ) 生活習慣病など生活行動が主な要因となって起こる病気の予防には、適切な運動、栄養の偏りのない食事をとること、口腔の衛生を保つことなど、望ましい生活習慣を身に付ける必要があること。
 - (エ) 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、健康を損なう原因となること。
 - (オ) 地域では、保健に関わる様々な活動が行われていること。
- イ 病気を予防するために、課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現すること。

3 内容の取扱い

- (1) 内容の「A体づくり運動」については、2学年間にわたって指導するものとする。また、(1)のイについては、体の柔らかさ及び巧みな動きを高めることに重点を置いて指導するものとする。その際、音楽に合わせて運動をするなどの工夫を図ること。
- (2) 内容の「A体づくり運動」の(1)のアと「G保健」の(1)のアの(ウ)については、相互の関連を図って指導するものとする。
- (3) 内容の「C陸上運動」については、児童の実態に応じて、投の運動を加えて指導することができる。
- (4) 内容の「D水泳運動」の(1)のア及びイについては、水中からのスタートを指導するものとする。また、学校の実態に応じて背泳ぎを加えて指導することができる。
- (5) 内容の「Eボール運動」の(1)については、アはバスケットボール及びサッカーを、イはソフトバレーボールを、ウはソフトボールを主として取り扱うものとするが、これらに替えてハンドボール、ラグビー、フットボールなどア、イ及びウの型に応じたその他のボール運動を指導することもできるものとする。なお、学校の実態に応じてウは取り扱わないことができる。
- (6) 内容の「F表現運動」の(1)については、学校や地域の実態に応じてリズムダンスを加えて指導することができる。
- (7) 内容の「G保健」については、(1)及び(2)を第5学年、(3)を第6学年で指導するものとする。また、けがや病気からの回復についても触れるものとする。
- (8) 内容の「G保健」の(3)のアの(エ)の薬物については、有機溶剤の心身への影響を中心に扱うものとする。また、覚醒剤等についても触れるものとする。
- (9) 各領域の各内容については、運動領域と保健領域との関連を図る指導に留意すること。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、体育や保健の見方・考え方を働かせ、運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決のための活動を選んだり工夫したりする活動の充実を図ること。また、運動の楽しさや喜びを味わったり、健康の大切さを実感したりすることができるよう留意すること。
- (2) 一部の領域の指導に偏ることのないよう授業時数を配当すること。
- (3) 第2の第3学年及び第4学年の内容の「G保健」に配当する授業時数は、2学年間で8単位時間程度、また、第2の第5学年及び第6学年の内容の「G保健」に配当する授業時数は、2学年間で16単位時間程度とすること。

- (4) 第2の第3学年及び第4学年の内容の「G保健」並びに第5学年及び第6学年の内容の「G保健」(以下「保健」という。)については、効果的な学習が行われるよう適切な時期に、ある程度まとまった時間を配当すること。
- (5) 低学年においては、第1章総則の第2の4の(1)を踏まえ、他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにするとともに、幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に、小学校入学当初においては、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。
- (6) 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
- (7) 第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、道徳科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容について、体育科の特質に応じて適切な指導をすること。
- 2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。
- (1) 学校や地域の実態を考慮するとともに、個々の児童の運動経験や技能の程度などに応じた指導や児童自らが運動の課題の解決を目指す活動を行えるよう工夫すること。特に、運動を苦手と感じている児童や、運動に意欲的に取り組まない児童への指導を工夫するとともに、障害のある児童などへの指導の際には、周りの児童が様々な特性を尊重するよう指導すること。
- (2) 筋道を立てて練習や作戦について話し合うことや、身近な健康の保持増進について話し合うことなど、コミュニケーション能力や論理的な思考力の育成を促すための言語活動を積極的に行うことに留意すること。
- (3) 第2の内容の指導に当たっては、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用し、各領域の特質に応じた学習活動を行うことができるように工夫すること。その際、情報機器の基本的な操作についても、内容に応じて取り扱うこと。
- (4) 運動領域におけるスポーツとの多様な関わり方や保健領域の指導については、具体的な体験を伴う学習を取り入れるよう工夫すること。
- (5) 第2の内容の「A体づくりの運動遊び」及び「A体づくり運動」の(1)のAについては、各学年の各領域においてもその趣旨を生かした指導ができること。
- (6) 第2の内容の「D水遊び」及び「D水泳運動」の指導については、適切な水泳場の確保が困難な場合にはこれらを取り扱わないことができるが、これらの心得については、必ず取り上げること。
- (7) オリンピック・パラリンピックに関する指導として、フェアなプレイを大切にするなど、児童の発達の段階に応じて、各種の運動を通してスポーツの意義や価値等に触れることができるようにすること。
- (8) 集合、整頓、列の増減などの行動の仕方を身に付け、能率的で安全な集団としての行動ができるようにするための指導については、第2の内容の「A体づくりの運動遊び」及び「A体づくり運動」をはじめとして、各学年の各領域(保健を除く。)において適切に行うこと。
- (9) 自然との関わりの深い雪遊び、氷上遊び、スキー、スケート、水辺活動などの指導については、学校や地域の実態に応じて積極的に行うことに留意すること。
- (10) 保健の内容のうち運動、食事、休養及び睡眠については、食育の観点も踏まえつつ、健康的な生活習慣の形成に結び付くよう配慮するとともに、保健を除く第3学年以上の各領域及び学校給食に関する指導においても関連した指導を行うようにすること。
- (11) 保健の指導に当たっては、健康に関心をもてるようにし、健康に関する課題を解決する学習活動を取り入れるなどの指導方法の工夫を行うこと。

【資料1 保健：観点一覧】

| 項目 | 観 点 |
|--------------------------------|---|
| 1 目標・内容 の取扱い | <p>体育科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 身近な生活における健康・安全の知識・技能について ○ 自己の課題を見つけ、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることについて ○ 健康の保持増進をめざし、楽しく明るい生活を営む態度について |
| 2 人権の 取扱い | <p>人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権への配慮について ○ ユニバーサルデザインに関する配慮について |
| 3 内容の程度 | <p>児童の発達段階を考慮した内容になっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 文章の記述や分量について ○ 写真、挿絵、図、表などの資料について |
| 4 組織・配列 | <p>各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点を含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元配列について ○ ページの構成（本文・写真・挿絵・図・表などの配置）について |
| 5 創意工夫 | <p>保健の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 具体的な体験を伴う活動について ○ 心と体の健康と発育に関する課題を解決する学習活動について |
| 6 補充的な 学習・ 発展的な 学習 | <p>学習した内容を確実に習得できるよう、学習の内容や過程などを振り返ったり、学んだことを生活に生かしたりすることができるよう配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 資料やコラムなど |

| 項目 | 観 点 |
|--------------------|---|
| 1 目標・内容 の取扱い | <p>体育科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 身近な生活における健康・安全の知識・技能について ○ 自己の課題を見つけ、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることについて ○ 健康の保持増進をめざし、楽しく明るい生活を営む態度について |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|--|
| 東 書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 各単元に「ステップ4（まとめる・生かす）」や「学習をふり返ろう」などの学習活動が取り入れられており、学習内容を整理し知識の定着を図ることのできる内容になっている。また、「実験」「実習」がイラストや写真とともに示されている。 ○ 各単元に「ステップ1」～「ステップ4」の学習活動が設定されており、児童が身近な生活における課題を見つけ、その課題の解決に向けて考えたことを表現する活動ができるよう取り扱われている。 ○ 「ステップ4」では、自分の生活を見直す活動が設けられており、気づいたことやわかったことを書いて自分の生活を振り返ることで、健康の保持増進をめざすよう取り扱われている。 |
| 大日本 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 章末に、知識及び技能を定着させるための問題が設定されており、学習した内容を振り返りながら確認できる内容になっている。また、「実験」「実習」がイラストや写真とともに示されている。 ○ 各単元で、課題をつかんだ後、「やってみよう」「話し合ってみよう」などで課題を解決する過程において、学習したことや思考したことを表現する活動ができるよう取り扱われている。 ○ 単元末に「活用して深めよう」が設けられており、学習したことを実生活の中でどのように実践していくかを考えることで、健康の保持増進をめざすよう取り扱われている。 |
| 文教社 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 章末の「わたしの○○せん言」では、知識の定着を図るために、今後どう実践していきたいかについて考え記述する内容になっている。また、「実験」「実習」がイラストや写真とともに示されている。 ○ 課題に対して、学習過程の中の「考えよう」や「話し合おう」「調べよう」などにおいて、生活の振り返りをしたり、思考を深めたり、表現するなどの活動ができるよう取り扱われている。 ○ 単元末の「新しい自分にレベルアップ」では、生活場面での事例を提示し、自分ならどうするかを考えることで、健康の保持増進をめざすよう取り扱われている。 |

【資料1 保健】

| | |
|------------|---|
| <p>光 文</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「学習のまとめ」では、知識・技能の定着を図る選択式の問題が設けられ、学習したことを整理して振り返ることができる内容になっている。また、「実験」「実習」がイラストや写真とともに示されている。 ○ 課題解決に向けて、ヒントやポイントなどがキャラクターの発言で提示されている。また、「話し合おう」など他者と話し合い、考えを深め、表現する活動ができるよう取り扱われている。 ○ 単元末の「生かそう 伝えよう」では、学習したことを自分の生活と結びつけて考える活動が設定され、健康の保持増進をめざすよう取り扱われている。 |
| <p>学 研</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 章末の「振り返る・深める・つなげる」では、記述式の問題が設定され、知識の定着を図ることのできる内容になっている。また、「実験」「実習」がイラストや写真とともに示されている。 ○ 小単元のはじめの「つかむ」では、身近な健康課題や自分の生活について考える活動が設定されており、「考える・調べる」では、課題解決に向けて、考えたり調べたりしたことをもとに、話し合う活動ができるよう取り扱われている。 ○ 単元末の「まとめる 深める」では、学習したことを活用して生活につなげたり、今後の目標を立てたりする活動内容が設定され、健康の保持増進をめざすよう取り扱われている。 |

| 項目 | 観 点 |
|---------------------|---|
| 2 人 権 の 取 扱 い | <p>人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権への配慮について ○ ユニバーサルデザインに関する配慮について |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|---|
| 東 書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。例えば、パラリンピック代表選手の小学生のころのエピソードなどが取り上げられている。 ○ すべての児童にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。 |
| 大日本 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。例えば、地域の場面では、障がいのある人と共に生きる様子などが示されている。 ○ すべての児童にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。 |
| 文教社 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。例えば、心と体の性が一致しない悩みに対し、一人ひとりの違いを認め合うことなどが示されている。 ○ すべての児童にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。 |
| 光 文 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。例えば、体と心の性が違うと感じている子どもを想定し、相談する場があることなどが示されている。 ○ すべての児童にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。 |
| 学 研 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。例えば、高齢者・外国人・障がいのある人の写真やイラストなどが用いられている。 ○ すべての児童にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。 |

【資料1 保健】

| 項目 | 観 点 |
|------------|--|
| 3 内容の程度 | <p>児童の発達段階を考慮した内容になっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 文章の記述や分量について ○ 写真、挿絵、図、表などの資料について |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|---|
| 東 書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 文章はわかりやすく、簡潔な記述であり、分量とともに児童の発達段階に応じた内容となっている。 ○ 写真、挿絵、図、表などの資料について、児童の発達段階を考慮した内容となっている。 |
| 大日本 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 文章はわかりやすく、簡潔な記述であり、分量とともに児童の発達段階に応じた内容となっている。 ○ 写真、挿絵、図、表などの資料について、児童の発達段階を考慮した内容となっている。 |
| 文教社 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 文章はわかりやすく、簡潔な記述であり、分量とともに児童の発達段階に応じた内容となっている。 ○ 写真、挿絵、図、表などの資料について、児童の発達段階を考慮した内容となっている。 |
| 光 文 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 文章はわかりやすく、簡潔な記述であり、分量とともに児童の発達段階に応じた内容となっている。 ○ 写真、挿絵、図、表などの資料について、児童の発達段階を考慮した内容となっている。 |
| 学 研 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 文章はわかりやすく、簡潔な記述であり、分量とともに児童の発達段階に応じた内容となっている。 ○ 写真、挿絵、図、表などの資料について、児童の発達段階を考慮した内容となっている。 |

| 項目 | 観 点 |
|------------|--|
| 4 組織・配列 | 各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点を含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。 ○ 単元配列について ○ ページの構成（本文・写真・挿絵・図・表などの配置）について |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|---|
| 東 書 | ○ すべての学年で、目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点を含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。また、「つなげよう」「はってん」で他学年や他教科とのつながりが示されている。 ○ 写真、挿絵、図、表などを効果的に活用し、効果的な指導が行われる構成となっている。「コール」「クール」のキャラクターが問いかけや説明をしている。 |
| 大日本 | ○ すべての学年で、目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点を含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。また、「学年マーク」「教科マーク」で他学年や他教科とのつながりが示されている。 ○ 写真、挿絵、図、表などを効果的に活用し、効果的な指導が行われる構成となっている。各ページの「ミニちしき」のコーナーで内容を補足している。また、「ゴリ先生」のキャラクターが問いかけやアドバイスを行っている。 |
| 文教社 | ○ すべての学年で、目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点を含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。 ○ 写真、挿絵、図、表などを効果的に活用し、効果的な指導が行われる構成となっている。各ページの「つぶやきくん」のキャラクターが問いかけやアドバイスなどを行っている。 |
| 光 文 | ○ すべての学年で、目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点を含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。また、「学年マーク」「教科マーク」「はってん」で他学年や他教科とのつながりが示されている。 ○ 写真、挿絵、図、表などを効果的に活用し、効果的な指導が行われる構成となっている。「豆知識」で、学習内容に関連する知識が紹介されている。 |
| 学 研 | ○ すべての学年で、目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点を含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。また、「ことば」「関連」で他学年や他教科の学習内容とのつながりが示されている。 ○ 写真、挿絵、図、表などを効果的に活用し、効果的な指導が行われる構成となっている。子どものイラストが問いかけやアドバイスなどを行っている。 |

【資料1 保健】

| 項目 | 観 点 |
|-----------|---|
| 5 創意工夫 | <p>保健の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 具体的な体験を伴う活動について ○ 心と体の健康と発育に関する課題を解決する学習活動について |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|--|
| 東 書 | <p>保健の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 手の汚れを確かめる実験やけがの手当ての実習、リラックス状態を体験する活動など、具体的な体験を伴う活動が取り扱われている。 ○ ページ上部に課題を示し、「気づく・見つける」「調べる・解決する」「深める・伝える」「まとめる・生かす」という学習過程の中で、児童自身が、自分のこととして課題を解決する学習活動が取りあげられている。 |
| 大日本 | <p>保健の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 体ほぐしの運動や軽いけがの手当てをする活動、呼吸法で心を落ち着かせる活動など、具体的な体験を伴う活動が取り扱われている。 ○ はじめに課題を示し、「やってみよう」「話し合ってみよう」「調べてみよう」「活用して深めよう」という学習過程の中で、児童自身が、自分のこととして課題を解決する学習活動が取りあげられている。 |
| 文教社 | <p>保健の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の生活を項目ごとにチェックする活動や体ほぐしの運動、腹式呼吸でリラックスする活動など、具体的な体験を伴う活動が取り扱われている。 ○ はじめに課題を示し、「ふり返ってみよう」「調べてみよう」「考えてみよう」「やってみよう」「新しい自分にレベルアップ」という学習過程の中で、児童自身が、自分のこととして課題を解決する学習活動が取りあげられている。 |
| 光 文 | <p>保健の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 体ほぐしの運動やけがの手当ての実習、呼吸筋のストレッチなど、具体的な体験を伴う活動が取り扱われている。 ○ 「はじめに」で課題を示し、「調べよう」「考えよう」「やってみよう」「話し合おう」「生かそう」「伝えよう」という学習過程の中で、児童自身が、自分のこととして課題を解決する学習活動が取りあげられている。 |

| | |
|-----|--|
| 学 研 | <p>保健の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none">○ 体ほぐしの運動や体の力を抜く体験、けがの手当ての実習など、具体的な体験を伴う活動が取り扱われている。○ ページの上部に課題を示し、「つかむ」「考える・調べる」「まとめる・深める」の学習過程の中で、児童自身が、自分のこととして課題を解決する学習活動が取りあげられている。 |
|-----|--|

【資料1 保健】

| 項目 | 観 点 |
|----------------------------------|--|
| 6 補足的な 学 習・ 発展的な 学 習 | <p>学習した内容を確実に習得できるよう、学習の内容や過程などを振り返ったり、学んだことを生活に生かしたりすることができるよう配慮されているか。</p> <p>○ 資料やコラムなど</p> |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|---|
| 東 書 | <p>学習した内容を確実に習得できるよう、学習の内容や過程などを振り返ったり、学んだことを生活に生かしたりするための資料やコラムが取り扱われている。</p> <p>○ 単元ごとの「資料」や、「はってん」「まめちしき」などがある。 なお、Dマークのあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p> |
| 大日本 | <p>学習した内容を確実に習得できるよう、学習の内容や過程などを振り返ったり、学んだことを生活に生かしたりするための資料やコラムが取り扱われている。</p> <p>○ 「しりょう」や「はってん」、「もっと知りたい」のページ、各ページの「ミニちしき」などがある。 なお、ウェブマークのあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p> |
| 文教社 | <p>学習した内容を確実に習得できるよう、学習の内容や過程などを振り返ったり、学んだことを生活に生かしたりするための資料やコラムが取り扱われている。</p> <p>○ 「もっとくわしく!」「もっと知りたい!」や「発展」のコーナー「情報コーナー」や、グラフや表などの参考資料などがある。 なお、QRコードのあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p> |
| 光 文 | <p>学習した内容を確実に習得できるよう、学習の内容や過程などを振り返ったり、学んだことを生活に生かしたりするための資料やコラムが取り扱われている。</p> <p>○ 「科学のとびら」などの資料や、「この人に聞く」のコーナーなどがある。 なお、web マークやQRコードのあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p> |
| 学 研 | <p>学習した内容を確実に習得できるよう、学習の内容や過程などを振り返ったり、学んだことを生活に生かしたりするための資料やコラムが取り扱われている。</p> <p>○ 「発展」「もっと知りたい・調べたい」「かがくの目」などがある。 なお、教科書サイトマークのあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p> |

○ 各領域のページ数と総ページ数に占める割合

| | 東 書 | | 大日本 | | 文教社 | | 光 文 | | 学 研 | |
|-----------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|
| | 頁数 | 割合 | 頁数 | 割合 | 頁数 | 割合 | 頁数 | 割合 | 頁数 | 割合 |
| 毎日の生活と健康 | 20 | 16% | 16 | 16% | 16 | 18% | 16 | 15% | 14 | 15% |
| 育ちゆく体とわたし | 18 | 14% | 16 | 16% | 16 | 18% | 19 | 18% | 16 | 17% |
| 心の健康 | 16 | 13% | 12 | 12% | 12 | 14% | 14 | 13% | 14 | 15% |
| けがの防止 | 28 | 22% | 16 | 16% | 16 | 18% | 18 | 17% | 14 | 15% |
| 病気の予防 | 32 | 25% | 24 | 24% | 23 | 26% | 27 | 25% | 25 | 26% |
| その他 | 14 | 11% | 14 | 14% | 5 | 6% | 14 | 13% | 13 | 14% |
| 計(総ページ数) | 128 | 100% | 98 | 100% | 88 | 100% | 108 | 100% | 96 | 100% |

○ 各内容を取り上げている箇所数

| | 東 書 | 大日本 | 文教社 | 光 文 | 学 研 |
|----------------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 発展的な学習について取り上げている箇所数 | 21 | 15 | 17 | 32 | 20 |
| 書き込み欄を設けている箇所数 | 119 | 54 | 44 | 56 | 50 |
| 話し合い活動を促している箇所数 | 6 | 19 | 19 | 21 | 13 |
| 他教科や他学年とのつながりを促す箇所数 | 33 | 21 | 5 | 29 | 24 |

○ 各項目を扱ったページ数と総ページ数に占める割合

| | 東 書 | | 大日本 | | 文教社 | | 光 文 | | 学 研 | |
|------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | 頁数 | 割合 | 頁数 | 割合 | 頁数 | 割合 | 頁数 | 割合 | 頁数 | 割合 |
| 喫煙、飲酒、薬物乱用の内容 | 12 | 9% | 6 | 6% | 8 | 9% | 8 | 7% | 8 | 8% |
| 地域医療に関する内容 | 6 | 5% | 2 | 2% | 2 | 2% | 4 | 4% | 3 | 3% |
| 身の回りの生活の危険に関する内容 | 32 | 25% | 20 | 20% | 18 | 20% | 22 | 20% | 19 | 20% |
| 食育に関する指導の内容 | 16 | 13% | 11 | 11% | 14 | 16% | 11 | 10% | 7 | 7% |

英 語

学習指導要領（外国語）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1～6
 資料 1・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7～20
 資料 2・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

| 発行者の 番号・略号 | 書 名 | 著 者 者 | 資料中 の表記 |
|---------------|--|-----------------------|------------|
| 2 東 書 | NEW HORIZON Elementary English Course / Picture Dictionary | アレン玉井光江 ほか 62 名 | 東 書 |
| 9 開隆堂 | Junior Sunshine | 萬谷 隆一 ほか 44 名 | 開隆堂 |
| 11 学 図 | JUNIOR TOTAL ENGLISH | 吉田 研作 ほか 21 名 | 学 図 |
| 15 三省堂 | CROWN Jr | 酒井 英樹 ほか 29 名 | 三省堂 |
| 17 教 出 | ONE WORLD Smiles | 金森 強 本多 敏幸 ほか 23 名 | 教 出 |
| 38 光 村 | Here We Go! | 小泉 仁 ほか 28 名 | 光 村 |
| 61 啓林館 | Blue Sky elementary | 影浦 攻 ほか 58 名 | 啓林館 |

第2章 各教科

第10節 外国語

第1 目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

第2 各言語の目標及び内容等

英語

1 目標

英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことの五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1の(3)に示す資質・能力を育成する。

(1) 聞くこと

- ア ゆっくりはっきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができるようにする。
- イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。
- ウ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができるようにする。

(2) 読むこと

- ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。
- イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。

(3) 話すこと〔やり取り〕

- ア 基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができるようにする。
- イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。
- ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする。

(4) 話すこと [発表]

- ア 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。
- イ 自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。
- ウ 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。

(5) 書くこと

- ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。
- イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

2 内容

[第5学年及び第6学年]

[知識及び技能]

(1) 英語の特徴やきまりに関する事項

実際に英語を用いた言語活動を通して、次に示す言語材料のうち、1に示す五つの領域別の目標を達成するのにふさわしいものについて理解するとともに、言語材料と言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることができるよう指導する。

ア 音声

次に示す事項のうち基本的な語や句、文について取り扱うこと。

- (ア) 現代の標準的な発音
- (イ) 語と語の連結による音の変化
- (ウ) 語や句、文における基本的な強勢
- (エ) 文における基本的なイントネーション
- (オ) 文における基本的な区切り

イ 文字及び符号

- (ア) 活字体の大文字、小文字
- (イ) 終止符や疑問符、コンマなどの基本的な符号

ウ 語、連語及び慣用表現

- (ア) 1に示す五つの領域別の目標を達成するために必要となる、第3学年及び第4学年において第4章外国語活動を履修する際に取り扱った語を含む600～700語程度の語
- (イ) 連語のうち、**get up**、**look at** などの活用頻度の高い基本的なもの
- (ウ) 慣用表現のうち、**excuse me**、**I see**、**I'm sorry**、**thank you**、**you're welcome** などの活用頻度の高い基本的なもの

エ 文及び文構造

次に示す事項について、日本語と英語の語順の違い等に気付かせるとともに、基本的な表現として、意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることを通して活用すること。

(ア) 文

- a 単文
- b 肯定、否定の平叙文
- c 肯定、否定の命令文
- d 疑問文のうち、**be** 動詞で始まるものや助動詞 (**can**、**do** など) で始まるもの、疑問詞 (**who**、**what**、**when**、**where**、**why**、**how**) で始まるもの

e 代名詞のうち、I、you、he、she などの基本的なものを含むもの

f 動名詞や過去形のうち、活用頻度の高い基本的なものを含むもの

(イ) 文構造

a [主語＋動詞]

b [主語＋動詞＋補語] のうち、

主語＋ be 動詞＋ $\left\{ \begin{array}{l} \text{名詞} \\ \text{代名詞} \\ \text{形容詞} \end{array} \right\}$

c [主語＋動詞＋目的語] のうち、

主語＋動詞＋ $\left\{ \begin{array}{l} \text{名詞} \\ \text{代名詞} \end{array} \right\}$

[思考力、判断力、表現力等]

(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項

具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを表現することを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うこと。

イ 身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりすること。

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

① 言語活動に関する事項

(2) に示す事項については、(1) に示す事項を活用して、例えば、次のような言語活動を通して指導する。

ア 聞くこと

(ア) 自分のことや学校生活など、身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞いて、それらを表すイラストや写真などと結び付ける活動。

(イ) 日付や時刻、値段などを表す表現など、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取る活動。

(ウ) 友達や家族、学校生活など、身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現で話される短い会話や説明を、イラストや写真などを参考にしながら聞いて、必要な情報を得る活動。

イ 読むこと

(ア) 活字体で書かれた文字を見て、どの文字であるかやその文字が大文字であるか小文字であるかを識別する活動。

(イ) 活字体で書かれた文字を見て、その読み方を適切に発音する活動。

(ウ) 日常生活に関する身近で簡単な事柄を内容とする掲示やパンフレットなどから、自分が必要とする情報を得る活動。

(エ) 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を、絵本などの中から識別する活動。

ウ 話すこと [やり取り]

(ア) 初対面の人や知り合いと挨拶を交わしたり、相手に指示や依頼をして、それらに応じたり断ったりする活動。

- (イ) 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを伝えたり、簡単な質問をしたり質問に答えたりして伝え合う活動。
- (ウ) 自分に関する簡単な質問に対してその場で答えたり、相手に関する簡単な質問をその場でしたりして、短い会話をする活動。

エ 話すこと [発表]

- (ア) 時刻や日時、場所など、日常生活に関する身近で簡単な事柄を話す活動。
- (イ) 簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の趣味や得意なことなどを含めた自己紹介をする活動。
- (ウ) 簡単な語句や基本的な表現を用いて、学校生活や地域に関することなど、身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを話す活動。

オ 書くこと

- (ア) 文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体の大文字、小文字を書く活動。
- (イ) 相手に伝えるなどの目的をもって、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句を書き写す活動。
- (ウ) 相手に伝えるなどの目的をもって、語と語の区切りに注意して、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ基本的な表現を書き写す活動。
- (エ) 相手に伝えるなどの目的をもって、名前や年齢、趣味、好き嫌いなど、自分に関する簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いた例の中から言葉を選んで書く活動。

② 言語の働きに関する事項

言語活動を行うに当たり、主として次に示すような言語の使用場面や言語の働きを取り上げるようにする。

ア 言語の使用場面の例

- (ア) 児童の身近な暮らしに関わる場面
 - ・ 家庭での生活 ・ 学校での学習や活動
 - ・ 地域の行事 など
- (イ) 特有の表現がよく使われる場面
 - ・ 挨拶 ・ 自己紹介 ・ 買物
 - ・ 食事 ・ 道案内 ・ 旅行 など

イ 言語の働きの例

- (ア) コミュニケーションを円滑にする
 - ・ 挨拶をする ・ 呼び掛ける ・ 相づちを打つ
 - ・ 聞き直す ・ 繰り返す など
- (イ) 気持ちを伝える
 - ・ 礼を言う ・ 褒める ・ 謝る など
- (ウ) 事実・情報を伝える
 - ・ 説明する ・ 報告する ・ 発表する など
- (エ) 考えや意図を伝える
 - ・ 申し出る ・ 意見を言う ・ 賛成する
 - ・ 承諾する ・ 断る など
- (オ) 相手の行動を促す
 - ・ 質問する ・ 依頼する ・ 命令する など

3 指導計画の作成と内容の取扱い

- (1) 指導計画の作成に当たっては、第3学年及び第4学年並びに中学校及び高等学校における指導との接続に留意しながら、次の事項に配慮するものとする。

- ア 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、具体的な課題等を設定し、児童が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現などの知識を、五つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること。
- イ 学年ごとの目標を適切に定め、2学年間を通じて外国語科の目標の実現を図るようにすること。
- ウ 実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの言語活動を行う際は、2の（1）に示す言語材料について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行うこと。また、第3学年及び第4学年において第4章外国語活動を履修する際に扱った簡単な語句や基本的な表現などの学習内容を繰り返し指導し定着を図ること。
- エ 児童が英語に多く触れることが期待される英語学習の特質を踏まえ、必要に応じて、特定の事項を取り上げて第1章総則の第2の3の（2）のウの（イ）に掲げる指導を行うことにより、指導の効果を高めるよう工夫すること。このような指導を行う場合には、当該指導のねらいやそれを関連付けて指導を行う事項との関係を明確にするとともに、単元など内容や時間のまとまりを見通して資質・能力が偏りなく育成されるよう計画的に指導すること。
- オ 言語活動で扱う題材は、児童の興味・関心に合ったものとし、国語科や音楽科、図画工作科など、他の教科等で児童が学習したことを活用したり、学校行事で扱う内容と関連付けたりするなどの工夫をすること。
- カ 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
- キ 学級担任の教師又は外国語を担当する教師が指導計画を作成し、授業を実施するに当たっては、ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材などの協力を得る等、指導体制の充実を図るとともに、指導方法の工夫を行うこと。
- (2) 2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。
- ア 2の（1）に示す言語材料については、平易なものから難しいものへと段階的に指導すること。また、児童の発達の段階に応じて、聞いたり読んだりすることを通して意味を理解できるように指導すべき事項と、話したり書いたりして表現できるように指導すべき事項とがあることに留意すること。
- イ 音声指導に当たっては、日本語との違いに留意しながら、発音練習などを通して2の（1）のウに示す言語材料を指導すること。また、音声と文字とを関連付けて指導すること。
- ウ 文や文構造の指導に当たっては、次の事項に留意すること。
- (ア) 児童が日本語と英語との語順等の違いや、関連のある文や文構造のまとまりを認識できるようにするために、効果的な指導ができるよう工夫すること。
- (イ) 文法の用語や用法の指導に偏ることがないように配慮して、言語活動と効果的に関連付けて指導すること。
- エ 身近で簡単な事柄について、友達に質問をしたり質問に答えたりする力を育成するため、ペア・ワーク、グループ・ワークなどの学習形態について適宜工夫すること。その際、他者とコミュニケーションを行うことに課題がある児童については、個々の児童の特性に応じて指導内容や指導方法を工夫すること。
- オ 児童が身に付けるべき資質・能力や児童の実態、教材の内容などに応じて、視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワーク、教育機器などを有効活用し、児童の興味・関心をより高め、指導の効率化や言語活動の更なる充実を図るようにすること。

カ 各単元や各時間の指導に当たっては、コミュニケーションを行う目的、場面、状況などを明確に設定し、言語活動を通して育成すべき資質・能力を明確に示すことにより、児童が学習の見通しを立てたり、振り返ったりすることができるようにすること。

(3) 教材については、次の事項に留意するものとする。

ア 教材は、聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を総合的に育成するため、1に示す五つの領域別の目標と2に示す内容との関係について、単元など内容や時間のまとまりごとに各教材の中で明確に示すとともに、実際の言語の使用場面や言語の働きに十分配慮した題材を取り上げること。

イ 英語を使用している人々を中心とする世界の人々や日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然などに関するものの中から、児童の発達の段階や興味・関心に即して適切な題材を変化をもたせて取り上げるものとし、次の観点に配慮すること。

(ア) 多様な考え方に対する理解を深めさせ、公正な判断力を養い豊かな心情を育てることに役立つこと。

(イ) 我が国の文化や、英語の背景にある文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うことに役立つこと。

(ウ) 広い視野から国際理解を深め、国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うことに役立つこと。

その他の外国語

その他の外国語については、英語の1に示す五つの領域別の目標、2に示す内容及び3に示す指導計画の作成と内容の取扱いに準じて指導を行うものとする。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 外国語科においては、英語を履修させることを原則とすること。

2 第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、道徳科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容について、外国語科の特質に応じて適切な指導をすること。

| 項目 | 観 点 |
|----------------------------------|---|
| 1 目標・内容 の取扱い | <p>外国語科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 言語や文化に対する理解や実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能について ○ 目的や場面、状況などに応じて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことについて ○ 主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ることについて |
| 2 人権の 取扱い | <p>人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権への配慮について ○ 国際理解を深め、国際協調の精神を養うことについて ○ ユニバーサルデザインに関する配慮について |
| 3 内容の程度 | <p>児童の発達段階を考慮した内容になっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 興味・関心のある題材について ○ 新出言語材料（語・連語や文構造など）の分量や提示の仕方について |
| 4 組織・配列 | <p>目標や内容を踏まえて、教科など横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「聞くこと」「話すこと」を中心に「読むこと」「書くこと」に取り組むなど、児童の意欲を高める構成について ○ 言語の使用場面や言語の働きについて |
| 5 創意工夫 | <p>英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ペア・ワーク、グループ・ワークなどの学習形態について ○ 外国語活動の学習内容の取り扱われ方について |
| 6 補充的な 学 習・ 発展的な 学 習 | <p>学習した内容を確実に習得できるよう、学習の内容や過程などを振り返ったり、学んだことを実際のコミュニケーションに活用することができるよう配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 資料・活動例など ○ 中学校への接続を意識した内容など |

【資料1 英語】

| 項目 | 観 点 |
|--------------------|---|
| 1 目標・内容 の取扱い | <p>外国語科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 言語や文化に対する理解や実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能について ○ 目的や場面、状況などに応じて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことについて ○ 主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ることについて |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|---|
| 東 書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 世界の国々や世界と日本のつながりを紹介する中で、言語や文化を理解する内容が取りあげられている。また、各単元で学習する言語材料について、音声から文字への流れが意識されており、基礎的な技能が身につく内容となっている。 ○ 目的や場面、状況などに応じて、自分の考えや気持ちなどを伝え合う内容が取りあげられている。「Enjoy Communication」は、学習した表現を使って、コミュニケーション活動を行う内容となっている。 ○ コミュニケーションの基礎について学び、相手意識をもちながら、主体的に活動に取り組める内容が取りあげられている。「Check Your Steps」は、既習事項を組み合わせ、主体的に活動できる内容となっている。 |
| 開隆堂 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 世界の国々の文化や人物などを紹介する中で、言語や文化を理解する内容が取りあげられている。また、各単元でターゲットになる英語表現を使った活動をくり返し、基礎的な技能が身につく内容となっている。 ○ 目的や場面、状況などに応じて、英語を自然に使うことができる内容が取りあげられている。「Let's Try」は、学習した表現を使って活動する内容となっている。 ○ 主体的に英語を用いてコミュニケーションを図る内容が取りあげられている。「Project」は、既習事項を活用し、主体的に活動できる内容となっている。 |
| 学 図 | <ul style="list-style-type: none"> ○ いろいろな国の文化や風習を紹介する中で、言語や文化を理解する内容が取りあげられている。また、音声によるインプットやアウトプットをくり返しなが、基礎的な技能が身につく内容となっている。 ○ 目的や場面、状況などに応じて、自分の考えや気持ちなどを伝え合う内容が取りあげられている。「話すこと（やりとり）」は、1対1でやりとりをし、表現する内容となっている。 ○ 主体的に英語を用いてコミュニケーションを図る内容が取りあげられている。「Project Time」は、既習事項を使って、主体的に活動できる内容となっている。 |

| | |
|-----|---|
| 三省堂 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 世界のくらしや風習などを紹介する中で、英語と日本語の違いなどから、言語や文化を理解する内容が取りあげられている。また、インプットの後に自分のことを表現するアウトプットを段階的に増やし、基礎的な技能が身につく内容となっている。 ○ 目的や場面、状況などに応じて、自分の考えや気持ちなどを伝え合う内容が取りあげられている。「話す活動（やりとり）」は、学習した表現を使って友だちとやりとりを行う内容となっている。 ○ 実世界の英語や実際の会話を紹介するなど、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図る内容が取りあげられている。「JUMP」では、経験した表現や語彙などを活用して、主体的に活動できる内容となっている。 |
| 教 出 | <ul style="list-style-type: none"> ○ さまざまな国の学校生活や風習などを紹介する中で、言語や文化を理解する内容が取りあげられている。また、各単元で学習する言語材料について、聞く活動を通して理解したうえで基本的なやり取りの活動が扱われており、基礎的な技能が身につく内容となっている。 ○ 目的や場面、状況などに応じて、自分の考えや気持ちなどを伝え合う内容が取りあげられている。「Activity」は、学習した表現を使って活動する内容となっている。 ○ 主体的に英語を用いてコミュニケーションを図る内容が取りあげられている。「Final Activity」は、自己表現の意欲を高める場面や状況が設定され、主体的に活動できる内容となっている。 |
| 光 村 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 世界の子どもたちを紹介する中で、自分との共通点や相違点などから言語や文化を理解する内容が取りあげられている。また、全単元で、学習する言語材料を映像や音声、チャンツなど様々な活動で繰り返し練習し、基礎的な技能が身につく内容となっている。 ○ 目的や場面、状況などに応じて、自分の考えや気持ちなどを伝え合う内容が取りあげられている。「Let's try.」は、学習した表現を使って活動する内容となっている。 ○ 主体的に英語を用いてコミュニケーションを図る内容が取りあげられている。「You can do it!」は、学習した表現を活用して、主体的に活動できる内容となっている。 |

【資料1 英語】

| | |
|-----|---|
| 啓林館 | <ul style="list-style-type: none">○ 外国の様々な話題を紹介する中で、言語や文化を理解する内容が取りあげられている。また、各単元で学習する語彙や表現を使った活動をくり返し、基礎的な技能が身につく内容となっている。○ 目的や場面、状況などに応じて、自分の考えや気持ちなどを伝え合う内容が取りあげられている。「Activity」は、学習した表現を使って活動する内容となっている。○ 主体的に英語を用いてコミュニケーションを図る内容が取りあげられている。「REVIEW」では、4技能5領域を統合する活動が設定され、主体的に活動できる内容となっている。 |
|-----|---|

| 項目 | 観 点 |
|---------------------|---|
| 2 人 権 の 取 扱 い | <p>人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権への配慮について ○ 国際理解を深め、国際協調の精神を養うことについて ○ ユニバーサルデザインに関する配慮について |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|---|
| 東 書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 教材内容や文章、写真、挿絵、図、資料などが、人権尊重の観点から配慮されている。 ○ 国際理解を深め、国際協調の精神を養うことができるよう配慮されている。例えば、世界の授業や、多言語で表示した標識など、言語や文化に関する題材や資料が取り扱われている。 ○ 文章、写真、挿絵、図、資料などが、すべての児童に見やすく、使いやすいよう取り扱われている。例えば、フォントや、4線ノートの幅や線種・基線の色使いなど、配慮されている。 |
| 開隆堂 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 教材内容や文章、写真、挿絵、図、資料などが、人権尊重の観点から配慮されている。 ○ 国際理解を深め、国際協調の精神を養うことができるよう配慮されている。例えば、「ツアープランナーになろう」「世界の衣食住を知ろう」など、言語や文化に関する題材や資料が取り扱われている。 ○ 文章、写真、挿絵、図、資料などが、すべての児童に見やすく、使いやすいよう取り扱われている。例えば、識別しづらい色使いを避けることや、文字の大きさを極力大きくすること、児童の記入欄に罫線を用いることなど、配慮されている。 |
| 学 図 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 教材内容や文章、写真、挿絵、図、資料などが、人権尊重の観点から配慮されている。 ○ 国際理解を深め、国際協調の精神を養うことができるよう配慮されている。例えば、単元の終わりの「Column」では、世界各国の風習などについての話題が提示されるなど、言語や文化に関する題材や資料が取り扱われている。 ○ 文章、写真、挿絵、図、資料などが、すべての児童に見やすく、使いやすいよう取り扱われている。例えば、フォント、カラーユニバーサルデザインなど、配慮されている。 |

【資料1 英語】

| | |
|------------|--|
| <p>三省堂</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 教材内容や文章、写真、挿絵、図、資料などが、人権尊重の観点から配慮されている。 ○ 国際理解を深め、国際協調の精神を養うことができるよう配慮されている。例えば、「世界のあいさつ」「世界のまちかど」「世界の小学校」など、言語や文化に関する題材や資料が取り扱われている。 ○ 文章、写真、挿絵、図、資料などが、すべての児童に見やすく、使いやすいよう取り扱われている。例えば、識別しにくい配色を避けること、フォント、形や記号・番号、4線の幅を十分取ることなど、配慮されている。 |
| <p>教 出</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 教材内容や文章、写真、挿絵、図、資料などが、人権尊重の観点から配慮されている。 ○ 国際理解を深め、国際協調の精神を養うことができるよう配慮されている。例えば、「Let's Look at the World」では、海外の学校、アメリカの手話、外来語など、言語や文化に関する題材や資料が取り扱われている。 ○ 文章、写真、挿絵、図、資料などが、すべての児童に見やすく、使いやすいよう取り扱われている。例えば、判読しやすい配色やレイアウト、表現方法、フォントなど、配慮されている。 |
| <p>光 村</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 教材内容や文章、写真、挿絵、図、資料などが、人権尊重の観点から配慮されている。 ○ 国際理解を深め、国際協調の精神を養うことができるよう配慮されている。例えば、「世界の友だち」では、世界各国で実際に生活する小学生の考えや暮らしを紹介するなど、言語や文化に関する題材や資料が取り扱われている。 ○ 文章、写真、挿絵、図、資料などが、すべての児童に見やすく、使いやすいよう取り扱われている。例えば、児童が学習しやすい4線の幅に対応したフォント、文字の大きさ、大判のイラスト、当該学年配当漢字への振り仮名など、配慮されている。 |
| <p>啓林館</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 教材内容や文章、写真、挿絵、図、資料などが、人権尊重の観点から配慮されている。 ○ 国際理解を深め、国際協調の精神を養うことができるよう配慮されている。例えば、各単元にある「Did you know?」では、世界各国の風習などについての話題が提示されるなど、言語や文化に関する題材や資料が取り扱われている。 ○ 文章、写真、挿絵、図、資料などが、すべての児童に見やすく、使いやすいよう取り扱われている。例えば、フォント、やさしい色使いでシンプルなデザインなど、配慮されている。 |

| 項目 | 観 点 |
|------------|---|
| 3 内容の程度 | <p>児童の発達段階を考慮した内容になっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 興味・関心のある題材について ○ 新出言語材料（語・連語や文構造など）の分量や提示の仕方について |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|--|
| 東 書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の発達段階に即して、興味・関心をもって学習を進められるよう工夫されている。例えば、5年では、自己紹介、誕生日、身近な人、地域の地図、四季や文化、世界で活躍する人などについての題材を、6年では自己紹介、行ってみたい国、世界の夏休み、地球に暮らす生物、小学校での思い出、中学校生活などについての題材が取り扱われている。 ○ 新出言語材料の分量や提示の仕方について、児童の発達段階を考慮している。例えば、自己紹介場面のページでは、5年で「Nice to meet you.」「How do you spell your name?」「What sport do you like?」など、6年で「Where are you from?」「When is your birthday?」などの表現を扱っている。単語は、スポーツ名、食べ物名、楽器名、国名などが、教科書別冊の Picture Dictionary とリンクしており、リスニングやアクティビティの中で取りあげられている。 |
| 開隆堂 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の発達段階に即して、興味・関心をもって学習を進められるよう工夫されている。例えば、5年では、自己紹介、誕生日、道案内、憧れの人、世界の正月、自分の町などについて、6年では、自己紹介、世界の国々、日本の紹介、世界の衣食住、小学校の思い出、中学校生活などについての題材が取り扱われている。 ○ 新出言語材料の分量や提示の仕方について、児童の発達段階を考慮している。例えば、自己紹介場面のページでは、5年で「Nice to meet you.」「I like ～.」など、6年で「Do you like ～?」「We are friends.」などの表現を扱っている。単語は、スポーツ名、楽器名、数字、アルファベットなどが扱われており、リスニングやアクティビティの中で取りあげられている。 |
| 学 図 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の発達段階に即して、興味・関心をもって学習を進められるよう工夫されている。例えば、5年では、自己紹介、教科・習い事、位置・道案内、誕生日・ほしいもの、食べ物の注文、あこがれの人などについて、6年では、自己紹介、好きな食べ物、日本の祭り、自分たちの町・地域、小学校の思い出、中学校生活などについての題材が取り扱われている。 ○ 新出言語材料の分量や提示の仕方について、児童の発達段階を考慮している。例えば、自己紹介場面のページでは、5年で「I like ～.」「I have ～.」「Do you have ～?」「What sport do you like?」など、6年で「I'm from ～.」「I can ～.」「I'm good at ～.」などの表現を扱っている。単語は、教科名、持ち物名、スポーツ名、国名などが扱われており、リスニングやチャンツ、アクティビティの中で取りあげられている。 |

【資料1 英語】

| | |
|------------|--|
| <p>三省堂</p> | <p>○ 児童の発達段階に即して、興味・関心をもって学習を進められるよう工夫されている。例えば、5年では、自己紹介、友だちや先生の紹介、一日の生活、日本の文化、位置と場所、世界の国々などについて、6年では、友だちや家族の紹介、行事や文化、学校紹介、夏休みの思い出、6年間の思い出、将来の夢などについての題材が取り扱われている。</p> <p>○ 新出言語材料の分量や提示の仕方について、児童の発達段階を考慮している。例えば、自己紹介場面のページでは、5年で「Hello.」「I like ～.」「I don't like ～.」「My birthday is ～.」など、6年で「Do you like ～?」「We are from ～.」などの表現を扱っている。単語は、スポーツ名、楽器名、食べ物名、月の名前などが扱われており、リスニングやアクティビティの中で取りあげられている。</p> |
| <p>教 出</p> | <p>○ 児童の発達段階に即して、興味・関心をもって学習を進められるよう工夫されている。例えば、5年では、自己紹介、誕生日、時間割・教科、一日の生活、都道府県、建物・道案内、得意なことなどについて、6年では、自己紹介、日本の文化、夏休みの思い出、世界の国々、スポーツ選手、中学校生活などについての題材が取り扱われている。</p> <p>○ 新出言語材料の分量や提示の仕方について、児童の発達段階を考慮している。例えば、自己紹介場面のページでは、5年で「Nice to meet you.」「Hello.」や「My name is ～.」「I like ～.」「I want ～.」「Thank you.」「How do you spell your name?」など、6年で「What sport do you like?」「My birthday is ～.」「I can ～.」などの表現を扱っている。単語は、スポーツ名、動物名、楽器名、教科名などが扱われており、リスニングやアクティビティの中で取りあげられている。</p> |
| <p>光 村</p> | <p>○ 児童の発達段階に即して、興味・関心をもって学習を進められるよう工夫されている。例えば、5年では、自己紹介、誕生日、教科・時間割、世界の国々、料理の注文、憧れの人などについて、6年では、自己紹介、日本の文化、夏休みの思い出、世界で活躍する人、小学校の思い出、中学校生活などについての題材が取り扱われている。</p> <p>○ 新出言語材料の分量や提示の仕方について、児童の発達段階を考慮している。例えば、自己紹介場面のページでは、5年で「I like ～.」「How do you spell it?」など、6年で「I'm from ～.」「I'm good at ～.」などの表現を扱っている。単語は、果物名、スポーツ名、動物名、国名などが扱われており、リスニングやアクティビティの中で取りあげられている。</p> |
| <p>啓林館</p> | <p>○ 児童の発達段階に即して、興味・関心をもって学習を進められるよう工夫されている。例えば、5年では、自己紹介、学校生活・教科、一日の生活、身近な人の紹介、行きたい国、料理・金額などについて、6年では、自己紹介、日本の紹介、夏休みの思い出、小学校の思い出、将来の夢・職業、中学校生活などについての題材が取り扱われている。</p> <p>○ 新出言語材料の分量や提示の仕方について、児童の発達段階を考慮している。例えば、自己紹介場面のページでは、5年で「Hi, I'm ～.」や「I like ～.」「Nice to meet you.」「How do you spell your name?」など、6年で「I can ～.」「I'm from ～.」「I'm good at ～.」「My birthday is ～.」「My favorite subject is ～.」などの表現を扱っている。単語は、食べ物名、動物名、スポーツ名、国名などが扱われており、リスニングやアクティビティの中で取りあげられている。</p> |

| 項目 | 観 点 |
|------------|--|
| 4 組織・配列 | <p>目標や内容を踏まえて、教科など横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「聞くこと」「話すこと」を中心に「読むこと」「書くこと」に取り組むなど、児童の意欲を高める構成について ○ 言語の使用場面や言語の働きについて |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|--|
| 東 書 | <p>目標や内容を踏まえて、教科など横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。また、短時間学習での扱いも例示されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「Starting Out」「Your Turn」「Enjoy Communication」「Over the Horizon」という構成になっており、「聞く」活動をはじめに多く取りあげ、その後に「話す（やり取り・発表）」、「読む・書く」という活動を取りあげている。「出会う」「慣れる」「楽しむ」「広げる」と流れが示されており、児童の意欲を高める構成になっている。 ○ 言語の使用場面は、自己紹介、道案内、料理の注文、日本の紹介、おすすめの国紹介、夏休みの思い出発表、食物連鎖についての発表、小学校の思い出紹介など、身近な題材が取りあげられている。また、言語の働きは、「あいさつをする」「発表する」「質問する」などが取り扱われている。 |
| 開隆堂 | <p>目標や内容を踏まえて、教科など横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「Let's Listen」で聞く活動、「Let's Play」で基本的なやり取りを行い、「Let's Read and Write」「Let's Try」で発表や発展的なやり取りとともに、教科書の後ろの「文字に慣れよう」でくり返し「書く」という内容で構成されており、児童の意欲を高める構成になっている。 ○ 言語の使用場面は、自己紹介、道案内、憧れの人紹介、おすすめの国紹介、日本の紹介、夏休みの思い出発表、小学校の思い出紹介、将来の夢の発表など身近な題材が取りあげられている。また、言語の働きは、「あいさつをする」「発表する」「質問する」などが取り扱われている。 |
| 学 図 | <p>目標や内容を踏まえて、教科など横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。また、短時間学習での扱いも例示されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 音声によるインプットと繰り返しにより4技能が習得できるよう取り扱われている。「読む」「書く」技能については、5年前半でアルファベットの読み書き、語彙、語句の読みと書き写し、5年後半から6年では、文の読み、書き写しという内容で構成され、児童の意欲を高める構成になっている。 ○ 言語の使用場面は、自己紹介、道案内、食べ物の注文、おすすめの国紹介、憧れの人紹介、日本の紹介、小学校の思い出紹介、将来の夢の発表など身近な題材が取りあげられている。また、言語の働きは、「あいさつをする」「発表する」「質問する」などが取り扱われている。 |

【資料1 英語】

| | |
|------------|---|
| <p>三省堂</p> | <p>目標や内容を踏まえて、教科など横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「HOP」「STEP」「JUMP」という段階の中で、多くの表現や語彙に触れ、「聞く」「話す」活動を豊富に取り扱い、段階的に「読む」「書く」活動を行うなど、児童の意欲を高める構成になっている。 ○ 言語の使用場面は、自己紹介、友だちや家族の紹介、道案内、行きたい国の発表、日本のおすすめの場所紹介、夏休みの思い出発表、小学校の思い出紹介、将来の夢の発表など身近な題材が取りあげられている。また、言語の働きは、「あいさつをする」「発表する」「質問する」などが取り扱われている。 |
| <p>教 出</p> | <p>目標や内容を踏まえて、教科など横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「Let's Watch」や「Let's Listen」で聞く活動、「Activity」で基本的なやり取りを行い、「Final Activity」で発表や発展的なやり取りとともに、「読む」「書く」活動も取り入れることで、児童の意欲を高める構成になっている。 ○ 言語の使用場面は、自己紹介、夢の時間割の発表、行ってみたい都道府県の発表、友だちになってみたい人の紹介、好きな日本の文化の紹介、行きたい国の発表、小学校の思い出紹介、中学校でしたいことの発表など身近な題材が取りあげられている。また、言語の働きは、「あいさつをする」「発表する」「質問する」などが取り扱われている。 |
| <p>光 村</p> | <p>目標や内容を踏まえて、教科など横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。また、短時間学習での扱いも例示されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「Hop!」「Step1」「Step2」「Jump!」という構成になっており、聞く活動から始まり、話す活動を経て、徐々に読む・書く活動へと段階的に学習を進めることができ、児童の意欲を高める構成になっている。 ○ 言語の使用場面は、自己紹介、オリジナルの時間割の発表、行きたい国の紹介、料理の注文、道案内、日本の文化の紹介、世界で活躍する人の紹介、中学校でしたいことの発表など身近な題材が取りあげられている。また、言語の働きは、「あいさつをする」「発表する」「質問する」などが取り扱われている。 |
| <p>啓林館</p> | <p>目標や内容を踏まえて、教科など横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。また、短時間学習での扱いも例示されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元のはじめの「聞く」活動で多くの語彙や表現に触れ、その内容を「Think and Say」や「Say and Write」、「Activity」で伝えることで、段階的に学習を進めることができ、児童の意欲を高める構成になっている。 ○ 言語の使用場面は、自己紹介、学校生活や教科、料理の注文、道案内、日本の文化の紹介、夏休みの思い出発表、将来の夢の発表、中学校でしたいことの発表など身近な題材が取りあげられている。また、言語の働きは、「あいさつをする」「発表する」「質問する」などが取り扱われている。 |

| 項目 | 観 点 |
|-----------|---|
| 5 創意工夫 | <p>英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ペア・ワーク、グループ・ワークなどの学習形態について ○ 外国語活動の学習内容の取り扱い方について |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|---|
| 東 書 | <p>英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各単元の「Let's Try」、単元末にある「Enjoy Communication」や「Check Your Steps」で、ペア・ワークやグループ・ワークが設定され、相手を意識した聞き方・話し方ができる学習形態となるよう工夫されている。 ○ 各単元の「Starting Out」で、外国語活動で慣れ親しんだ語彙や表現をくり返し登場させ、振り返ることができるよう工夫されている。 |
| 開隆堂 | <p>英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各単元の「Let's Play」などでペア・ワークやグループ・ワークが設定され、児童どうしの活動を促し、学級づくりに活かせるよう工夫されている。 ○ 5年冒頭の「Spring Festival」で、外国語活動で学習した語彙や表現を振り返ることができるよう工夫されている。 |
| 学 図 | <p>英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各単元の「Use and Check」などにおいて、ペア・ワークやグループ・ワークが設定され、児童どうしの学び合いを促すよう工夫されている。 ○ 5・6年冒頭の「Pre-lesson」で、アルファベットの確認や外国語活動で学習した語彙や表現を振り返ることができるよう工夫されている。 |
| 三省堂 | <p>英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「Talk to Friends」「Write&Talk」などで、ペア・ワークやグループ・ワークが設定され、活動しながら学べるよう工夫されている。 ○ 5年冒頭の「英語で言えるかな」で、外国語活動で慣れ親しんだ語彙や表現を振り返ることができるよう工夫されている。 |

【資料1 英語】

| | |
|------------|--|
| <p>教 出</p> | <p>英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各単元の「Activity」や「Final Activity」で、ペア・ワークやグループ・ワークが設定され、実際にコミュニケーション活動をする機会を持てるよう工夫されている。 ○ 5・6年冒頭の「Let's Start Together」で、アルファベットやものの名前を中心に、外国語活動で学んだことを振り返ることができるよう工夫されている。 |
| <p>光 村</p> | <p>英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各単元の「Let's Play」で、学習内容に関連したゲームやアクティビティがあり、単元末の「You can do it!」では慣れ親しんだ表現を使ったペア・ワークやグループ・ワークが設定され、活動しながら学べるよう工夫されている。 ○ 5・6年冒頭の「Let's start」で、外国語活動で学んだ語彙や表現を振り返ることができるよう工夫されている。 |
| <p>啓林館</p> | <p>英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各単元の「Activity」で、ペア・ワークやグループ・ワークが設定され、学んだことを活かすやりとりや発表活動ができるよう工夫されている。 ○ 5年冒頭の「Pre Unit」で、ローマ字や好きなもののやりとりの語彙や表現など、外国語活動で学習した内容を振り返ることができるよう工夫されている。 |

| 項目 | 観 点 |
|----------------------------------|--|
| 6 補充的な 学 習・ 発展的な 学 習 | <p>学習した内容を確実に習得できるよう、学習の内容や過程などを振り返ったり、学んだことを実際のコミュニケーションに活用することができるよう配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 資料・活動例など ○ 中学校への接続を意識した内容など |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|---|
| 東 書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 各単元の「Enjoy Communication」は、英語を実際に使う場面を想定してコミュニケーションカードを手作りしたり、ことばの働きについて話し合ったりして、実際のコミュニケーションに活用することができる。また、「Check Your Steps」では、学んだ英語を振り返ることができる。 なお、QRコードのあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。 ○ 6年の巻末で、文構造への気付きを促す内容を取り入れている。また、6年のUnit7～8は「中学校への扉を開けよう」というテーマで、小学校生活を振り返ったり、中学校生活や将来について考えたりする活動を取り入れた内容になっている。 |
| 開隆堂 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 各単元の最後に、その単元の内容を振り返るコーナーがあり、各項目について「できた」～「とてもよくできた」までの4段階で、各自で色を塗り振り返ることができる。また、「Let's Try」や「Let's Play」で、インタビューや話し合い、発表など実際のコミュニケーションに活用することができる。 なお、QRコードのあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。 ○ 6年の巻末で、中学校でつまずきやすい項目を取りあげている。また、6年のUnit6～8で小学校生活を振り返ったり、将来の夢や中学校でしたいことを発表したりするよう構成されており、中学校への接続を意識した内容になっている。 |
| 学 図 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 各単元の最後に「Check Time」があり、各単元を振り返って各項目に対して「よくできた」「できた」「がんばる」のいずれかにチェックしたり、感想やこれからの目標を書いたりできる。また、「Project Time」では、友だちと意見を交わしたり、提示用シートを作って発表したりして実際のコミュニケーションに活用することができる。 なお、QRコードのあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。 ○ 中学校で学習する文法を歌の中で覚えることができる。また、6年のLesson8で将来の夢、Lesson10では中学校でしたいことについて伝えたり尋ね合ったりするように設定され、中学校への接続を意識した内容になっている。 |

【資料1 英語】

| | |
|------------|---|
| <p>三省堂</p> | <p>○ 複数の単元を学習した後、「Jump」に「まとめとふりかえり」のコーナーが設定されており、学習した内容を振り返ることができる。また、同じく「Jump」の中の「Presentation」では、学んだことを友だちに伝えたり全体に発表したりして、実際のコミュニケーションに活用することができる。 なお、QRコードのあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p> <p>○ 6年のPresentation2で小学校の思い出、Lesson6とPresentation3で将来の夢について伝える場面があり、その際に中学校についても意識することが考えられる内容になっている。</p> |
| <p>教 出</p> | <p>○ 各単元の最後に、内容を振り返るコーナーがあり、各項目について「よくできた」「できた」「もう少し」の3段階で各自振り返ることができる。また、「Final Activity」では、友だちと尋ね合ったり、自分の意見を発表したりして、学習した内容を実際のコミュニケーションに活用することができる。 なお、「まなびリンク」により、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p> <p>○ 6年のLesson7～9で文構造への気付きを促す活動を設けている。また、6年のLesson7～9で小学校の思い出、将来の夢、中学校の部活動や学校行事について発表したり尋ねあったりする活動があり、中学校への接続を意識した内容になっている。</p> |
| <p>光 村</p> | <p>○ 各単元の最後に振り返りのコーナーがあり、その単元の内容を理解できたかを各自で振り返ることができる。また、「Let's Try」や「You can do it!」では、友だちと尋ね合ったり、自分の意見を発表したりして、学習した内容を実際のコミュニケーションに活用することができる。 なお、QRコードのあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p> <p>○ 6年巻末の「中学校に向けて英語の学習を続けていこう」で、中学校での学習に役立つ内容が取りあげられている。また、6年のUnit7～9で、小学校の思い出、将来の夢、中学校で入りたい部活動やしたいことを発表する場面が設定されており、中学校への接続を意識した内容になっている。</p> |
| <p>啓林館</p> | <p>○ 各単元の最後の「Looking Back」のコーナーで、既習事項が定着したかどうかチェックしたり、感想や今後の目標を書いたりすることで、各自で振り返ることができる。また、「Activity」では、友だちと尋ね合ったり、自分の意見を発表したりして、学習した内容を実際のコミュニケーションに活用することができる。 なお、QRコードのあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p> <p>○ 6年のUnit6～8で、小学校の思い出、将来の夢、中学校で入りたい部活動やしたいことを発表する場面が設定されており、中学校への接続を意識した内容になっている。</p> |

○ 4技能5領域を扱っている箇所数

| | 東書 | | 開隆堂 | | 学図 | | 三省堂 | | 教出 | | 光村 | | 啓林館 | |
|----------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|----|----|----|-----|-----|
| | 5年 | 6年 | 5年 | 6年 | 5年 | 6年 | 5年 | 6年 | 5年 | 6年 | 5年 | 6年 | 5年 | 6年 |
| 聞くこと | 68 | 68 | 50 | 57 | 59 | 56 | 35 | 33 | 35 | 29 | 21 | 19 | 109 | 88 |
| 読むこと | 32 | 72 | 14 | 17 | 28 | 33 | 8 | 10 | 4 | 9 | 7 | 8 | 12 | 23 |
| 話すこと [やり取り] | 80 | 67 | 21 | 26 | 30 | 27 | 32 | 33 | 21 | 17 | 17 | 11 | 11 | 9 |
| 話すこと [発表] | 7 | 10 | 11 | 17 | 11 | 10 | 3 | 3 | 7 | 7 | 10 | 16 | 59 | 47 |
| 書くこと | 26 | 72 | 25 | 19 | 33 | 34 | 6 | 6 | 13 | 18 | 18 | 18 | 10 | 30 |
| 計 | 213 | 289 | 121 | 136 | 161 | 160 | 84 | 85 | 80 | 80 | 73 | 72 | 201 | 197 |

○ 項目別 数/有無 等

| | 東書 | | 開隆堂 | | 学図 | | 三省堂 | | 教出 | | 光村 | | 啓林館 | |
|-------------------|-----------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|
| | 5年 | 6年 | 5年 | 6年 | 5年 | 6年 | 5年 | 6年 | 5年 | 6年 | 5年 | 6年 | 5年 | 6年 |
| 教科書の総ページ数 | 106 | 106 | 142 | 150 | 162 | 158 | 142 | 138 | 146 | 146 | 161 | 163 | 138 | 138 |
| | (別冊)50 | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書の大きさ | A4判 | | AB判 | | A4判 | | AB判 | | AB判 | | AB判 | | AB判 | |
| 単元数 | 8 | 8 | 11 | 13 | 10 | 10 | 7 | 7 | 9 | 9 | 9 | 9 | 8 | 8 |
| CAN-DOリスト (有無) | 有 (別冊) | | 有 | 有 | 無 | 無 | 有 | 有 | 無 | 無 | 有 | 有 | 有 | 有 |
| 他教科とのリンク数 | 13 | 11 | 11 | 14 | 14 | 14 | 4 | 3 | 5 | 7 | 1 | 3 | 4 | 7 |
| ふりかえりの数 | 3 | 3 | 11 | 13 | 10 | 10 | 6 | 6 | 9 | 9 | 9 | 9 | 8 | 8 |
| 国の数 | 24 | 29 | 11 | 23 | 19 | 20 | 14 | 17 | 19 | 28 | 31 | 31 | 29 | 11 |
| 物語の数 | 1 | 1 | 0 | 1 | 10 | 10 | 4 | 4 | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 1 |
| チャンツ/ジングルの数 | 8 | 8 | 9 | 21 | 24 | 24 | 14 | 14 | 10 | 9 | 18 | 16 | 40 | 28 |
| 歌の数 | 8 | 8 | 16 | 11 | 10 | 10 | 0 | 0 | 6 | 2 | 6 | 9 | 0 | 0 |
| 4線幅の比率 | 5:9:5 | | 4:5:4 | | 5:6:5 | | 5:6:5 | | 4:5:4 | | 5:9:5 | | 5:6:5 | |

道 徳

学習指導要領（特別の教科 道徳）・・・・・・・・・・ 1～4
 資料 1・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5～15
 資料 2・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16～18

| 発行者の 番号・略号 | 書 名 | 著 者 | 資料中 の表記 |
|---------------|---------------------------------------|-------------------------------|------------|
| 2 東 書 | 新訂 新しい道徳 | 渡邊 満 押谷 由夫 ほか 58 名 | 東 書 |
| 11 学 図 | かがやけみらい 小学校 道徳 きづき／まなび | 松尾 直博 ほか 19 名 | 学 図 |
| 17 教 出 | 小学道徳 はばたこう明日へ | 林 泰成 貝塚 茂樹 柳沼 良太 ほか 23 名 | 教 出 |
| 38 光 村 | 道徳 きみが いちばん ひかると き | 朝倉 諭美子 杉中 康平 田沼 茂紀 ほか 25 名 | 光 村 |
| 116 日 文 | 小学道徳 生きる力 / 道徳ノート | 藤永 芳純 島 恒生 ほか 46 名 | 日 文 |
| 208 光 文 | 小学道徳 ゆたかな心 | 加藤 宣行 土田 雄一 ほか 39 名 | 光 文 |
| 224 学 研 | 新・みんなの道徳 | 永田 繁雄 ほか 36 名 | 学 研 |
| 232 廣あかつき | みんなで考え、話し合う小学生の道徳/ 自分を見つめ、考える道徳ノート | 横山 利弘 七條 正典 柴原 弘志 ほか 15 名 | 廣あかつき |

第3章 特別の教科 道徳

第1 目 標

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

第2 内 容

学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要である道徳科においては、以下に示す項目について扱う。

A 主として自分自身に関すること

[善悪の判断、自律、自由と責任]

〔第1学年及び第2学年〕

よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと。

〔第3学年及び第4学年〕

正しいと判断したことは、自信をもって行うこと。

〔第5学年及び第6学年〕

自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること。

[正直、誠実]

〔第1学年及び第2学年〕

うそをついたりごまかしをしたりしないで、素直に伸び伸びと生活すること。

〔第3学年及び第4学年〕

過ちは素直に改め、正直に明るい心で生活すること。

〔第5学年及び第6学年〕

誠実に、明るい心で生活すること。

[節度、節制]

〔第1学年及び第2学年〕

健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。

〔第3学年及び第4学年〕

自分でできることは自分でやり、安全に気を付け、よく考えて行動し、節度のある生活をする。

〔第5学年及び第6学年〕

安全に気を付けることや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛けること。

[個性の伸長]

〔第1学年及び第2学年〕

自分の特徴に気付くこと。

〔第3学年及び第4学年〕

自分の特徴に気付き、長所を伸ばすこと。

〔第5学年及び第6学年〕

自分の特徴を知って、短所を改め長所を伸ばすこと。

[希望と勇気、努力と強い意志]

〔第1学年及び第2学年〕

自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと。

〔第3学年及び第4学年〕

自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜くこと。

〔第5学年及び第6学年〕

より高い目標を立て、希望と勇気をもち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。

[真理の探究]

〔第5学年及び第6学年〕

真理を大切にし、物事を探究しようとする心をもつこと。

B 主として人との関わりに関すること

[親切、思いやり]

〔第1学年及び第2学年〕

身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。

〔第3学年及び第4学年〕

相手のことを思いやり、進んで親切にすること。

〔第5学年及び第6学年〕

誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。

[感謝]

〔第1学年及び第2学年〕

家族など日頃世話になっている人々に感謝すること。

〔第3学年及び第4学年〕

家族など生活を支えてくれている人々や現在の生活を築いてくれた高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接すること。

〔第5学年及び第6学年〕

日々の生活が家族や過去からの多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えること。

[礼儀]

〔第1学年及び第2学年〕

気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接すること。

〔第3学年及び第4学年〕

礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心をもって接すること。

〔第5学年及び第6学年〕

時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接すること。

[友情、信頼]

〔第1学年及び第2学年〕

友達と仲よくし、助け合うこと。

〔第3学年及び第4学年〕

友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。

〔第5学年及び第6学年〕

友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。

[相互理解、寛容]

〔第3学年及び第4学年〕

自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること。

〔第5学年及び第6学年〕

自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。

C 主として集団や社会との関わりに関すること

[規則の尊重]

〔第1学年及び第2学年〕

約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること。

〔第3学年及び第4学年〕

約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること。

〔第5学年及び第6学年〕

法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと。

[公正、公平、社会正義]

〔第1学年及び第2学年〕

自分の好き嫌いにとらわれなくて接すること。

〔第3学年及び第4学年〕

誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接すること。

〔第5学年及び第6学年〕

誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めること。

[勤労、公共の精神]

〔第1学年及び第2学年〕

働くことのよさを知り、みんなのために働くこと。

〔第3学年及び第4学年〕

働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働くこと。

〔第5学年及び第6学年〕

- 働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうとともに、その意義を理解し、公共のために役に立つことをすること。
- [家族愛、家庭生活の充実]
 [第1学年及び第2学年]
 父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つこと。
 [第3学年及び第4学年]
 父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくること。
 [第5学年及び第6学年]
 父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをすること。
- [よりよい学校生活、集団生活の充実]
 [第1学年及び第2学年]
 先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学級や学校の生活を楽しくすること。
 [第3学年及び第4学年]
 先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合って楽しい学級や学校をつくること。
 [第5学年及び第6学年]
 先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合ってよりよい学級や学校をつくるとともに、様々な集団の中での自分の役割を自覚して集団生活の充実に努めること。
- [伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度]
 [第1学年及び第2学年]
 我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつこと。
 [第3学年及び第4学年]
 我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、国や郷土を愛する心をもつこと。
 [第5学年及び第6学年]
 我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつこと。
- [国際理解、国際親善]
 [第1学年及び第2学年]
 他国の人々や文化に親しむこと。
 [第3学年及び第4学年]
 他国の人々や文化に親しみ、関心をもつこと。
 [第5学年及び第6学年]
 他国の人々や文化について理解し、日本人としての自覚をもって国際親善に努めること。
- D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること
- [生命の尊さ]
 [第1学年及び第2学年]
 生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。
 [第3学年及び第4学年]
 生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。
 [第5学年及び第6学年]
 生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。
- [自然愛護]
 [第1学年及び第2学年]
 身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接すること。
 [第3学年及び第4学年]
 自然のすばらしさや不思議さを感じ取り、自然や動植物を大切にすること。
 [第5学年及び第6学年]
 自然の偉大さを知り、自然環境を大切にすること。
- [感動、畏敬の念]
 [第1学年及び第2学年]
 美しいものに触れ、すがすがしい心をもつこと。
 [第3学年及び第4学年]
 美しいものや気高いものに感動する心をもつこと。
 [第5学年及び第6学年]
 美しいものや気高いものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつこと。
- [よりよく生きる喜び]
 [第5学年及び第6学年]
 よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し、人間として生きる喜びを感じること。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

- 1 各学校においては、道徳教育の全体計画に基づき、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動との関連を考慮しながら、道徳科の年間指導計画を作成するものとする。なお、作成に当たっては、第2に示す各学年段階の内容項目について、相当する各学年において全て取り上げることとする。その際、児童や学校の実態に応じ、2学年間を見通した重点的な指導や内容項目間の関連を密にした指導、一つの内容項目を複数の時間で扱う指導を取り入れるなどの工夫を行うものとする。
- 2 第2の内容の指導に当たっては、次の事項に配慮するものとする。
 - (1) 校長や教頭などの参加、他の教師との協力的な指導などについて工夫し、道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実すること。
 - (2) 道徳科が学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要としての役割を果たすことができるよう、計画的・発展的な指導を行うこと。特に、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育としては取り扱う機会が十分でない内容項目に関わる指導を補うことや、児童や学校の実態等を踏まえて指導をより一層深めること、内容項目の相互の関連を捉え直したり発展させたりすることに留意すること。
 - (3) 児童が自ら道徳性を養う中で、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりすることができるよう工夫すること。その際、道徳性を養うことの意義について、児童自らが考え、理解し、主体的に学習に取り組むことができるようにすること。
 - (4) 児童が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるよう、自分の考えを基に話し合ったり書いたりするなどの言語活動を充実すること。
 - (5) 児童の発達の段階や特性等を考慮し、指導のねらいに即して、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど、指導方法を工夫すること。その際、それらの活動を通じて学んだ内容の意義などについて考えることができるようにすること。また、特別活動等における多様な実践活動や体験活動も道徳科の授業に生かすようにすること。
 - (6) 児童の発達の段階や特性等を考慮し、第2に示す内容との関連を踏まえつつ、情報モラルに関する指導を充実すること。また、児童の発達の段階や特性等を考慮し、例えば、社会の持続可能な発展などの現代的な課題の取扱いにも留意し、身近な社会的課題を自分との関係において考え、それらの解決に寄与しようとする意欲や態度を育てるよう努めること。なお、多様な見方や考え方のできる事柄について、特定の見方や考え方に偏った指導を行うことのないようにすること。
 - (7) 道徳科の授業を公開したり、授業の実施や地域教材の開発や活用などに家庭や地域の人々、各分野の専門家等の積極的な参加や協力を得たりするなど、家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携を図ること。
- 3 教材については、次の事項に留意するものとする。
 - (1) 児童の発達の段階や特性、地域の実情等を考慮し、多様な教材の活用に努めること。特に、生命の尊厳、自然、伝統と文化、先人の伝記、スポーツ、情報化への対応等の現代的な課題などを題材とし、児童が問題意識をもって多面的・多角的に考えたり、感動を覚えたりするような充実した教材の開発や活用を行うこと。
 - (2) 教材については、教育基本法や学校教育法その他の法令に従い、次の観点に照らし適切と判断されるものであること。
 - ア 児童の発達の段階に即し、ねらいを達成するのにふさわしいものであること。
 - イ 人間尊重の精神にかなうものであって、悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題も含め、児童が深く考えることができ、人間としてよりよく生きる喜びや勇気を与えられるものであること。
 - ウ 多様な見方や考え方のできる事柄を取り扱う場合には、特定の見方や考え方に偏った取扱いがなされていないものであること。
- 4 児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

| 項目 | 観 点 |
|--------------------------------|---|
| 1 目標・内容 の取扱い | <ul style="list-style-type: none"> ○ 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深められるよう取り扱われているか。 ○ 悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題も含め、児童が深く考えることができるよう取り扱われているか。 |
| 2 人権の 取扱い | <ul style="list-style-type: none"> ○ 人間尊重の精神に基づき、人間としての在り方や生き方について考えを深められるよう取り扱われているか。 ○ 人権尊重およびユニバーサルデザインの観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。 |
| 3 内容の程度 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 発達の段階や特性を考慮し、指導のねらいに即した内容となるよう配慮されているか。 ○ 身近な社会的課題を自分との関係において考え、その解決に寄与しようとする意欲や態度を育むよう配慮されているか。 |
| 4 組織・配列 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 内容項目の全体の効果的な指導が行えるよう、年間にわたり、また6年間を見通して組織・配列されているか。 |
| 5 創意工夫 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見つけたりすることができるよう工夫されているか。 ○ 問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等が適切に取り入れられるよう工夫されているか。 |
| 6 補充的な 学習・ 発展的な 学習 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学んだことを更に深く心にとどめたり、これからの思いや課題について考えたりすることができるよう配慮されているか。 |

【資料1 道徳】

| 項目 | 観 点 |
|--------------------|---|
| 1 目標・内容 の取扱い | <ul style="list-style-type: none"> ○ 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深められるよう取り扱われているか。 ○ 悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題も含め、児童が深く考えることができるよう取り扱われているか。 |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|--|
| 東 書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 教材の冒頭に主題となるテーマが示されており、児童が見通しを持ちながら考えられる。また教材末尾にある設問例を通して、考えを深められるよう取り扱われている。 ○ 児童の生活場面で起こるような出来事を扱った教材や、様々な分野で活躍する著名人、スポーツ選手等を取り上げた教材を通して、自分自身との関わりから深く考えることができるよう取り扱われている。 |
| 学 図 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 教材の冒頭に内容項目、主題、発問を記載しないことで、児童自身が自ら問題に気付くことができる。また、分冊『まなび』にある「かんがえよう」「みつめよう」の設問例を通して、考えを深められるよう取り扱われている。 ○ 児童と同じ年頃の人物を描いた教材や、様々な分野で活躍する著名人、スポーツ選手等を取り上げた教材を通して、自らの関わりから深く考えることができるよう取り扱われている。 |
| 教 出 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 教材の冒頭に内容項目のキーワードと導入の問いかけが示されており、児童が見通しを持ちながら考えられる。また、教材の末尾にある発問例「考えよう」「深めよう」の設問例を通して、考えを深められるよう取り扱われている。 ○ 児童と同じ年頃の人物を描いた教材や、様々な分野で活躍する著名人、スポーツ選手等を取り上げた教材を通して、自己の体験や経験に照らし、深く考えることができるよう取り扱われている。 |
| 光 村 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 教材の冒頭にテーマと学習内容に関わる自己の考えや経験等の問いかけが示されており、児童が見通しを持ちながら考えられる。また、教材末尾にある「考えよう・話し合おう」での心情を問う問いや役割演技を通して、考えを深められるよう取り扱われている。 ○ 児童と同じ年頃の人物を描いた教材や、様々な分野で活躍する著名人、スポーツ選手等を取り上げた教材を通して、自分に引きつけて深く考えることができるよう取り扱われている。 |
| 日 文 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 教材の冒頭に内容項目と主題が示されており、児童が見通しを持ちながら考えられる。また、教材末尾にある「考えてみよう」「見つめよう 生かそう」の設問例を通して、考えを深められるよう取り扱われている。 ○ 児童と同じ年頃や親しみを持てる登場人物を描いた教材や、様々な分野で活躍する著名人、スポーツ選手等を取り上げた教材を通して、自らの経験や関わりと重ね合わせながら深く考えることができるよう取り扱われている。 |

| | |
|-------|--|
| 光 文 | <p>○ 教材の冒頭に主題や発問が示されており、児童が見通しを持ちながら考えられる。また、末尾の「まとめる」「広げる」の設問例を通して児童の考えを深められるよう取り扱われている。</p> <p>○ 実話に基づく教材や親しみやすい漫画・アニメ、さまざまな分野で活躍する著名人、スポーツ選手等を取り上げた教材を通して、共感しながら児童が深く考えることができるよう取り扱われている。</p> |
| 学 研 | <p>○ 教材の冒頭に主題を記載しないことで、児童が主体的に問題意識を持つことができるよう取り扱われている。また、教材末尾にある「考えよう」の設問例を通して、考えを深められるよう取り扱われている。</p> <p>○ 児童と同じ年頃や親しみを持てる登場人物を描いた教材や、様々な分野で活躍する著名人、スポーツ選手等を取り上げた教材を通して、児童が深く考えることができるよう取り扱われている。</p> |
| 廣あかつき | <p>○ 教材の冒頭に主題を想起させるキーワードを、教材末尾の「学習の道すじ」では、めあてを示し、児童が見通しを持ちながら考えられる。また、分冊『道徳ノート』の問いを通して、考えを深められるよう取り扱われている。</p> <p>○ 児童と同じ年頃の人物を描いた教材や、様々な分野で活躍する著名人、スポーツ選手等を取り上げた教材を通して、自己の体験や経験に照らして児童が深く考えることができるよう取り扱われている。</p> |

【資料1 道徳】

| 項目 | 観 点 |
|---------------------|---|
| 2 人 権 の 取 扱 い | <ul style="list-style-type: none"> ○ 人間尊重の精神に基づき、人間としての在り方や生き方について考えを深められるよう取り扱われているか。 ○ 人権尊重およびユニバーサルデザインの観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。 |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|---|
| 東 書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な教材を通して人権尊重について認識を深めるとともに、人間としての在り方や生き方について考えを深められるよう配慮されている。例えば、6年では、公害問題や国際協力、障がいのある人の生き方、平和などについて取りあげられている。 ○ 人権尊重の観点から文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。また、すべての児童にとって使いやすいように、フォントや大きさ、配色などについても配慮されている。 |
| 学 図 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な教材を通して人権尊重について認識を深めるとともに、人間としての在り方や生き方について考えを深められるよう配慮されている。例えば、6年では、世界人権宣言や国際協力、障がいのある人の生き方、平和などについて取りあげられている。 ○ 人権尊重の観点から文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。また、すべての児童にとって使いやすいように、フォントや大きさ、配色などについても配慮されている。 |
| 教 出 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な教材を通して人権尊重について認識を深めるとともに、人間としての在り方や生き方について考えを深められるよう配慮されている。例えば、6年では、アイヌの人々、国際協力、障がいのある人の生き方、平和などについて取りあげられている。 ○ 人権尊重の観点から文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。また、すべての児童にとって使いやすいように、フォントや大きさ、配色などについても配慮されている。 |
| 光 村 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な教材を通して人権尊重について認識を深めるとともに、人間としての在り方や生き方について考えを深められるよう配慮されている。例えば、6年では、世界人権宣言や国際協力、障がいのある人の生き方、平和などについて取りあげられている。 ○ 人権尊重の観点から文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。また、すべての児童にとって使いやすいように、フォントや大きさ、配色などについても配慮されている。 |

| | |
|-------|--|
| 日 文 | <p>○ 様々な教材を通して人権尊重について認識を深めるとともに、人間としての在り方や生き方について考えを深められるよう配慮されている。例えば、6年では、世界人権宣言、国際協力、障がいのある人の生き方、平和などについて取りあげられている。</p> <p>○ 人権尊重の観点から文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。また、すべての児童にとって使いやすいように、フォントや大きさ、配色などについても配慮されている。</p> |
| 光 文 | <p>○ 様々な教材を通して人権尊重について認識を深めるとともに、人間としての在り方や生き方について考えを深められるよう配慮されている。例えば、6年では、国際協力、障がいのある人の生き方、平和などについて取りあげられている。</p> <p>○ 人権尊重の観点から文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。また、すべての児童にとって使いやすいように、フォントや大きさ、配色などについても配慮されている。</p> |
| 学 研 | <p>○ 様々な教材を通して人権尊重について認識を深めるとともに、人間としての在り方や生き方について考えを深められるよう配慮されている。例えば、6年では、人種差別や国際協力、障がいのある人の生き方、平和などについて取りあげられている。</p> <p>○ 人権尊重の観点から文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。また、すべての児童にとって使いやすいように、フォントや大きさ、配色などについても配慮されている。</p> |
| 廣あかつき | <p>○ 様々な教材を通して人権尊重について認識を深めるとともに、人間としての在り方や生き方について考えを深められるよう配慮されている。例えば、6年では、国際協力、障がいのある人の生き方、平和などについて取りあげられている。</p> <p>○ 人権尊重の観点から文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。また、すべての児童にとって使いやすいように、フォントや大きさ、配色などについても配慮されている。</p> |

【資料1 道徳】

| 項目 | 観 点 |
|------------|--|
| 3 内容の程度 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 発達段階や特性を考慮し、指導のねらいに即した内容となるよう配慮されているか。 ○ 身近な社会的課題を自分との関係において考え、その解決に寄与しようとする意欲や態度を育むよう配慮されているか。 |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|---|
| 東 書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 発達段階や特性を考慮し、指導のねらいに即した内容となっている。例えば、低学年では、動物を登場人物とした物語教材、高学年では中学生になるにあたって、自己の生き方について考えることを促す教材が取りあげられるなど配慮されている。 ○ 全学年でいじめについて取り扱われており、扉ページで「いじめのない世界へ」と題したメッセージを設け、直接いじめを扱った教材と関連する教材を組み合わせる学習することにより、いじめをしない、許さない心を育むよう配慮されている。 |
| 学 図 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 発達段階や特性を考慮し、指導のねらいに即した内容となっている。例えば、1・2年では動物を登場人物とした物語、3・4年では児童の生活場面、5・6年では人物の生き方の教材を取扱い、児童により考えやすいよう配慮されている。 ○ 全学年でいじめについて取り扱われており、いじめ問題を直接取り上げた教材やいじめ問題に発展しかねない生活場面に注目した教材で学びを深め、いじめを許さない・起こさない意欲や態度を育むよう配慮されている。 |
| 教 出 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 発達段階や特性を考慮し、指導のねらいに即した内容となっている。例えば、1・2年では動物を登場人物とした物語、3・4年では児童の生活場面、5・6年では人物の生き方の教材を取扱い、児童にとってより考えやすいよう配慮されている。 ○ 全学年でいじめについて取り扱われており、「考えよう」「深めよう」では、自分の思いや考えをまとめたり、発表したりしながら、自分との関係において考え、いじめをしない、許さない意欲や態度を育むよう配慮されている。 |
| 光 村 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 発達段階や特性を考慮し、指導のねらいに即した内容となっている。例えば、1・2年では動物を登場人物とした教材、3・4年では漫画形式の教材、5・6年では悩みながら行動する人の姿などの教材を取扱い、児童が自ら考えることができるよう配慮されている。 ○ 全学年でいじめについて取り扱われており、善悪の判断や相互理解・寛容等を系統的に考えることに加え、学年の発達段階に応じたコラムにより、いじめをしない、許さない意欲や態度を育むよう配慮されている。 |

| | |
|-------|--|
| 日 文 | <p>○ 発達の段階や特性を考慮し、指導のねらいに即した内容となっている。例えば、1・2年では動物を登場人物とした物語、3・4年では児童の生活場面、5・6年では人物の生き方の教材を取扱い、児童にとってより考えやすいよう配慮されている。</p> <p>○ 全学年でいじめについて取り扱われており、いじめについての正しい認識と、多様な道徳的価値に支えられた、いじめを「しない、させない、見過ごさない」心が育まれるよう配慮されている。</p> |
| 光 文 | <p>○ 発達の段階や特性を考慮し、指導のねらいに即した内容となっている。例えば、全学年で、児童の思考に寄り添うキャラクターとして同じ人物が成長しながら登場し、児童が自らの成長を重ねながら教材に向き合うことができるよう配慮されている。</p> <p>○ 全学年でいじめについて取り扱われている。直接いじめを扱ったり、関連する内容を扱った教材により、児童自身の問題として考えるとともに、登場するキャラクターと一緒に、いじめの防止に主体的に関わる態度を育むよう配慮されている。</p> |
| 学 研 | <p>○ 発達の段階や特性を考慮し、指導のねらいに即した内容となっている。例えば、全学年の表紙に登場する同じ人物が、各学年の教材にも登場し、児童が自らの成長と重ねながら教材に向き合うことができるよう配慮されている。</p> <p>○ 全学年でいじめについて取り扱われており、自他の生命を尊重し、他者とともにによりよく生きることについて、多面的・多角的に考え、いじめをしない、許さない意欲や態度を育むよう配慮されている。</p> |
| 廣あかつき | <p>○ 発達の段階や特性を考慮し、指導のねらいに即した内容となっている。例えば、1・2年では動物を登場人物とした物語、3・4年では児童の生活場面、5・6年では人物の生き方の教材を取扱い、児童にとってより考えやすいよう配慮されている。</p> <p>○ 全学年でいじめについて取り扱われている。「考えよう 話し合おう」で、問題の解決にむけて活動することを通して、いじめをしない、許さない意欲や態度を育むよう配慮されている。</p> |

【資料1 道徳】

| 項目 | 観 点 |
|------------|--|
| 4 組織・配列 | ○ 内容項目の全体の効果的な指導が行えるよう、年間にわたり、また6年間を見通して組織・配列されているか。 |

| 発行者 | 事 項 |
|-------|---|
| 東 書 | ○ 各学年とも、教材が4つの視点でバランスよく組織・配列されている。また、各学年で重点的に取りあげる内容項目を設定し、教材を複数配置している。 |
| 学 図 | ○ 各学年とも、『きづき』と『まなび』の2冊で構成されている。『きづき』では教材が4つの視点でバランスよく組織・配列されている。『まなび』は、内容項目別にワークシートとして構成され、自分の考えを書く欄などが設けられている。 |
| 教 出 | ○ 各学年とも、教材が4つの視点でバランスよく組織・配列されている。また、各学年において「とくに大切なこと」として目次に示している重点内容項目については、教材が連続して組織・配列されている。 |
| 光 村 | ○ 各学年とも、教材が4つの視点でバランスよく組織・配列されている。また、1年間を3つのまとまりに分けて、それぞれ4つの視点からテーマを設定し、テーマに関連した教材を重点的に配置している。 |
| 日 文 | ○ 各学年とも、『本冊』と『道徳ノート』の2冊で構成されている。『本冊』では教材が4つの視点でバランスよく組織・配列されている。『道徳ノート』は、教材ごとに構成され、自分の考えを書く欄などが設けられている。 |
| 光 文 | ○ 各学年とも、教材が4つの視点でバランスよく組織・配列されている。また、各学年で重点的に取りあげる内容項目を設定し、教材を複数、連続して配置している。 |
| 学 研 | ○ 各学年とも、教材が4つの視点でバランスよく組織・配列されている。また、2学年ごとに重点テーマを設定し、それに関連する内容項目の教材を連続して配置している。 |
| 廣あかつき | ○ 各学年とも、『本冊』と『道徳ノート』の2冊で構成されている。『本冊』では教材が4つの視点でバランスよく組織・配列されている。『道徳ノート』は、内容項目別に構成され、自分の考えを書く欄などが設けられている。 |

| 項目 | 観 点 |
|-----------|---|
| 5 創意工夫 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見つけたりすることができるよう工夫されているか。 ○ 問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等が適切に取り入れられるよう工夫されているか。 |

| 発行者 | 事 項 |
|-----|--|
| 東 書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 教材ごとの「学習の振り返り」、学期ごとに学習を振り返り自分の成長を見取る「学習のまとめ」が設けられ、これからの課題や目標を見つけたりすることができるよう工夫されている。 ○ 問題解決的な学習を取り入れた「問題を見つけて考える」や、体験的な学習を取り入れた「出会う・ふれ合う」が設けられ、各学年において多様な学習が展開できるよう工夫されている。 |
| 学 図 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 教材ごとの学びを振り返る「つなげていこう」や、年間2回の「ふりかえろう」が設けられ、これからの課題や目標を見つけたりすることができるよう工夫されている。 ○ 各学年冒頭で授業の基盤となる「学級づくり」のワークを配置するとともに、問題解決的な学習や体験的な学習を取り入れた「やってみよう」や「つなげていこう」が設けられ、各学年において多様な学習が展開できるよう工夫されている。 |
| 教 出 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学期ごとに学習で心に残ったことや1年間の振り返りを記入する「学びの記録」が設けられ、これからの課題や目標を見つけたりすることができるよう工夫されている。 ○ 「気づく」「考える」「深める」「つなげる」といった問題解決的な学習の仕方が紹介されており、「やってみよう」では登場人物の役になって演じる体験的な取り組みができるよう工夫されている。 |
| 光 村 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 教材ごとや学期ごとに自らの学びを振り返る「学びの記録」が設けられ、これからの課題や目標を見つけたりすることができるよう工夫されている。 ○ 教材末尾の「考えよう・話し合おう」「つなげよう」では、問題解決的な考えにつながるような問いかけをしている。また「演じて考えよう」では、役割演技の手立てが示され、体験的に学習できるよう工夫されている。 |
| 日 文 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 『道徳ノート』では、教材ごとの振り返りと巻末に「道徳の学習を通して学んだこと」が設けられ、これからの課題や目標を見つけたりすることができるよう工夫されている。 ○ 「学習の手引き」や「心のベンチ」では、教材と関連した学びの参考例や活動例などが示されており、児童が問題解決的な学習や体験的な学習ができるよう工夫されている。 |

【資料1 道徳】

| | |
|--------------|--|
| <p>光 文</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「学びの足あと」が設けられ、児童が教材ごとの記録を積み重ねることによって自らの学びを振り返ったり、これからの課題や目標を見つけたりすることができるよう工夫されている。 ○ 巻頭のオリエンテーションで問いをもって学習に臨むことを促している。また、「まとめる」「広げる」では、道徳的行為の良さや難しさを体験する活動や、生活場面で実際にやってみることを提示したりするなど、体験的な学習が取り入れられるよう工夫されている。 |
| <p>学 研</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭に「自分のことを書いてみよう」、巻末に「心の宝物」のページを設けることで、児童が一年間の学びを振り返ったり、これからの課題や目標を見つけたりすることができるよう工夫されている。 ○ 「深めよう」で問題解決的な学習活動を取り入れたり、「やってみよう」で教材の内容をもとに体験的な学習活動を取り入れたりすることができるよう工夫されている。 |
| <p>廣あかつき</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 『道徳ノート』では、内容項目ごとに感じたことや考えたことを書くページや、「心のしおり」で、自らの学びを振り返ったり、これからの課題や目標を見つけたりすることができるよう工夫されている。 ○ 「考えよう 話し合おう」では、児童が自らの体験と重ねられるように促したり、役割演技を促したりするような問いかけがあり、問題解決学習や体験的な学習が取り入れられるよう工夫されている。 |

| 項目 | 観 点 |
|----------------------------------|---|
| 6 補充的な 学 習・ 発展的な 学 習 | ○ 学んだことを更に深く心にとどめたり、これからの思いや課題について考えたりすることができるよう配慮されているか。 |

| 発行者 | 事 項 |
|-------|--|
| 東 書 | ○ 巻末付録の「つながる・広がる」では、道徳で学習したことを日常生活の中で実践することによって、学んだことを更に深く心にとどめたり、これからの思いや課題について考えたりすることができるよう配慮されている。 |
| 学 図 | ○ 教材「まなび」の末尾にある「コラム」では、各教材で学んだ内容について更に深く心にとどめたり、これからの思いや課題について考えたりすることができるよう配慮されている。 |
| 教 出 | ○ 「まなびリンク」のウェブサイトには、教材と関連した資料などが示され、学んだことを更に深く心にとどめたり、これからの思いや課題について考えたりすることができるよう配慮されている。 |
| 光 村 | ○ 「つなげよう」では、関連する他教材・本の紹介や他教科との関連、調べ学習のテーマ等が示され、学んだことを更に深められるような配慮がされている。また、教材に関連したコラムや資料があり、学んだことを自己の課題として心にとどめることができるよう配慮されている。 |
| 日 文 | ○ 「心のベンチ」では、道徳的価値をより深く、考えられるよう、教材と関連した内容や活動を取り上げ、学んだことを更に深く心にとどめ、これからの思いや課題について考えることができるよう配慮されている。 |
| 光 文 | ○ 「みんなでやってみよう」や「ことばのたからもの」などのさまざまなコラムを通して、学んだことを更に深く心にとどめたり、各教材の「広げよう」において、これからの思いや課題について考えたりすることができるよう配慮されている。 |
| 学 研 | ○ 「つなげよう」で、教材での学習をもとに自己を見つめ、自分のよりよい生き方について考えたり、「広げよう」のページで、教材の関連情報に触れ、視野を広げたりすることができるよう配慮されている。 |
| 廣あかつき | ○ 『道徳ノート』には、授業で活用できる補助資料や教材が掲載され、『本冊』の「学習を広げる」では、教材に関連した知識や価値について学んだことを更に深く考えることができるよう配慮されている。 |

【資料2 道徳】

○ 学年別総ページ数及び教材数

| | 東書 | | 学図 | | 教出 | | 光村 | | 日文 | | 光文 | | 学研 | | 廣あかつき | |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-----|
| | 頁数 | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 | 教材数 |
| 第1学年 | 128 | 34 | 168 | 34 | 134 | 34 | 145 | 34 | 196 | 34 | 158 | 34 | 138 | 34 | 162 | 34 |
| 第2学年 | 146 | 35 | 164 | 35 | 142 | 35 | 169 | 35 | 212 | 35 | 166 | 35 | 142 | 35 | 170 | 35 |
| 第3学年 | 168 | 35 | 184 | 35 | 150 | 35 | 185 | 35 | 224 | 35 | 182 | 35 | 154 | 35 | 178 | 35 |
| 第4学年 | 172 | 35 | 188 | 35 | 162 | 35 | 193 | 35 | 232 | 35 | 186 | 35 | 158 | 35 | 190 | 35 |
| 第5学年 | 184 | 35 | 204 | 35 | 166 | 35 | 205 | 35 | 232 | 35 | 190 | 35 | 166 | 35 | 218 | 35 |
| 第6学年 | 200 | 35 | 204 | 35 | 170 | 35 | 221 | 35 | 232 | 35 | 194 | 35 | 170 | 35 | 226 | 35 |

○ 内容項目別教材数及びページ数

【第1学年】

| | 東書 | | 学図 | | 教出 | | 光村 | | 日文 | | 光文 | | 学研 | | 廣あかつき | |
|----------|-----------------------------------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|-------|----|
| | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 |
| A | 主として自分自身に関すること | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 10 | 30 | 10 | 29 | 9 | 30 | 10 | 35 | 10 | 46 | 11 | 40 | 11 | 37 | 11 | 36 |
| | [善悪の判断、自律、自由と責任] | | 2 6 | | 2 4 | | 2 8 | | 2 6 | | 3 13 | | 3 10 | | 3 10 | |
| | [正直、誠実] | | 2 7 | | 2 5 | | 1 4 | | 2 7 | | 1 7 | | 2 8 | | 1 4 | |
| | [節度、節制] | | 3 7 | | 2 6 | | 3 8 | | 2 8 | | 4 18 | | 4 14 | | 3 11 | |
| | [個性の伸長] | | 1 4 | | 2 6 | | 2 6 | | 2 7 | | 1 5 | | 1 4 | | 2 8 | |
| | [希望と勇気、努力と力強い意志] | | 2 6 | | 2 8 | | 1 4 | | 2 7 | | 1 3 | | 1 4 | | 2 8 | |
| B | 主として人との関わりに関すること | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 9 | 25 | 8 | 22 | 7 | 28 | 8 | 29 | 8 | 36 | 8 | 20 | 8 | 31 | 8 | 30 |
| | [親切、思いやり] | | 3 10 | | 2 6 | | 3 14 | | 2 10 | | 3 17 | | 2 6 | | 3 11 | |
| | [感謝] | | 2 5 | | 2 4 | | 1 4 | | 2 6 | | 1 3 | | 2 4 | | 1 4 | |
| | [礼儀] | | 2 4 | | 2 4 | | 1 2 | | 2 6 | | 2 8 | | 2 4 | | 2 6 | |
| | [友情、信頼] | | 2 6 | | 2 8 | | 2 8 | | 2 7 | | 2 8 | | 2 6 | | 2 10 | |
| C | 主として集団や社会との関わりに関すること | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 9 | 28 | 10 | 31 | 11 | 38 | 11 | 36 | 11 | 47 | 10 | 34 | 9 | 33 | 10 | 41 |
| | [規則の尊重] | | 2 4 | | 2 6 | | 1 4 | | 2 7 | | 3 13 | | 2 6 | | 2 8 | |
| | [公正、公平、社会正義] | | 1 2 | | 2 5 | | 1 2 | | 2 8 | | 2 8 | | 1 4 | | 2 8 | |
| | [勤労、公共の精神] | | 1 3 | | 1 2 | | 2 10 | | 1 4 | | 1 3 | | 1 3 | | 1 7 | |
| | [家族愛、家庭生活の充実] | | 1 5 | | 1 2 | | 1 4 | | 2 7 | | 1 5 | | 1 4 | | 1 4 | |
| | [よりよい学校生活、集団生活の充実] | | 2 9 | | 2 8 | | 3 10 | | 2 6 | | 1 3 | | 2 5 | | 1 2 | |
| | [伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度] | | 1 3 | | 1 4 | | 2 6 | | 1 2 | | 2 10 | | 2 8 | | 1 4 | |
| | [国際理解、国際親善] | | 1 5 | | 1 4 | | 1 2 | | 1 2 | | 1 5 | | 1 4 | | 1 4 | |
| D | 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 6 | 16 | 6 | 26 | 7 | 22 | 5 | 18 | 5 | 25 | 5 | 14 | 6 | 24 | 5 | 20 |
| | [生命の尊さ] | | 3 9 | | 2 5 | | 3 8 | | 3 9 | | 3 15 | | 3 8 | | 3 12 | |
| | [自然愛護] | | 2 5 | | 2 8 | | 2 8 | | 1 4 | | 1 5 | | 1 2 | | 2 8 | |
| | [感動、畏敬の念] | | 1 2 | | 2 13 | | 2 6 | | 1 5 | | 1 5 | | 1 4 | | 1 4 | |

【第2学年】

| | 東書 | | 学図 | | 教出 | | 光村 | | 日文 | | 光文 | | 学研 | | 廣あかつき | |
|----------|-----------------------------------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|-------|----|
| | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 |
| A | 主として自分自身に関すること | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 10 | 31 | 10 | 28 | 9 | 32 | 10 | 38 | 11 | 53 | 10 | 32 | 12 | 43 | 11 | 41 |
| | [善悪の判断、自律、自由と責任] | | 2 6 | | 2 4 | | 2 8 | | 2 7 | | 3 17 | | 3 8 | | 3 10 | |
| | [正直、誠実] | | 2 6 | | 2 4 | | 1 4 | | 2 9 | | 2 10 | | 1 2 | | 2 7 | |
| | [節度、節制] | | 3 8 | | 2 6 | | 3 10 | | 2 8 | | 3 13 | | 4 14 | | 2 4 | |
| | [個性の伸長] | | 1 4 | | 2 6 | | 1 4 | | 2 8 | | 1 7 | | 1 4 | | 3 12 | |
| | [希望と勇気、努力と力強い意志] | | 2 7 | | 2 8 | | 2 6 | | 2 6 | | 2 6 | | 1 4 | | 2 10 | |
| B | 主として人との関わりに関すること | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 8 | 26 | 8 | 22 | 8 | 34 | 8 | 29 | 8 | 42 | 8 | 32 | 8 | 37 | 8 | 27 |
| | [親切、思いやり] | | 3 11 | | 2 6 | | 2 8 | | 2 6 | | 3 17 | | 3 12 | | 3 11 | |
| | [感謝] | | 1 3 | | 2 4 | | 2 10 | | 2 8 | | 1 5 | | 1 4 | | 1 4 | |
| | [礼儀] | | 2 5 | | 2 4 | | 2 6 | | 2 7 | | 3 15 | | 2 8 | | 2 6 | |
| | [友情、信頼] | | 2 7 | | 2 8 | | 2 10 | | 2 8 | | 1 5 | | 2 8 | | 2 6 | |
| C | 主として集団や社会との関わりに関すること | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 10 | 29 | 10 | 31 | 10 | 36 | 12 | 46 | 11 | 57 | 12 | 40 | 9 | 36 | 11 | 41 |
| | [規則の尊重] | | 2 4 | | 2 6 | | 2 8 | | 2 7 | | 3 17 | | 1 2 | | 2 8 | |
| | [公正、公平、社会正義] | | 1 3 | | 2 5 | | 1 4 | | 2 7 | | 1 5 | | 2 8 | | 2 8 | |
| | [勤労、公共の精神] | | 1 3 | | 1 2 | | 1 4 | | 2 8 | | 2 10 | | 2 8 | | 1 4 | |
| | [家族愛、家庭生活の充実] | | 2 7 | | 1 2 | | 2 8 | | 2 9 | | 1 5 | | 2 4 | | 1 4 | |
| | [よりよい学校生活、集団生活の充実] | | 2 5 | | 2 8 | | 1 4 | | 2 7 | | 1 5 | | 1 4 | | 1 2 | |
| | [伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度] | | 1 3 | | 1 4 | | 2 6 | | 1 4 | | 2 10 | | 2 6 | | 1 6 | |
| | [国際理解、国際親善] | | 1 4 | | 1 4 | | 1 2 | | 1 4 | | 1 5 | | 2 8 | | 1 4 | |
| D | 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 7 | 25 | 6 | 26 | 8 | 24 | 5 | 25 | 5 | 23 | 5 | 18 | 6 | 20 | 5 | 16 |
| | [生命の尊さ] | | 3 11 | | 2 5 | | 3 8 | | 3 12 | | 3 13 | | 3 10 | | 3 12 | |
| | [自然愛護] | | 2 6 | | 2 8 | | 3 10 | | 1 6 | | 1 5 | | 1 4 | | 2 6 | |
| | [感動、畏敬の念] | | 2 8 | | 2 13 | | 2 6 | | 1 7 | | 1 5 | | 1 4 | | 1 4 | |

【第3学年】

| | 東書 | | 学図 | | 教出 | | 光村 | | 日文 | | 光文 | | 学研 | | 廣あかつき | |
|-----------------------------------|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-------|----|
| | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 |
| 主として自分自身に関すること | 9 | 31 | 10 | 35 | 10 | 38 | 9 | 40 | 10 | 50 | 6 | 24 | 9 | 34 | 10 | 34 |
| [善悪の判断、自律、自由と責任] | 2 | 8 | 2 | 7 | 2 | 8 | 2 | 9 | 3 | 15 | 2 | 8 | 3 | 10 | 3 | 10 |
| [正直、誠実] | 2 | 6 | 2 | 6 | 1 | 4 | 2 | 8 | 1 | 5 | 1 | 4 | 1 | 4 | 2 | 7 |
| [節度、節制] | 2 | 6 | 2 | 6 | 4 | 14 | 2 | 11 | 3 | 17 | 1 | 4 | 2 | 8 | 2 | 5 |
| [個性の伸長] | 1 | 4 | 2 | 8 | 1 | 4 | 2 | 8 | 2 | 8 | 1 | 4 | 1 | 4 | 1 | 4 |
| [希望と勇気、努力と力強い意志] | 2 | 7 | 2 | 8 | 2 | 8 | 1 | 4 | 1 | 5 | 1 | 4 | 2 | 8 | 2 | 8 |
| 主として人との関わりに関すること | 8 | 31 | 8 | 25 | 9 | 34 | 9 | 39 | 9 | 47 | 11 | 42 | 9 | 36 | 9 | 33 |
| [親切、思いやり] | 3 | 11 | 2 | 5 | 2 | 8 | 2 | 6 | 3 | 15 | 1 | 3 | 3 | 12 | 3 | 10 |
| [感謝] | 1 | 4 | 1 | 2 | 2 | 6 | 2 | 9 | 1 | 5 | 2 | 8 | 1 | 4 | 1 | 3 |
| [礼儀] | 1 | 3 | 1 | 2 | 2 | 8 | 1 | 3 | 2 | 12 | 2 | 5 | 1 | 4 | 2 | 6 |
| [友情、信頼] | 2 | 7 | 2 | 8 | 2 | 8 | 2 | 14 | 2 | 10 | 4 | 18 | 3 | 12 | 2 | 9 |
| [相互理解、寛容] | 1 | 6 | 2 | 8 | 1 | 4 | 2 | 7 | 1 | 5 | 2 | 8 | 1 | 4 | 1 | 5 |
| 主として集団や社会との関わりに関すること | 11 | 38 | 11 | 34 | 12 | 48 | 12 | 45 | 11 | 63 | 13 | 48 | 11 | 42 | 11 | 42 |
| [規則の尊重] | 2 | 7 | 2 | 5 | 2 | 7 | 2 | 6 | 3 | 15 | 4 | 14 | 2 | 8 | 3 | 9 |
| [公正、公平、社会正義] | 1 | 4 | 2 | 6 | 2 | 10 | 2 | 7 | 2 | 14 | 1 | 4 | 2 | 8 | 1 | 5 |
| [勤労、公共の精神] | 2 | 6 | 1 | 2 | 1 | 4 | 2 | 7 | 1 | 5 | 1 | 4 | 1 | 4 | 1 | 4 |
| [家族愛、家庭生活の充実] | 2 | 7 | 2 | 7 | 1 | 4 | 2 | 8 | 1 | 7 | 2 | 8 | 1 | 4 | 2 | 7 |
| [よりよい学校生活、集団生活の充実] | 1 | 3 | 2 | 7 | 1 | 4 | 2 | 7 | 1 | 7 | 2 | 8 | 1 | 3 | 1 | 4 |
| [伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度] | 2 | 8 | 1 | 3 | 4 | 15 | 1 | 5 | 2 | 10 | 2 | 6 | 2 | 7 | 2 | 9 |
| [国際理解、国際親善] | 1 | 3 | 1 | 4 | 1 | 4 | 1 | 5 | 1 | 5 | 1 | 4 | 2 | 8 | 1 | 4 |
| 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること | 7 | 29 | 6 | 26 | 4 | 18 | 5 | 21 | 5 | 25 | 5 | 20 | 6 | 28 | 5 | 20 |
| [生命の尊さ] | 3 | 13 | 2 | 7 | 2 | 8 | 3 | 13 | 3 | 15 | 3 | 12 | 3 | 14 | 3 | 10 |
| [自然愛護] | 2 | 8 | 2 | 10 | 1 | 4 | 1 | 4 | 1 | 5 | 1 | 2 | 1 | 4 | 1 | 5 |
| [感動、畏敬の念] | 2 | 8 | 2 | 9 | 1 | 6 | 1 | 4 | 1 | 5 | 1 | 6 | 2 | 10 | 1 | 5 |

【第4学年】

| | 東書 | | 学図 | | 教出 | | 光村 | | 日文 | | 光文 | | 学研 | | 廣あかつき | |
|-----------------------------------|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-------|----|
| | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 |
| 主として自分自身に関すること | 9 | 35 | 10 | 28 | 9 | 44 | 9 | 37 | 9 | 51 | 6 | 24 | 9 | 36 | 10 | 41 |
| [善悪の判断、自律、自由と責任] | 2 | 7 | 2 | 4 | 1 | 4 | 2 | 7 | 3 | 17 | 1 | 4 | 3 | 10 | 3 | 11 |
| [正直、誠実] | 2 | 8 | 2 | 4 | 1 | 6 | 2 | 9 | 1 | 7 | 1 | 4 | 1 | 4 | 2 | 10 |
| [節度、節制] | 2 | 7 | 2 | 6 | 2 | 8 | 2 | 9 | 3 | 17 | 2 | 8 | 1 | 4 | 2 | 7 |
| [個性の伸長] | 1 | 4 | 2 | 6 | 1 | 6 | 2 | 6 | 1 | 5 | 1 | 4 | 2 | 10 | 1 | 4 |
| [希望と勇気、努力と力強い意志] | 2 | 9 | 2 | 8 | 4 | 20 | 1 | 6 | 1 | 5 | 1 | 4 | 2 | 8 | 2 | 9 |
| 主として人との関わりに関すること | 8 | 29 | 8 | 28 | 9 | 36 | 9 | 41 | 8 | 44 | 10 | 42 | 9 | 44 | 9 | 34 |
| [親切、思いやり] | 3 | 10 | 2 | 6 | 3 | 12 | 2 | 8 | 3 | 17 | 2 | 8 | 3 | 12 | 3 | 10 |
| [感謝] | 1 | 4 | 1 | 4 | 1 | 4 | 2 | 8 | 1 | 3 | 1 | 4 | 1 | 4 | 1 | 3 |
| [礼儀] | 1 | 4 | 1 | 4 | 2 | 8 | 1 | 5 | 1 | 5 | 1 | 4 | 1 | 4 | 2 | 6 |
| [友情、信頼] | 2 | 7 | 2 | 4 | 2 | 8 | 2 | 12 | 1 | 7 | 4 | 16 | 3 | 18 | 2 | 10 |
| [相互理解、寛容] | 1 | 4 | 2 | 8 | 1 | 4 | 2 | 8 | 2 | 12 | 2 | 10 | 1 | 6 | 1 | 5 |
| 主として集団や社会との関わりに関すること | 11 | 41 | 11 | 31 | 12 | 48 | 12 | 46 | 12 | 68 | 13 | 48 | 11 | 41 | 11 | 46 |
| [規則の尊重] | 2 | 7 | 2 | 6 | 1 | 4 | 2 | 7 | 3 | 15 | 4 | 14 | 2 | 6 | 3 | 10 |
| [公正、公平、社会正義] | 1 | 4 | 2 | 5 | 1 | 6 | 2 | 7 | 2 | 12 | 1 | 4 | 2 | 10 | 1 | 5 |
| [勤労、公共の精神] | 2 | 8 | 1 | 2 | 2 | 8 | 2 | 8 | 2 | 10 | 2 | 8 | 1 | 4 | 1 | 3 |
| [家族愛、家庭生活の充実] | 2 | 7 | 2 | 2 | 2 | 8 | 2 | 7 | 1 | 5 | 2 | 6 | 1 | 2 | 2 | 9 |
| [よりよい学校生活、集団生活の充実] | 1 | 3 | 2 | 8 | 1 | 4 | 2 | 9 | 1 | 5 | 2 | 8 | 1 | 3 | 1 | 5 |
| [伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度] | 2 | 8 | 1 | 4 | 4 | 14 | 1 | 4 | 2 | 14 | 1 | 4 | 2 | 6 | 2 | 9 |
| [国際理解、国際親善] | 1 | 4 | 1 | 4 | 1 | 4 | 1 | 4 | 1 | 7 | 1 | 4 | 2 | 10 | 1 | 5 |
| 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること | 7 | 28 | 6 | 26 | 5 | 22 | 5 | 30 | 6 | 34 | 6 | 21 | 6 | 23 | 5 | 21 |
| [生命の尊さ] | 3 | 13 | 2 | 5 | 2 | 8 | 3 | 15 | 3 | 15 | 3 | 8 | 3 | 11 | 3 | 10 |
| [自然愛護] | 2 | 7 | 2 | 8 | 2 | 10 | 1 | 7 | 2 | 12 | 1 | 5 | 2 | 8 | 1 | 5 |
| [感動、畏敬の念] | 2 | 8 | 2 | 13 | 1 | 4 | 1 | 8 | 1 | 7 | 2 | 8 | 1 | 4 | 1 | 5 |

【資料2 道徳】

【第5学年】

| | 東書 | | 学図 | | 教出 | | 光村 | | 日文 | | 光文 | | 学研 | | 廣あかつき | |
|-----------------------------------|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-------|----|
| | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 |
| 主として自分自身に関すること | 8 | 32 | 9 | 37 | 8 | 36 | 9 | 42 | 8 | 42 | 8 | 30 | 9 | 38 | 11 | 56 |
| [善悪の判断、自律、自由と責任] | 1 | 3 | 2 | 9 | 1 | 4 | 2 | 10 | 2 | 12 | 1 | 2 | 3 | 12 | 3 | 15 |
| [正直、誠実] | 1 | 4 | 1 | 4 | 1 | 4 | 1 | 6 | 1 | 5 | 1 | 4 | 1 | 4 | 2 | 9 |
| [節度、節制] | 2 | 7 | 2 | 8 | 1 | 4 | 2 | 8 | 2 | 10 | 1 | 4 | 1 | 4 | 2 | 9 |
| [個性の伸長] | 1 | 5 | 1 | 3 | 1 | 4 | 1 | 4 | 1 | 5 | 2 | 8 | 1 | 4 | 1 | 6 |
| [希望と勇気、努力と力強い意志] | 2 | 8 | 2 | 9 | 3 | 14 | 2 | 9 | 1 | 5 | 2 | 8 | 2 | 10 | 2 | 10 |
| [真理の探究] | 1 | 5 | 1 | 4 | 1 | 6 | 1 | 5 | 1 | 5 | 1 | 4 | 1 | 4 | 1 | 7 |
| 主として人との関わりに関すること | 7 | 30 | 7 | 26 | 6 | 30 | 9 | 44 | 8 | 46 | 8 | 32 | 9 | 38 | 8 | 33 |
| [親切、思いやり] | 2 | 9 | 2 | 6 | 1 | 4 | 2 | 8 | 2 | 10 | 1 | 4 | 3 | 12 | 3 | 10 |
| [感謝] | 1 | 4 | 1 | 3 | 1 | 4 | 2 | 11 | 1 | 7 | 1 | 4 | 1 | 4 | 1 | 3 |
| [礼儀] | 1 | 4 | 1 | 4 | 1 | 4 | 1 | 4 | 1 | 5 | 1 | 4 | 1 | 2 | 1 | 3 |
| [友情、信頼] | 2 | 9 | 1 | 4 | 2 | 12 | 2 | 9 | 2 | 10 | 2 | 8 | 2 | 10 | 2 | 12 |
| [相互理解、寛容] | 1 | 4 | 2 | 9 | 1 | 6 | 2 | 12 | 2 | 14 | 3 | 12 | 2 | 10 | 1 | 5 |
| 主として集団や社会との関わりに関すること | 12 | 50 | 13 | 48 | 13 | 56 | 11 | 44 | 13 | 67 | 12 | 48 | 9 | 40 | 10 | 45 |
| [規則の尊重] | 2 | 9 | 2 | 6 | 2 | 6 | 2 | 7 | 2 | 12 | 2 | 8 | 1 | 4 | 2 | 9 |
| [公正、公平、社会正義] | 1 | 3 | 2 | 8 | 2 | 8 | 2 | 9 | 2 | 8 | 2 | 8 | 1 | 6 | 1 | 3 |
| [勤労、公共の精神] | 2 | 8 | 2 | 8 | 1 | 6 | 1 | 4 | 2 | 10 | 3 | 12 | 1 | 4 | 1 | 4 |
| [家族愛、家庭生活の充実] | 1 | 5 | 1 | 4 | 2 | 8 | 1 | 4 | 1 | 5 | 1 | 4 | 1 | 3 | 2 | 10 |
| [よりよい学校生活、集団生活の充実] | 2 | 8 | 2 | 7 | 1 | 6 | 2 | 7 | 2 | 12 | 1 | 4 | 1 | 4 | 1 | 3 |
| [伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度] | 2 | 8 | 2 | 8 | 3 | 12 | 2 | 9 | 2 | 10 | 2 | 8 | 2 | 9 | 2 | 9 |
| [国際理解、国際親善] | 2 | 9 | 2 | 7 | 2 | 10 | 1 | 4 | 2 | 10 | 1 | 4 | 2 | 10 | 1 | 7 |
| 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること | 8 | 32 | 6 | 27 | 8 | 32 | 6 | 34 | 6 | 38 | 7 | 28 | 8 | 36 | 6 | 33 |
| [生命の尊さ] | 3 | 12 | 2 | 11 | 3 | 14 | 3 | 13 | 2 | 10 | 3 | 12 | 3 | 12 | 3 | 15 |
| [自然愛護] | 2 | 8 | 2 | 8 | 2 | 6 | 1 | 7 | 1 | 9 | 2 | 8 | 2 | 10 | 1 | 5 |
| [感動、畏敬の念] | 2 | 8 | 1 | 4 | 1 | 4 | 1 | 9 | 1 | 5 | 1 | 4 | 1 | 4 | 1 | 6 |
| [よりよく生きる喜び] | 1 | 4 | 1 | 4 | 2 | 8 | 1 | 5 | 2 | 14 | 1 | 4 | 2 | 10 | 1 | 7 |

【第6学年】

| | 東書 | | 学図 | | 教出 | | 光村 | | 日文 | | 光文 | | 学研 | | 廣あかつき | |
|-----------------------------------|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-------|----|
| | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 | 教材数 | 頁数 |
| 主として自分自身に関すること | 8 | 33 | 9 | 31 | 12 | 48 | 9 | 36 | 9 | 51 | 9 | 36 | 9 | 36 | 11 | 56 |
| [善悪の判断、自律、自由と責任] | 1 | 4 | 2 | 6 | 2 | 6 | 2 | 9 | 2 | 12 | 1 | 4 | 3 | 12 | u | 13 |
| [正直、誠実] | 1 | 4 | 1 | 3 | 1 | 4 | 1 | 6 | 1 | 7 | 2 | 8 | 1 | 4 | 2 | 11 |
| [節度、節制] | 2 | 7 | 2 | 8 | 2 | 8 | 1 | 4 | 2 | 12 | 1 | 4 | 1 | 4 | 2 | 9 |
| [個性の伸長] | 1 | 5 | 1 | 4 | 2 | 7 | 1 | 4 | 1 | 5 | 1 | 4 | 1 | 2 | 1 | 5 |
| [希望と勇気、努力と力強い意志] | 2 | 8 | 2 | 6 | 4 | 19 | 3 | 9 | 2 | 10 | 2 | 8 | 2 | 8 | 2 | 11 |
| [真理の探究] | 1 | 5 | 1 | 4 | 1 | 4 | 1 | 4 | 1 | 5 | 2 | 8 | 1 | 6 | 1 | 7 |
| 主として人との関わりに関すること | 7 | 31 | 7 | 27 | 6 | 30 | 9 | 45 | 8 | 42 | 6 | 24 | 9 | 44 | 8 | 37 |
| [親切、思いやり] | 2 | 8 | 2 | 8 | 1 | 4 | 2 | 11 | 2 | 10 | 2 | 8 | 3 | 14 | 3 | 10 |
| [感謝] | 1 | 5 | 1 | 4 | 1 | 6 | 2 | 9 | 1 | 5 | 1 | 4 | 1 | 4 | 1 | 6 |
| [礼儀] | 1 | 3 | 1 | 4 | 1 | 4 | 1 | 4 | 1 | 5 | 1 | 4 | 1 | 4 | 1 | 3 |
| [友情、信頼] | 2 | 10 | 1 | 4 | 2 | 10 | 2 | 11 | 2 | 12 | 1 | 4 | 2 | 10 | 2 | 12 |
| [相互理解、寛容] | 1 | 5 | 2 | 7 | 1 | 6 | 2 | 10 | 2 | 10 | 1 | 4 | 2 | 12 | 1 | 6 |
| 主として集団や社会との関わりに関すること | 12 | 54 | 13 | 48 | 11 | 50 | 11 | 56 | 12 | 64 | 12 | 48 | 9 | 38 | 10 | 47 |
| [規則の尊重] | 2 | 8 | 2 | 8 | 1 | 4 | 2 | 10 | 2 | 10 | 2 | 8 | 1 | 3 | 2 | 8 |
| [公正、公平、社会正義] | 1 | 4 | 2 | 6 | 1 | 6 | 2 | 12 | 2 | 12 | 2 | 8 | 1 | 4 | 1 | 3 |
| [勤労、公共の精神] | 2 | 8 | 2 | 8 | 1 | 4 | 1 | 5 | 1 | 5 | 2 | 8 | 1 | 6 | 1 | 4 |
| [家族愛、家庭生活の充実] | 1 | 5 | 1 | 4 | 1 | 6 | 1 | 5 | 1 | 5 | 1 | 4 | 1 | 5 | 2 | 10 |
| [よりよい学校生活、集団生活の充実] | 2 | 9 | 2 | 6 | 1 | 4 | 2 | 8 | 2 | 12 | 1 | 4 | 1 | 4 | 1 | 5 |
| [伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度] | 2 | 9 | 2 | 8 | 4 | 18 | 1 | 5 | 2 | 10 | 3 | 12 | 2 | 8 | 2 | 10 |
| [国際理解、国際親善] | 2 | 11 | 2 | 8 | 2 | 8 | 2 | 11 | 2 | 10 | 1 | 4 | 2 | 8 | 1 | 7 |
| 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること | 8 | 42 | 6 | 31 | 6 | 30 | 7 | 42 | 6 | 34 | 8 | 34 | 8 | 38 | 6 | 36 |
| [生命の尊さ] | 3 | 15 | 2 | 12 | 2 | 12 | 3 | 17 | 2 | 10 | 3 | 12 | 3 | 14 | 3 | 15 |
| [自然愛護] | 2 | 11 | 2 | 6 | 1 | 4 | 1 | 5 | 1 | 5 | 2 | 8 | 2 | 10 | 1 | 7 |
| [感動、畏敬の念] | 2 | 10 | 1 | 7 | 1 | 4 | 1 | 5 | 1 | 9 | 1 | 6 | 1 | 4 | 1 | 7 |
| [よりよく生きる喜び] | 1 | 6 | 1 | 6 | 2 | 10 | 2 | 15 | 2 | 10 | 2 | 8 | 2 | 10 | 1 | 7 |

○ 教材以外の取扱いページ数

| 東書 | 学図 | 教出 | 光村 | 日文 | 光文 | 学研 | 廣あかつき |
|--------------|------------|-----------|-------------|------------|------------|-----------|------------|
| 巻頭資料など 56 | 巻頭資料など 36 | 巻頭資料など 36 | 巻頭資料など 45 | 巻頭資料など 38 | 巻頭資料など 72 | 巻頭資料など 60 | 巻頭資料など 52 |
| 出会う・ふれ合う 24 | コラム資料など 28 | 巻末資料など 44 | テーマ(中表紙) 17 | 心のベンチ 59 | 重点主題 18 | 重点テーマ 12 | 特集 28 |
| つながる・広がる 12 | 巻末資料など 12 | | コラム 46 | ふろく 69 | コラム 70 | 巻末資料など 12 | 関連教材 18 |
| 問題を見つけて考える 6 | | | 補充教材 28 | 巻末資料など 24 | ふろく 113 | | 巻末資料など 180 |
| いじめのない世界へ 6 | | | 学びの記録 45 | 道徳ノート資料 43 | 学びのあしあと 24 | | |
| 情報モラル 18 | | | 付録 18 | | | | |
| 付録 36 | | | 巻末資料 6 | | | | |
| 巻末資料など 63 | | | | | | | |

| 発行者の 番号・略号 | 発 行 者 |
|---------------|---------------------------|
| 2 東 書 | 東 京 書 籍 株 式 会 社 |
| 4 大日本 | 大 日 本 図 書 株 式 会 社 |
| 9 開隆堂 | 開 隆 堂 出 版 株 式 会 社 |
| 11 学 図 | 学 校 図 書 株 式 会 社 |
| 15 三省堂 | 株 式 会 社 三 省 堂 |
| 17 教 出 | 教 育 出 版 株 式 会 社 |
| 26 信 教 | 一 般 社 団 法 人 信 州 教 育 出 版 社 |
| 27 教 芸 | 株 式 会 社 教 育 芸 術 社 |
| 38 光 村 | 光 村 図 書 出 版 株 式 会 社 |
| 46 帝 国 | 株 式 会 社 帝 国 書 院 |
| 61 啓林館 | 株 式 会 社 新 興 出 版 社 啓 林 館 |
| 116 日 文 | 日 本 文 教 出 版 株 式 会 社 |
| 207 文教社 | 株 式 会 社 文 教 社 |
| 208 光 文 | 株 式 会 社 光 文 書 院 |
| 224 学 研 | 株 式 会 社 学 研 教 育 み ら い |
| 232 廣あかつき | 廣 濟 堂 あ か つ き 株 式 会 社 |

